

## 12.6. 植物

## 12.6. 植物

### 12.6.1. 現況調査

#### (1) 調査項目

調査項目は表12.6-1に、重要な植物種の選定基準は表12.6-2に、重要な植物群落の選定基準は表12.6-3に示すとおりである。

表 12.6-1 調査項目

調査項目
植物相
植生（植物群落）
重要な植物種
重要な植物群落

表 12.6-2 重要な植物種の選定基準

番号	法律及び文献名等	選定基準のカテゴリー	
①	「文化財保護法」 (昭和 25 年 5 月 30 日法律第 214 号)	特別：国指定の特別天然記念物 国：国指定の天然記念物	
	「兵庫県文化財保護条例」 (昭和 39 年 4 月 1 日兵庫県条例第 58 号)	県：県指定の天然記念物	
	「神戸市文化財の保護及び文化財等を取り巻く文化環境の保全に関する条例」 (平成 9 年 3 月 31 日神戸市条例第 50 号)	市：市指定の天然記念物	
②	「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」(平成 4 年 6 月 5 日法律第 75 号)	国内：国内希少野生動植物種 第一：特定第一種国内希少野生動植物種 第二：特定第二種国内希少野生動植物種 緊急：緊急指定種	
③	「神戸市生物多様性の保全に関する条例」 (平成 29 年 10 月 10 日神戸市条例第 7 号)	市指：神戸市指定野生動植物種	
④	「環境省レッドリスト(2020)」 (令和 2 年、環境省)	EX：絶滅 EW：野生絶滅 CR+EN：絶滅危惧 I 類 CR：絶滅危惧 I A 類 EN：絶滅危惧 I B 類 VU：絶滅危惧 II 類 NT：準絶滅危惧 DD：情報不足 LP：絶滅のおそれのある地域個体群	
⑤	「兵庫県版レッドデータブック 2020 (植物・植物群落)」(令和 2 年、兵庫県)	【維管束植物】	
		EX：絶滅	兵庫県内での確認記録、標本があるなど、かつては生育していたと考えられるが、兵庫県では近年、現存が確認できなかった種。
		EW：野生絶滅	飼育・栽培下又は自然分布域の明らかに外側で野生化した状態でのみ存続している種。
		A：A ランク	兵庫県内において絶滅の危機に瀕しており、緊急の保全対策、嚴重な保全対策が必要な種。環境省レッドデータブックの絶滅危惧 IA 類に相当。県内個体群数 1~3 程度である種又は過去 10 年間で急激な個体数の減少が見られる種。
		B：B ランク	兵庫県内において絶滅の危険が増大しており、極力生育環境、自生地などの保全が必要な種。環境省レッドデータブックの絶滅危惧 IB 類に相当。県内個体群数 4~10 程度である種。
		C：C ランク	兵庫県内において存続基盤が脆弱な種。環境省レッドデータブックの絶滅危惧 II 類と準絶滅危惧の一部に相当。県内個体群数 11~25 程度である種。
調：要調査種	本県での生育の実態について、近年の分布情報の不足や分類学的再検討が必要なため現時点では評価できないが、今後の調査によってはレッドリスト掲載となる可能性のある種。環境省レッドデータブックの情報不足に相当。		
⑥	「神戸の希少な野生動植物—神戸版レッドデータ 2020—」(令和 3 年、神戸市)	今：今見られない	神戸市内での確認記録、標本があるなど、かつては生息・生育していたと考えられるが、現在は見られなくなり、生息・生育の可能性がないと考えられる種
		A：A ランク	神戸市内において絶滅の危機に瀕している種など、緊急の保全対策、嚴重な保全対策が必要な種)
		B：B ランク	神戸市内において絶滅の危険が増大している種など、生息・生育環境、自生地などの保全が必要な種)
		C：C ランク	神戸市内において存続基盤が脆弱な種。極力、生息・生育環境、自生地などの保全が必要な種
		調：要調査	神戸市内での生息・生育の実態がほとんどわからないことなどにより、現在の知見では貴重性の評価ができないが、今後の調査によっては貴重種となる可能性のある種

注) 「環境の保全と創造に関する条例」(平成7年7月18日兵庫県条例第28号)では、指定された野生動植物種がないため、選定基準としていない。

表 12.6-3 重要な植物群落の選定基準

番号	法律及び文献名等	選定基準のカテゴリー	
①	「文化財保護法」 (昭和25年5月30日法律第214号)	特別：国指定の特別天然記念物 国：国指定の天然記念物	
	「兵庫県文化財保護条例」 (昭和39年4月1日兵庫県条例第58号)	県：県指定の天然記念物	
	「神戸市文化財の保護及び文化財等を取り巻く文化環境の保全に関する条例」 (平成9年3月31日神戸市条例第50号)	市：市指定の天然記念物	
②	「環境の保全と創造に関する条例」 (平成7年7月18日兵庫県条例第28号)	郷土：郷土記念物	
③	「第2回自然環境保全基礎調査 特定植物群落調査報告書」 (昭和54年、環境庁) 「第3回自然環境保全基礎調査 特定植物群落調査報告書」 (昭和63年、環境庁) 「第5回自然環境保全基礎調査 特定植物群落調査報告書」 (平成12年、環境庁)	A：原生林もしくはそれに近い自然林 B：国内若干地域に分布するが、極めて稀な植物群落又は 個体群 C：比較的普通にみられるものであっても、南限、北限、 隔離分布等分布限界になる産地に見られる植物群落 又は個体群 D：砂丘、断崖地、塩沼地、湖沼、河川、湿地、高山、石 灰岩地等の特殊な立地に特有な植物群落又は個体群 で、その群落の特徴が典型的なもの E：郷土景観を代表する植物群落で、特にその群落の特徴 が典型的なもの F：過去において人工的に植栽されたことが明らかな森林 であっても長期にわたって伐採等の手が入っていない もの。 G：乱獲その他人為の影響によって、当該都道府県内で極 端に少なくなる恐れのある植物群落又は個体群 H：その他学術上重要な植物群落又は個体群	
④	「兵庫県版レッドデータブック2020 (植物・植物群落)」 (令和2年、兵庫県)	【植物群落・個体群】	
		A：Aランク	植物群落及び個体群の破壊・衰退要因となる人 為的影響、生育環境の変化、生物被害等により 消滅の危機に瀕しているものや、規模的、質的 に優れており貴重性の程度が最も高いもの。
		B：Bランク	Aランクに準ずるもので、消滅の危険性が増大 しているものや、貴重性の程度が高いもの。
		C：Cランク	Bランクに準ずるものであり、今後消滅の危険 性が高まるおそれのあるものや、貴重性の程度 がやや高いもの。
		注：要注目	消滅のおそれのあるものや貴重なものに準ずる ものとして保全に配慮すべきもの。
⑤	「神戸の希少な野生動植物 －神戸版レッドデータ2020－」 (令和3年、神戸市)	【植物群落】	
		A：Aランク	規範的、質的にすぐれており、貴重性の程度が 最も高く、全国的価値に相当する群落
		B：Bランク	Aランクに準ずるもので、地方的価値、都道府 県の価値に相当する群落
		C：Cランク	Bランクに準ずるもので、市町村的価値に相当 する群落

表 12.6-4 外来種の選定基準

法律及び文献名等	選定基準のカテゴリー
「特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律」 (平成16年6月2日法律第78号)	特定外来生物
「兵庫県の生物多様性に悪影響を及ぼす外来生物リスト (ブラックリスト2010(2019改訂版))」 (平成22年3月、兵庫県)	Z 警戒種：生物多様性への影響が大きい、または今 後影響が大きくなることが予測される種 Y 注意種：生物多様性への影響がある種
「神戸の希少な野生動植物－神戸版ブラックリスト2020－」 (令和3年、神戸市)	外来生物種 侵入警戒種 緑化・植栽種

## (2) 調査方法

調査は、既存資料調査及び現地調査により行った。

既存資料調査に使用した資料は表12.6-5に、現地調査の方法は表12.6-6に示すとおりである。

表 12.6-5 既存資料一覧

No.	資料名
1	「舞子ゴルフ場代替施設建設事業環境影響評価書」(昭和56年、神戸市)
2	「西神流通業務団地及び西神第3地区工業団地造成事業環境影響評価書」(平成3年、兵庫県)
3	「西神第3地区工業団地造成事業の変更及び20世紀博物館群公園事業環境影響評価書案」(平成11年、兵庫県、神戸市)
4	「キーナの森森林保全活動支援業務報告書」(令和3年、(公財)ひょうご環境創造協会)

表 12.6-6 現地調査の方法

調査項目	調査方法	概要
植物相	目視観察及び採取	事業実施区域及びその周辺を踏査し、目視観察により生育を確認した植物の種類を記録した。なお、現地で同定が困難な種については、個体を採取して持ち帰り、標本を作成した後、種の同定を行った。
植生(植物群落)	コドラート調査	植生調査は、ブラウン・ブランケの植物社会学的方法により行った。各植生タイプの代表的地点に、方形区(コドラート)を設定して階層別に種組成、被度、群度等を植生調査票に記録した。植生タイプ1つあたりの方形区の設定数は、植物群落ごとに5地点とした。また、空中写真判読及び現地での相観植生の確認により、植生の分布状況を把握し、現存植生図を作成した。

## (3) 調査地域及び調査地点

調査地域及び調査地点は、図12.6-1に示すとおりである。

調査地域は、事業実施区域及びその周辺として、事業実施区域端部から100m程度を目安とした。

調査地点及び調査ルートは、植物の生育及び植生の特性を踏まえて、調査地域における貴重な種及び群落に係る環境影響を予測し、評価するために必要な情報を適切かつ効果的に把握できる地点又は経路とした。

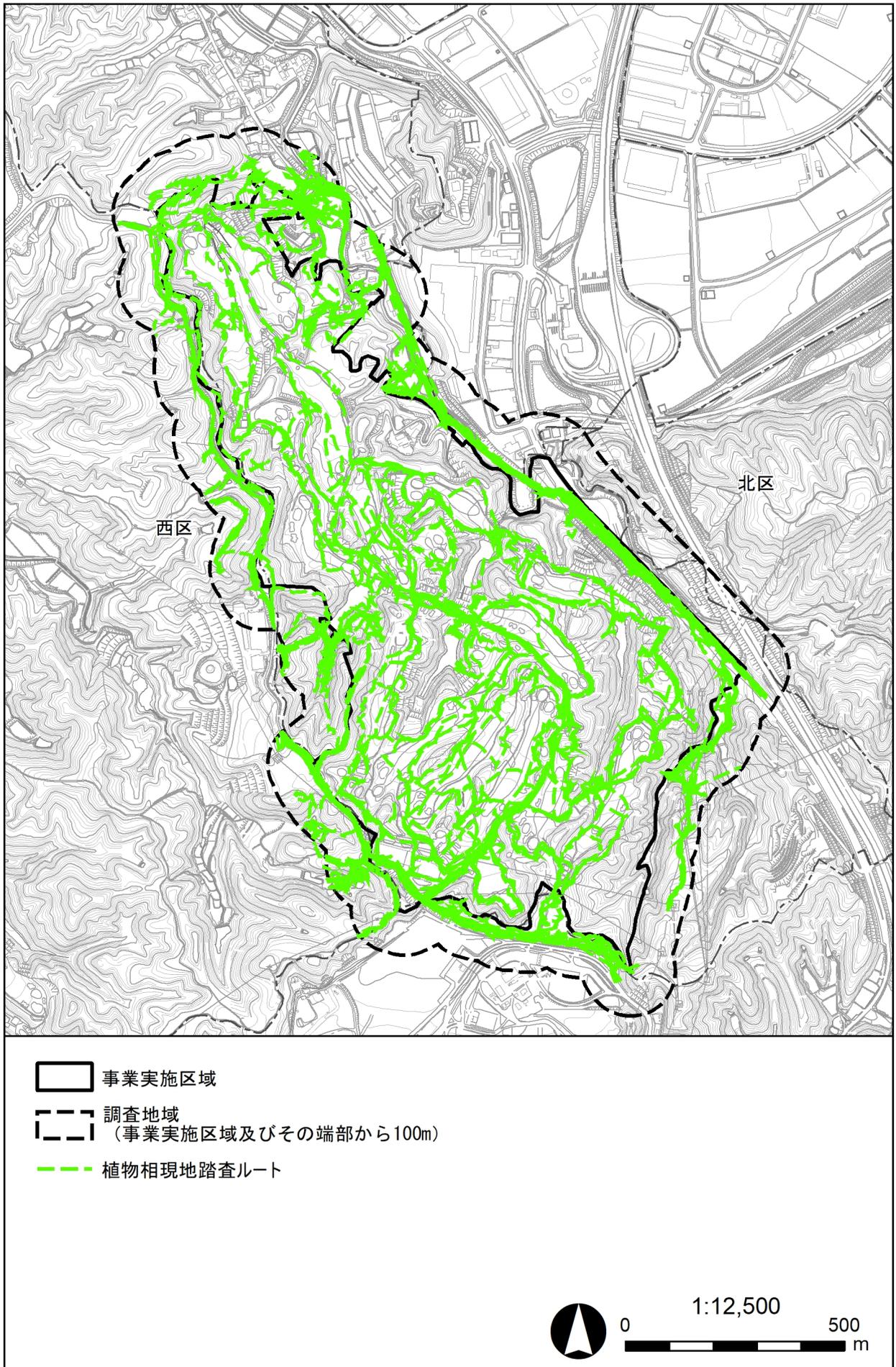


図 12.6-1(1) 調査地点位置図 (植物相)



- 事業実施区域
- 調査地域  
(事業実施区域及びその端部から100m)
- 植生調査地点



図 12.6-1(2) 調査地点位置図 (植生)

#### (4) 調査時期

調査時期は、表12.6-7に示すとおりである。

表 12.6-7 調査時期

調査項目	調査時期
植物相	夏 季：令和 3年 7月29日(木)～30日(金) 初秋季：令和 3年 9月21日(火)～22日(水) 秋 季：令和 3年10月26日(火) 早春季：令和 4年 3月23日(水) 春 季：令和 4年 5月10日(火)～11日(水)、24日(火)
植生(植物群落)	秋季：令和 3年10月 7日(木)～ 8日(金)

(5) 調査結果

1) 既存資料調査

事業実施区域及びその周囲において確認された重要な植物種は、表12.6-8に示すとおりである。

既存資料調査では33科54種の重要な植物種が確認された。

表 12.6-8(1) 既存資料調査で確認された重要な植物種

番号	分類群	目名	科名	種名	出典番号	選定基準									
						①	②	③	④	⑤	⑥				
1	広義の緑色植物門 車軸藻綱	シャジクモ目	シャジクモ科	シャジクモ	3				VU	C					
2	シダ植物門	コケシノブ目	コケシノブ科	アオホラゴケ	3						B				
3	大葉シダ綱	ウラボシ目	イノモトソウ科	ハコネシダ	1、2、3						C				
4			オシダ科	カタイノデ	2							B			
5	種子植物門	スイレン目	スイレン科	ヒツジグサ	2						C				
6	被子植物亜門	コショウ目	ウマノスズクサ科	ウマノスズクサ	2					C	C				
7	種子植物門	オモダカ目	トチカガミ科	スブタ	2				VU	C	A				
8	被子植物亜門			ミズオオバコ	2					VU	C	C			
9	単子葉類			セキショウモ	2						B	B			
10				ヒルムシロ科	コバノヒルムシロ	2					VU	B	B		
11				タコノキ目	ホンゴウソウ科	ウエマツソウ	3				VU	A	A		
12				ユリ目	ユリ科	コオニユリ	2						B		
13				クサスギカズラ目	ラン科	エビネ	2、3					NT	C	C	
14						ギンラン	3							C	C
15						キンラン	3					VU	C	B	
16						カキラン	2							C	C
17		ススキノキ科	ノカンゾウ			2						B	B		
18		クサスギカズラ科	カンザシギボウシ			3						C	C		
19		イネ目	ガマ科			ミクリ	2					NT	C	A	
20						ナガエミクリ	3						NT	C	B
21				カヤツリグサ科	ヒメミコシガヤ	3					CR	A	A		
22				アワボスゲ	3							A	B		
23				イネ科	ヒメコヌカグサ	3						NT			
24					ウキシバ	2							C	C	
25	種子植物門	キンボウゲ目	ツツラフジ科	ツツラフジ	3						C				
26	被子植物亜門	マメ目	ヒメハギ科	カキノハグサ	3						B	B			
27	真正双子葉類	バラ目	グミ科	アリマグミ	1、2、3						C	B			
28		キントラノオ目	オトギリソウ科	トモエソウ	2、3						B				
29				アゼオトギリ	2					EN	B	A			
30		ナデシコ目	タデ科	サイコクヌカボ	2				VU		A				
31			モウセンゴケ科	モウセンゴケ	3						C				
32		ツツジ目	ツバキ科	ナツツバキ	2						C				
33			マタタビ科	サルナシ	2、3						調				
34			ツツジ科	ヒカゲツツジ	2						C	B			
35		リンドウ目	アカネ科	イナモリソウ	3						B				
36		ナス目	ナス科	ヤマホオズキ	2				EN	A	A				
37				イガホオズキ	2							C			
38		シソ目	シソ科	ジュウニヒトエ	2						C				
39				ナツノタムラソウ	2							A			
40				キバナアキギリ	2							A			
41				シソバタツナミ	2							調			
42				ハマウツボ科	キヨシミウツボ	2、3						B	B		
43					オオヒキヨモギ	2、3、4					VU				
44				タヌキモ科	ノタヌキモ	2					VU	C	A		
45					タヌキモ	2					NT	A			

表 12. 6-8(2) 既存資料調査で確認された重要な植物種

番号	分類群	目名	科名	種名	出典 番号	選定基準										
						①	②	③	④	⑤	⑥					
46	種子植物門	キク目	キキョウ科	バアソブ	2					VU						
47	被子植物亜門			キキョウ	2、3						VU		B			
48	真正双子葉類		キク科		テイショウソウ	2、3						C	C			
49					ヒメヨモギ	2							B	B		
50					オケラ	3							C	C		
51					ヒメガンクビソウ	2、3									C	
52					ヒヨドリバナ (広義)	2、3									C <sup>注3)</sup>	
53					オナモミ	2							VU	EX	今	
54						セリ目	ウコギ科	ケヤマウコギ	2							EX
合計 33 科 54 種						0	0	0	20	33	46					

注 1) 出典番号は、表 12. 6-5 に対応している。

注 2) 選定基準は、表 12. 6-2 に対応している。

注 3) 「ヒヨドリバナ (広義)」は、ヒヨドリバナ (ヒヨドリバナ二倍体) (選定基準⑥ : C) かオオヒヨドリバナ (非選定) である。

## 2) 現地調査

### ① 植物相の状況

事業実施区域及びその周辺において確認された植物種は、表12.6-9に示すとおりである。  
 現地調査の結果、55目140科798種の植物が確認された。

表 12.6-9(1) 植物の確認種一覧

No.	目名	科名	種名	学名	外来種 注2)	調査時期				
						令和3年			令和4年	
						夏季	初秋季	秋季	早春季	春季
1	ゼニゴケ目	ウキゴケ科	イチョウウキゴケ	<i>Ricciocarpos natans</i>				●	●	●
2	シヤジクモ目	シヤジクモ科	シヤジクモ	<i>Chara braunii</i>				●		
3	ヒカゲノカズラ目	ヒカゲノカズラ科	トウゲンバ (広義)	<i>Huperzia serrata</i>		●				●
4			ヒカゲノカズラ	<i>Lycopodium clavatum</i> var. <i>nipponicum</i>						●
5	トクサ目	トクサ科	スギナ	<i>Equisetum arvense</i>		●	●	●	●	●
6	ハナヤスリ目	ハナヤスリ科	オオハナワラビ	<i>Botrychium japonicum</i>						●
7			フユノハナワラビ	<i>Botrychium ternatum</i> var. <i>ternatum</i>		●	●	●		
8			コヒロハハナヤスリ	<i>Ophioglossum petiolatum</i>			●			
9	ゼンマイ目	ゼンマイ科	ゼンマイ	<i>Osmunda japonica</i>		●	●			●
10	コケシノブ目	コケシノブ科	コウヤコケシノブ	<i>Hymenophyllum barbatum</i>			●			●
11			コハイホラゴケ	<i>Vandenboschia x stenosphon</i>		●	●		●	●
12	ウラジロ目	ウラジロ科	コシダ	<i>Dicranopteris linearis</i>		●	●	●		●
13			ウラジロ	<i>Diplazium glaucum</i>		●	●	●		●
14	フサシダ目	カニクサ科	カニクサ	<i>Lygodium japonicum</i> var. <i>japonicum</i>						●
15	ヘゴ目	キジノオシダ科	オオキジノオ	<i>Plagiogyria euphlebia</i>			●			●
16			キジノオシダ	<i>Plagiogyria japonica</i>						●
17	ウラボシ目	コバノイシカグマ科	イヌシダ	<i>Dennstaedtia hirsuta</i>		●				●
18			コバノイシカグマ	<i>Dennstaedtia scabra</i>		●	●			●
19			イワヒメワラビ	<i>Hypolepis punctata</i>		●	●	●		●
20			フモトシダ	<i>Microlepia marginata</i>		●	●	●		●
21			ワラビ	<i>Pteridium aquilinum</i> ssp. <i>japonicum</i>		●	●	●	●	●
22		イノモトソウ科	ハコネシダ	<i>Adiantum monochlamys</i>		●	●		●	●
23			イワガネゼンマイ	<i>Caniograme intermedia</i>		●	●	●		●
24			イワガネソウ	<i>Caniograme japonica</i>		●	●	●		
25			オオバノイノモトソウ	<i>Pteris cretica</i>		●	●	●		●
26			イノモトソウ	<i>Pteris multifida</i>		●	●			●
27		チャセンシダ科	トラノオシダ	<i>Asplenium incisum</i>		●	●	●	●	●
28			クルマシダ	<i>Asplenium wrightii</i>			●			●
29		ヒメシダ科	ヒメワラビ	<i>Macrothelypteris torresiana</i> var. <i>calvata</i>		●	●			
30			ミドリヒメワラビ	<i>Macrothelypteris viridifrons</i>			●			
31			ゲジゲジシダ	<i>Phegopteris decursivopinnata</i>		●		●		●
32			ホシダ	<i>Thelypteris acuminata</i> var. <i>acuminata</i>				●		
33			コハシゴシダ	<i>Thelypteris angustifrons</i>		●				
34			ハシゴシダ	<i>Thelypteris glanduligera</i>			●			
35			ハリガネワラビ	<i>Thelypteris japonica</i>		●	●			●
36			ヤワラシダ	<i>Thelypteris laxa</i>		●	●			●
37			ミゾシダ	<i>Thelypteris pozoi</i> ssp. <i>mollissima</i>		●	●	●		●
38		シシガシラ科	シシガシラ	<i>Blechnum niponicum</i>		●	●	●	●	●
39			コモチシダ	<i>Woodwardia orientalis</i>		●	●		●	●
40		メシダ科	シケチシダ	<i>Athyrium decurrentialatum</i>						●

表 12. 6-9 (2) 植物の確認種一覧

No.	目名	科名	種名	学名	外来種 <small>注2)</small>	調査時期						
						令和3年			令和4年			
						夏季	初秋季	秋季	早春季	春季		
41	ウラボシ目	メシダ科	ホソバイヌワラビ	<i>Athyrium iseanum</i> var. <i>iseanum</i>		●	●	●		●		
42			ヤマイヌワラビ	<i>Athyrium vidalii</i>			●	●		●		
43			ヒロハイヌワラビ	<i>Athyrium wardii</i>			●					
44			ヘビノネゴザ	<i>Athyrium yokoscense</i>		●	●			●		
45			ホソバシケシダ	<i>Deparia conilii</i>			●					
46			シケシダ	<i>Deparia japonica</i>		●	●			●		
47			ヘラシダ	<i>Deparia lancea</i>		●	●		●	●		
48			キヨタキシダ	<i>Diplazium squamigerum</i>			●			●		
49		オシダ科		オニカナワラビ	<i>Arachniodes chinensis</i>		●	●		●		
50				ハカタシダ	<i>Arachniodes simplicior</i>		●	●		●		
51				リョウメンシダ	<i>Arachniodes standishii</i>		●	●	●	●	●	
52				オニヤブソテツ	<i>Cyrtomium falcatum</i> ssp. <i>falcatum</i>		●		●	●	●	
53				ヤブソテツ	<i>Cyrtomium fortunei</i> var. <i>fortunei</i>		●	●	●	●	●	
54				ミヤコヤブソテツ	<i>Cyrtomium yanamotoi</i>						●	
55				ヤマイタチシダ	<i>Dryopteris bissetiana</i>		●	●		●	●	
56				サイゴクベニシダ	<i>Dryopteris championii</i>		●	●		●	●	
57				ベニシダ	<i>Dryopteris erythrosora</i>		●	●	●	●	●	
58				マルバベニシダ	<i>Dryopteris fuscipes</i>		●	●	●	●	●	
59				キンキイタチシダ	<i>Dryopteris hikonensis</i>		●	●	●	●	●	
60				オオベニシダ	<i>Dryopteris honoensis</i>		●	●	●	●	●	
61				クマワラビ	<i>Dryopteris lacera</i>		●	●		●	●	
62				キヨスミヒメワラビ	<i>Dryopteris maximowicziana</i>				●		●	
63				トウゴクシダ	<i>Dryopteris nipponensis</i>		●	●		●	●	
64				ヒメイタチシダ (広義)	<i>Dryopteris sacrosancta</i>				●			
65				ナガバノイタチシダ	<i>Dryopteris sparsa</i> var. <i>sparsa</i>						●	
66				オクマワラビ	<i>Dryopteris uniformis</i>		●	●	●	●	●	
67				イノデ	<i>Polystichum polyblepharum</i>		●	●	●	●	●	
68				サイゴクイノデ	<i>Polystichum pseudonakinoi</i>			●			●	
69				イノデモドキ	<i>Polystichum tagawanum</i>		●	●			●	
70				ジュウモンジシダ	<i>Polystichum tripterum</i>		●	●	●	●	●	
71				ヒメカナワラビ	<i>Polystichum tsus-simense</i>			●				
72		ウラボシ科		マメツタ	<i>Leaneaphyllum microphyllum</i> var. <i>microphyllum</i>			●	●	●		
73				ノキシノブ (広義)	<i>Lepisorus thunbergianus</i>		●	●		●	●	
74				ミツデウラボシ	<i>Selliguea hastata</i>		●	●			●	
75		マツ目	マツ科	アカマツ	<i>Pinus densiflora</i>		●	●	●	●	●	
76				アイグロマツ	<i>Pinus x densithunbergii</i>			●				
77				リギダマツ	<i>Pinus rigida</i>		●	●	●	●	●	
78				クロマツ	<i>Pinus thunbergii</i>			●				
79		ヒノキ目	ヒノキ科	ヒノキ	<i>Chamaecyparis obtusa</i>		●	●	●			
80				サワラ	<i>Chamaecyparis pisifera</i>			●				
81				スギ	<i>Cryptomeria japonica</i> var. <i>japonica</i>		●	●	●	●	●	
82				カイツカイブキ	<i>Juniperus chinensis</i> var. <i>chinensis</i> cv. <i>pyramidalis</i>			●			●	
83				ネズミサン	<i>Juniperus rigida</i>		●	●	●	●	●	
84				ヌマスギ	<i>Taxodium distichum</i>			●				
85				イチイ科		イヌガヤ	<i>Cephalotaxus harringtonia</i>		●	●	●	●
86			カヤ			<i>Torreya nucifera</i> var. <i>nucifera</i>		●				●
87		シキミ目	マツブサ科	シキミ	<i>Illicium anisatum</i>		●	●	●	●	●	
88				サネカズラ	<i>Kadsura japonica</i>		●	●	●	●	●	
89	マツブサ			<i>Schisandra repanda</i>				●				

表 12.6-9(3) 植物の確認種一覧

No.	目名	科名	種名	学名	外来種 <small>注2)</small>	調査時期				
						令和3年			令和4年	
						夏季	初秋季	秋季	早春季	春季
90	センリョウ目	センリョウ科	フタリシズカ	<i>Chloranthus serratus</i>		●				●
91	コショウ目	ドクダミ科	ドクダミ	<i>Houttuynia cordata</i>		●	●	●		●
92		ウマノスズクサ科	アリマウマノスズクサ	<i>Aristolochia shimadae</i>		●	●			●
93	モクレン目	モクレン科	ハクモクレン	<i>Magnolia denudata</i>					●	
94			コブシ	<i>Magnolia kobus</i>			●			●
95			シモクレン	<i>Magnolia liliiflora</i>					●	
96			ホオノキ	<i>Magnolia obovata</i>		●	●	●	●	●
97	クスノキ目	クスノキ科	クスノキ	<i>Cinnamomum camphora</i>		●	●	●	●	●
98			ヤブニッケイ	<i>Cinnamomum yabunikkei</i>		●	●	●	●	●
99			ヤマコウバシ	<i>Lindera glauca</i>			●			●
100			クロモジ	<i>Lindera umbellata</i> var. <i>umbellata</i>		●	●	●		●
101			カゴノキ	<i>Litsea coreana</i>		●				
102			アオモジ	<i>Litsea cubeba</i>				●		
103			アオガシ	<i>Machilus japonica</i>		●	●	●	●	●
104			シロダモ	<i>Neolitsea sericea</i> var. <i>sericea</i>		●	●	●	●	●
105	ショウブ目	ショウブ科	セキショウ	<i>Acorus gramineus</i> var. <i>gramineus</i>						●
106	オモダカ目	サトイモ科	ムロウテンナンショウ	<i>Arisaema yamatense</i> ssp. <i>yamatense</i>						●
107			アオウキクサ	<i>Lenna aoukikusa</i> ssp. <i>aoukikusa</i>			●	●		
108			カラスビシャク	<i>Pinellia temata</i>			●			●
109			ウキクサ	<i>Spirodela polyrhiza</i>				●		
110		オモダカ科	ヘラオモダカ	<i>Alisma canaliculatum</i>			●			
111			オモダカ	<i>Sagittaria trifolia</i>			●	●		
112		トチカガミ科	アマゾントチカガミ	<i>Limnium laevigatum</i>		●				
113	ヤマノイモ目	キンコウカ科	ノギラン	<i>Metarhthecium luteoviride</i>		●	●			●
114		ヤマノイモ科	ヤマノイモ	<i>Dioscorea japonica</i>		●	●	●		
115			ナガイモ	<i>Dioscorea polystachya</i>			●			
116			カエデドコロ	<i>Dioscorea quinquelobata</i>		●	●	●		
117			ヒメドコロ	<i>Dioscorea tenuipes</i>		●	●			●
118			オニドコロ	<i>Dioscorea tokoro</i>		●	●	●		●
119	ユリ目	イヌサフラン科	ホウチャクソウ	<i>Disporum sessile</i>		●	●			●
120			チゴユリ	<i>Disporum smilacinum</i>		●	●			●
121		サルトリイバラ科	サルトリイバラ	<i>Smilax china</i> var. <i>china</i>		●	●	●	●	●
122			シオデ	<i>Smilax riparia</i>		●				
123		ユリ科	ウバユリ	<i>Cardiocrinum cordatum</i> var. <i>cordatum</i>		●	●		●	●
124			シンテッポウユリ	<i>Lilium x fomolongo</i>		●	●	●		●
125			ササユリ	<i>Lilium japonicum</i>		●	●			●
126			ヤマジノホトトギス	<i>Tricyrtis affinis</i>		●	●	●		●
127			アマナ	<i>Tulipa edulis</i>					●	●
128	クサスギカズラ目	ラン科	エビネ	<i>Calanthe discolor</i>						●
129			ギンラン	<i>Cephalanthera erecta</i>						●
130			シュンラン	<i>Cymbidium goeringii</i>		●	●	●	●	●
131			ツチアケビ	<i>Cyrtosia septentrionalis</i>		●	●			
132			ミヤマウズラ	<i>Goodyera schlechtendaliana</i>		●	●			●
133			コ克蘭	<i>Liparis nervosa</i>		●	●	●	●	
134			オオバノトンボソウ	<i>Platanthera minor</i>		●	●			●
135			ネジバナ	<i>Spiranthes sinensis</i> var. <i>amoena</i>			●			
136		アヤメ科	ヒメヒオウギズイセン	<i>Crococmia x crocosmiiflora</i>		●	●			●
137			カキツバタ	<i>Iris laevigata</i>						●
138			キショウブ	<i>Iris pseudacorus</i>	●	●	●	●		●
139			ニワゼキショウ	<i>Sisyrinchium rosulatum</i>						●
140			オオニワゼキショウ	<i>Sisyrinchium</i> sp.		●				●

表 12. 6-9 (4) 植物の確認種一覧

No.	目名	科名	種名	学名	外来種 <small>注2)</small>	調査時期				
						令和3年			令和4年	
						夏季	初秋季	秋季	早春季	春季
141	クサスギカズラ目	ヒガンバナ科	ノビル	<i>Allium macrostemon</i>		●	●	●	●	
142			ニラ	<i>Allium tuberosum</i>		●	●		●	
143			ヒガンバナ	<i>Lycoris radiata</i>		●				
144			タマスダレ	<i>Zephyranthes candida</i>		●				
145		クサスギカズラ科	ハラン	<i>Aspidistra elatior</i>					●	
146			ツルボ	<i>Barnardia japonica</i>		●	●		●	
147			ヒメヤブラン	<i>Liriope minor</i>			●			
148			ヤブラン	<i>Liriope muscari</i>			●			
149			ジャノヒゲ	<i>Ophiopogon japonicus</i>		●	●	●	●	●
150			ナガバジャノヒゲ	<i>Ophiopogon japonicus</i> var. <i>umbrosus</i>		●	●	●	●	●
151			キチジョウソウ	<i>Reineckea carnea</i>			●			
152			オモト	<i>Rohdea japonica</i>					●	
153	ヤシ目	ヤシ科	シュロ	<i>Trachycarpus fortunei</i>	●		●	●	●	
154	ツユクサ目	ツユクサ科	マルバツユクサ	<i>Camelina benghalensis</i>		●				
155			ツユクサ	<i>Camelina communis</i>		●	●	●	●	
156			イボクサ	<i>Murdannia keisak</i>		●	●	●	●	
157		ミズアオイ科	コナギ	<i>Monochoria vaginalis</i>			●	●		
158	ショウガ目	ショウガ科	ミョウガ	<i>Zingiber mioga</i>		●	●		●	
159	イネ目	ガマ科	ナガエミクリ	<i>Sparganium japonicum</i>						
-			ミクリ属	<i>Sparganium</i> sp.						●
160			ヒメガマ	<i>Typha domingensis</i>		●	●	●		●
161			ガマ	<i>Typha latifolia</i>		●	●	●	●	●
162		イグサ科	イグサ	<i>Juncus decipiens</i>		●		●		
163			クサイ	<i>Juncus tenuis</i>		●				●
164			スズメノヤリ	<i>Luzula capitata</i>			●		●	●
165			ヤマスズメノヒエ	<i>Luzula multiflora</i>						●
166			カヤツリグサ科	シラスゲ	<i>Carex alopecuroides</i> var. <i>chlorostacya</i>		●	●		
167		エナシヒゴクサ		<i>Carex aphanolepis</i>						●
168		ミヤマシラスゲ		<i>Carex confertiflora</i>		●		●		●
169		ヒメカンスゲ		<i>Carex conica</i>					●	●
170		アゼナルコ		<i>Carex dimorpholepis</i>						●
171		カサスゲ		<i>Carex dispalata</i>						●
172		マスクサ		<i>Carex gibba</i>		●				●
173		ジュズスゲ		<i>Carex ischnostachya</i>		●				●
174		ヒゴクサ		<i>Carex japonica</i>						●
175		ヒカゲスゲ		<i>Carex lanceolata</i>					●	●
176		ナキリスゲ		<i>Carex lenta</i>			●	●	●	●
177		アオスゲ		<i>Carex leucochlora</i>						●
178		コジュズスゲ		<i>Carex macroglossa</i>						●
179	タチスゲ	<i>Carex maculata</i>							●	
180	ササノハスゲ	<i>Carex pachygyna</i>			●	●	●	●	●	
181	ヒメゴウソ	<i>Carex phacota</i>							●	
182	ヒメモエギスゲ	<i>Carex pociilliformis</i>							●	
183	イトアオスゲ	<i>Carex puberula</i>							●	
184	シラコスゲ	<i>Carex rhizopoda</i>							●	
185	ニシノホンモンジスゲ	<i>Carex stenostachys</i>							●	
186	アゼスゲ	<i>Carex thunbergii</i>						●		
187	ヤワラスゲ	<i>Carex transversa</i>						●		
188	チャガヤツリ	<i>Cyperus amuricus</i>		●	●					
189	アイダクグ	<i>Cyperus brevifolius</i>		●	●	●				
190	ヒメクグ	<i>Cyperus brevifolius</i> var. <i>leiolepis</i>		●	●	●				

表 12. 6-9 (5) 植物の確認種一覧

No.	目名	科名	種名	学名	外来種 <small>注2)</small>	調査時期						
						令和3年			令和4年			
						夏季	初秋季	秋季	早春季	春季		
191	イネ目	カヤツリグサ科	クグガヤツリ	<i>Cyperus compressus</i>		●		●				
192			タマガヤツリ	<i>Cyperus difformis</i>			●	●				
193			ホソミキンガヤツリ	<i>Cyperus engelmannii</i>		●	●	●				
194			メリケンガヤツリ	<i>Cyperus eragrostis</i>	●	●	●	●		●		
195			アゼガヤツリ	<i>Cyperus flavidus</i>			●	●				
196			ヌマガヤツリ	<i>Cyperus glomeratus</i>			●	●				
197			コアゼガヤツリ	<i>Cyperus haspan</i> var. <i>tuberiferus</i>		●	●	●				
198			コゴメガヤツリ	<i>Cyperus iria</i>		●	●	●				
199			カヤツリグサ	<i>Cyperus microiria</i>		●	●	●				
200			オオシロガヤツリ	<i>Cyperus nipponicus</i> var. <i>spiralis</i>				●				
201			イガガヤツリ	<i>Cyperus polystachyos</i>				●				
202			ハマスゲ	<i>Cyperus rotundus</i>			●	●		●		
203			カワラスガナ	<i>Cyperus sanguinolentus</i>				●				
204			セイタカハリイ	<i>Eleocharis attenuata</i>				●				
205			ハリイ	<i>Eleocharis congesta</i> var. <i>japonica</i>				●	●			
206			シカクイ	<i>Eleocharis wichurae</i>				●				
207			ヒメヒラテンツキ	<i>Fimbristylis autumnalis</i>					●			
208			テンツキ	<i>Fimbristylis dichotoma</i> var. <i>tentsuki</i>				●	●			
209			クロテンツキ	<i>Fimbristylis diphyllodes</i>				●				
210			ヒデリコ	<i>Fimbristylis littoralis</i>		●	●	●				
211			カンガレイ	<i>Schoenoplectiella triangulata</i>		●	●					
212			アブラガヤ	<i>Scirpus wichurae</i>				●	●			
213			イネ科	イネ科	ヤマヌカボ	<i>Agrostis clavata</i>		●				
214					ヌカボ	<i>Agrostis clavata</i> var. <i>nukabo</i>		●				●
215					コスカグサ	<i>Agrostis gigantea</i>		●	●			
216					ヒメヌカススキ	<i>Aira elegantissima</i> ssp. <i>ambigua</i>		●				●
217					スズメノテッポウ	<i>Alopecurus aequalis</i> var. <i>amurensis</i>					●	●
218					メリケンカルカヤ	<i>Andropogon virginicus</i>	●	●	●	●		●
219	コブナグサ	<i>Arthraxon hispidus</i>				●	●	●				
220	トダシバ	<i>Arundinella hirta</i>				●		●				
221	ヤマカモジグサ	<i>Brachypodium sylvaticum</i>								●		
222	コバンソウ	<i>Briza maxima</i>								●		
223	ヒメコバンソウ	<i>Briza minor</i>								●		
224	イヌムギ	<i>Bromus catharticus</i>				●				●		
225	ヒゲナガスズメノチャヒキ	<i>Bromus diandrus</i>								●		
226	スズメノチャヒキ	<i>Bromus japonicus</i>				●	●			●		
227	ノガリヤス	<i>Calamagrostis brachytricha</i> var. <i>brachytricha</i>						●	●	●		
228	ギョウギシバ	<i>Cynodon dactylon</i>				●	●	●		●		
229	カモガヤ	<i>Dactylis glomerata</i>			●	●				●		
230	メヒシバ	<i>Digitaria ciliaris</i>				●	●	●				
231	コメヒシバ	<i>Digitaria radicata</i>					●	●				
232	アキメヒシバ	<i>Digitaria violascens</i>				●	●	●				
233	イヌビエ	<i>Echinochloa crus-galli</i>				●	●	●				
234	オヒシバ	<i>Eleusine indica</i>				●	●	●				
235	アオカモジグサ	<i>Elymus racemifer</i>						●		●		
236	カモジグサ	<i>Elymus tsukushiensis</i> var. <i>transiens</i>				●				●		
237	シナダレスズメガヤ	<i>Eragrostis curvula</i>			●		●			●		
238	カゼクサ	<i>Eragrostis ferruginea</i>				●	●		●			

表 12. 6-9 (6) 植物の確認種一覧

No.	目名	科名	種名	学名	外来種 <small>注2)</small>	調査時期				
						令和3年			令和4年	
						夏季	初秋季	秋季	早春季	春季
239	イネ目	イネ科	コスズメガヤ	<i>Eragrostis minor</i>			●			
240			ニワホコリ	<i>Eragrostis multicaulis</i>		●	●	●		●
241			チャボウシノシツペイ	<i>Eremochloa ophiuroides</i>		●	●			
242			ウシノケグサ	<i>Festuca ovina</i>		●				●
243			トボシガラ	<i>Festuca parvigluma</i>						●
244			ムツオレグサ	<i>Glyceria acutiflora</i> ssp. <i>japonica</i>						●
245			チガヤ	<i>Imperata cylindrica</i> var. <i>koenigii</i>		●	●			●
246			チゴザサ	<i>Isachne globosa</i>		●	●	●		●
247			サヤヌカグサ	<i>Leersia sayanuka</i>			●	●		
248			ササガヤ	<i>Leptatherum japonicum</i>			●			
249			アゼガヤ	<i>Leptochloa chinensis</i>				●		
250			ネズミホソムギ	<i>Lolium x hybridum</i>	●					●
251			ホソムギ	<i>Lolium perenne</i>	●	●				●
252			ササクサ	<i>Lophatherum gracile</i>		●	●	●	●	●
253			コメガヤ	<i>Melica nutans</i>						●
254			アシボソ	<i>Microstegium vimineum</i>			●	●		
255			オギ	<i>Miscanthus sacchariflorus</i>		●	●	●	●	●
256			ススキ	<i>Miscanthus sinensis</i>		●	●	●	●	●
257			コチヂミザサ	<i>Oplismenus undulatifolius</i> var. <i>japonicus</i>		●	●	●		●
258			ケチヂミザサ	<i>Oplismenus undulatifolius</i> var. <i>undulatifolius</i>		●	●	●		●
259			ヌカキビ	<i>Panicum bisulcatum</i>			●	●	●	●
260			オオクサキビ	<i>Panicum dichotamiflorum</i>		●	●	●		
261			シマスズメノヒエ	<i>Paspalum dilatatum</i>		●	●	●		
262			キシウスズメノヒエ	<i>Paspalum distichum</i>	●			●		
263			アメリカスズメノヒエ	<i>Paspalum notatum</i>		●	●			
264			スズメノヒエ	<i>Paspalum thunbergii</i>		●	●	●		
265			チカラシバ	<i>Pennisetum alopecuroides</i>			●	●		
266			アオチカラシバ	<i>Pennisetum alopecuroides</i> f. <i>viridescens</i>				●		
267			ヨシ	<i>Phragmites australis</i>		●	●	●		●
268			ツルヨシ	<i>Phragmites japonicus</i>		●	●	●	●	●
269			モウソウチク	<i>Phyllostachys edulis</i>	●	●	●	●	●	●
270			ハチク	<i>Phyllostachys nigra</i> var. <i>henonis</i>						●
271			マダケ	<i>Phyllostachys reticulata</i>		●	●	●	●	●
272			ネザサ	<i>Pleiblastus argenteostriatus</i>		●	●	●	●	
273			ケネザサ	<i>Pleiblastus fortunei</i> f. <i>pubescens</i>		●	●	●		●
274			メダケ	<i>Pleiblastus simonii</i>		●	●	●	●	●
275			ミゾイチゴツナギ	<i>Poa acroleuca</i>						●
276			スズメノカタビラ	<i>Poa annua</i>		●			●	●
277			ナガハグサ	<i>Poa pratensis</i>						●
278			イチゴツナギ	<i>Poa sphondylodes</i>						●
279			オオスズメノカタビラ	<i>Poa trivialis</i>						●
280			ヒエガエリ	<i>Polypogon fugax</i>		●			●	●
281			ハイヌメリグサ	<i>Sacciolepis spicata</i>			●	●		
282			スズダケ	<i>Sasa borealis</i>		●	●	●		
283			オニウシノケグサ	<i>Schedonorus phoenix</i>	●	●	●			●
284			アキノエノコログサ	<i>Setaria faberi</i>		●	●	●		
285			コツブキンエノコロ	<i>Setaria pallidifusca</i>		●	●	●		
286			キンエノコロ	<i>Setaria pumila</i>		●	●	●		

表 12. 6-9 (7) 植物の確認種一覧

No.	目名	科名	種名	学名	外来種 注2)	調査時期				
						令和3年			令和4年	
						夏季	初秋季	秋季	早春季	春季
287	イネ目	イネ科	エノコログサ	<i>Setaria viridis</i> var. <i>minor</i>		●	●	●		
288			ムラサキエノコロ	<i>Setaria viridis</i> var. <i>minor</i> f. <i>miseria</i>			●	●		
289			セイバンモロコシ	<i>Sorghum propinquum</i>	●	●	●			
290			ネズミノオ	<i>Sporobolus fertilis</i> var. <i>fertilis</i>			●			
291			イヌシバ	<i>Stenotaphrum secundatum</i>		●	●			●
292			カニツリグサ	<i>Trisetum bifidum</i>						●
293			ナギナタガヤ	<i>Vulpia myuros</i> var. <i>myuros</i>		●				●
294			シバ	<i>Zoysia japonica</i>		●	●	●		●
295			コウシュンシバ	<i>Zoysia matrella</i>		●				●
296			コウライシバ	<i>Zoysia pacifica</i>		●	●			
297	キンボウゲ目	ケシ科	ムラサキケマン	<i>Corydalis incisa</i>				●		●
298			ナガミヒナゲシ	<i>Papaver dubium</i>						●
299		アケビ科	アケビ	<i>Akebia quinata</i>		●	●	●		●
300			ミツバアケビ	<i>Akebia trifoliata</i> ssp. <i>trifoliata</i>		●	●	●		●
301			ムベ	<i>Stauntonia hexaphylla</i>		●	●	●	●	●
302		ツツラフジ科	アオツツラフジ	<i>Cocculus trilobus</i>		●	●	●		●
303		メギ科	ナンテン	<i>Nandina domestica</i>		●	●	●	●	●
304		キンボウゲ科	ポタンヅル	<i>Clematis apiifolia</i> var. <i>apiifolia</i>		●	●	●		●
305			ケハンショウヅル	<i>Clematis japonica</i> var. <i>villosula</i>						●
306			センニンソウ	<i>Clematis temiflora</i>		●	●	●		●
307	ケキツネノボタン		<i>Ranunculus cantoniensis</i>		●	●			●	
308	ウマノアシガタ		<i>Ranunculus japonicus</i>						●	
309	キツネノボタン		<i>Ranunculus silerifolius</i>		●	●	●	●	●	
310	ヒメウズ		<i>Semiaquilegia adoxoides</i>					●		
311	ユキノシタ目	フウ科	フウ	<i>Liquidambar formosana</i>						●
312			モミジバフウ	<i>Liquidambar styraciflua</i>			●			
313		カツラ科	カツラ	<i>Cercidiphyllum japonicum</i>			●			
314		スグリ科	ヤブサンザシ	<i>Ribes fasciculatum</i>		●				
315		ユキノシタ科	チャルメルソウ	<i>Mitella furusei</i> var. <i>suberosa</i>						●
316		ベンケイソウ科	コモチマンネングサ	<i>Sedum bulbiferum</i>			●	●	●	●
317			オカタイトゴメ	<i>Sedum japonicum</i> ssp. <i>oryzifolium</i> var. <i>pumilum</i>						●
318			メキシコマンネングサ	<i>Sedum mexicanum</i>			●			
319		タコノアシ科	タコノアシ	<i>Penthorum chinense</i>			●			
320		ブドウ目	ブドウ科	ノブドウ	<i>Ampelopsis glandulosa</i> var. <i>heterophylla</i>		●	●	●	
321	ヤブカラシ			<i>Cayratia japonica</i>		●	●	●		●
322	ツタ			<i>Parthenocissus tricuspidata</i>		●		●		●
323	エビヅル			<i>Vitis ficifolia</i>		●	●			●
324	サンカクヅル			<i>Vitis flexuosa</i>			●			
325	アマヅル			<i>Vitis saccharifera</i> var. <i>saccharifera</i>		●	●	●		●
326	マメ目			マメ科	クサネム	<i>Aeschynomene indica</i>				●
327		ネムノキ	<i>Albizia julibrissin</i> var. <i>julibrissin</i>			●	●	●	●	●
328		イタチハギ	<i>Amorpha fruticosa</i>		●	●	●			●
329		ヤブマメ	<i>Amphicarpaea edgeworthii</i>			●	●	●		
330		ゲンゲ	<i>Astragalus sinicus</i>						●	●
331		ジャケツイバラ	<i>Caesalpinia decapetala</i>			●	●			●
332		カワラケツメイ	<i>Chamaecrista noname</i>			●	●	●		

表 12.6-9(8) 植物の確認種一覧

No.	目名	科名	種名	学名	外来種 <small>注2)</small>	調査時期						
						令和3年			令和4年			
						夏季	初秋季	秋季	早春季	春季		
333	マメ目	マメ科	イリノイヌスビトハギ	<i>Desmodium illinoense</i>			●					
334			アレチヌスビトハギ	<i>Desmodium paniculatum</i>	●	●	●	●		●		
335			ノササゲ	<i>Dumasia truncata</i>		●	●	●				
336			ツルマメ	<i>Glycine max</i> ssp. <i>soja</i>		●	●	●				
337			ケヤブハギ	<i>Hylodesmum podocarpum</i> ssp. <i>fallax</i>		●	●					
338			ヌスビトハギ	<i>Hylodesmum podocarpum</i> ssp. <i>oxyphyllum</i> var. <i>japonicum</i>			●					
339			トウコマツナギ	<i>Indigofera bungeana</i> var. <i>bungeana</i>	●	●	●			●		
340			コマツナギ	<i>Indigofera pseudotinctoria</i>		●	●					
341			ヤハズソウ	<i>Kummerowia striata</i>		●	●	●				
342			ヤマハギ	<i>Lespedeza bicolor</i> var. <i>bicolor</i>	●			●				
343			メドハギ	<i>Lespedeza cuneata</i> var. <i>cuneata</i>	●	●	●	●				
344			ハイメドハギ	<i>Lespedeza cuneata</i> var. <i>serpens</i>		●	●	●				
345			マルバハギ	<i>Lespedeza cyrtobotrya</i>	●		●	●		●		
346			ツクシハギ	<i>Lespedeza homoloba</i>			●					
347			ネコハギ	<i>Lespedeza pilosa</i> var. <i>pilosa</i>		●	●			●		
348			ビッチュウヤマハギ	<i>Lespedeza thunbergii</i> f. <i>angustifolia</i>				●				
349			セイヨウミヤコグサ	<i>Lotus corniculatus</i> ssp. <i>corniculatus</i>			●			●		
350			ミヤコグサ	<i>Lotus corniculatus</i> ssp. <i>japonicus</i>			●			●		
351			イヌエンジュ	<i>Maackia amurensis</i>		●	●	●		●		
352			シナガワハギ	<i>Melilotus officinalis</i> ssp. <i>suaveolens</i>			●					
353			クズ	<i>Pueraria lobata</i> ssp. <i>lobata</i>		●	●	●	●	●		
354			オオバタンキリマメ	<i>Rhynchosia acuminatifolia</i>		●	●					
355			ハリエンジュ	<i>Robinia pseudacacia</i>	●	●	●	●	●	●		
356			クスマツメクサ	<i>Trifolium campestre</i>						●		
357			コメツブツメクサ	<i>Trifolium dubium</i>		●				●		
358			ムラサキツメクサ	<i>Trifolium pratense</i>		●	●			●		
359			シロツメクサ	<i>Trifolium repens</i>		●	●	●	●	●		
360			スズメノエンドウ	<i>Vicia hirsuta</i>						●		
361			ヤハズエンドウ	<i>Vicia sativa</i> ssp. <i>nigra</i>				●	●	●		
362			カスマグサ	<i>Vicia tetrasperma</i>						●		
363			ヤブツルアズキ	<i>Vigna angularis</i> var. <i>nipponensis</i>		●	●	●				
364			フジ	<i>Wisteria floribunda</i>		●	●	●		●		
365			ナツフジ	<i>Wisteria japonica</i>		●	●	●				
366				ヒメハギ科	ヒメハギ	<i>Polygala japonica</i>					●	
367			バラ目	グミ科	ツルグミ	<i>Elaeagnus glabra</i>		●	●		●	●
368					ナワシログミ	<i>Elaeagnus pungens</i>		●	●	●		●
369	アキグミ	<i>Elaeagnus umbellata</i> var. <i>umbellata</i>				●		●		●		
370	クロウメモドキ科	クマヤナギ		<i>Berchemia racemosa</i>			●					
371		イソノキ		<i>Frangula crenata</i> var. <i>crenata</i>			●			●		
372		ケケンボナシ		<i>Hovenia trichocarpa</i> var. <i>robusta</i>		●	●	●	●	●		
373	ニレ科	アキニレ		<i>Ulmus parvifolia</i>		●	●			●		
374		ケヤキ		<i>Zelkova serrata</i>						●		
375	アサ科	ムクノキ		<i>Aphananthe aspera</i>		●	●	●	●	●		
376		エノキ		<i>Celtis sinensis</i>		●	●	●	●	●		
377		カナムグラ		<i>Humulus scandens</i>		●	●	●		●		
378	クワ科	ヒメコウゾ		<i>Broussonetia monoica</i>		●	●	●		●		
379		クワクサ	<i>Fatoua villosa</i>		●	●	●					

表 12.6-9 (9) 植物の確認種一覧

No.	目名	科名	種名	学名	外来種 <small>注2)</small>	調査時期					
						令和3年			令和4年		
						夏季	初秋季	秋季	早春季	春季	
380	バラ目	クワ科	イヌビワ	<i>Ficus erecta</i> var. <i>erecta</i>		●	●	●			
381			イタビカズラ	<i>Ficus samentosa</i> ssp. <i>nipponica</i>		●	●	●	●	●	
382			ヒメイタビ	<i>Ficus thunbergii</i>		●	●		●	●	
383		イラクサ科	ヤブマオ	<i>Boehmeria japonica</i> var. <i>longispica</i>		●	●	●		●	
384			メヤブマオ	<i>Boehmeria platanifolia</i>		●	●			●	
385			ナガバヤブマオ	<i>Boehmeria sieboldiana</i>		●	●	●			
386			アカソ	<i>Boehmeria silvestrii</i>			●				
387			コアカソ	<i>Boehmeria spicata</i>		●	●			●	
388			ヒメウワバミソウ	<i>Elatostena japonicum</i>		●	●	●		●	
389			ムカゴイラクサ	<i>Laportea bulbifera</i>		●	●	●		●	
390			ミズ	<i>Pilea hanaoi</i>		●					
391			ヤマミズ	<i>Pilea japonica</i>		●	●	●			
392			アオミズ	<i>Pilea pumila</i>			●				
393			バラ科	キンミズヒキ	<i>Agrimonia pilosa</i> var. <i>japonica</i>		●	●	●	●	●
394				アズキナシ	<i>Aria alnifolia</i>		●	●			●
395				ウラジロノキ	<i>Aria japonica</i>		●	●	●		●
396				ヤマザクラ	<i>Cerasus jamasakura</i> var. <i>jamasakura</i>		●	●	●		●
397		カスミザクラ		<i>Cerasus leveilleana</i>			●	●		●	
398		オオシマザクラ		<i>Cerasus speciosa</i>						●	
399		ソメイヨシノ		<i>Cerasus x yedoensis</i>			●			●	
400		ビワ		<i>Eriobotrya japonica</i>						●	
401		ダイコンソウ		<i>Geum japonicum</i>		●					
402		リンボク		<i>Laurocerasus spinulosa</i>			●	●	●	●	
403		オオウラジロノキ		<i>Malus tschonoskii</i>				●			
404		イヌザクラ		<i>Padus buergeriana</i>		●	●	●		●	
405		ウワミズザクラ		<i>Padus grayana</i>		●	●	●		●	
406		カナメモチ		<i>Photinia glabra</i>		●	●	●	●	●	
407		ヘビイチゴ		<i>Potentilla hebiichigo</i>		●	●	●	●	●	
408		ヤブヘビイチゴ		<i>Potentilla indica</i>			●	●		●	
409		オキジムシロ		<i>Potentilla supina</i>				●			
410	カマツカ	<i>Pourthiaea villosa</i> var. <i>laevis</i>			●	●	●		●		
411	シャリンバイ	<i>Raphiolepis indica</i> var. <i>umbellata</i>			●		●		●		
412	バラ科	ノイバラ		<i>Rosa multiflora</i> var. <i>multiflora</i>		●	●	●	●	●	
413		ミヤコイバラ	<i>Rosa paniculigera</i>		●	●	●		●		
414		フユイチゴ	<i>Rubus buergeri</i>		●	●	●	●	●		
415		ビロードイチゴ	<i>Rubus corchorifolius</i>		●	●		●	●		
416		クマイチゴ	<i>Rubus crataegifolius</i>		●		●				
417		クサイチゴ	<i>Rubus hirsutus</i>		●	●	●	●	●		
418		ニガイチゴ	<i>Rubus microphyllus</i>		●	●	●		●		
419		モミジイチゴ	<i>Rubus palmatus</i>		●	●	●	●	●		
420		ナワシロイチゴ	<i>Rubus parvifolius</i>		●	●			●		
421		コジキイチゴ	<i>Rubus sumatranus</i>		●	●	●		●		
422	ブナ目	ブナ科	クリ	<i>Castanea crenata</i>		●	●	●	●	●	
423			ツブラジイ	<i>Castanopsis cuspidata</i>			●	●		●	
424			マテバシイ	<i>Lithocarpus edulis</i>			●				
425			アカガシ	<i>Quercus acuta</i>					●		
426			クヌギ	<i>Quercus acutissima</i>			●				
427			アラカシ	<i>Quercus glauca</i>		●	●	●	●	●	
428			シラカシ	<i>Quercus myrsinifolia</i>		●	●	●	●	●	
429			ウバメガシ	<i>Quercus phillyreoides</i>		●	●	●		●	
430			ウラジロガシ	<i>Quercus salicina</i>		●	●		●	●	

表 12. 6-9(10) 植物の確認種一覧

No.	目名	科名	種名	学名	外来種 <small>注2)</small>	調査時期					
						令和3年			令和4年		
						夏季	初秋季	秋季	早春季	春季	
431	ブナ目	ブナ科	コナラ	<i>Quercus serrata</i> ssp. <i>serrata</i> var. <i>serrata</i>		●	●	●	●	●	
432			ツクバネガシ	<i>Quercus sessilifolia</i>					●		
433			アベマキ	<i>Quercus variabilis</i>		●	●	●	●	●	
434		ヤマモモ科	ヤマモモ	<i>Morella rubra</i>		●	●	●	●	●	
435		クルミ科	オニグルミ	<i>Juglans mandshurica</i> var. <i>sachalinensis</i>				●			
436			ノグルミ	<i>Platycarya strobilacea</i>		●	●	●	●	●	
437		カバノキ科	オオバヤシヤブシ	<i>Alnus sieboldiana</i>	●	●					
438			アカシデ	<i>Carpinus laxiflora</i>				●			
439	ウリ目	ウリ科	アレチウリ	<i>Sicyos angulatus</i>	●		●	●		●	
440			カラスウリ	<i>Trichosanthes cucumeroides</i>		●	●	●	●		
441			キカラスウリ	<i>Trichosanthes kirilowii</i> var. <i>japonica</i>		●	●				
442			スズメウリ	<i>Zehneria japonica</i>		●	●	●			
443	ニシキギ目	ニシキギ科	ツルウメモドキ	<i>Celastrus orbiculatus</i> var. <i>orbiculatus</i>		●		●		●	
444			コマユミ	<i>Euonymus alatus</i> f. <i>ciliatodentatus</i>		●	●		●	●	
445			ツリバナ	<i>Euonymus oxiphyllus</i>		●	●			●	
446			マユミ	<i>Euonymus sieboldianus</i>			●			●	
447	カタバミ目	カタバミ科	イモカタバミ	<i>Oxalis articulata</i>				●			
448			ハナカタバミ	<i>Oxalis bowieana</i>				●			
449			カタバミ	<i>Oxalis corniculata</i>		●	●	●		●	
450			ムラサキカタバミ	<i>Oxalis corymbosa</i>		●		●			
451			オッタチカタバミ	<i>Oxalis dillenii</i>		●	●	●		●	
452	キントラノオ目	トウダイグサ科	エノキグサ	<i>Acalypha australis</i>		●	●	●			
453			コニシキソウ	<i>Euphorbia maculata</i>		●	●	●			
454			オオニシキソウ	<i>Euphorbia nutans</i>		●	●	●			
455			ハイニシキソウ	<i>Euphorbia prostrata</i>			●				
456			アレチニシキソウ	<i>Euphorbia</i> sp.				●			
457			アカメガシワ	<i>Mallotus japonicus</i>		●	●	●	●	●	
458			シラキ	<i>Neoshirakia japonica</i>		●	●	●		●	
459			ナンキンハゼ	<i>Triadica sebifera</i>	●	●	●	●		●	
460			コミカンソウ科	コバンノキ	<i>Phyllanthus flexuosus</i>						●
461				コミカンソウ	<i>Phyllanthus lepidocarpus</i>		●	●			
462		ナガエコミカンソウ		<i>Phyllanthus tenellus</i>		●					
463		ヒメミカンソウ		<i>Phyllanthus ussuriensis</i>			●	●			
464		ヤナギ科	ヤマナラシ	<i>Populus tremula</i> var. <i>sieboldii</i>			●				
465			マルバヤナギ	<i>Salix chaenomeloides</i>				●			
466		スミレ科		タチツボスミレ	<i>Viola grypoceras</i> var. <i>grypoceras</i>		●	●	●	●	●
467				ヒメスミレ	<i>Viola inconspicua</i> ssp. <i>nagasakiensis</i>					●	
468				コスミレ	<i>Viola japonica</i>				●		
469				スミレ	<i>Viola mandshurica</i> var. <i>mandshurica</i>		●	●	●		●
470				ニオイタチツボスミレ	<i>Viola obtusa</i>					●	
471				ナガバタチツボスミレ	<i>Viola ovato-oblonga</i>		●	●	●	●	●
472	ヒナスミレ			<i>Viola tokubuchiana</i> var. <i>takedana</i>						●	
473	ツボスミレ			<i>Viola verecunda</i> var. <i>verecunda</i>			●			●	
474	シハイスミレ			<i>Viola violacea</i> var. <i>violacea</i>		●	●			●	
475	オトギリソウ科			コケオトギリ	<i>Hypericum laxum</i>		●		●		
476	フウロソウ目	フウロソウ科	アメリカフウロ	<i>Geranium carolinianum</i>		●	●	●	●	●	
477			オトメフウロ	<i>Geranium dissectum</i>						●	
478			ゲンノショウコ	<i>Geranium thunbergii</i>					●		

表 12.6-9(11) 植物の確認種一覧

No.	目名	科名	種名	学名	外来種 <small>注2)</small>	調査時期				
						令和3年			令和4年	
						夏季	初秋季	秋季	早春季	春季
479	フトモモ目	ミソハギ科	サルスベリ	<i>Lagerstroemia indica</i>		●	●			●
480			ミソハギ	<i>Lythrum anceps</i>		●				
481			キカシグサ	<i>Rotala indica</i>			●	●		
482			ヒシ	<i>Trapa jeholensis</i>			●	●		●
483		アカバナ科	ミズタマソウ	<i>Circaea mollis</i>		●	●	●		●
484			チョウジタデ	<i>Ludwigia epilobioides</i> ssp. <i>epilobioides</i>			●	●		
485			ミズユキノシタ	<i>Ludwigia ovalis</i>			●	●		
486			メマツヨイグサ	<i>Oenothera biennis</i>		●	●	●		●
487			コマツヨイグサ	<i>Oenothera laciniata</i>	●	●	●			●
488			ユウゲシヨウ	<i>Oenothera rosea</i>		●	●			●
489	ミツバウツギ目	ミツバウツギ科	ゴンズイ	<i>Euscaphis japonica</i>		●	●	●	●	
490		キブシ科	キブシ	<i>Stachyurus praecox</i>		●	●		●	
491	ムクロジ目	ウルシ科	ヌルデ	<i>Rhus javanica</i> var. <i>chinensis</i>		●	●	●		●
492			ハゼノキ	<i>Toxicodendron succedaneum</i>		●	●	●		
493			ヤマハゼ	<i>Toxicodendron sylvestri</i>		●	●	●		●
494			ヤマウルシ	<i>Toxicodendron trichocarpum</i>		●	●	●		●
495		ムクロジ科	トウカエデ	<i>Acer buergerianum</i>			●			●
496			ウリカエデ	<i>Acer crataegifolium</i>		●		●		
497			イロハモミジ	<i>Acer palmatum</i>		●	●	●		●
498			ウリハダカエデ	<i>Acer rufinerve</i>				●		
499		ミカン科	カラスザンショウ	<i>Zanthoxylum ailanthoides</i> var. <i>ailanthoides</i>		●	●	●		●
500			ザンショウ	<i>Zanthoxylum piperitum</i>				●		
501	イヌザンショウ		<i>Zanthoxylum schinifolium</i> var. <i>schinifolium</i>		●	●	●		●	
502	ニガキ科	ニワウルシ	<i>Ailanthus altissima</i>	●	●	●			●	
503		ニガキ	<i>Picrasma quassioides</i>		●	●			●	
504	センダン科	センダン	<i>Melia azedarach</i>		●	●			●	
505	アオイ目	アオイ科	イチビ	<i>Abutilon theophrasti</i>		●	●			
506			タチアオイ	<i>Althaea rosea</i>						●
507			ウサギアオイ	<i>Malva parviflora</i>						●
508			キクノハアオイ	<i>Modiola caroliniana</i>						●
509		ジンチョウゲ科	ガンピ	<i>Diplanorpha sikokiana</i>		●	●	●		●
510			キガンピ	<i>Diplanorpha trichotoma</i>			●			
511	アブラナ目	アブラナ科	カラシナ	<i>Brassica juncea</i>	●					●
512			ナズナ	<i>Capsella bursa-pastoris</i>				●	●	●
513			ニシノオオタネツケバナ	<i>Cardamine dentipetala</i> var. <i>longifructus</i>						●
514			ミチタネツケバナ	<i>Cardamine hirsuta</i>					●	
515			タネツケバナ	<i>Cardamine occulta</i>			●	●	●	●
516			オオバタネツケバナ	<i>Cardamine scutata</i>				●		●
517			マメゲンバイナズナ	<i>Lepidium virginicum</i>		●	●			●
518			オランダガラシ	<i>Nasturtium officinale</i>	●		●	●		●
519			イヌガラシ	<i>Rorippa indica</i>			●			●
520			スカシタゴボウ	<i>Rorippa palustris</i>				●		
521	ナデシコ目	タデ科	イタドリ	<i>Fallopia japonica</i> var. <i>japonica</i>		●	●	●		●
522			ミズヒキ	<i>Persicaria filiformis</i>		●	●			●
523			ヤナギタデ	<i>Persicaria hydropiper</i>			●			
524			サナエタデ	<i>Persicaria lapathifolia</i> var. <i>incana</i>		●	●	●		
525			オオイヌタデ	<i>Persicaria lapathifolia</i> var. <i>lapathifolia</i>		●	●	●		
526			イヌタデ	<i>Persicaria longiseta</i>			●	●		
527			ハルタデ	<i>Persicaria maculosa</i> ssp. <i>hirticaulis</i> var. <i>pubescens</i>			●			

表 12. 6-9(12) 植物の確認種一覧

No.	目名	科名	種名	学名	外来種 <small>注2)</small>	調査時期						
						令和3年			令和4年			
						夏季	初秋季	秋季	早春季	春季		
528	ナデシコ目	タデ科	ヤノネグサ	<i>Persicaria muricata</i>		●	●	●				
529			シンミズヒキ	<i>Persicaria neofiliformis</i>		●	●			●		
530			サクラタデ	<i>Persicaria odorata</i> ssp. <i>conspicua</i>			●					
531			ハナタデ	<i>Persicaria posumbu</i>			●	●				
532			ホソバノウナギツカミ	<i>Persicaria praetemissa</i>					●			
533			ボントクタデ	<i>Persicaria pubescens</i>				●	●			
534			アキノウナギツカミ	<i>Persicaria sagittata</i> var. <i>sibirica</i>				●				
535			ママコノシリヌグイ	<i>Persicaria senticosa</i>		●	●			●		
536			ミゾソバ	<i>Persicaria thunbergii</i> var. <i>thunbergii</i>		●	●	●		●		
537			スイバ	<i>Rumex acetosa</i>			●	●		●		
538			ヒメスイバ	<i>Rumex acetosella</i> ssp. <i>pyrenaicus</i>						●		
539			アレチギンギシ	<i>Rumex conglomeratus</i>		●	●			●		
540			ナガバギンギシ	<i>Rumex crispus</i>			●			●		
541			エゾノギンギシ	<i>Rumex obtusifolius</i>		●	●			●		
542			ナデシコ科		ノミノツヅリ	<i>Arenaria serpyllifolia</i> var. <i>serpyllifolia</i>					●	
543					ミミナグサ	<i>Cerastium fontanum</i> ssp. <i>vulgare</i> var. <i>angustifolium</i>		●	●			●
544					オランダミミナグサ	<i>Cerastium glomeratum</i>				●	●	●
545	イヌコモチナデシコ	<i>Petrohragia dubia</i>								●		
546	コモチナデシコ	<i>Petrohragia prolifera</i>				●	●					
547	ツメクサ	<i>Sagina japonica</i>								●		
548	ウシハコベ	<i>Stellaria aquatica</i>						●	●	●		
549	コハコベ	<i>Stellaria media</i>				●	●	●	●	●		
550	ノミノフスマ	<i>Stellaria uliginosa</i> var. <i>undulata</i>					●	●	●	●		
551	ヒコ科				イノコヅチ	<i>Achyranthes bidentata</i> var. <i>japonica</i>		●	●	●		
552			ヒナタイノコヅチ	<i>Achyranthes bidentata</i> var. <i>tonentosa</i>		●	●	●		●		
553			ホソアオゲイトウ	<i>Amaranthus hybridus</i>			●					
554			ホナガイヌビユ	<i>Amaranthus viridis</i>		●	●	●				
555			シロザ	<i>Chenopodium album</i> var. <i>album</i>		●	●	●		●		
556			アカザ	<i>Chenopodium album</i> var. <i>centrorubrum</i>			●					
557			ホソバアカザ	<i>Chenopodium stenophyllum</i>			●					
558			アリタソウ	<i>Dysphania ambrosioides</i>		●						
559			ヤマゴボウ科	ヨウシュヤマゴボウ	<i>Phytolacca americana</i>		●	●	●		●	
560			オシロイバナ科	オシロイバナ	<i>Mirabilis jalapa</i>			●				
561	ザクロソウ科	クルマバザクロソウ	<i>Mollugo verticillata</i>			●	●					
562		ザクロソウ	<i>Trigastrotheca stricta</i>			●	●					
563	スベリヒユ科	スベリヒユ	<i>Portulaca oleracea</i>		●	●	●					
564	ミズキ目	ミズキ科	ハナミズキ	<i>Cornus florida</i>			●					
565			ヤマボウシ	<i>Cornus kousa</i> ssp. <i>kousa</i>		●	●	●		●		
566			クマノミズキ	<i>Cornus macrophylla</i>		●	●	●		●		
567		アジサイ科	ウツギ	<i>Deutzia crenata</i> var. <i>crenata</i>		●	●	●	●	●		
568			コガクウツギ	<i>Hortensia luteovenosa</i> var. <i>luteovenosa</i>		●	●	●		●		
569			ヤマアジサイ	<i>Hortensia serrata</i> var. <i>serrata</i>		●	●	●		●		
570			イワガラミ	<i>Schizophragma hydrangeoides</i>			●	●		●		
571	ツツジ目	サカキ科	サカキ	<i>Cleyera japonica</i>		●	●	●	●			
572			ヒサカキ	<i>Eurya japonica</i>		●	●	●	●	●		
573		カキノキ科	カキノキ	<i>Diospyros kaki</i> var. <i>kaki</i>		●	●	●		●		

表 12. 6-9(13) 植物の確認種一覧

No.	目名	科名	種名	学名	外来種 <small>注2)</small>	調査時期					
						令和3年			令和4年		
						夏季	初秋季	秋季	早春季	春季	
574	ツツジ目	サクラソウ科	マンリョウ	<i>Ardisia crenata</i>		●	●	●		●	
575			ヤブコウジ	<i>Ardisia japonica</i> var. <i>japonica</i>		●	●	●	●	●	
576			オカトラノオ	<i>Lysimachia clethroides</i>		●	●	●		●	
577			ヌマトラノオ	<i>Lysimachia fortunei</i>		●					
578			コナスビ	<i>Lysimachia japonica</i>		●	●	●		●	
579		ツバキ科	ヤブツバキ	<i>Camellia japonica</i>		●	●	●	●	●	
580			サザンカ	<i>Camellia sasanqua</i>			●				
581			チャノキ	<i>Camellia sinensis</i> var. <i>sinensis</i>				●			
582		ハイノキ科	タンナサワフタギ	<i>Symplocos coreana</i>			●				
583		エゴノキ科	エゴノキ	<i>Styrax japonicus</i>		●	●	●		●	
584		マタタビ科	マタタビ	<i>Actinidia polygama</i>		●	●	●		●	
585		リョウブ科	リョウブ	<i>Clethra barbinervis</i>		●	●	●	●	●	
586		ツツジ科	ネジキ	<i>Lyonia ovalifolia</i> var. <i>elliptica</i>		●	●	●		●	
587			ギンリョウソウ	<i>Monotropastrum humile</i>						●	
588			アセビ	<i>Pieris japonica</i> ssp. <i>japonica</i> var. <i>japonica</i>		●	●	●	●	●	
589			イチヤクソウ	<i>Pyrola japonica</i> var. <i>japonica</i>		●	●	●		●	
590			ヤマツツジ	<i>Rhododendron kaempferi</i> var. <i>kaempferi</i>		●	●	●		●	
591			モチツツジ	<i>Rhododendron macrosepalum</i>		●	●	●		●	
592			コバノミツバツツジ	<i>Rhododendron reticulatum</i>		●	●	●	●	●	
593			シロバナウンゼンツツジ	<i>Rhododendron serpyllifolium</i> var. <i>albiflorum</i>		●	●	●	●	●	
594	ツツジ (園芸品種)		<i>Rhododendron</i> cvs.			●					
595	シャシャンボ		<i>Vaccinium bracteatum</i>					●			
596	ウスノキ		<i>Vaccinium hirtum</i> var. <i>pubescens</i>				●		●		
597	ナツハゼ		<i>Vaccinium oldhamii</i>		●	●	●		●		
598	スノキ		<i>Vaccinium smillii</i> var. <i>glabrum</i>		●				●		
599	アオキ目		アオキ科	アオキ	<i>Aucuba japonica</i> var. <i>japonica</i>		●	●	●	●	
600	リンドウ目	アカネ科	ヒメヨツバムグラ	<i>Galium gracilens</i>			●	●		●	
601			キクムグラ	<i>Galium kikunigura</i>					●		
602			ヤマムグラ	<i>Galium pogonanthum</i>			●				●
603			ヤエムグラ	<i>Galium spurium</i> var. <i>echinospermon</i>		●				●	●
604			ツルアリドオン	<i>Mitchella undulata</i>		●	●	●			●
605			ハシカグサ	<i>Neanotis hirsuta</i>				●	●		
606			ヘクソカズラ	<i>Paederia foetida</i>		●	●	●			●
607			アカネ	<i>Rubia argyi</i>				●	●		●
608		リンドウ科	ハナハマセンブリ	<i>Centaurium tenuiflorum</i>		●	●				
609		マチン科	ホウライカズラ	<i>Gardneria nutans</i>						●	
610		キョウチクトウ科	ガガイモ	<i>Metaplexis japonica</i>		●	●	●			
611			キョウチクトウ	<i>Nerium oleander</i> var. <i>indicum</i>				●			
612			テイカカズラ	<i>Trachelospermum asiaticum</i>		●	●	●	●	●	
613			ケテイカカズラ	<i>Trachelospermum jasminoides</i> var. <i>pubescens</i>							●
614			ツルニチニチソウ	<i>Vinca major</i>		●	●	●	●		●
615	オオカモメヅル		<i>Vincetoxicum aristolochioides</i>			●	●				
616	ナス目		ヒルガオ科	コヒルガオ	<i>Calystegia hederacea</i>			●			●
617		ヒルガオ		<i>Calystegia pubescens</i>			●		●		●
618		セイヨウヒルガオ		<i>Convolvulus arvensis</i>				●			●
619		ネナシカズラ		<i>Cuscuta japonica</i>				●	●		
620		マメアサガオ		<i>Iponoea lacunosa</i>		●		●	●		
621		ホシアサガオ		<i>Iponoea triloba</i>		●		●			

表 12. 6-9(14) 植物の確認種一覧

No.	目名	科名	種名	学名	外来種 <small>注2)</small>	調査時期					
						令和3年			令和4年		
						夏季	初秋季	秋季	早春季	春季	
622	ナス目	ナス科	クコ	<i>Lycium chinense</i>			●				
623			ワルナスビ	<i>Solanum carolinense</i>		●					
624			ヒヨドリジョウゴ	<i>Solanum lyratum</i>		●	●			●	
625			オオイヌホオズキ	<i>Solanum nigrescens</i>		●	●				
626			イヌホオズキ	<i>Solanum nigrum</i>		●					
627			アメリカイヌホオズキ	<i>Solanum ptychanthum</i>		●	●	●		●	
628			カンザシイヌホオズキ	<i>Solanum</i> sp.		●	●				
629			ハダカホオズキ	<i>Tubocapsicum anomalum</i>		●	●	●			
630			ムラサキ目	ムラサキ科	ハナイバナ	<i>Bothriospermum zeylanicum</i>			●	●	
631	ミズタバコ	<i>Trigonotis brevipes</i>					●			●	
632	キュウリグサ	<i>Trigonotis peduncularis</i>					●	●	●	●	
633	シソ目	モクセイ科	マルバアオダモ	<i>Fraxinus sieboldiana</i>		●	●	●		●	
634			ネズミモチ	<i>Ligustrum japonicum</i> var. <i>japonicum</i>		●	●	●		●	
635			トウネズミモチ	<i>Ligustrum lucidum</i>	●	●	●	●		●	
636			イボタノキ	<i>Ligustrum obtusifolium</i> ssp. <i>obtusifolium</i>		●	●	●		●	
637		モクセイ科	ヨウシュイボタ	<i>Ligustrum vulgare</i>	●		●			●	
638			ヒイラギ	<i>Osmanthus heterophyllus</i>		●	●	●	●	●	
639		イワタバコ科	イワタバコ	<i>Conandron ranondioides</i> var. <i>ranondioides</i>		●	●			●	
640		オオバコ科	ミズハコベ	<i>Callitriche palustris</i>			●	●		●	
641			ツタバウンラン	<i>Cymbalaria muralis</i>						●	
642			マツバウンラン	<i>Nuttallanthus canadensis</i>						●	
643			オオマツバウンラン	<i>Nuttallanthus texanus</i>						●	
644			オオバコ	<i>Plantago asiatica</i> var. <i>asiatica</i>		●	●	●	●	●	
645			ヘラオオバコ	<i>Plantago lanceolata</i>		●	●			●	
646			ツボミオオバコ	<i>Plantago virginica</i>						●	
647			オオカワヂシャ	<i>Veronica anagallis-aquatica</i>	●	●	●	●		●	
648			タチイヌノフグリ	<i>Veronica arvensis</i>					●	●	
649			フラサバソウ	<i>Veronica hederifolia</i>					●	●	
650			オオイヌノフグリ	<i>Veronica persica</i>		●	●		●	●	
651			ゴマノハグサ科	フサフジウツギ	<i>Buddleja davidii</i>	●		●			●
652			アゼナ科	タケトアゼナ	<i>Lindernia dubia</i> ssp. <i>dubia</i>			●			
653				アメリカアゼナ	<i>Lindernia dubia</i> ssp. <i>major</i>			●	●		
654		アゼナ		<i>Lindernia procumbens</i>			●	●			
655		ウリクサ		<i>Torenia crustacea</i>		●	●	●			
656		シソ科	キランソウ	<i>Ajuga decumbens</i>			●			●	
657			ツクバキンモンソウ	<i>Ajuga yezoensis</i> var. <i>tsukubana</i>						●	
658			コムラサキ	<i>Callicarpa dichotoma</i>				●		●	
659			ムラサキシキブ	<i>Callicarpa japonica</i> var. <i>japonica</i>		●	●	●		●	
660			ヤブムラサキ	<i>Callicarpa mollis</i>		●	●	●		●	
661			クサギ	<i>Clerodendrum trichotomum</i>		●	●	●		●	
662			トウバナ	<i>Clinopodium gracile</i>		●	●	●		●	
663			カキドオシ	<i>Glechoma hederacea</i> ssp. <i>grandis</i>		●		●		●	
664			オドリコソウ	<i>Lamium album</i> var. <i>barbatum</i>						●	
665			ホトケノザ	<i>Lamium anplexicaule</i>				●	●	●	
666	ヒメオドリコソウ		<i>Lamium purpureum</i>				●	●	●		
667	シロネ		<i>Lycopus lucidus</i>		●	●	●		●		
668	アメリカハッカ		<i>Mentha x gentilis</i>				●				
669	ヒメジソ		<i>Mosla dianthera</i>				●				
670	イヌコウジュ		<i>Mosla scabra</i>				●				
671	シソ	<i>Perilla frutescens</i> var. <i>crispa</i>				●					

表 12. 6-9(15) 植物の確認種一覧

No.	目名	科名	種名	学名	外来種 注2)	調査時期					
						令和3年			令和4年		
						夏季	初秋季	秋季	早春季	春季	
672	シソ目	シソ科	アキノタムラソウ	<i>Salvia japonica</i>		●	●			●	
673			オカダツナミソウ	<i>Scutellaria brachyspica</i>						●	
674			タツナミソウ	<i>Scutellaria indica</i> var. <i>indica</i>						●	
675			トウゴクシシバツツナミ	<i>Scutellaria laeteviolacea</i> var. <i>abbreviata</i>		●					
676			ニガクサ	<i>Teucrium japonicum</i>			●				
677			ツルニガクサ	<i>Teucrium viscidum</i> var. <i>miquelianum</i>		●	●				
678			サギゴケ科	ムラサキサギゴケ	<i>Mazus miquelii</i>				●		●
679		トキワハゼ		<i>Mazus pumilus</i>		●	●	●	●	●	
680		ハエドクソウ科	ハエドクソウ	<i>Phyma nana</i>		●				●	
681		キリ科	キリ	<i>Paulownia tomentosa</i>		●					
682		キツネノマゴ科	キツネノマゴ	<i>Justicia procumbens</i> var. <i>procumbens</i>		●	●	●			
683		シソ目	クマツヅラ科	ヒメイワダレソウ	<i>Phyla nodiflora</i> var. <i>minor</i>		●	●			●
684	アレチハナガサ			<i>Verbena brasiliensis</i>	●	●	●				
685	ダキバアレチハナガサ			<i>Verbena incopta</i>		●	●				
686	モチノキ目	ハナイカダ科	ハナイカダ	<i>Helwingia japonica</i> ssp. <i>japonica</i> var. <i>japonica</i>		●	●			●	
687		モチノキ科	ナナミノキ	<i>Ilex chinensis</i>		●	●	●	●	●	
688			イヌツゲ	<i>Ilex crenata</i> var. <i>crenata</i>		●	●	●	●	●	
689			タラヨウ	<i>Ilex latifolia</i>		●		●	●		
690			アオハダ	<i>Ilex macropoda</i>				●			
691			ソヨゴ	<i>Ilex pedunculosa</i>		●	●	●		●	
692			クロガネモチ	<i>Ilex rotunda</i>		●	●	●		●	
693			ウメモドキ	<i>Ilex serrata</i>			●			●	
694			キク目	キキョウ科	ツリガネニンジン	<i>Adenophora triphylla</i> var. <i>japonica</i>			●		
695	ツルニンジン	<i>Codonopsis lanceolata</i>								●	
696	ミゾカクシ	<i>Lobelia chinensis</i>					●	●			
697	タニギキョウ	<i>Peracarpa carnosus</i> var. <i>carnosus</i>					●				
698	キキョウソウ	<i>Triodanis perfoliata</i>								●	
699	ヒナギキョウ	<i>Wahlenbergia marginata</i>				●	●				
700	キク科	キッコウハグマ			<i>Ainsliaea apiculata</i>		●	●			●
701		テイショウソウ			<i>Ainsliaea cordifolia</i>		●	●			●
702		ブタクサ			<i>Ambrosia artemisiifolia</i>		●	●			
703		ヨモギ			<i>Artemisia indica</i> var. <i>maximowiczii</i>		●	●	●	●	●
704		ノコンギク		<i>Aster microcephalus</i> var. <i>ovatus</i>			●				
705		ミヤマヨメナ		<i>Aster savatieri</i> var. <i>savatieri</i>			●			●	
706		シラヤマギク		<i>Aster scaber</i>		●	●	●		●	
707		イナカギク		<i>Aster semiamplexicaulis</i>		●	●	●			
708		シュウブンソウ		<i>Aster verticillatus</i>		●	●				
709		ヨメナ		<i>Aster yomena</i> var. <i>yomena</i>			●				
710		オケラ		<i>Atractylodes ovata</i>		●	●			●	
711		コバノセンダングサ		<i>Bidens bipinnata</i>			●				
712		アメリカセンダングサ		<i>Bidens frondosa</i>		●	●	●		●	
713		コセンダングサ		<i>Bidens pilosa</i> var. <i>pilosa</i>		●	●	●		●	
714		ガンクビソウ		<i>Carpesium divaricatum</i> var. <i>divaricatum</i>			●				
715		サジガンクビソウ		<i>Carpesium glossophyllum</i>		●				●	
716		トキンソウ		<i>Centipeeda minima</i>		●	●	●			
717		アメリカオニアザミ		<i>Cirsium vulgare</i>			●			●	
718		ヨシノアザミ		<i>Cirsium yoshinoi</i>			●				
719		ベニバナボロギク		<i>Crassocephalum crepidioides</i>		●	●	●			

表 12. 6-9(16) 植物の確認種一覧

No.	目名	科名	種名	学名	外来種 注2)	調査時期					
						令和3年			令和4年		
						夏季	初秋季	秋季	早春季	春季	
720	キク目	キク科	ヤクシソウ	<i>Crepidiastrum denticulatum</i>		●	●				
721			アメリカタカサブロウ	<i>Eclipta alba</i>		●	●	●			
722			タカサブロウ	<i>Eclipta thermalis</i>			●				
723			ダンドボロギク	<i>Erechtites hieraciifolius</i> var. <i>hieraciifolius</i>			●	●			
724			ヒメジョオン	<i>Erigeron annuus</i>		●	●	●		●	
725			ヒメムカシヨモギ	<i>Erigeron canadensis</i>		●	●	●		●	
726			ハルジオン	<i>Erigeron philadelphicus</i>						●	
727			ケナシヒメムカシヨモギ	<i>Erigeron pusillus</i>			●				
728			ヘラバヒメジョオン	<i>Erigeron strigosus</i>						●	
729			オオアレチノギク	<i>Erigeron sumatrensis</i>		●	●	●		●	
730			サワヒヨドリ	<i>Eupatorium lindleyanum</i>		●	●				
731			オオヒヨドリバナ	<i>Eupatorium makinoi</i> var. <i>oppositifolium</i>		●	●	●			
732			ハキダメギク	<i>Galinsoga quadriradiata</i>		●	●				
733			ホソバノチチコグサモドキ	<i>Gnaphalium calviceps</i>		●				●	
734			ウラジロチチコグサ	<i>Gnaphalium coarctata</i>		●	●			●	
735			チチコグサモドキ	<i>Gnaphalium pensylvanicum</i>		●	●		●	●	
736			ウスベニチチコグサ	<i>Gnaphalium purpureum</i>						●	
737			チチコグサ	<i>Gnaphalium japonicum</i>		●	●			●	
738			キクイモ	<i>Helianthus tuberosus</i>		●	●	●		●	
739			キツネアザミ	<i>Hemisteptia lyrata</i>					●	●	
740			ブタナ	<i>Hypochaeris radicata</i>		●	●	●		●	
741			ニガナ	<i>Ixeridium dentatum</i> ssp. <i>dentatum</i>		●		●		●	
742			ハナニガナ	<i>Ixeridium dentatum</i> ssp. <i>nipponicum</i> var. <i>albiflorum</i>						●	
743			オオジシバリ	<i>Ixeris japonica</i>			●	●	●	●	
744			ノニガナ	<i>Ixeris polycephala</i>						●	
745			イワニガナ	<i>Ixeris stolonifera</i>		●	●				
746			アキノノゲシ	<i>Lactuca indica</i> var. <i>indica</i>		●	●	●		●	
747			トゲチヤ	<i>Lactuca serriola</i>		●	●			●	
748			コオニタビラコ	<i>Lapsanastrum apogonoides</i>					●		
749			ヤブタビラコ	<i>Lapsanastrum humile</i>						●	
750			ムラサキニガナ	<i>Paraprenanthes sororia</i>		●				●	
751			コウヤボウキ	<i>Pertya scandens</i>		●	●	●	●	●	
752			コウゾリナ	<i>Picris hieracioides</i> ssp. <i>japonica</i> var. <i>japonica</i>						●	
753			ハハコグサ	<i>Pseudognaphalium affine</i>				●		●	
754			セイタカハハコグサ	<i>Pseudognaphalium luteoalbum</i>		●					
755			ノボロギク	<i>Senecio vulgaris</i>		●		●	●	●	
756			コメナモミ	<i>Sigesbeckia glabrescens</i>			●	●			
757			メナモミ	<i>Sigesbeckia pubescens</i>		●					
758			セイタカアワダチソウ	<i>Solidago altissima</i>		●	●	●		●	
759			オニノゲシ	<i>Sonchus asper</i>		●	●	●		●	
760			ノゲシ	<i>Sonchus oleraceus</i>		●	●	●	●	●	
761			ヒロハホウキギク	<i>Symphotrichum subulatum</i> var. <i>squamatum</i>		●	●	●			
762			ホウキギク	<i>Symphotrichum subulatum</i> var. <i>subulatum</i>			●				
763			カンサイタンポポ	<i>Taraxacum japonicum</i>					●	●	
764			セイヨウタンポポ	<i>Taraxacum officinale</i>		●	●	●	●	●	
765			オオオナモミ	<i>Xanthium occidentale</i>		●		●	●		
766			オニタビラコ (広義)	<i>Youngia japonica</i>		●	●	●		●	
767			セリ目	トベラ科	トベラ	<i>Pittosporum tobira</i>		●	●		●

表 12. 6-9(17) 植物の確認種一覧

No.	目名	科名	種名	学名	外来種 <small>注2)</small>	調査時期					
						令和3年			令和4年		
						夏季	初秋季	秋季	早春季	春季	
768	セリ目	ウコギ科	ウド	<i>Aralia cordata</i>		●					
769			タラノキ	<i>Aralia elata</i>		●	●	●		●	
770			カクレミノ	<i>Dendropanax trifidus</i>		●	●	●	●	●	
771			ヤマウコギ	<i>Eleutherococcus spinosus</i> var. <i>spinosus</i>						●	
772			ヤツデ	<i>Fatsia japonica</i> var. <i>japonica</i>						●	
773			タカノツメ	<i>Gamblea innovans</i>		●	●	●		●	
774			セイヨウキヅタ	<i>Hedera helix</i>		●	●			●	
775			キヅタ	<i>Hedera rhombea</i>		●	●	●	●	●	
776			オオチドメ	<i>Hydrocotyle raniflora</i>		●		●			
777			チドメグサ	<i>Hydrocotyle sibthorpioides</i>			●			●	
778			ハリギリ	<i>Kalopanax septemlobus</i> ssp. <i>septemlobus</i>		●	●	●	●	●	
779			トチバニンジン	<i>Panax japonicus</i>		●	●			●	
780			セリ科		ミツバ	<i>Cryptotaenia japonica</i>		●	●	●	●
781		セリ			<i>Oenanthe javanica</i> ssp. <i>javanica</i>		●	●	●	●	
782		ヤブニンジン			<i>Osmorhiza aristata</i> var. <i>aristata</i>		●	●	●		●
783		ウマノミツバ			<i>Sanicula chinensis</i>		●	●			●
784		ヤブジラミ			<i>Torilis japonica</i>		●		●		
785		オヤブジラミ			<i>Torilis scabra</i>		●	●			●
786		マツムシソウ目			ガマズミ科	ガマズミ	<i>Viburnum dilatatum</i>		●	●	
787	コバノガマズミ		<i>Viburnum erosum</i>			●	●	●		●	
788	サンゴジュ		<i>Viburnum odoratissimum</i> var. <i>awabuki</i>				●			●	
789	オトコヨウゾメ		<i>Viburnum phlebotrictim</i>			●	●	●		●	
790	ミヤマガマズミ		<i>Viburnum wrightii</i> var. <i>wrightii</i>			●	●	●		●	
791	スイカズラ科			ハナゾノツクバネウツギ		<i>Abelia x grandiflora</i>			●		
792				コツクバネウツギ	<i>Abelia serrata</i> var. <i>serrata</i>			●	●		●
793				ツクバネウツギ	<i>Abelia spathulata</i> var. <i>spathulata</i>			●	●		●
794				ウグイスカグラ	<i>Lonicera gracilipes</i> var. <i>glabra</i>				●		●
795				ヤマウグイスカグラ	<i>Lonicera gracilipes</i> var. <i>gracilipes</i>		●	●	●		●
796				スイカズラ	<i>Lonicera japonica</i>		●	●	●	●	●
797	オトコエシ		<i>Patrinia villosa</i>		●	●	●		●		
798	ノヂシャ	<i>Valerianella locusta</i>						●			
	55 目	140 科	798 種		38 種	470 種	571 種	408 種	160 種	524 種	

注 1) 分類・配列・種名については、主に「河川水辺の国勢調査のための生物リスト（令和4年度生物リスト）」（令和4年、河川環境データベース/国土交通省）に準拠した。

注 2) 外来種は表 12. 6-4 の選定基準により選定した。

## ② 植生の状況

事業実施区域及びその周辺において確認された植物群落の一覧は表12.6-10に、現存植生図は図12.6-2に示すとおりである。

事業実施区域及びその周辺の植生は、ゴルフ場及びゴルフ場の周辺に残存するコナラーアベマキ群集が約8割を占めており、残る約2割は、市街地、アカメガシワーカラスザンショウ群落及び竹林である。

表 12.6-10 確認された植物群落一覧

凡例番号	分類	植生群落	面積 (ha)	構成比
1	ヤブツバキクラス域代償植生	アラカン群落	0.09	0.05%
2		コナラーアベマキ群集	68.62	41.45%
3		アカメガシワーカラスザンショウ群落	7.92	4.78%
4		アカマツーモチツツジ群集	0.35	0.21%
5		メダケ群落	0.16	0.10%
6		ネザサ・ケネザサ群落	0.95	0.57%
		小計	78.09	47.17%
7	河辺・湿原・沼沢地・砂丘植生	ヨシクラス	0.05	0.03%
8		ツルヨシ群集	0.09	0.05%
9		ヒシ群落	0.06	0.04%
		小計	0.20	0.12%
10	植林地・耕作地植生	スギ・ヒノキ植林	0.29	0.18%
11		リギダマツ植林	1.73	1.05%
12		ハリエンジュ植林	0.16	0.10%
13		竹林	10.91	6.59%
c		水田雑草群落	0.26	0.16%
d		放棄水田雑草群落	0.65	0.39%
f		路傍・空地雑草群落	5.63	3.40%
h		ゴルフ場	39.60	23.92%
		小計	59.23	35.78%
k	市街地等	市街地	18.79	11.35%
s		植栽樹群	6.61	3.99%
w		開放水域	2.62	1.58%
		小計	28.02	16.93%
		合計	165.54	100.00%

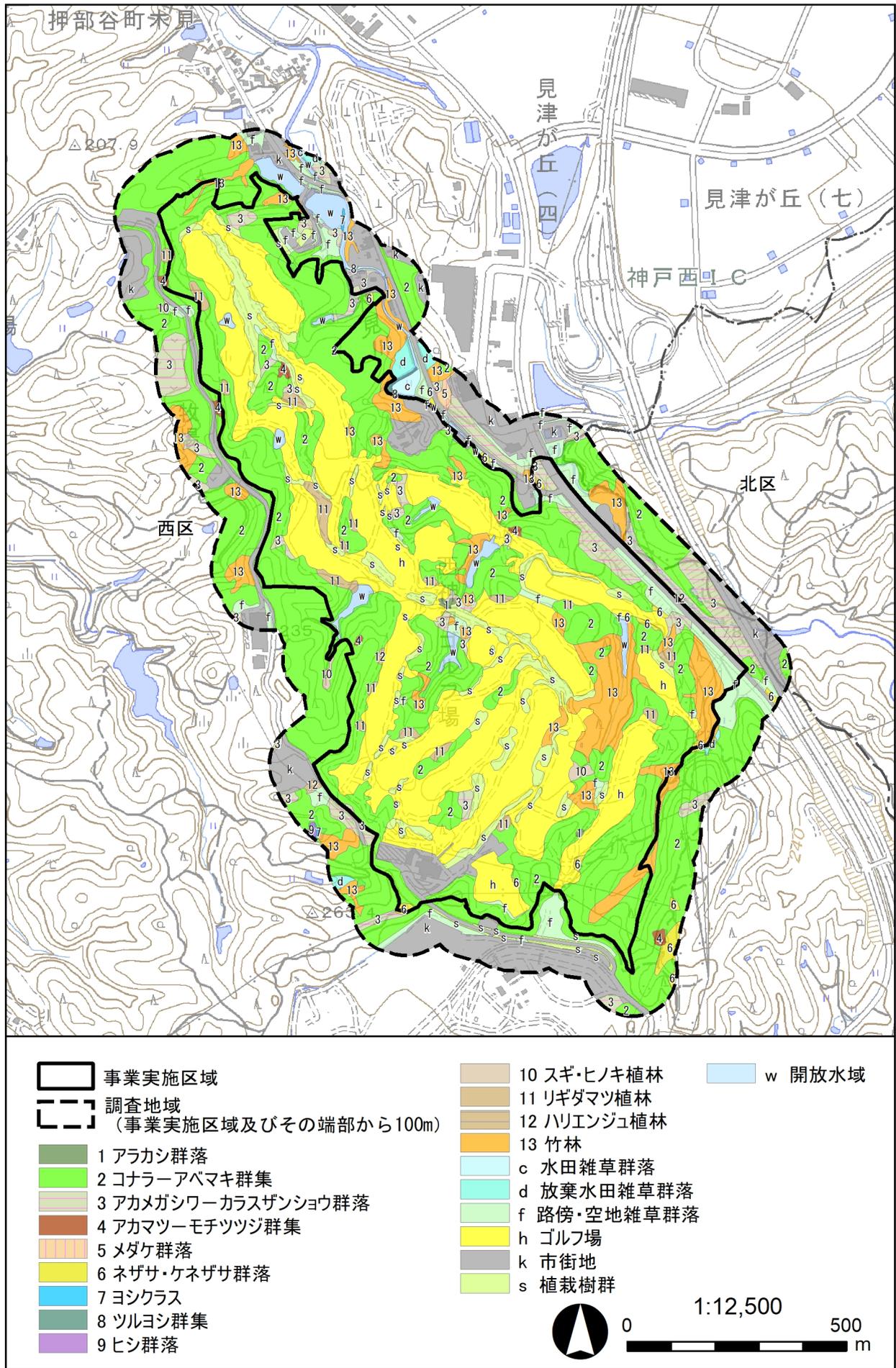


図 12.6-2 現存植生図

### ③ 重要な植物種の状況

選定基準に基づき抽出した重要な植物は、表12.6-11及び図12.6-3に示すとおりである。  
19科25種の重要な植物が確認された。

表 12.6-11 重要な植物一覧

番号	科名	種名	選定基準					
			①	②	③	④	⑤	⑥
1	ウキゴケ科	イチョウウキゴケ				NT		
2	シャジクモ科	シャジクモ				VU	C	
3	ハナヤスリ科	コヒロハハナヤスリ						C
4	コケシノブ科	コハイホラゴケ						B
5	イノモトソウ科	ハコネシダ						C
6	チャセンシダ科	クルマシダ					A	A
7	オシダ科	ミヤコヤブソテツ					C	C
8		ナガバノイタチシダ					B	B
9	ユリ科	アマナ						B
10	ラン科	エビネ				NT	C	C
11		ギンラン					C	C
12	アヤメ科	カキツバタ				NT	B	調
13	カヤツリグサ科	ヌマガヤツリ					A	A
14		オオシロガヤツリ						C
15		セイタカハリイ						C
16	イネ科	ムツオレグサ					C	
17	ユキノシタ科	チャルメルソウ						B
18	タコノアシ科	タコノアシ				NT	C	C
19	クワ科	ヒメイタビ						C
20	バラ科	コジキイチゴ					C	C
21	マチン科	ホウライカズラ					C	B
22	キョウチクトウ科	ケテイカカズラ					調	
23	キク科	テイショウソウ					C	C
24		オケラ					C	C
25		ノニガナ					C	C
-	19科	25種	0種	0種	0種	5種	16種	21種

注1) 選定基準は、表12.6-2に対応している。

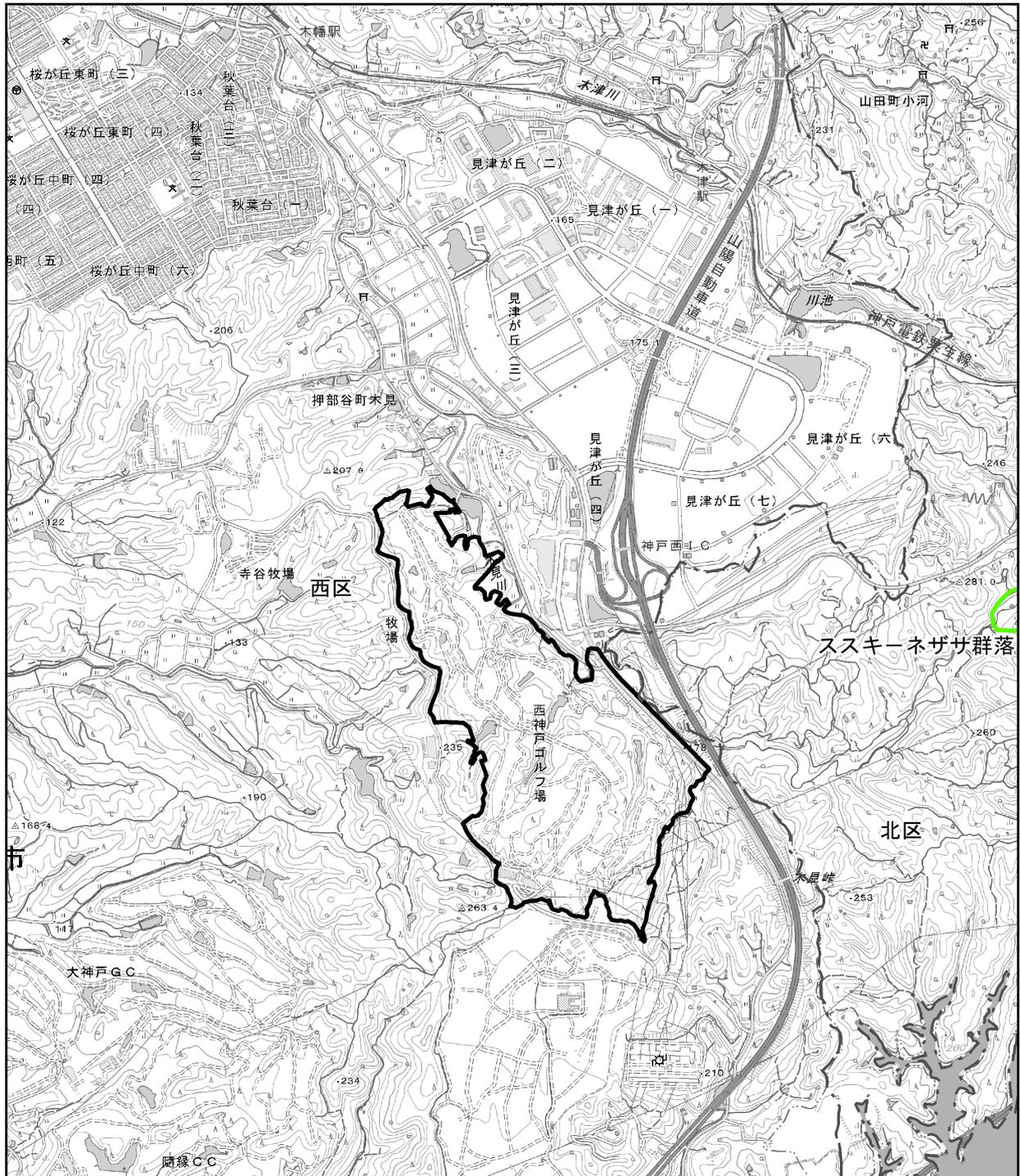
注2) 分類・配列・種名については、主に「河川水辺の国勢調査のための生物リスト（令和4年度生物リスト）」（令和4年、河川環境データベース/国土交通省）に準拠した。

重要種保護の観点から確認位置は非表示とした

図 12.6-3 重要な植物の確認位置図

#### ④ 重要な植物群落の状況

事業実施区域及びその周囲においては図12.6-4に示すとおり、北区山田町藍那に位置するあいな里山公園における二次草原・ススキ・ネザサ群落（棚田の畦畔法面草原）が、「兵庫県版レッドデータブック2020（植物・植物群落）ひょうごの環境」（令和2年、兵庫県）によるBランクの植物群落に選定されている。



- 事業実施区域
- 重要な植物群落

出典)「兵庫県版レッドデータブック2020 (植物・植物群落) ひょうごの環境」(令和2年、兵庫県)



図 12.6-4 重要な植物群落の位置図

## 12.6.2. 予測・環境保全措置及び評価

### (1) 工事及び存在・供用に伴う植物への影響

#### 1) 予測

##### ① 予測項目

予測項目は表12.6-12に示すとおり、工事及び存在・供用に伴う重要な植物種及び重要な植物群落への影響とした。

表 12.6-12 植物の影響要因とその予測項目

行為等の区分	環境影響要因	予測項目
工事	樹木の伐採 造成工事に伴う地形の改変	・重要な植物種 ・重要な植物群落
存在・供用	施設の存在	

##### ② 予測地域

予測地域は、調査地域のうち、植物の生育及び植生の特性を踏まえて、重要な植物種及び重要な植物群落に係る環境影響を受けるおそれがあると認められる地域とし、事業実施区域及びその端部から100m程度の範囲とした。

##### ③ 予測対象時期

予測対象時期は、植物の生育及び植生の特性を踏まえて重要な植物種及び重要な植物群落に係る環境影響を的確に把握できる時期とし、影響が最大になる時期とした。

##### ④ 予測の基本的な手法

重要な植物種及び重要な植物群落の確認位置と事業計画との重ね合わせにより、生育地が消失、縮小する程度を把握し、類似事例や科学的知見等を参考に、重要な植物種及び重要な植物群落の生育地への影響の程度を定性的に予測した。

## ⑤ 予測結果

### ア. 重要な植物種への影響

重要な植物種の予測結果概要は表12.6-13に、種ごとの予測結果の内容は表12.6-14に示すとおりである。

表 12.6-13 重要な植物種の予測結果概要

番号	種名	確認状況			影響の程度	保全対象
		改変区域内	改変区域外	合計		
1	イチョウウキゴケ	0箇所	1箇所	1箇所	C	
2	シャジクモ	0箇所	1箇所	1箇所	C	
3	コヒロハハナヤスリ	0箇所	1箇所	1箇所	C	
4	コハイホラゴケ	0箇所	4箇所	4箇所	C	
5	ハコネシダ	0箇所	9箇所	9箇所	B	●
6	クルマシダ	0箇所	2箇所	2箇所	B	●
7	ミヤコヤブソテツ	0箇所	1箇所	1箇所	C	
8	ナガバノイタチシダ	0箇所	2箇所	2箇所	C	
9	アマナ	3箇所	0箇所	3箇所	A	●
10	エビネ	8箇所	9箇所	17箇所	A	●
11	ギンラン	2箇所	0箇所	2箇所	A	●
12	カキツバタ	0箇所	1箇所	1箇所	C	
13	ヌマガヤツリ	0箇所	7箇所	7箇所	C	
14	オオシロガヤツリ	0箇所	4箇所	4箇所	C	
15	セイタカハリイ	0箇所	2箇所	2箇所	C	
16	ムツオレグサ	0箇所	1箇所	1箇所	C	
17	チャルメルソウ	0箇所	3箇所	3箇所	C	
18	タコノアシ	0箇所	4箇所	4箇所	C	
19	ヒメイタビ	2箇所	8箇所	10箇所	A	●
20	コジキイチゴ	0箇所	6箇所	6箇所	C	
21	ハウライカズラ	0箇所	1箇所	1箇所	C	
22	ケテイカカズラ	0箇所	1箇所	1箇所	C	
23	テイショウソウ	1箇所	4箇所	5箇所	A	●
24	オケラ	0箇所	4箇所	4箇所	C	
25	ノニガナ	26箇所	0箇所	26箇所	A	●

注) 影響の程度は、以下に示すとおりである。

A: 影響が生じる B: 質的变化の可能性がある C: 影響は生じない

表 12.6-14(1) 重要な種の予測結果 (1. イチョウウキゴケ)

種名	イチョウウキゴケ			
重要な種の選定基準	①天然記念物	—	④環境省レッドリスト	NT
	②種の保存法	—	⑤兵庫県レッドリスト	—
	③神戸市市保全条例	—	⑥神戸市レッドリスト	—
生育環境・生態	池や水田の水面に浮いている場合と、水の落ちた水田や畑などの土上に生育する場合がある。土上に生育するものは冬に枯れるが、暖かいところでは冬を越すものもある。			
確認状況	確認時期	令和3年秋季、令和4年早春季、春季		
	確認状況	変更区域外の1箇所(ため池)において、約2,500m <sup>2</sup> の生育地が確認された。		
工事の実施及び施設の存在に伴う影響の予測	本種の生育地は、工事の実施により変更されない。 工事に伴って発生する濁水は、仮設沈砂池等を設置し適切に処理した上で排出する。 また、本種の生育地は変更区域から十分離れており、生育環境は維持され则认为られる。 以上のことから、本種の生育地に影響は生じないと予測される。			

注) 選定基準は、表12.6-2に対応している。

生育環境・生態の出典) 「京都府レッドデータブック2015 第2巻 野生植物・菌類編」 (平成27年、京都府)

表 12.6-14(2) 重要な種の予測結果 (2. シャジクモ)

種名	シャジクモ			
重要な種の選定基準	①天然記念物	—	④環境省レッドリスト	VU
	②種の保存法	—	⑤兵庫県レッドリスト	C
	③神戸市市保全条例	—	⑥神戸市レッドリスト	—
生育環境・生態	水田、ため池、農業用水路、小川等にひろく生育。シャジクモ科の中ではもっとも普通にみられる。			
確認状況	確認時期	令和3年秋季		
	確認状況	変更区域外の1箇所(水田)において、約1m <sup>2</sup> の生育地が確認された。		
工事の実施及び施設の存在に伴う影響の予測	本種の生育地は、工事の実施により変更されない。 また、本種の生育地は変更区域から十分離れており、生育環境は維持され则认为られる。 以上のことから、本種の生育地に影響は生じないと予測される。			

注) 選定基準は、表12.6-2に対応している。

生育環境・生態の出典) 「兵庫県版レッドデータブック 2010 (植物・植物群落)」 (平成22年、兵庫県)

表 12.6-14(3) 重要な種の予測結果 (3. コヒロハハナヤスリ)

種名	コヒロハハナヤスリ			
重要な種の選定基準	①天然記念物	—	④環境省レッドリスト	—
	②種の保存法	—	⑤兵庫県レッドリスト	—
	③神戸市市保全条例	—	⑥神戸市レッドリスト	C
生育環境・生態	夏緑性シダ。山麓、原野に群生する。各地の社寺の境内、墓地、芝草地、手入れされた雑木林の林床などに生育する。			
確認状況	確認時期	令和3年初秋季		
	確認状況	変更区域外の1箇所(草地)において、23個体が確認された。		
工事の実施及び施設の存在に伴う影響の予測	本種の生育地は、工事の実施により変更されない。 また、本種の生育地は変更区域に近接するが、生育地近傍の樹林地は残され、生育環境は維持されると考えられる。 以上のことから、本種の生育地に影響は生じないと予測される。			

注) 選定基準は、表12.6-2に対応している。

生育環境・生態の出典) 「東京都の保護上重要な野生生物種(本土部)2020年版」(令和3年、東京都)

表 12.6-14(4) 重要な種の予測結果 (4. コハイホラゴケ)

種名	コハイホラゴケ			
重要な種の選定基準	①天然記念物	—	④環境省レッドリスト	—
	②種の保存法	—	⑤兵庫県レッドリスト	—
	③神戸市市保全条例	—	⑥神戸市レッドリスト	B
生育環境・生態	山地の溪流沿いにある陰湿な岩壁に生育する。			
確認状況	確認時期	令和3年夏季、初秋季、令和4年早春季、春季		
	確認状況	変更区域外の4箇所(樹林地内の岩壁)において、約0.5~8m <sup>2</sup> の生育地が確認された。		
工事の実施及び施設の存在に伴う影響の予測	本種の生育地は、工事の実施により変更されない。 また、本種の生育地は変更区域から十分離れており、生育環境は維持されると考えられる。 以上のことから、本種の生育地に影響は生じないと予測される。			

注) 選定基準は、表12.6-2に対応している。

生育環境・生態の出典) 「いわてレッドデータブック 岩手の希少な野生生物 web版」(平成26年、岩手県)

表 12.6-14(5) 重要な種の予測結果 (5. ハコネシダ)

種名	ハコネシダ			
重要な種の選定基準	①天然記念物	—	④環境省レッドリスト	—
	②種の保存法	—	⑤兵庫県レッドリスト	—
	③神戸市市保全条例	—	⑥神戸市レッドリスト	C
生育環境・生態	常緑性シダ。空中湿度が高い場所で岩に着生し、根茎は短く這う。			
確認状況	確認時期	令和3年夏季、初秋季、令和4年早春季、春季		
	確認状況	改変区域外の9箇所（樹林地内の岩壁）において、100個体以上が確認された。		
工事の実施及び施設の使用に伴う影響の予測	本種を確認した谷筋は、事前配慮を踏まえた事業計画検討段階において、改変を回避する計画としているが、1箇所（約30個体）が改変区域に近接する。 以上のことから、本種の生育地に質的变化が生じる可能性があるとして予測される。			

注) 選定基準は、表12.6-2に対応している。

生育環境・生態の出典) 「東京都の保護上重要な野生生物種（伊豆諸島）2020年版」（令和3年、東京都）

表 12.6-14(6) 重要な種の予測結果 (6. クルマシダ)

種名	クルマシダ			
重要な種の選定基準	①天然記念物	—	④環境省レッドリスト	—
	②種の保存法	—	⑤兵庫県レッドリスト	A
	③神戸市市保全条例	—	⑥神戸市レッドリスト	A
生育環境・生態	常緑性シダ。根茎は短く、林床に生育する。やや湿った林床に生育する。			
確認状況	確認時期	令和3年初秋季、令和4年春季		
	確認状況	改変区域外の2箇所（樹林地）において、8個体を確認された。		
工事の実施及び施設の使用に伴う影響の予測	本種を確認した谷筋は、事前配慮を踏まえた事業計画検討段階において、改変を回避する計画としているが、2箇所（8個体）が改変区域に近接する。 以上のことから、本種の生育地に質的变化が生じる可能性があるとして予測される。			

注) 選定基準は、表12.6-2に対応している。

生育環境・生態の出典) 「東京都の保護上重要な野生生物種（伊豆諸島）2020年版」（令和3年、東京都）

表 12.6-14(7) 重要な種の予測結果 (7. ミヤコヤブソテツ)

種名	ミヤコヤブソテツ			
重要な種の選定基準	①天然記念物	—	④環境省レッドリスト	—
	②種の保存法	—	⑤兵庫県レッドリスト	C
	③神戸市市保全条例	—	⑥神戸市レッドリスト	C
生育環境・生態	常緑性シダ。根茎は短く塊状。鱗片は黒褐色で、葉柄基部とともに密につく。山地溪流の陰湿地に生育する。			
確認状況	確認時期	令和4年春季		
	確認状況	変更区域外の1箇所(樹林地)において、2個体が確認された。		
工事の実施及び施設の存在に伴う影響の予測	本種の生育地は、工事の実施により変更されない。 また、本種の生育地は変更区域から十分離れており、生育環境は維持されると考えられる。 以上のことから、本種の生育地に影響は生じないと予測される。			

注) 選定基準は、表12.6-2に対応している。

生育環境・生態の出典) 「東京都の保護上重要な野生生物種(本土部)2020年版」(令和3年、東京都)

表 12.6-14(8) 重要な種の予測結果 (8. ナガバノイタチシダ)

種名	ナガバノイタチシダ			
重要な種の選定基準	①天然記念物	—	④環境省レッドリスト	—
	②種の保存法	—	⑤兵庫県レッドリスト	B
	③神戸市市保全条例	—	⑥神戸市レッドリスト	B
生育環境・生態	常緑性シダ。根茎は短く、葉を叢生し、鱗片をつける。低山地の樹林内に生育する。やや陰湿な崖地や林床に稀に生育する。			
確認状況	確認時期	令和4年春季		
	確認状況	変更区域外の2箇所(樹林地)において、2個体が確認された。		
工事の実施及び施設の存在に伴う影響の予測	本種の生育地は、工事の実施により変更されない。 また、本種の生育地は変更区域から十分離れており、生育環境は維持されると考えられる。 以上のことから、本種の生育地に影響は生じないと予測される。			

注) 選定基準は、表12.6-2に対応している。

生育環境・生態の出典) 「東京都の保護上重要な野生生物種(本土部)2020年版」(令和3年、東京都)

表 12.6-14(9) 重要な種の予測結果 (9. アマナ)

種名	アマナ			
重要な種の選定基準	①天然記念物	—	④環境省レッドリスト	—
	②種の保存法	—	⑤兵庫県レッドリスト	—
	③神戸市市保全条例	—	⑥神戸市レッドリスト	B
生育環境・生態	多年草。原野に生育する。山地下部から丘陵地や台地脚部、低地にかけて、草刈り頻度の高い芝草地や疎林内などに群生する。			
確認状況	確認時期	令和4年早春季、春季		
	確認状況	改変区域内の3箇所(草地)において、約90個体が確認された。		
工事の実施及び施設の有無に伴う影響の予測	本種の生育地は、工事の実施により3箇所(約90個体)が改変される。 以上のことから、本種の生育地に影響が生じると予測される。			

注) 選定基準は、表12.6-2に対応している。

生育環境・生態の出典) 「東京都の保護上重要な野生生物種(本土部)2020年版」(令和3年、東京都)

表 12.6-14(10) 重要な種の予測結果 (10. エビネ)

種名	エビネ			
重要な種の選定基準	①天然記念物	—	④環境省レッドリスト	NT
	②種の保存法	—	⑤兵庫県レッドリスト	C
	③神戸市市保全条例	—	⑥神戸市レッドリスト	C
生育環境・生態	多年草。地下に連なった偽球茎があり、形が海老に似ている。林床に生育する。台地から丘陵地、山地までの落葉から常緑樹林内、竹林内などに生育する。			
確認状況	確認時期	令和4年春季		
	確認状況	改変区域内の8箇所(樹林地)及び改変区域外の9箇所(樹林地)において、約150個体が確認された。		
工事の実施及び施設の有無に伴う影響の予測	本種の生育地は、工事の実施により8箇所(約90個体)が改変され、5箇所(約50個体)が改変区域に近接する。 以上のことから、本種の生育地に影響が生じると予測される。			

注) 選定基準は、表12.6-2に対応している。

生育環境・生態の出典) 「東京都の保護上重要な野生生物種(本土部)2020年版」(令和3年、東京都)

表 12.6-14(11) 重要な種の予測結果 (11. ギンラン)

種名	ギンラン			
重要な種の選定基準	①天然記念物	—	④環境省レッドリスト	—
	②種の保存法	—	⑤兵庫県レッドリスト	C
	③神戸市市保全条例	—	⑥神戸市レッドリスト	C
生育環境・生態	多年草。山野の樹林内に生育する。各地の落葉または常緑樹林内から林縁にかけて生育する。			
確認状況	確認時期	令和4年春季		
	確認状況	改変区域内の2箇所(樹林地)において、約50個体が確認された。		
工事の実施及び施設の存在に伴う影響の予測	本種の生育地は、工事の実施により2箇所(約50個体)が改変される。 以上のことから、本種の生育地に影響が生じると予測される。			

注) 選定基準は、表12.6-2に対応している。

生育環境・生態の出典) 「東京都の保護上重要な野生生物種(本土部)2020年版」(令和3年、東京都)

表 12.6-14(12) 重要な種の予測結果 (12. カキツバタ)

種名	カキツバタ			
重要な種の選定基準	①天然記念物	—	④環境省レッドリスト	NT
	②種の保存法	—	⑤兵庫県レッドリスト	B
	③神戸市市保全条例	—	⑥神戸市レッドリスト	調
生育環境・生態	多年草。地下茎は長く横走する。湿地に生育する。丘陵地の谷戸の湿地などに極めて稀に生育する。			
確認状況	確認時期	令和4年春季		
	確認状況	改変区域外の1箇所(ため池)において、8個体が確認された。		
工事の実施及び施設の存在に伴う影響の予測	本種の生育地は、工事の実施により改変されない。 また、本種の生育地は改変区域から十分離れており、生育環境は維持されると考えられる。 以上のことから、本種の生育地に影響は生じないと予測される。			

注) 選定基準は、表12.6-2に対応している。

生育環境・生態の出典) 「東京都の保護上重要な野生生物種(本土部)2020年版」(令和3年、東京都)

表 12.6-14(13) 重要な種の予測結果 (13.ヌマガヤツリ)

種名	ヌマガヤツリ			
重要な種の選定基準	①天然記念物	—	④環境省レッドリスト	—
	②種の保存法	—	⑤兵庫県レッドリスト	A
	③神戸市市保全条例	—	⑥神戸市レッドリスト	A
生育環境・生態	一年草。頻繁に攪乱を受けるような不安定な立地を好むようである。埋土種子による突発的な発生の可能性もあると考えられる。			
確認状況	確認時期	令和3年初秋季、秋季		
	確認状況	変更区域外の7箇所(ため池)において、約40個体が確認された。		
工事の実施及び施設の存在に伴う影響の予測	本種の生育地は、工事の実施により変更されない。 工事に伴って発生する濁水は、仮設沈砂池等を設置し適切に処理した上で排出する。 また、本種の生育地は変更区域から十分離れており、生育環境は維持されることが考えられる。 以上のことから、本種の生育地に影響は生じないと予測される。			

注) 選定基準は、表12.6-2に対応している。

生育環境・生態の出典) 「いしかわレッドデータブック2020植物編」(令和2年、石川県)

表 12.6-14(14) 重要な種の予測結果 (14.オオシロガヤツリ)

種名	オオシロガヤツリ			
重要な種の選定基準	①天然記念物	—	④環境省レッドリスト	—
	②種の保存法	—	⑤兵庫県レッドリスト	—
	③神戸市市保全条例	—	⑥神戸市レッドリスト	C
生育環境・生態	溜池などでみられるが、一年草のため生存基盤が危うい。			
確認状況	確認時期	令和3年秋季		
	確認状況	変更区域外の4箇所(ため池)において、12個体が確認された。		
工事の実施及び施設の存在に伴う影響の予測	本種の生育地は、工事の実施により変更されない。 工事に伴って発生する濁水は、仮設沈砂池等を設置し適切に処理した上で排出する。 また、本種の生育地は変更区域から十分離れており、生育環境は維持されることが考えられる。 以上のことから、本種の生育地に影響は生じないと予測される。			

注) 選定基準は、表12.6-2に対応している。

生育環境・生態の出典) 「京都府レッドデータブック2015 第2巻 野生植物・菌類編」(平成27年、京都府)

表 12.6-14(15) 重要な種の予測結果 (15. セイタカハリイ)

種名	セイタカハリイ			
重要な種の選定基準	①天然記念物	—	④環境省レッドリスト	—
	②種の保存法	—	⑤兵庫県レッドリスト	—
	③神戸市市保全条例	—	⑥神戸市レッドリスト	C
生育環境・生態	日当りよい湿地、休耕田、溜池畔などに生育する多年草。			
確認状況	確認時期	令和3年初秋季、秋季		
	確認状況	変更区域外の2箇所（放棄水田）において、14個体が確認された。		
工事の実施及び施設の存在に伴う影響の予測	本種の生育地は、工事の実施により変更されない。 また、本種の生育地は変更区域から十分離れており、生育環境は維持されると考えられる。 以上のことから、本種の生育地に影響は生じないと予測される。			

注) 選定基準は、表12.6-2に対応している。

生育環境・生態の出典) 「京都府レッドデータブック2015 第2巻 野生植物・菌類編」 (平成27年、京都府)

表 12.6-14(16) 重要な種の予測結果 (16. ムツオレグサ)

種名	ムツオレグサ			
重要な種の選定基準	①天然記念物	—	④環境省レッドリスト	—
	②種の保存法	—	⑤兵庫県レッドリスト	C
	③神戸市市保全条例	—	⑥神戸市レッドリスト	—
生育環境・生態	比較的自然度の高い湿田、休耕田、用水路、溜池畔にはえる多年草。			
確認状況	確認時期	令和4年春季		
	確認状況	変更区域外の1箇所（ため池）において、6個体が確認された。		
工事の実施及び施設の存在に伴う影響の予測	本種の生育地は、工事の実施により変更されない。 また、本種の生育地は変更区域から十分離れており、生育環境は維持されると考えられる。 以上のことから、本種の生育地に影響は生じないと予測される。			

注) 選定基準は、表12.6-2に対応している。

生育環境・生態の出典) 「京都府レッドデータブック2015 第2巻 野生植物・菌類編」 (平成27年、京都府)

表 12.6-14(17) 重要な種の予測結果 (17. チャルメルソウ)

種名	チャルメルソウ			
重要な種の選定基準	①天然記念物	—	④環境省レッドリスト	—
	②種の保存法	—	⑤兵庫県レッドリスト	—
	③神戸市市保全条例	—	⑥神戸市レッドリスト	B
生育環境・生態	常緑性の叢生する草本で、細い葉柄の先にやや五角形の葉をつける。			
確認状況	確認時期	令和4年春季		
	確認状況	変更区域外の3箇所(樹林地)において、約70個体が確認された。		
工事の実施及び施設の存在に伴う影響の予測	<p>本種の生育地は、工事の実施により変更されない。</p> <p>また、本種の生育地は変更区域から十分離れており、生育環境は維持されると考えられる。</p> <p>以上のことから、本種の生育地に影響は生じないと予測される。</p>			

注) 選定基準は、表12.6-2に対応している。

生育環境・生態の出典) 「愛媛県レッドデータブック2014」(平成26年、愛媛県)

表 12.6-14(18) 重要な種の予測結果 (18. タコノアシ)

種名	タコノアシ			
重要な種の選定基準	①天然記念物	—	④環境省レッドリスト	NT
	②種の保存法	—	⑤兵庫県レッドリスト	C
	③神戸市市保全条例	—	⑥神戸市レッドリスト	C
生育環境・生態	泥湿地、沼、水田、河原等で、水位の変動する場所に多い。			
確認状況	確認時期	令和3年初秋季		
	確認状況	変更区域外の4箇所(ため池)において、約30個体が確認された。		
工事の実施及び施設の存在に伴う影響の予測	<p>本種の生育地は、工事の実施により変更されない。</p> <p>工事に伴って発生する濁水は、仮設沈砂池等を設置し適切に処理した上で排出する。</p> <p>また、本種の生育地は変更区域から十分離れており、生育環境は維持されると考えられる。</p> <p>以上のことから、本種の生育地に影響は生じないと予測される。</p>			

注) 選定基準は、表12.6-2に対応している。

生育環境・生態の出典) 「兵庫県版レッドデータブック 2010(植物・植物群落)」(平成22年、兵庫県)

表 12.6-14(19) 重要な種の予測結果 (19. ヒメイタビ)

種名	ヒメイタビ			
重要な種の選定基準	①天然記念物	—	④環境省レッドリスト	—
	②種の保存法	—	⑤兵庫県レッドリスト	—
	③神戸市市保全条例	—	⑥神戸市レッドリスト	C
生育環境・生態	暖地の林内に生える常緑藤本。茎から根を出して他物によじ登る。			
確認状況	確認時期	令和3年夏季、初秋季、令和4年早春季、春季		
	確認状況	変更区域内の2箇所（樹林地内の岩壁）及び変更区域外の8箇所（樹林地内の岩壁）において、約1～500m <sup>2</sup> の生育地が確認された。		
工事の実施及び施設の有在に伴う影響の予測	本種の生育地は、工事の実施により2箇所（約1m <sup>2</sup> 、約30m <sup>2</sup> ）が変更され、3箇所（約10～30m <sup>2</sup> ）が変更区域に近接する。 以上のことから、本種の生育地に影響が生じると予測される。			

注) 選定基準は、表12.6-2に対応している。

生育環境・生態の出典) 「福井県の絶滅のおそれのある野生動植物2016」(平成28年、福井県)

表 12.6-14(20) 重要な種の予測結果 (20. コジキイチゴ)

種名	コジキイチゴ			
重要な種の選定基準	①天然記念物	—	④環境省レッドリスト	—
	②種の保存法	—	⑤兵庫県レッドリスト	C
	③神戸市市保全条例	—	⑥神戸市レッドリスト	C
生育環境・生態	落葉小低木。海岸の草地や山地の林縁、草原などに生育する。			
確認状況	確認時期	令和3年夏季、初秋季、秋季、令和4年春季		
	確認状況	変更区域外の6箇所（樹林地の林縁）において、8個体が確認された。		
工事の実施及び施設の有在に伴う影響の予測	本種の生育地は、工事の実施により変更されない。 また、4箇所（5個体）が変更区域に近接するが、本種の生育地は林縁で確認されていることから、生育環境は維持されると考えられる。 以上のことから、本種の生育地に影響は生じないと予測される。			

注) 選定基準は、表12.6-2に対応している。

生育環境・生態の出典) 「東京都の保護上重要な野生生物種(本土部)2020年版」(令和3年、東京都)

表 12.6-14(21) 重要な種の予測結果 (21. ホウライカズラ)

種名	ホウライカズラ			
重要な種の選定基準	①天然記念物	—	④環境省レッドリスト	—
	②種の保存法	—	⑤兵庫県レッドリスト	C
	③神戸市市保全条例	—	⑥神戸市レッドリスト	B
生育環境・生態	常緑藤本。常緑広葉樹林の林内に生育する。			
確認状況	確認時期	令和4年春季		
	確認状況	変更区域外の1箇所(樹林地)において、5個体が確認された。		
工事の実施及び施設の存在に伴う影響の予測	<p>本種の生育地は、工事の実施により変更されない。</p> <p>また、本種の生育地は変更区域から十分離れており、生育環境は維持されると考えられる。</p> <p>以上のことから、本種の生育地に影響は生じないと予測される。</p>			

注) 選定基準は、表12.6-2に対応している。

生育環境・生態の出典) 「東京都の保護上重要な野生生物種(伊豆諸島)2020年版」(令和3年、東京都)

表 12.6-14(22) 重要な種の予測結果 (22. ケテイカカズラ)

種名	ケテイカカズラ			
重要な種の選定基準	①天然記念物	—	④環境省レッドリスト	—
	②種の保存法	—	⑤兵庫県レッドリスト	調
	③神戸市市保全条例	—	⑥神戸市レッドリスト	—
生育環境・生態	常緑の蔓性樹木。常緑樹林の林床や林縁などに見られる。			
確認状況	確認時期	令和4年春季		
	確認状況	変更区域外の1箇所(樹林地)において、1個体が確認された。		
工事の実施及び施設の存在に伴う影響の予測	<p>本種の生育地は、工事の実施により変更されない。</p> <p>また、本種の生育地は変更区域から十分離れており、生育環境は維持されると考えられる。</p> <p>以上のことから、本種の生育地に影響は生じないと予測される。</p>			

注) 選定基準は、表12.6-2に対応している。

生育環境・生態の出典) 「京都府レッドデータブック2015 第2巻 野生植物・菌類編」(平成27年、京都府)

表 12.6-14(23) 重要な種の予測結果 (23. テイショウソウ)

種名	テイショウソウ			
重要な種の選定基準	①天然記念物	—	④環境省レッドリスト	—
	②種の保存法	—	⑤兵庫県レッドリスト	C
	③神戸市市保全条例	—	⑥神戸市レッドリスト	C
生育環境・生態	シイ・カシ帯からブナ帯下部のモミ林やスダジイ林などの下に生える多年草。			
確認状況	確認時期	令和3年夏季、初秋季、令和4年春季		
	確認状況	改変区域内の1箇所（樹林地）及び改変区域外の4箇所（樹林地）において、約270個体が確認された。		
工事の実施及び施設の存在に伴う影響の予測	本種の生育地は、工事の実施により1箇所（約150個体）が改変される。 以上のことから、本種の生育地に影響が生じると予測される。			

注) 選定基準は、表12.6-2に対応している。

生育環境・生態の出典) 「神奈川県レッドデータブック 2022 [植物編]」 (令和4年、神奈川県)

表 12.6-14(24) 重要な種の予測結果 (24. オケラ)

種名	オケラ			
重要な種の選定基準	①天然記念物	—	④環境省レッドリスト	—
	②種の保存法	—	⑤兵庫県レッドリスト	C
	③神戸市市保全条例	—	⑥神戸市レッドリスト	C
生育環境・生態	多年草。丘陵地の良く日の当たる林縁や草地に生育する。			
確認状況	確認時期	令和3年夏季、初秋季、令和4年春季		
	確認状況	改変区域外の4箇所（樹林地の林縁）において、約70個体が確認された。		
工事の実施及び施設の存在に伴う影響の予測	本種の生育地は、工事の実施により改変されない。 また、3箇所（約50個体）が改変区域に近接するが、生育地近傍の樹林地も残され、生育環境は維持され则认为られる。 以上のことから、本種の生育地に影響は生じないと予測される。			

注) 選定基準は、表12.6-2に対応している。

生育環境・生態の出典) 「東京都の保護上重要な野生生物種 (本土部) 2020年版」 (令和3年、東京都)

表 12.6-14(25) 重要な種の予測結果 (25. ノニガナ)

種名	ノニガナ			
重要な種の選定基準	①天然記念物	—	④環境省レッドリスト	—
	②種の保存法	—	⑤兵庫県レッドリスト	C
	③神戸市市保全条例	—	⑥神戸市レッドリスト	C
生育環境・生態	田の畔や河川の氾濫原にはえる一年草。			
確認状況	確認時期	令和4年春季		
	確認状況	改変区域内の26箇所(ゴルフコース)において、約450個体が確認された。		
工事の実施及び施設の存在に伴う影響の予測	本種の生育地は、工事の実施により26箇所(約450個体)が改変される。 以上のことから、本種の生育地に影響が生じると予測される。			

注) 選定基準は、表12.6-2に対応している。

生育環境・生態の出典) 「京都府レッドデータブック2015 第2巻 野生植物・菌類編」(平成27年、京都府)

## イ. 重要な植物群落への影響

あいな里山公園における二次草原・ススキ・ネザサ群落（棚田の畦畔法面草原）は、工事の実施により改変されない。また、改変区域から1km以上離れていることから、植物群落近傍の棚田や樹林地も残され、生育環境は維持されることが考えられる。

以上のことから、重要な植物群落に影響は生じないと予測される。

## 2) 環境保全措置の内容

工事及び存在・供用に伴う植物への影響を回避・低減するために、環境保全措置の検討を行った。

環境保全措置の検討結果は、表12.6-15に示すとおりである。

表 12.6-15 環境保全措置の検討結果

保全対象	措置の種類	措置の区分	実施主体	保全措置の内容及び効果	効果の不確実性	新たに生じる影響
ハコネシダ クルマシダ	生育地の改変の回避	回避	事業者	事前配慮を踏まえた事業計画検討段階において、本種を確認した谷筋の改変を回避する計画とすることにより、生育地が保全される。	なし	なし
植物相全般	施工時の配慮	低減	事業者	施工時に以下の配慮を行うことにより、生育環境の変化が低減される。 ・工事関係者に対し、工事区域外への不要な立ち入りや植物の採取等を禁止する。	なし	なし
植物相全般	緑化	低減	事業者	土地の造成に伴って出現する切土・盛土法面等は、可能な限り当該地域の植生を考慮した植物種による緑化を行うとともに、「神戸の希少な野生動植物－神戸版ブラックリスト2020－」の選定種を避けることにより、生育環境の変化が低減される。	なし	なし
アマナ エビネ ギンラン ヒメイタビ テイショウソウ ノニガナ	移植及び播種	代償	事業者	改変区域内に生育する個体について、工事実施前に周辺の類似環境に移植（アマナ、エビネ、ギンラン、ヒメイタビ、テイショウソウ）及び播種（ノニガナ）し保全を図る。	あり	なし

### 3) 評価

#### ① 評価の手法

調査及び予測結果を踏まえ、対象事業の実施に伴う事業実施区域周辺の重要な植物種及び重要な植物群落に及ぼす影響が、事業者により実行可能な範囲内でできる限り回避又は低減され、また必要に応じて環境の保全についての配慮が適正になされているかについて、評価する方法により行った。

#### ② 評価結果

##### ア. 環境影響の回避・低減に係る評価

調査及び予測の結果、並びに前項に示す環境保全措置の検討結果を踏まえると、工事及び存在・供用に伴う植物への影響は、回避又は低減ができるものと考えられる。

以上のことから、工事及び存在・供用に伴う植物への影響については、事業者の実行可能な範囲内で回避又は低減が図られているものと評価した。

## 12.7. 動物

## 12.7. 動物

### 12.7.1. 現況調査

#### (1) 調査項目

調査項目は表12.7-1に、重要な動物種の選定基準は表12.7-2に示すとおりである。

表 12.7-1 調査項目

調査項目
動物相（哺乳類、鳥類、爬虫類、両生類、魚類、昆虫類、底生動物）
重要な動物種
注目すべき生息地

表 12.7-2 重要な動物種の選定基準

番号	法律及び文献名等	選定基準のカテゴリー
①	「文化財保護法」 (昭和 25 年 5 月 30 日法律第 214 号)	特別：国指定の特別天然記念物 国：国指定の天然記念物
	「兵庫県文化財保護条例」 (昭和 39 年 4 月 1 日兵庫県条例第 58 号)	県：県指定の天然記念物
	「神戸市文化財の保護及び文化財等を取り巻く文化環境の保全に関する条例」 (平成 9 年 3 月 31 日神戸市条例第 50 号)	市：市指定の天然記念物
②	「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」(平成 4 年 6 月 5 日法律第 75 号)	国内：国内希少野生動植物種 第一：特定第一種国内希少野生動植物種 第二：特定第二種国内希少野生動植物種 緊急：緊急指定種
③	「神戸市生物多様性の保全に関する条例」 (平成 29 年 10 月 10 日神戸市条例第 7 号)	市指：神戸市指定野生動植物種
④	「環境省レッドリスト(2020)」 (令和 2 年、環境省)	EX:絶滅 EW:野生絶滅 CR+EN:絶滅危惧 I 類 CR:絶滅危惧 I A 類 EN:絶滅危惧 I B 類 VU:絶滅危惧 II 類 NT:準絶滅危惧 DD:情報不足 LP:絶滅のおそれのある地域個体群
⑤	「兵庫県版レッドリスト 2017 (哺乳類・爬虫類・両生類・魚類・クモ類)」 (令和 2 年、兵庫県) 「兵庫県版レッドリスト 2014 (貝類・その他無脊椎動物)」(平成 25 年、兵庫県) 「兵庫県版レッドリスト 2013 (鳥類)」 (平成 24 年、兵庫県) 「兵庫県版レッドリスト 2012 (昆虫類)」 (平成 23 年、兵庫県)	EX:絶滅
		A :A ランク 環境省レッドデータブックの絶滅危惧 I 類に相当
		B :B ランク 環境省レッドデータブックの絶滅危惧 II 類に相当
		C :C ランク 環境省レッドデータブックの準絶滅危惧に相当
		注:要注目種 最近減少が著しい種、優れた自然環境の指標となる種などの貴重種に準ずる種
		地:地域限定貴重種 兵庫県全域で見ると貴重とはいえないが、県内の特定の地域においては A、B、C、要注目のいずれかのランクに該当する程度の貴重性を有する種であるとともに、「学術的に特に貴重とみなされる個体群」、「生物地理学的に重要な意味を持つ個体群」、「保全上重要な単位とみなされる個体群」として識別される種
調:要調査種 環境省レッドデータブックの情報不足に相当		
⑥	「神戸の希少な野生動植物－神戸版レッドデータ 2020－」(令和 3 年、神戸市)	今:今見られない 神戸市内での確認記録、標本があるなど、かつては生息・生育していたと考えられるが、現在は見られなくなり、生息・生育の可能性がないと考えられる種
		A :A ランク 神戸市内において絶滅の危機に瀕している種など、緊急の保全対策、厳重な保全対策が必要な種
		B :B ランク 神戸市内において絶滅の危機が増大している種など、生息・生育環境、自生地などの保全が必要な種
		C :C ランク 神戸市内において存続基盤が脆弱な種。極力、生息・生育環境、自生地などの保全が必要な種
		調:要調査 神戸市内での生息・生育の実態がほとんどわからないことなどにより、現在の知見では貴重性の評価ができないが、今後の調査によっては貴重種となる可能性のある種

注)「環境の保全と創造に関する条例」(平成 7 年 7 月 18 日兵庫県条例第 28 号)では、指定された野生動植物種がないため、選定基準としていない。

表 12.7-3 外来種の選定基準

法律及び文献名等	選定基準のカテゴリー
「特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律」 (平成 16 年 6 月 2 日法律第 78 号)	特定外来生物
「兵庫県の生物多様性に悪影響を及ぼす外来生物リスト (ブラックリスト 2010(2019 改訂版))」 (平成 22 年 3 月、兵庫県)	Z 警戒種：生物多様性への影響が大きい、または今後影響が大きくなることが予測される種 Y 注意種：生物多様性への影響がある種
「神戸の希少な野生動植物－神戸版ブラックリスト 2020－」 (令和 3 年、神戸市)	外来生物種 侵入警戒種

## (2) 調査方法

調査は、既存資料調査及び現地調査により行った。

既存資料調査に使用した資料は表12.7-4に、現地調査の方法は表12.7-5に示すとおりである。

表 12.7-4 既存資料一覧

No.	資料名
1	「舞子ゴルフ場代替施設建設事業環境影響評価書」(昭和56年、神戸市)
2	「西神流通業務団地及び西神第3地区工業団地造成事業環境影響評価書」(平成3年、兵庫県)
3	「西神第3地区工業団地造成事業の変更及び20世紀博物館群公園事業環境影響評価書案」(平成11年、兵庫県、神戸市)
4	「第2回自然環境保全基礎調査 動物分布調査報告書(兵庫県)」(昭和55年、環境庁)

表 12.7-5(1) 現地調査の方法

調査項目	調査方法	概要	
哺乳類	目撃・フィールドサイン法	調査地域に設定したルート上を踏査し、フィールドサイン(足跡、糞、食痕等)や個体の確認を行い、重要種が確認された場合には確認位置を記録した。	
	トラップによる捕獲	調査区域内にシャーマントラップ(ネズミ類を対象とした生け捕り型のトラップ)、を設置し、捕獲した個体を確認・記録した。	
	無人撮影法	けもの道など哺乳類の移動が予想される地点に自動撮影装置(赤外線センサーとシャッターを連動させ、カメラの前を通過する個体を自動的に撮影する装置)を設置し、撮影した写真から生息種の確認を行った。	
コウモリ類		調査地域に設定したルート上を夜間に踏査し、バットディテクター(コウモリの発する超音波を可聴音に変換する装置)により、コウモリ類の生息状況を確認した。	
鳥類	一般鳥類	直接観察法	調査地域内を踏査し、目視や鳴き声で確認された種を記録した。
		ラインセンサス法	調査地域に設定したルート上をゆっくりとした速度で歩きながら、双眼鏡を用いてルートの左右約25mの範囲内で確認された鳥類の種名、個体数、環境などを記録した。調査ルートは、調査範囲内にみられる主要な環境区分(樹林、耕作地、河川等)を網羅し、全域を均一に確認できるよう選定した。
		ポイントセンサス法	調査地点周辺に出現した鳥類の種名、個体数などを記録した。調査地点は、調査範囲内にみられる主要な環境区分(樹林、耕作地、河川等)ごとに、出現種を確認できるよう選定した。
	猛禽類	定点観察法	調査定点において、双眼鏡(8~10倍程度)や望遠鏡(20~60倍程度)を用いて猛禽類(トビを除くタカ類・ハヤブサ類)の確認に努めた。猛禽類が確認された場合、無線機を用いて各地点との相互連絡により、可能な限りその個体を追跡し、確認個体について種名、行動内容、飛翔経路等を記録した。
		営巣木確認調査	事業実施区域及びその周辺の樹林を任意に踏査し、猛禽類の古巣や営巣可能木の分布状況を確認した。
	フクロウ類	直接観察法	調査地域内を踏査し、目視や鳴き声で確認された種を記録した。
夜間コールバック法		夜間フクロウの声を録音したテープをスピーカーで流し、数分間の間に聞こえてくる鳴き声の位置等を記録した。	
爬虫類	直接観察法	調査地域内を踏査し、爬虫類の成体、幼体等のほか、死体や脱皮殻等により生息種の確認に努めた。個体を確認した場合は、種名、個体数などを記録し、重要種が確認された場合には確認位置を記録した。	
両生類	直接観察法	調査地域内を踏査し、両生類の成体、幼体、幼生、卵塊等のほか、鳴き声等により生息種の確認に努めた。個体を確認した場合は、種名、個体数などを記録し、重要種が確認された場合には確認位置を記録した。	

表 12. 7-5 (2) 調査方法の概要

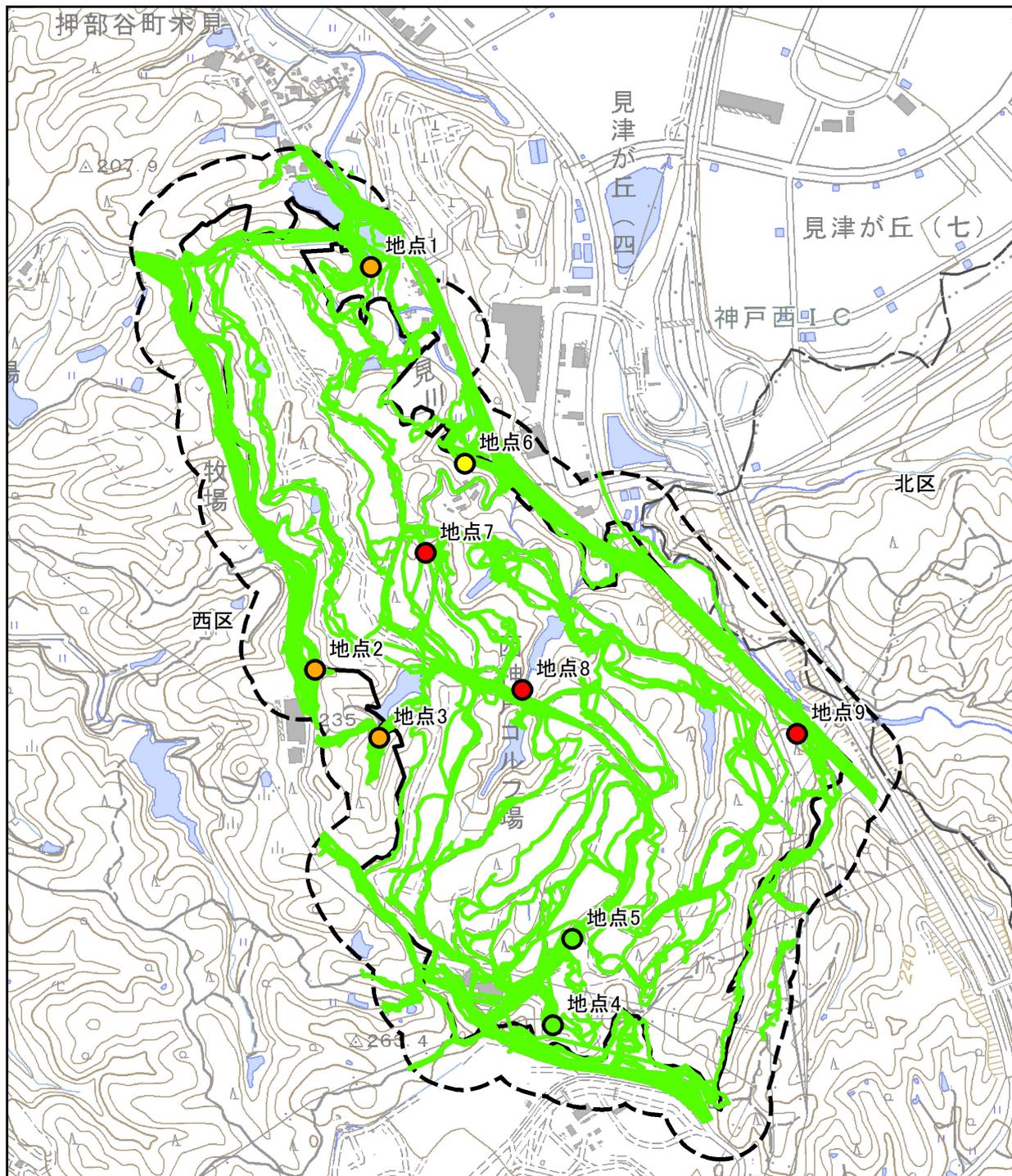
調査項目	調査方法	概要	
魚類	直接観察法・任意採集法	調査地域内の水域において、投網、タモ網、カゴ網、刺網を用いて魚類を捕獲し、種類及び個体数を記録した。また、捕獲中に目視により確認した種についても記録した。	
	環境 DNA	調査地域内の水域において採水を行い、環境 DNA メタバーコーディング法により魚類の DNA を網羅的に検出した。	
昆虫類	直接観察法・任意採集法	調査地域に設定したルート上を踏査し、ルート周辺に生息する昆虫類を以下の方法により調査した。	
		目撃法	チョウ類、トンボ類、セミ類、バッタ類等の大型種や鳴き声による識別が確実な種について記録した。
		見つけ採り法	踏査中に確認した昆虫類を直接捕虫網等により採集した。
		石おこし採集法	石をおこして、そこに生息している昆虫類を採集した。
		スウィーピング法	草本群落や低木等をなぎ払うように捕虫網を振り、中に入った昆虫類を採集した。
		ビーティング法	木本や背の高い草本群落において樹枝や葉を棒で叩き、昆虫類を落下させて採集した。
	ライトトラップ法 (ボックス法)	調査地域内の環境 (樹林、耕作地、河川等) を代表する地点を選定し、光源 (蛍光灯、ブラックライト) に誘引されて集まる昆虫類を捕獲した。樹林地など閉鎖的な空間において、光源の下にロート部と昆虫類収納用ボックス部からなる捕虫器を夕方に設置し、翌朝、ボックス部に落ち込んだ昆虫類を回収した。	
	ベイトトラップ法	調査地域内の環境 (樹林、耕作地、河川等) を代表する地点を選定し、誘因餌を入れたプラスチックコップを口が地表面と同じ高さになるよう埋設し、1 晩設置した後、誘引されてコップ内に落下した昆虫類を採集した。	
ホタル類	調査地域の河川、水田などホタル類の生息に適した環境を中心に夜間踏査を行った。		
オオムラサキ	調査地域に生育するエノキ (オオムラサキ幼虫の食草) 周辺の落ち葉を確認し、越冬個体について調査した。		
底生動物	任意採集法	調査地域内の水域において、タモ網を用いた任意採集を行った。	

### (3) 調査地域及び調査地点

調査地域及び調査地点は、図12. 7-1に示すとおりである。

調査地域は、事業実施区域及びその周辺として、事業実施区域端部から100m程度を目安とし、動物の特性や生息地の連続性を考慮して適宜拡大した。

調査地点及び調査ルートは、動物の生態的な特徴や周辺の地形状況、植生の連続性を踏まえて、調査地域における貴重な種及び注目すべき生息地に係る環境影響を予測し、評価するために必要な情報を適切かつ効果的に把握できる地点又は経路とした。



- 事業実施区域
- 調査地域  
(事業実施区域及びその端部から100m)
- トラップ設置地点
- トラップ及びカメラ設置地点
- カメラ設置地点
- カメラ設置地点(コウモリ類対象)
- 踏査ルート



図 12.7-1(1) 調査地点位置図 (哺乳類)

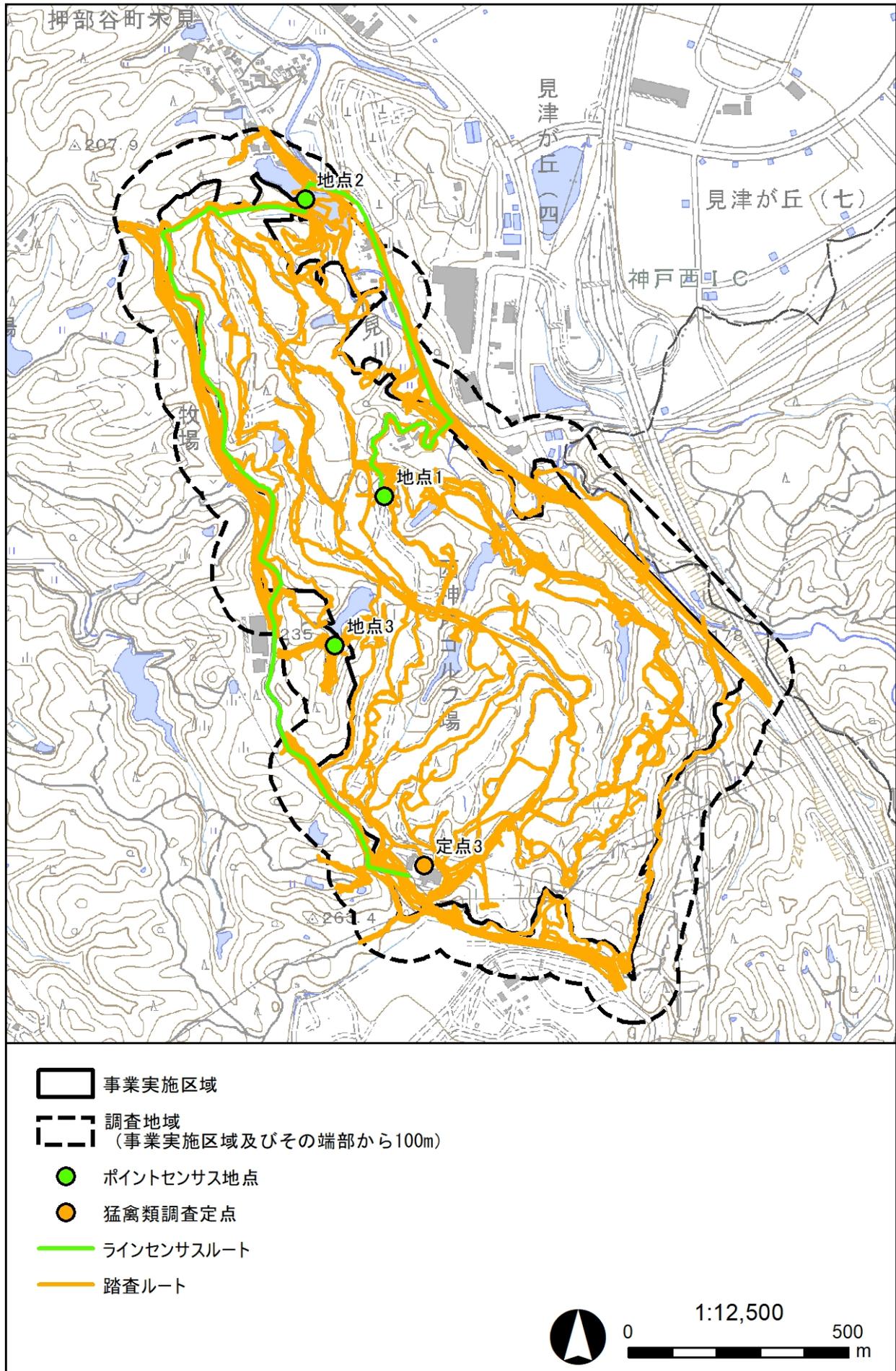
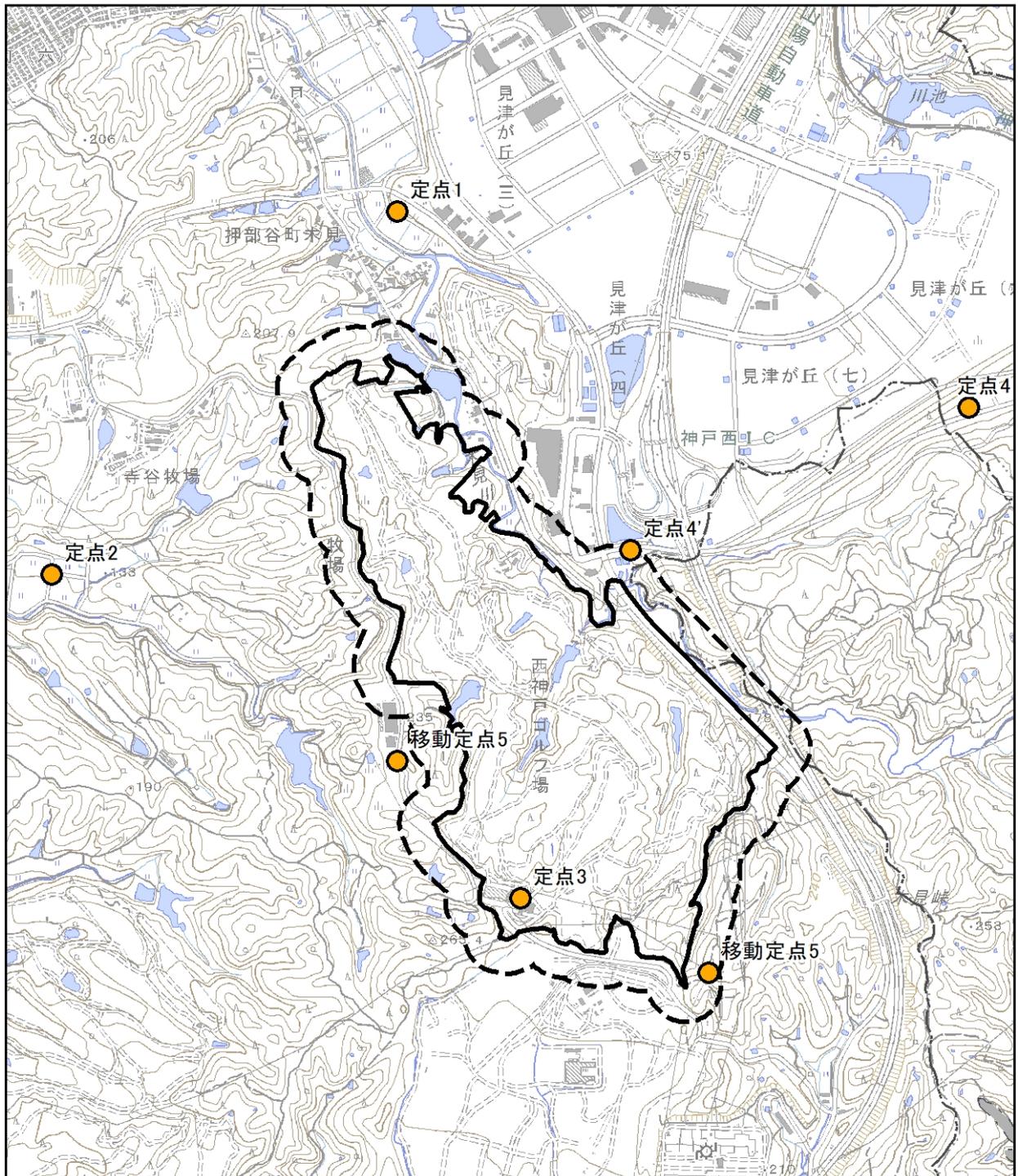


図 12.7-1(2) 調査地点位置図 (鳥類)



- 事業実施区域
- 調査地域  
(事業実施区域及びその端部から100m)
- 猛禽類調査定点

注) 定点4' は、定点4の補足調査地点を示す。

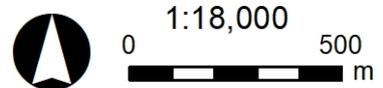


図 12.7-1(3) 調査地点位置図 (猛禽類)

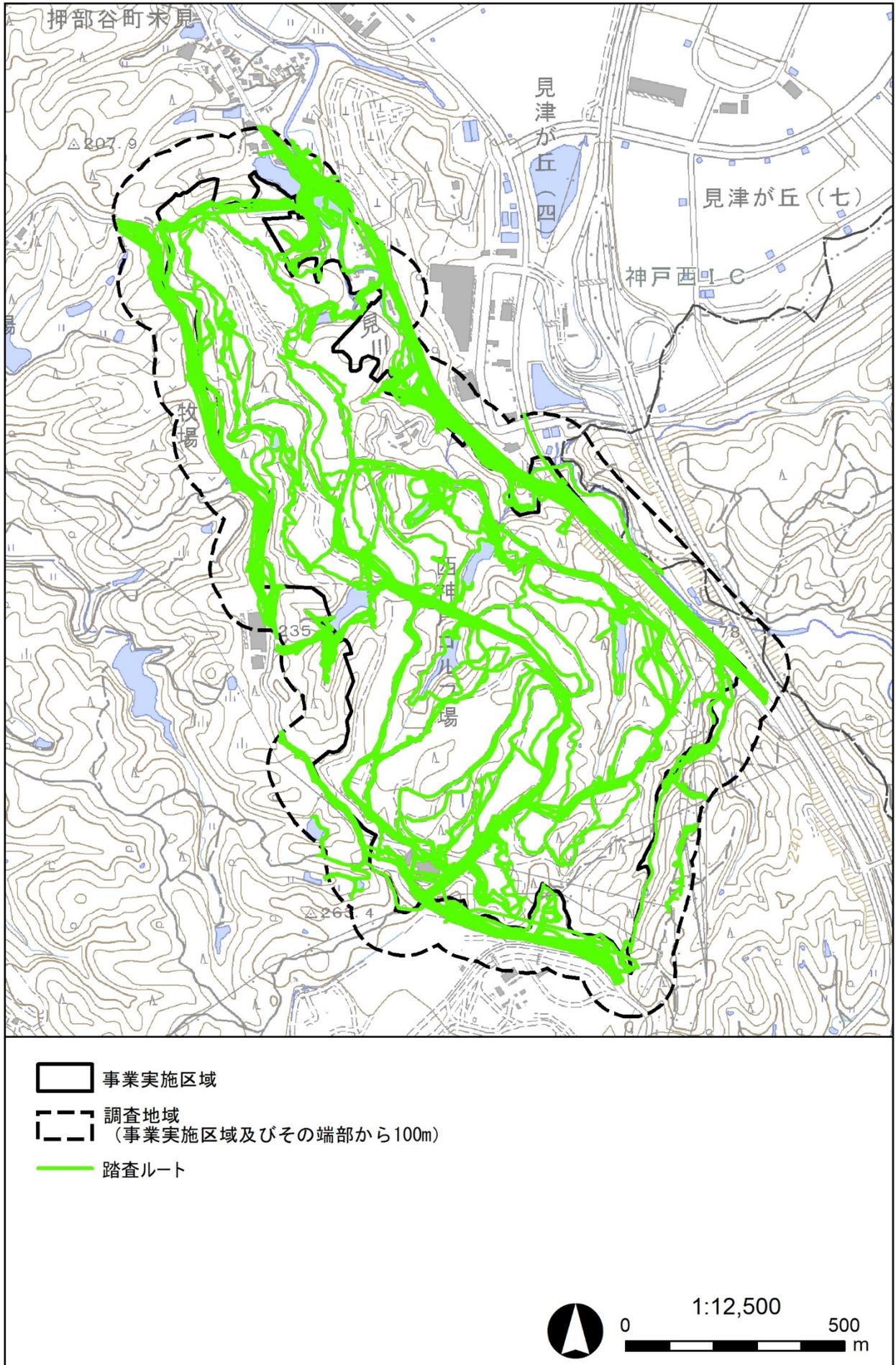
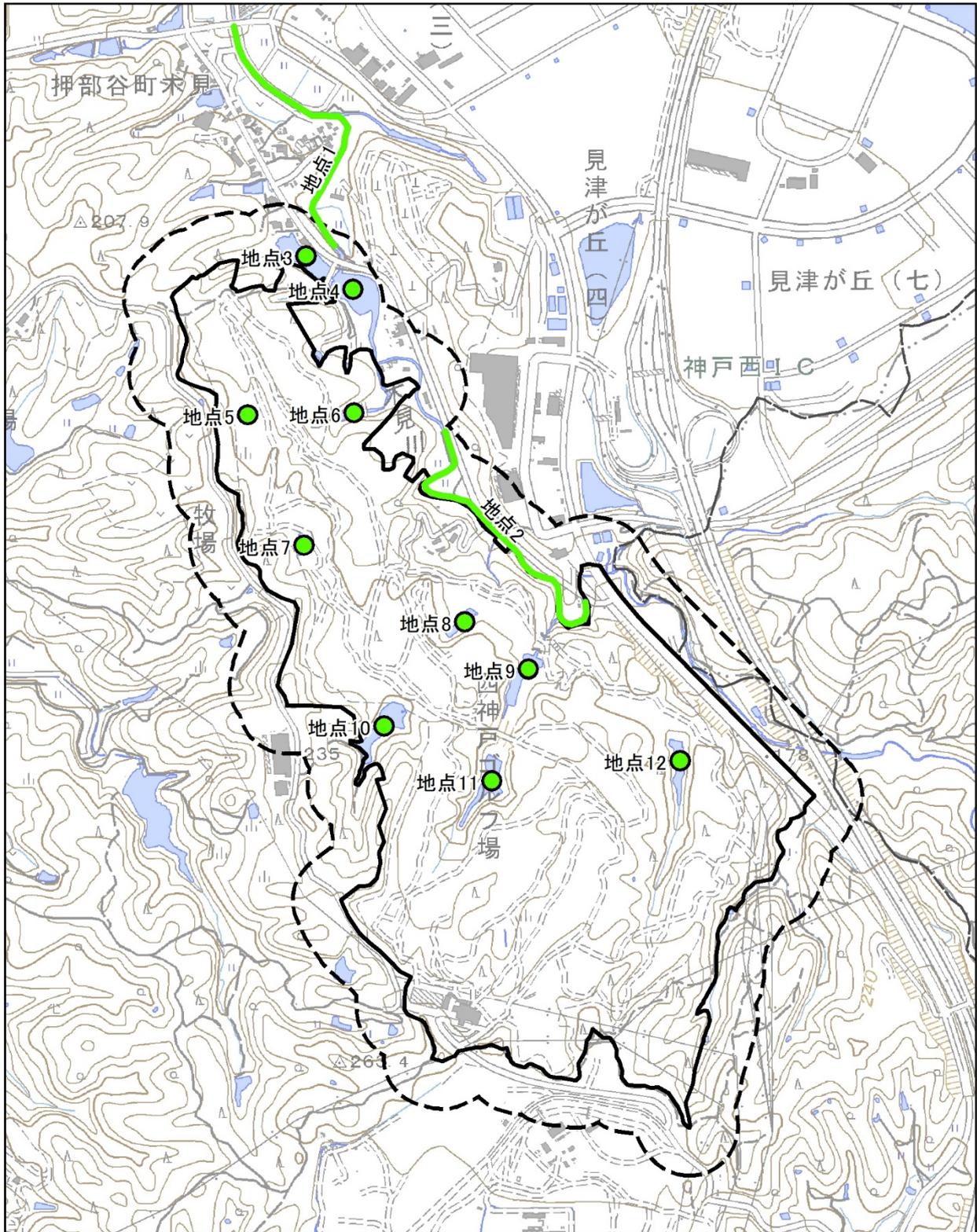


図 12.7-1(4) 調査地点位置図 (爬虫類、両生類)



- 事業実施区域
- 調査地域  
(事業実施区域及びその端部から100m)
- ため池
- 木見川



図 12.7-1(5) 調査地点位置図 (魚類、底生動物)

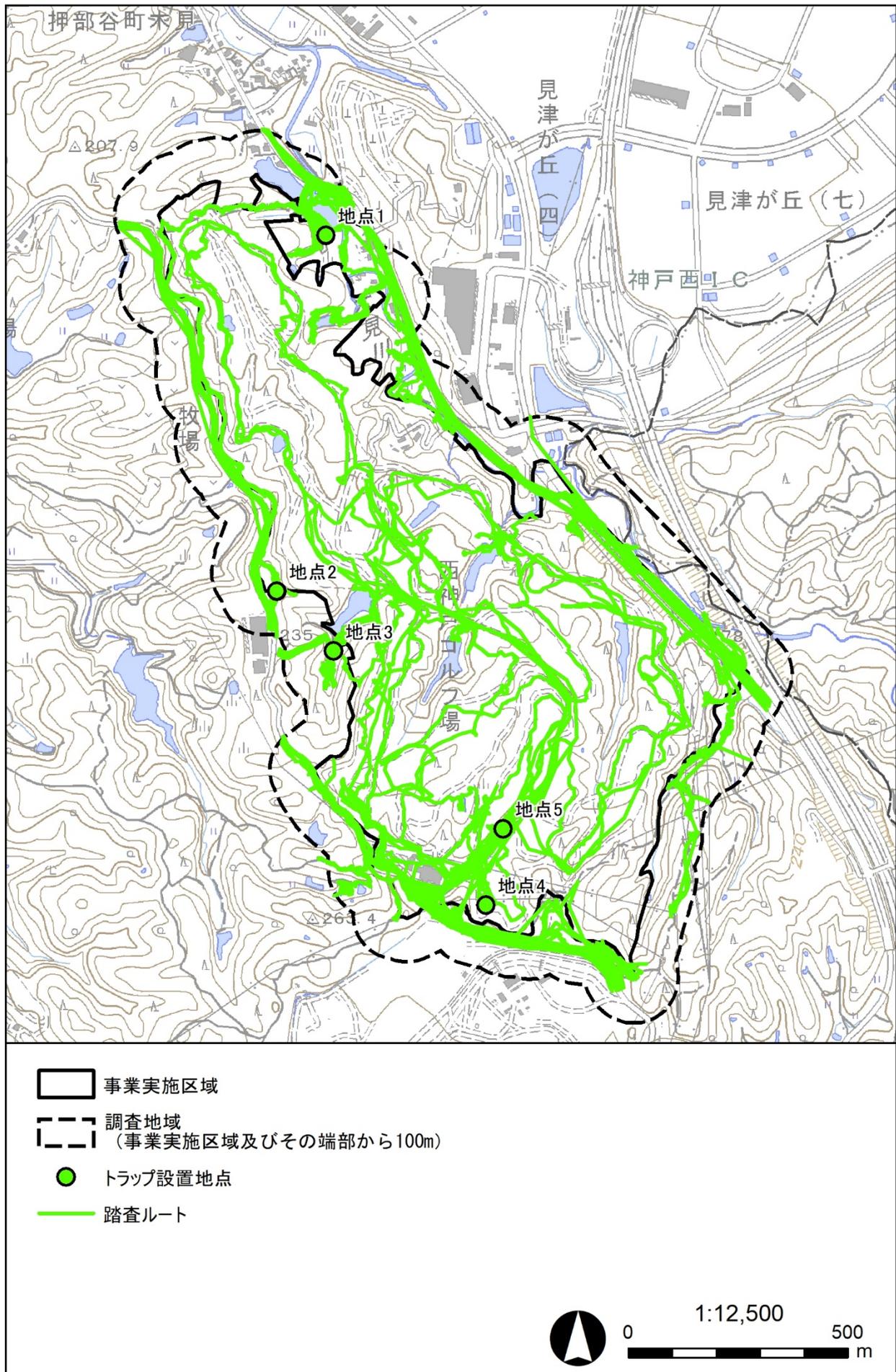


図 12. 7-1(6) 調査地点位置図 (昆虫類)

#### (4) 調査時期

調査時期は、表12.7-6に示すとおりである。

表 12.7-6 調査時期

調査項目	調査時期	備考
哺乳類	夏季 : 令和3年 7月29日～30日 赤外線カメラ設置 : 令和3年 7月29日～ 8月16日 秋季 : 令和3年10月 6日～8日、25日 赤外線カメラ設置 : 令和3年10月 6日～25日 冬季 : 令和4年 1月 6日～7日 赤外線カメラ設置 : 令和4年 1月 6日～21日 春季 : 令和4年 5月10日～11日 春季～夏季 赤外線カメラ設置 : 令和4年 5月10日～7月26日	
	コウモリ類 秋季 : 令和3年10月 6日～ 8日、25日 赤外線カメラ設置 : 令和3年10月25日～11月 9日 冬季 : 令和4年 2月 8日～ 9日 春季 : 令和4年 5月12日 初夏季 : 令和4年 6月10日 赤外線カメラ設置 : 令和4年 6月10日～ 7月26日	
鳥類	一般鳥類 秋季 : 令和3年10月 7日～ 8日 冬季 : 令和4年 1月 6日～ 7日 春季 : 令和4年 5月24日、25日 初夏季 : 令和4年 6月13日	
	猛禽類 1 営巣期日 : 令和3年 6月29日～30日 令和3年 7月13日、29日 令和3年 8月23日～24日 2 営巣期日 : 令和4年 1月18日～19日 令和4年 2月 8日～ 9日 令和4年 3月23日～25日 令和4年 4月 4日、21日 令和4年 5月13日、26日 令和4年 6月 9日、23日 令和4年 7月25日～26日 令和4年 8月22日～23日 営巣木確認 : 令和3年12月 7日～ 8日 令和5年 1月25日	
	フクロウ類 繁殖期 : 令和4年 5月25日、26日 令和4年 6月 8日、13日 令和4年 7月25日 令和5年 1月24日、25日	
爬虫類	夏季 : 令和3年 7月29日～30日 秋季 : 令和3年10月 6日～ 8日	※早春季及び 令和4年夏季 は両生類のみ
両生類	早春季※ : 令和4年 2月24日～25日、 3月 9日 春季 : 令和4年 5月10日～11日、24日 夏季※ : 令和4年 7月22日	
魚類	秋季 : 令和3年10月 6日～ 7日 春季 : 令和4年 5月10日～12日	
	環境 DNA 春季 : 令和4年 5月23日 夏季 : 令和4年 8月23日	
昆虫類	夏季 : 令和3年 7月29日～30日 秋季 : 令和3年10月 6日～ 8日 春季 : 令和4年 5月10日～11日、24日	
	ホタル類 成虫発生期 : 令和4年 5月25日 令和4年 6月 8日 令和4年 7月25日	
	オオムラサキ 越冬期 : 令和4年3月25日 令和5年1月11日～12日	
底生動物	夏季 : 令和3年7月29日～30日 早春季 : 令和4年2月24日～25日、3月9日	

(5) 調査結果

1) 既存資料調査

事業実施区域及びその周囲において確認された重要な動物種は、表12.7-7に示すとおりである。

既存資料調査では、哺乳類3目5科6種、鳥類10目14科26種、爬虫類2目3科6種、両生類2目4科6種、魚類3目4科6種、昆虫類8目23科36種、底生動物8目13科20種の重要な動物種が確認された。

なお、事業実施区域及びその周囲には、注目すべき生息地は存在しない。

表 12.7-7(1) 既存資料調査で確認された重要な動物種

	番号	目名	科名	種名	出典番号	選定基準						
						①	②	③	④	⑤	⑥	
哺乳類	1	モグラ (食虫)	モグラ	ヒミズ	2						B	
	2	ネズミ (齧歯)	リス	ニホンリス	3						B	
	3		ネズミ	カヤネズミ	2						B	
	4	ネコ (食肉)	イヌ	キツネ	2,3						調	
	5			イタチ	テン	2,3						調
	6				ニホンイタチ	3						調
	-				イタチ属	2						
合計 3目 5科 6種						0	0	0	0	0	6	
鳥類	1	キジ	キジ	ヤマドリ	3						注 調(繁殖)	
	2	カモ	カモ	オシドリ	3				DD	B	C(越冬)	
	3	ペリカン	サギ	ゴイサギ	2						B(繁殖)	
	4			アマサギ	1							B(繁殖)
	5			チュウサギ	1				NT	C	B(繁殖)	
	6			コサギ	1,3							B(繁殖)
	7	カッコウ	カッコウ	ホトトギス	1,2,3						B(繁殖)	
	8			ツツドリ	1							B(繁殖)
	9	チドリ	チドリ	イカルチドリ	2					B	B(繁殖)、 B(越冬)	
	10	タカ	タカ	ハチクマ	3				NT	B	B(繁殖)	
	11			ハイタカ	3				NT	C	C(越冬)	
	12			オオタカ	3				NT	B	B(繁殖)、 C(越冬)	
	13			サンバ	1,2				VU	B	A(繁殖)	
	14		ノスリ	2					B	C(越冬)		
	15	フクロウ	フクロウ	フクロウ	3						B(繁殖)、 B(越冬)	
	16	ブッポウソウ	カワセミ	カワセミ	1						注	
	17	キツツキ	キツツキ	アカゲラ	2						C	C(越冬)
	18			アオゲラ	1,3						C	C(繁殖)、 C(越冬)
	19	スズメ	サンショウクイ	サンショウクイ	1				VU	C	B(繁殖)	
	20		カササギヒタキ	サンコウチョウ	1,2,3						C(繁殖)	
	21		ムシクイ	メボソムシクイ	3					B		
	22		ヒタキ	トラツグミ	3							C(繁殖)
	23			ルリビタキ	2,3						A	
	24			コサメビタキ	2						C	
	25			オオルリ	1,2,3							注
	26	ホオジロ科	アオジ	2,3						A		
合計 10目 14科 26種						0	0	0	7	18	20	

表 12.7-7(2) 既存資料調査で確認された重要な動物種

	番号	目名	科名	種名	出典番号	選定基準						
						①	②	③	④	⑤	⑥	
爬虫類	1	カメ	イシガメ	ニホンイシガメ	3				NT	C	A	
	2	有鱗	タカチホヘビ	タカチホヘビ	3					C	A	
	3		ナミヘビ	シマヘビ	シマヘビ	2,3						調
	4			アオダイショウ	アオダイショウ	2,3						調
	5			シロマダラ	シロマダラ	3					C	B
	6			ヒバカリ	ヒバカリ	2					注	C
	合計 2目3科6種						0	0	0	1	4	6
両生類	番号	目名	科名	種名	出典番号	選定基準						
	1	有尾	サンショウウオ	セトウチサンショウウオ	3,4		第二		VU	B	B	
	2		イモリ	アカハライモリ	3				NT	注	B	
	3	無尾	ヒキガエル	ニホンヒキガエル	3					C	C	
	4		アカガエル	ニホンアカガエル	ニホンアカガエル	2,3					C	C
	5			トノサマガエル	トノサマガエル	2,3				NT		
	6			ツチガエル	ツチガエル	2					C	B
合計 2目4科6種						0	1	0	3	5	5	
魚類	番号	目名	科名	種名	出典番号	選定基準						
	1	コイ	コイ	ギンブナ	2,3						C	
	2		ドジョウ	オオシマドジョウ	オオシマドジョウ	1						B
	3			チュウガタスジシマドジョウ	チュウガタスジシマドジョウ	1				VU		B
	4			ドジョウ	ドジョウ	2,3				NT	注	C
	5	ダツ	メダカ	ミナミメダカ	2,3				VU	注	C	
	6	スズキ	ハゼ	トウヨシノボリ類	トウヨシノボリ類	3				※ <sup>(注5)</sup>	※ <sup>(注5)</sup>	
-	ヨシノボリ属			ヨシノボリ属	2				※ <sup>(注6)</sup>	※ <sup>(注6)</sup>	※ <sup>(注6)</sup>	
合計 3目4科6種						0	0	0	3	2	5	
昆虫類	番号	目名	科名	種名	出典番号	選定基準						
	1	トンボ (蜻蛉)	イトトンボ	オオイトトンボ	2					B	B	
	2		ヤンマ	カトリヤンマ	3					C	B	
	3		サナエトンボ	キイロサナエ	キイロサナエ	3				NT	B	C
	4			フタスジサナエ	フタスジサナエ	2,3				NT		
	5		エゾトンボ	タカネトンボ	タカネトンボ	2					注	調
	6			エゾトンボ	エゾトンボ	2,4					C	B
	7		トンボ	ヨツボシトンボ	ヨツボシトンボ	2,3					注	C
	8			アキアカネ	アキアカネ	2,3					注	C
	9			ナニワトンボ	ナニワトンボ	1,2				VU	C	C
	10			ノシメトンボ	ノシメトンボ	2						C
	11			マイコアカネ	マイコアカネ	2						C
	12			ヒメアカネ	ヒメアカネ	2						注
	13	カマキリ (螳螂)		ヒメカマキリ	ヒメカマキリ	3					注	
	14	バッタ (直翅)	マツムシ	スズムシ	3					注		
	15	カメムシ (半翅)	セミ	ハルゼミ	3,4					注		
	16		コオイムシ	コオイムシ	3				NT			
	17	タイコウチ	タガメ	タガメ	4		第二		VU	B	今	
	18		ミズカマキリ	ミズカマキリ	3					注	調	
	19		ヘビトンボ	ヘビトンボ	タイリククロスジヘビトンボ	3						調
	20	チョウ (鱗翅)	セセリチョウ	ホソバセセリ	2,3						C	
	21		オオチャバネセセリ	オオチャバネセセリ	3						C	
	22		シジミチョウ	クロシジミ	クロシジミ	2				EN	A	A
	23		タテハチョウ	メスグロヒョウモン	メスグロヒョウモン	2						調
	24		オオムラサキ	オオムラサキ	オオムラサキ	2				NT	C	C
25	アゲハチョウ		ギフチョウ	ギフチョウ	4			市指	VU	B	A	

表 12.7-7(3) 既存資料調査で確認された重要な動物種

	番号	目名	科名	種名	出典番号	選定基準						
						①	②	③	④	⑤	⑥	
昆虫類	26	チョウ(鱗翅)	ドクガ	ナチキシタドクガ	3					調		
	27			トラサンドクガ	3				NT			
	28			ヤクシマドクガ	3					調		
	29		ヤガ	ガマヨトウ	3				VU			
	30	コウチュウ(鞘翅)	ゲンゴロウ	シマゲンゴロウ	3				NT		B	
	31			ミズスマシ	オオミズスマシ	2,3				NT		B
	32			ミズスマシ		3				VU	C	A
	33			ホタル	ヘイケボタル	2					注	調
	34		カミキリムシ	ヨツボシカミキリ	3				EN		A	
	35	ハチ(膜翅)	アリ	トゲアリ	2,3				VU		調	
36	スズメバチ			ヤマトアシナガバチ	2				DD			
合計 8目 23科 36種						0	1	1	16	21	25	
底生動物	番号	目名	科名	種名	出典番号	選定基準						
						①	②	③	④	⑤	⑥	
	1	新生腹足	タニシ	オオタニシ	2				NT			
	2	汎有肺	モノアラガイ	モノアラガイ	2				NT			
	3			ヒラマキガイ	カワネジガイ	2				CR	A	
	4			ヒラマキガイ	ヒラマキミズマイマイ	2				DD		
	5			ヒラマキガイ	カワコザラガイ	2,3				CR		
	6	マルスダレガイ	シジミ	マシジミ	2,3				VU	注	C	
	7	吻蛭	ヒラタビル	イボビル	2				DD			
	8	カゲロウ(蜉蝣)	ガガンボカゲロウ	ガガンボカゲロウ	1						調	
	9	トンボ(蜻蛉)	イトトンボ	オオイトトンボ	1					B	B	
	10			サナエトンボ	キイロサナエ	3				NT	B	C
	11			サナエトンボ	オナガサナエ	2						C
	12			サナエトンボ	タバサナエ	2,3				NT		C
	13			サナエトンボ	フタスジサナエ	2,3				NT		
	14			サナエトンボ	オグマサナエ	2				NT		C
	15		トンボ	ヨツボシトンボ	3					注	C	
	16	カメムシ(半翅)	コオイムシ	コオイムシ	3				NT			
	17			タイコウチ	ミズカマキリ	2					注	調
	18	コウチュウ(鞘翅)	ゲンゴロウ	ヒメゲンゴロウ	3						C	
19	ミズスマシ			オオミズスマシ	2,3				NT		B	
20	ミズスマシ				2,3				VU	C	A	
合計 8目 13科 20種						0	0	0	14	7	12	

注1) 出典番号は、表 12.7-4 に対応している。

注2) 選定基準は、表 12.7-2 に対応している。

注3) 分類・配列・種名については、主に「河川水辺の国勢調査のための生物リスト (令和4年度生物リスト)」(令和4年、河川環境データベース/国土交通省)に準拠した。

注4) 「イタチ属」は、ニホンイタチ(選定基準⑥:調)かシベリアイタチ(非選定)である。

注5) 「トウヨシノボリ類」には、選定基準④及び⑤に該当する種が含まれる。

注6) 「ヨシノボリ属」には、選定基準④、⑤及び⑥に該当する種が含まれる。

## 2) 現地調査

### ① 動物相の状況

#### ア. 哺乳類

事業実施区域及びその周辺において確認された哺乳類は、表12.7-8に示すとおりである。  
現地調査の結果、6目11科19種の哺乳類が確認された。

表 12.7-8 哺乳類の確認種一覧

No.	目名	科名	種名	学名	外来種 注4)	調査時期					
						令和3年		令和4年			
						夏季	秋季	冬季	春季	初夏	夏季
1	モグラ目 (食虫目)	モグラ科	モグラ科 <sup>注2)</sup>	<i>Talpidae</i> sp.		●	●		●		
2	コウモリ目 (翼手目)	キクガシラ コウモリ科	コキクガシラコウモリ	<i>Rhinolophus cornutus</i>			●	●		●	
3			キクガシラコウモリ	<i>Rhinolophus ferrumequinum</i>		●	●		●	●	
4		ヒナコウモ リ科	モモジロコウモリ	<i>Myotis macrodactylus</i>				●	●	●	
5			アブラコウモリ	<i>Pipistrellus abramus</i>		●	●		●		
6			ユビナガコウモリ	<i>Miniopterus fuliginosus</i>				●	●		
7			ウサギ目	ウサギ科	ノウサギ	<i>Lepus brachyurus</i>		●	●	●	●
8	ネズミ目 (齧歯目)	ネズミ科	アカネズミ	<i>Apodemus speciosus</i>		●	●	●	●		
9			カヤネズミ	<i>Micromys minutus</i>				●			
10	ネコ目 (食肉目)	アライグマ 科	アライグマ	<i>Procyon lotor</i>	●	●	●	●	●	●	●
11		イヌ科	タヌキ	<i>Nyctereutes procyonoides</i>		●	●	●	●	●	
12			キツネ	<i>Vulpes vulpes</i>		●		●	●		
13		イタチ科	テン	<i>Martes melampus</i>		●	●			●	●
14			シベリアイタチ	<i>Mustela sibirica</i>	●					●	
15			ニホンイタチ	<i>Mustela itatsi</i>				●		●	
-			イタチ属 <sup>注3)</sup>	<i>Mustela</i> sp.		●	●				
16			アナグマ	<i>Meles anakuma</i>		●		●			
17		ジャコウネ コ科	ハクビシン	<i>Paguma larvata</i>	●		●		●	●	
18	ウシ目 (偶蹄目)	イノシシ科	イノシシ	<i>Sus scrofa</i>		●	●	●	●	●	●
19		シカ科	ニホンジカ	<i>Cervus nippon</i>						●	
	6目	11科	19種		3種	12種	14種	12種	11種	11種	4種

注1) 分類・配列・種名については、主に「河川水辺の国勢調査のための生物リスト（令和4年度生物リスト）」  
（令和4年、河川環境データベース/国土交通省）に準拠した。

注2) 「モグラ科」は、分布からコウベモグラと推定される。

注3) 「イタチ属」はニホンイタチかシベリアイタチ（外来種）である。

注4) 外来種は表12.7-3の選定基準により選定した。

## イ. 鳥類

事業実施区域及びその周辺において確認された鳥類は、表12.7-9に示すとおりである。現地調査の結果、15目34科75種の鳥類が確認された。

表 12.7-9(1) 鳥類の確認種一覧

No.	目名	科名	種名	学名	渡り区分	外来種 <small>(注2)</small>	調査時期						
							令和3年			令和4年		令和5年	
							初夏季	夏季	秋季	冬季	春季	初夏季	夏季
1	キジ目	キジ科	コジュケイ	<i>Bambusicola thoracicus</i>	留鳥				●	●	●	●	
2			ヤマドリ	<i>Symaticus soemmerringii</i>	留鳥					●	●	●	
3			キジ	<i>Phasianus colchicus</i>	留鳥			●	●	●			
4	カモ目	カモ科	オシドリ	<i>Aix galericulata</i>	冬鳥/ 留鳥				●				
5			マガモ	<i>Anas platyrhynchos</i>	冬鳥				●				
6			カルガモ	<i>Anas zonorhyncha</i>	留鳥			●	●	●	●		
7			コガモ	<i>Anas crecca</i>	冬鳥				●				
8			ホシハジロ	<i>Aythya ferina</i>	冬鳥				●				
9			キンクロハジロ	<i>Aythya fuligula</i>	冬鳥				●				
10	カイツブリ目	カイツブリ科	カイツブリ	<i>Tachybaptus ruficollis</i>	留鳥			●	●	●	●		
11	ハト目	ハト科	カワラバト (ドバト)	<i>Columba livia</i>	留鳥	●			●				
12			キジバト	<i>Streptopelia orientalis</i>	留鳥		●	●	●	●	●	●	
13			アオバト	<i>Treeron sieboldii</i>	留鳥					●			
14	カツオドリ目	ウ科	カワウ	<i>Phalacrocorax carbo</i>	留鳥					●	●		
15	ペリカン目	サギ科	ミゾゴイ	<i>Gorsachius gossagi</i>	夏鳥					●	●		
16			アオサギ	<i>Ardea cinerea</i>	留鳥	●		●	●	●	●		
17	ツル目	クイナ科	バン	<i>Gallinula chloropus</i>	留鳥					●	●		
18	カッコウ目	カッコウ科	ホトトギス	<i>Cuculus poliocephalus</i>	夏鳥	●	●			●	●		
19			ツツドリ	<i>Cuculus optatus</i>	夏鳥					●			
20	チドリ目	チドリ科	イカルチドリ	<i>Charadrius placidus</i>	留鳥				●				
21		シギ科	アオシギ	<i>Gallinago solitaria</i>	冬鳥				●				
22	タカ目	ミサゴ科	ミサゴ	<i>Pandion haliaetus</i>	留鳥	●	●		●	●	●		
23		タカ科	ハチクマ	<i>Pernis ptilorhynchus</i>	夏鳥	●	●			●	●		
24			トビ	<i>Milvus migrans</i>	留鳥	●			●	●	●		
25			ハイタカ	<i>Accipiter nisus</i>	冬鳥/ 留鳥				●	●			
26			オオタカ	<i>Accipiter gentilis</i>	留鳥	●	●		●	●	●	●	
27			サシバ	<i>Buteo indicus</i>	夏鳥	●	●			●	●		
28			ノスリ	<i>Buteo buteo</i>	冬鳥/ 留鳥				●	●			
29	フクロウ目	フクロウ科	フクロウ	<i>Strix uralensis</i>	留鳥					●	●	●	
30	ブッポウソウ目	カワセミ科	カワセミ	<i>Alcedo atthis</i>	留鳥					●			
31	キツツキ目	キツツキ科	コゲラ	<i>Dendrocopos kizuki</i>	留鳥	●	●	●	●	●	●	●	
32			アオゲラ	<i>Picus awokera</i>	留鳥	●		●	●	●	●		
33	ハヤブサ目	ハヤブサ科	チョウゲンボウ	<i>Falco tinnunculus</i>	留鳥/ 冬鳥	●			●	●			
34			ハヤブサ	<i>Falco peregrinus</i>	留鳥	●	●		●	●			
35	スズメ目	サンショウクイ科	サンショウクイ	<i>Paricocotus divaricatus</i>	夏鳥		●			●	●		
36		カササギヒタキ科	サンコウチョウ	<i>Tersiphone atrocincta</i>	夏鳥					●	●	●	

表 12. 7-9 (2) 鳥類の確認種一覧

No.	目名	科名	種名	学名	渡り 区分	外来種 <small>注2)</small>	調査時期							
							令和3年			令和4年				令和5年
							初夏	夏	秋	冬	春	初夏	夏	冬
37	スズメ目	モズ科	モズ	<i>Lanius bucephalus</i>	留鳥				●	●				
38		カラス科	カケス	<i>Corvus glandarius</i>	留鳥				●					
39			ハシボソガラス	<i>Corvus corone</i>	留鳥		●	●	●	●	●	●		
40			ハシブトガラス	<i>Corvus macrorhynchos</i>	留鳥		●	●	●	●	●	●		
41		シジュウカラ科	ヤマガラ	<i>Poecile varius</i>	留鳥		●		●	●	●	●		
42			シジュウカラ	<i>Parus minor</i>	留鳥		●		●	●	●	●	●	
43		ツバメ科	ツバメ	<i>Hirundo rustica</i>	夏鳥		●	●			●	●		
44			コシアカツバメ	<i>Hirundo daurica</i>	夏鳥						●			
45		ヒヨドリ科	ヒヨドリ	<i>Hypsipetes anaurotis</i>	留鳥		●	●	●	●	●	●	●	
46		ウグイス科	ウグイス	<i>Cettia diphone</i>	留鳥		●	●	●	●	●	●	●	
47			ヤブサメ	<i>Urosphera squameiceps</i>	夏鳥						●	●		
48		エナガ科	エナガ	<i>Aegithalos caedatus</i>	留鳥			●	●	●	●	●		
49		ムシクイ科	オオムシクイ	<i>Phylloscopus examinandus</i>	旅鳥				●					
50			センダイムシクイ	<i>Phylloscopus coronatus</i>	夏鳥						●	●		
51		チメドリ科	ソウシチョウ	<i>Leiothrix lutea</i>	留鳥	●	●	●	●	●	●	●		
52		メジロ科	メジロ	<i>Zosterops japonicus</i>	留鳥		●	●	●	●	●	●	●	
53		ムクドリ科	ムクドリ	<i>Spodiopsar cineraceus</i>	留鳥						●	●		
54		ヒタキ科	トラツグミ	<i>Zosterops lateralis</i>	冬鳥/ 留鳥				●	●				
55			クロツグミ	<i>Turdus cardis</i>	夏鳥				●					
56			シロハラ	<i>Turdus pallidus</i>	冬鳥					●				
57			ツグミ	<i>Turdus naumanni</i>	冬鳥					●	●			
58			ルリビタキ	<i>Tarsiger cyanurus</i>	冬鳥					●				
59			ジョウビタキ	<i>Phoenicurus aureus</i>	冬鳥					●				
60			イソヒヨドリ	<i>Menticola solitarius</i>	留鳥			●						
61			キビタキ	<i>Ficedula narcissina</i>	夏鳥						●	●		
62	オオルリ		<i>Cyanoptila cyanomelana</i>	夏鳥						●	●			
63	スズメ科		スズメ	<i>Passer montanus</i>	留鳥		●	●	●	●	●	●		
64	セキレイ科	キセキレイ	<i>Motacilla cinerea</i>	留鳥				●	●	●	●			
65		ハクセキレイ	<i>Motacilla alba</i>	留鳥		●	●	●	●	●	●			
66		セグロセキレイ	<i>Motacilla grandis</i>	留鳥		●		●	●	●	●			
67	アトリ科	アトリ	<i>Fringilla montifringilla</i>	冬鳥				●						
68		カワラヒワ	<i>Chloris sinica</i>	留鳥		●		●	●	●	●			
69		ベニマシコ	<i>Uragus sibiricus</i>	冬鳥					●					
70		シメ	<i>Coccothraustes coccothraustes</i>	冬鳥					●					
71		イカル	<i>Ephona personata</i>	留鳥					●					
72		ホオジロ科	ホオジロ	<i>Emberiza cioides</i>	留鳥		●		●	●	●	●		
73	カシラダカ		<i>Emberiza rustica</i>	冬鳥					●					
74	ミヤマホオジロ		<i>Emberiza elegans</i>	冬鳥					●					
75	アオジ		<i>Emberiza spodocephala</i>	冬鳥					●					
15	目	34科	75種			2種	25種	20種	27種	51種	51種	41種	9種	2種

注 1) 分類・配列・種名については、主に「河川水辺の国勢調査のための生物リスト（令和4年度生物リスト）」（令和4年、河川環境データベース/国土交通省）に準拠した。

注 2) 外来種は表 12. 7-3 の選定基準により選定した。

## ウ. 爬虫類

事業実施区域及びその周辺において確認された爬虫類は、表12.7-10に示すとおりである。  
現地調査の結果、2目8科12種の爬虫類が確認された。

表 12.7-10 爬虫類の確認種一覧

No.	目名	科名	種名	学名	外来種 注2)	調査時期				
						令和3年		令和4年		
						夏季	秋季	冬季 注3)	春季	
1	カメ目	イシガメ科	クサガメ	<i>Mauremys reevesii</i>	●				●	
2		ヌマガメ科	ミシシippアカミミガメ	<i>Trachemys scripta elegans</i>	●	●				
3	有鱗目	ヤモリ科	ニホンヤモリ	<i>Gekko japonicus</i>		●	●	●		
4		トカゲ科	ニホントカゲ	<i>Plestiodon japonicus</i>		●			●	
5		カナヘビ科	ニホンカナヘビ	<i>Takydromus tachydromoides</i>		●	●		●	
6		タカチホヘビ科	タカチホヘビ	<i>Achalinus spinalis</i>			●			
7		ナミヘビ科	シマヘビ	<i>Elaphe quadrivirgata</i>		●			●	
8			アオダイショウ	<i>Elaphe climacophora</i>					●	
9			シロマダラ	<i>Lycodon orientalis</i>				●		
10			ヒバカリ	<i>Hobius vibekari vibekari</i>				●		●
11			ヤマカガシ	<i>Rhabdophis tigrinus</i>				●		
12		クサリヘビ科	ニホンマムシ	<i>Gloydus blanfordii</i>			●	●		●
	2目	8科	12種		2種	7種	6種	1種	7種	

注1) 分類・配列・種名については、主に「河川水辺の国勢調査のための生物リスト（令和4年度生物リスト）」（令和4年、河川環境データベース/国土交通省）に準拠した。

注2) 外来種は表12.7-3の選定基準により選定した。

注3) 令和4年冬季は哺乳類調査時に確認された種である。

## エ. 両生類

事業実施区域及びその周辺において確認された両生類は、表12.7-11に示すとおりである。  
現地調査の結果、2目6科10種の両生類が確認された。

表 12.7-11 両生類の確認種一覧

No.	目名	科名	種名	学名	外来種 注3)	調査時期						
						令和3年		令和4年				
						夏季	秋季	冬季 注4)	早春季	春季	夏季	
1	有尾目	サンショウウオ科	セトウチサンショウウオ	<i>Hynobius setouchi</i>						●		
2	無尾目	ヒキガエル科	ニホンヒキガエル	<i>Bufo japonicus japonicus</i>		●			●	●		
3		アマガエル科	ニホンアマガエル	<i>Dryophytes japonicus</i>		●	●			●		
4		アカガエル科	ニホンアカガエル	<i>Rana japonica</i>						●		
5			アカガエル属注2)	<i>Rana</i> sp.						●		
6			トノサマガエル	<i>Pelophylax nigromaculatus</i>			●				●	●
7			ウシガエル	<i>Lithobates catesbeianus</i>	●	●	●	●			●	
8			ヌマガエル科	ヌマガエル	<i>Fejervarya kawamurai</i>		●	●			●	
9			アオガエル科	シュレーゲルアオガエル	<i>Zhangixalus schlegelii</i>			●			●	
10				モリアオガエル	<i>Zhangixalus arboreus</i>						●	
		2目	6科	10種		1種	5種	4種	1種	2種	9種	1種

注1) 分類・配列・種名については、主に「河川水辺の国勢調査のための生物リスト（令和4年度生物リスト）」（令和4年、河川環境データベース/国土交通省）に準拠した。

注2) 「アカガエル属」はニホンアカガエルかヤマアカガエルと考えられる。

注3) 外来種は表12.7-3の選定基準により選定した。

注4) 令和4年冬季は哺乳類調査時に確認された種である。

## オ. 魚類

事業実施区域及びその周辺において確認された魚類は、表12.7-12に示すとおりである。  
現地調査の結果、3目6科14種の魚類が確認された。

表 12.7-12 魚類の確認種一覧

No.	目名	科名	種名	学名	外来種 注2)	調査時期		環境 DNA 注3)
						令和 3年	令和 4年	
						秋季	春季	
1	コイ	コイ	コイ(改良品種型)	<i>Cyprinus carpio</i>	●	●		●
2			ゲンゴロウブナ	<i>Carassius cuvieri</i>			●	●
3			ギンブナ	<i>Carassius sp.</i>		●	●	
-			フナ属	<i>Carassius sp.</i>				●
4			オイカワ	<i>Opsariichthys platypus</i>				●
5			カワムツ	<i>Candidia temminckii</i>		●	●	●
6			ソウギョ	<i>Ctenopharyngodon idellus</i>	●			●
7			モツゴ	<i>Pseudorasbora parva</i>				●
-		コイ科	<i>Cyprinidae sp.</i>				●	
8		ドジョウ	ドジョウ	<i>Misgurnus anguillicaudatus</i>				●
9	ナマズ	ナマズ	ナマズ	<i>Silurus asotus</i>			●	●
10	スズキ	サンフィッシュ	ブルーギル	<i>Lepomis macrochirus macrochirus</i>	●	●	●	●
11			オオクチバス	<i>Micropterus salmoides</i>	●	●		●
12		ドンコ	ドンコ	<i>Odontobutis obscura</i>		●	●	●
13		ハゼ	カワヨシノボリ	<i>Rhinogobius flumineus</i>		●	●	●
14			シマヒレヨシノボリ	<i>Rhinogobius tyoni</i>		●	●	
-			ヨシノボリ属	<i>Rhinogobius sp.</i>				●
	3目	6科	14種		4種	8種	8種	12種

注1) 分類・配列・種名については、主に「河川水辺の国勢調査のための生物リスト(令和4年度生物リスト)」(令和4年、河川環境データベース/国土交通省)に準拠した。

注2) 外来種は表12.7-3の選定基準により選定した。

注3) サケ科及び海産魚種は地理的分布を踏まえて環境DNA分析結果から除外している。

## カ. 昆虫類

事業実施区域及びその周辺において確認された昆虫類は、表12. 7-13に示すとおりである。  
現地調査の結果、19目191科618種の昆虫類が確認された。

表 12. 7-13(1) 昆虫類の確認種一覧

No.	目名	科名	種名	学名	外来種 <small>注2)</small>	調査時期						
						令和3年		令和4年		令和5年		
						夏季	秋季	春季	夏季	冬季		
1	トビムシ	ヒメトビムシ	ヒメトビムシ科	<i>Hypogastruridae</i>		●	●	●				
2		アヤトビムシ	アヤトビムシ科	<i>Entombyridae</i>		●	●	●				
3		マルトビムシ	マルトビムシ科	<i>Sminthuridae</i>			●	●				
4		ヤマトビムシ	ヤマトビムシ科	<i>Pseudacharutidae</i>				●				
5	イシノミ	イシノミ	イシノミ科	<i>Machilidae</i>		●	●					
6	トンボ	アオイトトンボ	ホソミオツネントンボ	<i>Indolestes peregrinus</i>				●				
7			アオイトトンボ	<i>Lestes sponsa</i>		●						
8			オオアオイトトンボ	<i>Lestes temporalis</i>		●	●					
9		イトトンボ	アジアイトトンボ	<i>Ischnura asiatica</i>		●						
10			アオモンイトトンボ	<i>Ischnura senegalensis</i>		●						
11		モノサシトンボ	モノサシトンボ	<i>Copera annulata</i>		●						
12		カワトンボ	ハグロトンボ	<i>Atrocalopteryx atrata</i>		●						
13			アサヒナカワトンボ	<i>Mnais pruinosa</i>				●				
14		ヤンマ	クロスジギンヤンマ	<i>Anax nigrofasciatus nigrofasciatus</i>				●				
15			ギンヤンマ	<i>Anax parthenope julius</i>		●						
16		サナエトンボ	キイロサナエ	キイロサナエ	<i>Asiagomphus pyveri</i>				●			
17				オジロサナエ	<i>Stylogomphus sukuzii</i>				●			
18				タバサナエ	<i>Trigomphus citinus tabei</i>				●			
19				フタスジサナエ	<i>Trigomphus interruptus</i>				●			
20		オニヤンマ	オニヤンマ	<i>Anotogaster sieboldii</i>			●					
21		エゾトンボ	オオヤマトンボ	<i>Epophthalmia elegans</i>		●						
22		トンボ	ハラビロトンボ	ハラビロトンボ	<i>Lyriothemis pachygastra</i>				●			
23				シオカラトンボ	<i>Orthetrum albistylum speciosum</i>		●	●	●			
24				オオシオカラトンボ	<i>Orthetrum melania</i>		●					
25				ウスバキトンボ	<i>Pantala flavescens</i>		●					
26				コシアキトンボ	<i>Pseudothemis zonata</i>		●					
27				チョウトンボ	<i>Rhyothemis fuliginosa</i>		●					
28				マユタテアカネ	<i>Sympetrum eroticum eroticum</i>		●	●				
29				ヒメアカネ	<i>Sympetrum parvulum</i>		●	●				
30				リスアカネ	<i>Sympetrum risi risi</i>		●	●				
31				ゴキブリ	チャバネゴキブリ	モリチャバネゴキブリ	<i>Blattella nipponica</i>		●	●	●	
32				カマキリ	カマキリ	ハラビロカマキリ	<i>Hierodula patellifera</i>		●	●		
33						コカマキリ	<i>Statilia maculata</i>			●		
34				カワゲラ	オナシカワゲラ	オナシカワゲラ科	<i>Nemouridae</i>			●	●	
35				バッタ	コロギス	ハネナシコロギス	<i>Nippancistroger testaceus</i>				●	
36	カマドウマ	ハヤシウマ	<i>Diestramera itodo</i>				●	●				
37		マダラカマドウマ	<i>Diestramera japonica</i>				●					
38	ツユムシ	ツユムシ	ツユムシ		<i>Phaneroptera falcata</i>			●				
39			ヒメクダマキモドキ		<i>Phaulula macilentia</i>			●				
40	キリギリス	ウスイロササキリ	ウスイロササキリ		<i>Conocephalus chinensis</i>			●				
41			オナガササキリ		<i>Conocephalus exemptus</i>			●				
42			ホシササキリ		<i>Conocephalus maculatus</i>			●				
43			ササキリ		<i>Conocephalus melanus</i>		●					
44			ヒメギス		<i>Eobiana engelhardti subtropica</i>				●			
45			クビキリギス	<i>Eucocephalus varius</i>			●					
46			ニシキリギリス	<i>Gampsocleis buergeri</i>		●						

表 12.7-13(2) 昆虫類の確認種一覧

No.	目名	科名	種名	学名	外来種 <small>注2)</small>	調査時期				
						令和3年		令和4年		令和5年
						夏季	秋季	春季	夏季	冬季
47	バッタ	キリギリス	ヤブキリ	<i>Tettigonia orientalis</i>				●		
48		ケラ	ケラ	<i>Gryllotalpa orientalis</i>		●				
49		マツムシ	ヒロバネカントン	<i>Oecanthus euryletra</i>		●	●			
50			カントン	<i>Oecanthus longicauda</i>			●			
51			アオマツムシ	<i>Trujalia hibionis</i>		●	●			
52		コオロギ	ハラオカメコオロギ	<i>Loxoblemmus campestris</i>			●			
53			モリオカメコオロギ	<i>Loxoblemmus sylvestris</i>			●			
54			クマスズムシ	<i>Sclerogryllus punctatus</i>			●			
55			エンマコオロギ	<i>Teleogryllus ema</i>		●	●			
56			ツツレサセコオロギ	<i>Velarifictorus micado</i>		●	●			
57		カネタタキ	カネタタキ	<i>Ornebius kanetataki</i>		●	●			
58		ヒバリモドキ	マダラスズ	<i>Dianemobius nigrofasciatus</i>		●	●			
59			シバズ	<i>Polionemobius mikado</i>		●				
60			ヒメズ	<i>Pteronemobius nigrescens</i>			●			
61			クサヒバリ	<i>Swistella bifasciata</i>			●			
62		バッタ	ショウリョウバッタ	<i>Acrida cinerea</i>		●				
63			クルマバッタモドキ	<i>Oedaleus infernalis</i>				●		
64			ツマグロバッタ	<i>Stethophyma magister</i>		●				
65			イボバッタ	<i>Triophidia japonica</i>		●				
66		イナゴ	ハネナガイナゴ	<i>Oxya japonica</i>			●			
67			ヤマトフキバッタ	<i>Parapodisma setouchiensis</i>		●				
68	ツチイナゴ		<i>Patanga japonica</i>		●					
69	オンブバッタ	オンブバッタ	<i>Atractomorpha lata</i>		●	●				
70	ヒシバッタ	トゲヒシバッタ	<i>Criotettix japonicus</i>			●				
71		ハラヒシバッタ	<i>Tetrix japonica</i>		●	●	●			
72		ノミバッタ	ノミバッタ	<i>Xya japonica</i>			●			
73	ナナフシ	ナナフシ	トゲナナフシ	<i>Neohirasea japonica</i>			●			
74		ナナフシモドキ	<i>Ranulus mikado</i>				●			
75	チャタテムシ	ホソチャタテ	ハグルマチャタテ	<i>Matsumuraiella rapicincta</i>		●				
76		チャタテ	チャタテ科	Psocidae		●	●			
77	アザミウマ	クダアザミウマ	クダアザミウマ科	Phlaeothripidae			●			
78	カメムシ	ヒシウンカ	ヒシウンカ	<i>Pentastiridius apicalis</i>			●			
79		ウンカ	ナガラガワウンカ	<i>Garaga nagaragawana</i>			●			
80			セジロウンカ	<i>Sogatella furcifera</i>		●	●			
81			セジロウンカモドキ	<i>Sogatella kolophon</i>		●				
82		ハネナガウンカ	アカハネナガウンカ	<i>Diostronbus politus</i>		●				
83		テングスケバ	ツマグロスケバ	<i>Orthopagus lunulifer</i>			●			
84		アオハハゴロモ	アオハハゴロモ	<i>Geisha distinctissima</i>		●	●			
85			トビイロハゴロモ	<i>Mimphantisia maritima</i>			●			
86		マルウンカ	マルウンカ	<i>Gergithus variabilis</i>			●	●		
87			クサビウンカ	<i>Sarima amagisana</i>		●				
88		シマウンカ	シマウンカ	<i>Nisia nervosa</i>			●			
89		ハゴロモ	スケハハゴロモ	<i>Euricania fascialis</i>		●				
90			ベッコウハゴロモ	<i>Orosanga japonicus</i>		●	●			
91	グンバイウンカ	ヒラタグンバイウンカ	<i>Ossoides lineatus</i>		●					
92	セミ	クマゼミ	<i>Cryptotympana facialis</i>		●					
93		アブラゼミ	<i>Graptopsaltria nigrofuscata</i>		●					
94		ミンミンゼミ	<i>Hyalessa maculaticollis</i>		●					
95		ツクツクボウシ	<i>Meimuna opalifera</i>			●				
96		ニイニイゼミ	<i>Platyleura kaenferi</i>		●					
97		ヒグラシ	<i>Tanna japonensis</i>		●					
98		ハルゼミ	<i>Tejposia vacua</i>				●			
99	アワフキムシ	ハマベアワフキ	<i>Aphrophora maritima</i>		●	●				

表 12.7-13(3) 昆虫類の確認種一覧

No.	目名	科名	種名	学名	外来種 <small>注2)</small>	調査時期					
						令和3年		令和4年		令和5年	
						夏季	秋季	春季	夏季	冬季	
100	カメムシ	アワフキムシ	ヒメモンキアワフキ	<i>Aphrophora rugosa</i>			●	●			
101		コガシラアワフキムシ	コガシラアワフキ	<i>Eoscarta assimilis</i>		●	●				
102		ヨコバイ	トバヨコバイ	<i>Alobaldia tobæ</i>				●			
103			ツマグロオオヨコバイ	<i>Bothrogonia ferruginea</i>				●	●		
104			オオヨコバイ	<i>Cicadella viridis</i>		●					
105			シロヒメヨコバイ	<i>Eurhadina betularia</i>		●					
106			ヤノズキンヨコバイ	<i>Idiocerus yanonis</i>				●			
107			コミミズク	<i>Ledropsis discolor</i>				●	●		
108			ホシヒメヨコバイ	<i>Limnoscilla multipunctata</i>		●	●				
109			クワキヨコバイ	<i>Pagaronia guttigera</i>						●	
—				Typhlocybinae 亜科	<i>Typhlocybinae</i>				●		
110			ズキンヨコバイ	ズキンヨコバイ科	<i>Idioceridae</i>				●		
111			キジラミ	Cacopsylla 属	<i>Cacopsylla</i> sp.					●	
112		アブラムシ	Aphis 属	<i>Aphis</i> sp.					●		
113			クリオオアブラムシ	<i>Lachnus tropicalis</i>				●			
114		ワタフキカイガラムシ	オオワラジカイガラムシ	<i>Drosicha corpulenta</i>					●		
115		サンガメ	アカサンガメ	<i>Cyrtocoris ruscatus</i>		●	●	●			
116			トビイロサンガメ	<i>Oncocephalus assimilis</i>			●				
117			ヒゲナガサンガメ	<i>Serendiba staliana</i>		●	●	●			
118			シマサンガメ	<i>Shchedanolestes impressicollis</i>			●	●			
119			ヤニサンガメ	<i>Velinus nodipes</i>				●			
120			ゲンバймシ	オオウチワゲンバймシ	<i>Cantacader quinquecostatus</i>				●		
121		アワダチソウゲンバймシ		<i>Corythucha mamorata</i>		●	●				
122		Stephanitis 属		<i>Stephanitis</i> sp.		●					
123		カスミカメムシ	コアオカスミカメ	<i>Apolygus lucorum</i>		●	●				
124			ツマグロハギカスミカメ	<i>Apolygus subpulchellus</i>					●		
125			マダラカスミカメ	<i>Cyphodemiidea saundersi</i>					●		
126			ウスバツヤカスミカメ	<i>Deraeocoris castaneae</i>		●					
127			カワヤナギツヤカスミカメ	<i>Deraeocoris claspericapilatus</i>					●		
128			メンガタカスミカメ	<i>Eurystylus coelestialium</i>				●			
129			Hallodapus 属	<i>Hallodapus</i> sp.		●					
130			クロマルカスミカメ	<i>Orthocephalus finestus</i>					●		
131			クロスジヤナギカスミカメ	<i>Orthotylus pallens</i>					●		
132			ヒョウタンカスミカメ	<i>Pilophorus setulosus</i>		●					
133			Psallus 属	<i>Psallus</i> sp.					●		
134			アカスジカスミカメ	<i>Stenotus rubrovittatus</i>		●	●				
135			イネホソミドリカスミカメ	<i>Trigonotylus caelestialium</i>		●					
—				Phylinae 亜科	<i>Phylinae</i>				●		
136			マキバサンガメ	マキバサンガメ科	<i>Nabidae</i>				●		
137			オオホシカメムシ	オオホシカメムシ	<i>Physopelta gutta</i>		●	●	●		
138				ヒメホシカメムシ	<i>Physopelta parviceps</i>			●	●		
139		ホシカメムシ	クロホシカメムシ	<i>Pyrrhocoris sinuaticollis</i>				●			
140		ホソヘリカメムシ	クモヘリカメムシ	<i>Leptocoris chinensis</i>				●			
141			ニセヒメクモヘリカメムシ	<i>Paraplesius vulgaris</i>				●			
142			ホソヘリカメムシ	<i>Riptortus pedestris</i>		●	●				
143		ヘリカメムシ	ホオズキカメムシ	<i>Acanthocoris sordidus</i>		●	●	●			
144			ホソハリカメムシ	<i>Cletus punctiger</i>		●	●	●			
145			ホシハラヒロヘリカメムシ	<i>Homocerus unipunctatus</i>		●	●	●			
146	オオツマキヘリカメムシ		<i>Hygia lativentris</i>		●	●	●				
147	ヒメヘリカメムシ		スカシヒメヘリカメムシ	<i>Liorhyssus hyalinus</i>		●		●			
148		ブチヒメヘリカメムシ	<i>Stictopleurus punctatonevrosus</i>		●		●				

表 12.7-13(4) 昆虫類の確認種一覧

No.	目名	科名	種名	学名	外来種 注2)	調査時期				
						令和3年		令和4年		令和5年
						夏季	秋季	春季	夏季	冬季
149	カメムシ	ナガカメムシ	オオメナガカメムシ	<i>Geocoris varius</i>		●	●	●		
150			ツノコバネナガカメムシ	<i>Iphicrates spinicapus</i>				●		
151			Lamproplax 属	<i>Lamproplax</i> sp.				●		
152			ホソコバネナガカメムシ	<i>Macropes donubilus</i>				●		
153			チャイロナガカメムシ	<i>Neolethaeus dallasi</i>				●		
154			ヒメナガカメムシ	<i>Nysius plebeius</i>				●	●	●
155			ヒラタヒョウタンナガカメムシ	<i>Pachytrachius luridus</i>				●		
156			ヒゲナガカメムシ	<i>Pachygrontha antennata</i>				●		●
157			クロスジヒゲナガカメムシ	<i>Pachygrontha similis</i>				●		
158			コバネヒョウタンナガカメムシ	<i>Togo hemipterus</i>				●		
159			メダカナガカメムシ	メダカナガカメムシ	<i>Chauliops fallax</i>			●		
160			ツノカメムシ	ヒメツノカメムシ	<i>Elasmucha putani</i>				●	
161				モンキツノカメムシ	<i>Sastragala scutellata</i>				●	
162			ツチカメムシ	ヒメツヤツチカメムシ	<i>Chilocoris nigricans</i>				●	
163				ヒメツチカメムシ	<i>Fromundus pygmaeus</i>				●	●
164				ツチカメムシ	<i>Macroscytus japonensis</i>					●
165			カメムシ	シロヘリカメムシ	<i>Aenaria lewisi</i>			●	●	
166				ウシカメムシ	<i>Alcimcoris japonensis</i>				●	
167	ブチヒゲカメムシ	<i>Dolycoris baccarum</i>					●			
168	ハナダカカメムシ	<i>Dybowskyia reticulata</i>						●		
169	キュウシュウクチブトカメムシ	<i>Eccanthecora kyushuensis</i>					●			
170	ムラサキシラホシカメムシ	<i>Eysarcoris annamita</i>						●		
171	シラホシカメムシ	<i>Eysarcoris ventralis</i>					●	●		
172	ツヤアオカメムシ	<i>Glaucias subpunctatus</i>						●		
173	エビイロカメムシ	<i>Gonopsis affinis</i>						●		
174	クサギカメムシ	<i>Halyomorpha halys</i>					●	●	●	
175	ツマジロカメムシ	<i>Menida violacea</i>					●	●		
176	チャバネアオカメムシ	<i>Plautia stali</i>					●	●	●	
177	イネクロカメムシ	<i>Scotinophara lurida</i>						●		
178	ヒメクロカメムシ	<i>Scotinophara scottii</i>							●	
179	ルリクチブトカメムシ	<i>Zicrona caerulea</i>					●	●		
180	マルカメムシ	マルカメムシ	<i>Megacopta punctatissima</i>			●	●	●		
181	クヌギカメムシ	ヘラクヌギカメムシ	<i>Urostylis annulicomis</i>			●				
182	アメンボ	オオアメンボ	<i>Aquarius elongatus</i>			●				
183		アメンボ	<i>Aquarius paludum paludum</i>			●		●		
184		ヒメアメンボ	<i>Gerris latiaabdominis</i>				●	●		
185	カタビロアメンボ	ホルヘートケシカタビロアメンボ	<i>Microwelia horvathi</i>			●		●		
186	ミズムシ	コミズムシ	<i>Sigara substriata</i>			●				
187	コオイムシ	コオイムシ	<i>Appasus japonicus</i>			●		●		
188	タイコウチ	ミズカマキリ	<i>Ranatra chinensis</i>					●		
189	マツモムシ	マツモムシ	<i>Notonecta trigtutata</i>			●				
190	ヘビトンボ	ヘビトンボ	<i>Prothemis grandis</i>			●				
191	アミメカゲロウ	ヒメカゲロウ	ヒメカゲロウ科	<i>Hemerobiidae</i>			●			
192	ツノトンボ	ツノトンボ	<i>Ascalchybris subjacens</i>			●				
193	ウスバカゲロウ	ウスバカゲロウ	<i>Baliga micans</i>			●				
194	シリアゲムシ	ヤマトシリアゲ	<i>Panorpa japonica</i>			●	●	●		
195		ブライアシリアゲ	<i>Panorpa pryeri</i>					●		
196	トビケラ	コガタシマトビケラ	<i>Cheumatopsyche brevilineata</i>			●				
—		コガタシマトビケラ属	<i>Cheumatopsyche</i> sp.					●		
197		ウルマーシマトビケラ	<i>Hydropsyche orientalis</i>					●		
198	ニンギョウトビケラ	ニンギョウトビケラ	<i>Goera japonica</i>					●		

表 12.7-13(5) 昆虫類の確認種一覧

No.	目名	科名	種名	学名	外来種 注2)	調査時期				
						令和3年		令和4年		令和5年
						夏季	秋季	春季	夏季	冬季
199	チョウ	ミノガ	ニトベミノガ	<i>Mahasera aurea</i>		●				
200		キバガ	キバガ科	<i>Gelechiidae</i>				●		
201		ヒゲナガキバガ	ヒメフタテンホソヒゲナガキバガ	<i>Lecithocera tridentata</i>		●				
202		マダラガ	ホタルガ	<i>Pidorus atratus</i>		●	●	●		
203		セセリチョウ	ダイミョウセセリ	<i>Daimio tethys tethys</i>		●				
204			チャバネセセリ	<i>Pelopidas mathias oberthueri</i>			●			
205		シジミチョウ	ムラサキシジミ	<i>Arhopala japonica</i>		●				
206			ルリシジミ	<i>Celastrina argiolus ladanides</i>		●				
207			ウラギンシジミ	<i>Curetis acuta paracuta</i>		●	●			
208			ウラナシジミ	<i>Lampides boeticus</i>			●			
209			ベニシジミ	<i>Lycaena phlaeas chinensis</i>		●		●		
210			ヤマトシジミ本土亜種	<i>Zizeeria maha argia</i>		●	●	●		
211		タテハチョウ	ミドリヒョウモン	<i>Argynnis paphia tsushima</i>			●			
212			ツマグロヒョウモン	<i>Argyreus hyperbius hyperbius</i>		●	●			
213			イシガケチョウ	<i>Cyrestis thyodamas mabella</i>			●			
214			ゴマダラチョウ本土亜種	<i>Hestina persimilis japonica</i>		●		●		●
215			クロヒカゲ本土亜種	<i>Lethe diara diara</i>		●				
216			ヒカゲチョウ	<i>Lethe sicelis</i>			●			
217			テングチョウ日本本土亜種	<i>Libythea lepita celtoides</i>				●		
218			アサマイチモンジ	<i>Limnitis glorifica</i>		●				
219	コジャノメ		<i>Mycalesis francisca perdiccas</i>				●			
220	ヒメジャノメ		<i>Mycalesis gotama fulginia</i>		●					
221	サトキマダラヒカゲ		<i>Neope goschkevitschii</i>		●	●	●			
222	コムシジ本州以南亜種		<i>Neptis sappho intermedia</i>		●	●	●			
223	アサギマダラ		<i>Parantica sita nipponica</i>			●				
224	キタテハ		<i>Polygonia c-aureum c-aureum</i>		●					
225	ヒメアカタテハ		<i>Vanessa cardui</i>			●				
226	ヒメウラナミジャノメ		<i>Ypthima argus argus</i>		●		●			
227	アゲハチョウ		ジャコウアゲハ本土亜種	<i>Atrophaneura alcinous alcinous</i>				●		
228			アオスジアゲハ	<i>Graphium sarpedon nipponum</i>		●		●		
229		カラスアゲハ本土亜種	<i>Papilio dehaanii dehaanii</i>				●			
230		モンキアゲハ	<i>Papilio helenus niconicolens</i>			●	●			
231		ミヤマカラスアゲハ	<i>Papilio maackii</i>		●					
232		クロアゲハ本土亜種	<i>Papilio protenor demetrius</i>		●		●			
233		アゲハ	<i>Papilio xuthus</i>		●	●				
234		シロチョウ	モンキチョウ	<i>Colias erate poliographa</i>			●	●		
235	キタキチョウ		<i>Eurema mandarina</i>		●	●	●			
236	モンシロチョウ		<i>Pieris rapae crucivora</i>		●	●				
237	ツトガ	ツトガ	<i>Ancylolamia japonica</i>		●					
238		モンウスグロノメイガ	<i>Bradina geminalis</i>		●					
239		Calamotropha 属	<i>Calamotropha</i> sp.		●					
240		キアヤヒメノメイガ	<i>Diasemia accalis</i>			●				
241		マエアカスカシノメイガ	<i>Palpita nigropunctalis</i>			●				
242		シバツトガ	<i>Parapediasia teterella</i>				●			
243		シロオビノメイガ	<i>Spoladea recurvalis</i>			●				
244		マドガ	マドガ	<i>Thyris usitata</i>			●			
245	アゲハモドキガ	キンモンガ	<i>Psychostrophia melanargia</i>			●				
246	ジャクガ	チャマダラエダジャク	<i>Amblychia insueta</i>			●				
247		クロクモエダジャク	<i>Apocleora rimosa</i>			●				
248		コスジシロエダジャク	<i>Cabera purus</i>			●	●			

表 12.7-13(6) 昆虫類の確認種一覧

No.	目名	科名	種名	学名	外来種 <small>注2)</small>	調査時期					
						令和3年		令和4年		令和5年	
						夏季	秋季	春季	夏季	冬季	
249	チョウ	シャクガ	コヨツメアオシャク	<i>Canostola subtiliaris nympha</i>		●					
250			ウコンエダシャク	<i>Corymica pryeri</i>			●				
251			オオトビスジエダシャク	<i>Ectropis excellens</i>				●			
252			キマダラオオナミシャク	<i>Gandaritis fixseni</i>		●	●				
253			マエキトビエダシャク	<i>Nothomiza formosa</i>					●		
254			ナミスジシロエダシャク	<i>Orthocabera tinagmaria tinagmaria</i>		●					
255			フトスジツバメエダシャク	<i>Ourapteryx japonica</i>				●			
256			ウスキツバメエダシャク	<i>Ourapteryx nivea</i>				●			
257			ツマキエダシャク	<i>Platycerota incertaria</i>				●	●		
258			マエキヒメシャク	<i>Scopula nigropunctata imbella</i>						●	
259			スズメガ	ホシホウジャク	<i>Macroglossum pyrhosticta</i>			●			
260			シャチホコガ	オオエグリシャチホコ	<i>Pterostoma gigantium</i>		●		●		
261				シャチホコガ	<i>Stauropus fagi persimilis</i>			●			
262	ヒトリガ	キシタホソバ	<i>Eilema vetusta aegrota</i>		●						
263	ドクガ	ゴマフリドクガ日本本土・奄美亜種	<i>Smeria pulverea pulverea</i>		●						
264	ヤガ	カブラヤガ	<i>Agrotis segetum</i>			●					
265		キノコヨトウ	<i>Gryphia mitsuhashi</i>			●					
266		オオウンモンクチバ	<i>Mocis undata</i>					●			
267	ハエ	ヒメガガンボ	ヒメガガンボ科	<i>Limoniidae</i>			●	●			
268	ガガンボ	ベッコウガガンボ	<i>Dictenidia pictipennis fasciata</i>		●						
269		ユウレイガガンボ	<i>Dolichocheza albitibia</i>		●						
270		キリウジガガンボ	<i>Tipula aino</i>					●			
—		ガガンボ属	<i>Tipula</i> sp.		●			●			
271	チョウバエ	チョウバエ科	<i>Psychodidae</i>			●	●				
272	ヌカカ	ヌカカ科	<i>Ceratopogonidae</i>			●					
273	ユスリカ	ダンダラヒメユスリカ属	<i>Ablabesmyia</i> sp.					●			
274		セスジユスリカ	<i>Chironomus yoshimatsui</i>		●						
—		ユスリカ属	<i>Chironomus</i> sp.					●			
—		Chironominae 亜科	<i>Chironominae</i>		●			●			
275		Orthoclaadiinae 亜科	<i>Orthoclaadiinae</i>				●	●			
—		Tanypodinae 亜科	<i>Tanypodinae</i>				●	●			
276	ブユ	ブユ科	<i>Simuliidae</i>					●			
277	ケバエ	ヒメセアカケバエ	<i>Penthetria japonica</i>			●					
—		ケバエ科	<i>Bibionidae</i>					●			
278	タマバエ	タマバエ科	<i>Cecidomyiidae</i>		●	●	●				
279	キノコバエ	キノコバエ科	<i>Mycetophilidae</i>		●	●	●				
280	クロバネキノコバエ	クロバネキノコバエ科	<i>Sciariidae</i>		●	●	●				
281	ミズアブ	ミズアブ科	<i>Stratiomyidae</i>					●			
282	アブ	アカウシアブ	<i>Tabanus chrysurus</i>		●						
283		ヤマトアブ	<i>Tabanus rufidens</i>		●						
284	ムシヒキアブ	アオメアブ	<i>Cophinopoda chinensis</i>			●					
285		ナミマガリケムシヒキ	<i>Neotanus angusticornis</i>		●	●	●				
286		シオヤアブ	<i>Promachus yesonicus</i>		●						
287	ツリアブ	ニトベハラボソツリアブ	<i>Systreps nitobei</i>		●						
288	アシナガバエ	マダラアシナガバエ	<i>Mesataga nebulosus</i>		●						
—		アシナガバエ科	<i>Dolichopodidae</i>					●			
289	ハナアブ	ナガヒラタアブ	<i>Asarkina porcina</i>			●					
290		クロヒラタアブ	<i>Betasyrphus serarius</i>			●					
291		ホソヒラタアブ	<i>Episyrphus talteatus</i>			●	●				
292		シマハナアブ	<i>Eristalis cerealis</i>			●					

表 12.7-13(7) 昆虫類の確認種一覧

No.	目名	科名	種名	学名	外来種 <small>注2)</small>	調査時期				
						令和3年		令和4年		令和5年
						夏季	秋季	春季	夏季	冬季
293	ハエ	ハナアブ	ナミハナアブ	<i>Eristalis tenax</i>			●			
294			フタホシヒラタアブ	<i>Epeodes corollae</i>			●			
295			タカサゴハラブトハナアブ	<i>Mallota takasagensis</i>		●				
296			シロスジナガハナアブ	<i>Milesia undulata</i>					●	
297			オオハナアブ	<i>Phytomia zonata</i>				●		
298			ホソヒメヒラタアブ	<i>Sphaerophoria macrogaster</i>				●	●	
299			ニトベナガハナアブ	<i>Tanostoma nitobei</i>					●	
300			ベッコウハナアブ	<i>Volucella jeddona</i>					●	
301			ノミバエ	ノミバエ科	<i>Phoridae</i>		●	●	●	
302			ハモグリバエ	ハモグリバエ科	<i>Agromyzidae</i>				●	
303		ヒゲブトコバエ	クロメマトイ	<i>Cryptochetum nipponense</i>		●				
304		ショウジョウバエ	Drosophila 属	<i>Drosophila</i> sp.		●	●	●		
305		ナガズヤセバエ	ホシアシナガヤセバエ	<i>Styocladus appendiculatus</i>		●				
306		ヤチバエ	ヒゲナガヤチバエ	<i>Sepedon aenescens</i>		●	●			
307	ツヤホソバエ	ヒトデンツヤホソバエ	<i>Sepsis monostigma</i>		●					
308	ハヤトビバエ	ハヤトビバエ科	<i>Sphaeroceridae</i>		●	●	●			
309	ミバエ	ミバエ科	<i>Tephritidae</i>		●					
310	クロバエ	キンバエ	キンバエ	<i>Lucilia caesar</i>		●	●			
311			ミドリキンバエ	<i>Lucilia illustris</i>				●		
312			ツマグロキンバエ	<i>Stomoxys obsoleta</i>				●		
—			クロバエ科	<i>Calliphoridae</i>		●		●		
313	ニクバエ	センチニクバエ	<i>Sarcophaga peregrina</i>		●					
314	ヤドリバエ	Servillia 属	<i>Servillia</i> sp.				●			
315	コウチュウ	ホソクビゴミムシ	オオホソクビゴミムシ	<i>Brachinus scotamedes</i>				●		
316		オサムシ	キイロチビゴモクムシ	<i>Acupalpus inornatus</i>		●				
317			クロカタバシオサムシ	<i>Calosoma maximowiczi</i>					●	
318			マイマイカブリ	<i>Carabus blaptoides blaptoides</i>				●		
319			オオオサムシ	<i>Carabus dehaeni dehaeni</i>					●	
320			マヤサンオサムシ	<i>Carabus mayasanus mayasanus</i>		●	●	●		
321			ヤコンオサムシ	<i>Carabus yacoinus yacoinus</i>		●	●			
322			アトボシアオゴミムシ	<i>Chlaenius naeviger</i>					●	
323			アオゴミムシ	<i>Chlaenius pallipes</i>		●				
324			アトワアオゴミムシ	<i>Chlaenius virgulifer</i>		●				
325			オオアオモリヒラタゴミムシ	<i>Colpodes bucharani</i>		●				
326			ヤセモリヒラタゴミムシ	<i>Colpodes elainus elainus</i>				●		
327			セアカヒラタゴミムシ	<i>Dolichus halensis</i>				●		
328			スジアオゴミムシ	<i>Haplochlaenius costiger</i>		●	●	●		
329			ヒメケゴモクムシ	<i>Harpalus jureceki</i>				●		
330			ウスアカクロゴモクムシ	<i>Harpalus sinicus</i>				●		
331			キクピアオアトキリゴミムシ	<i>Lachnolebia cribricollis</i>		●				
332			ホシハネヒロアトキリゴミムシ	<i>Lebia calycophora</i>		●		●		
333			オオゴミムシ	<i>Lesticus magnus</i>				●		
334			オオヒラタゴミムシ	<i>Platynus magnus</i>				●		
335			オオナガゴミムシ	<i>Pterostichus fortis</i>		●				
336			トックリナガゴミムシ	<i>Pterostichus leptoderoides japonensis</i>				●		
337			ホソヒョウタンゴミムシ	<i>Scarites acutidens</i>		●				
338			クロツヤヒラタゴミムシ	<i>Synuchus cyclodentus</i>				●		
339			ヒメツヤヒラタゴミムシ	<i>Synuchus dulcigradus</i>		●	●	●		
340			オオクロツヤヒラタゴミムシ	<i>Synuchus nitidus</i>		●	●	●		
341			ナガクロツヤヒラタゴミムシ	<i>Synuchus silvester</i>				●		
342			ヨツモンコムズギワゴミムシ	<i>Tachyura laetifica</i>		●				

表 12.7-13(8) 昆虫類の確認種一覧

No.	目名	科名	種名	学名	外来種 <small>注2)</small>	調査時期				
						令和3年		令和4年		令和5年
						夏季	秋季	春季	夏季	冬季
343	コウチュウ	オサムシ	クビアカツヤゴモクムシ	<i>Trichotichnus longitarsis</i>		●				
344			ルイスオオゴミムシ	<i>Trigonotoma lewisii</i>		●				
345		ハンミョウ	ニワハンミョウ	<i>Cicindela japona</i>			●			
346			ナミハンミョウ	<i>Sphiodela japonica</i>		●				
347		ゲンゴロウ	ヒメゲンゴロウ	<i>Rhantus suturalis</i>				●		
348		ガムシ	コガムシ	<i>Hydrochara affinis</i>		●				
349		エンマムシ	オオヒラタエンマムシ	<i>Hololepta anurensis</i>		●				
350			ヒメエンマムシ	<i>Margarinotus weymanni</i>				●		
351		タマキノコムシ	Pseudoliodes 属	<i>Pseudoliodes</i> sp.		●				
—			タマキノコムシ科	<i>Leiodidae</i>				●		
352		ムクゲキノコムシ	ムクゲキノコムシ科	<i>Ptiliidae</i>				●		
353		シデムシ	オオヒラタシデムシ	<i>Eusilpha japonica</i>		●				
354			ヨツボシモンシデムシ	<i>Nicrophorus quadripunctatus</i>			●			
355		ハネカクシ	キアシシリグロハネカクシ	<i>Astenus latifrons</i>			●			
356			ニセヒメユミセミゾハネカクシ	<i>Carpelimus vagus</i>				●		
—			Carpelimus 属	<i>Carpelimus</i> sp.		●				
357			オオハネカクシ	<i>Creophilus maxillosus</i>			●			
358			Geodromicus 属	<i>Geodromicus</i> sp.				●		
359			クロサビイロマルズオオハネカクシ	<i>Ocyrus lewisius</i>		●		●		
360			ハネカクシ	Olophrum 属	<i>Olophrum</i> sp.				●	
361		Oxytelus 属		<i>Oxytelus</i> sp.			●	●		
362		アオバアリガタハネカクシ		<i>Paederus fuscipes</i>			●			
363		ヒメクロトガリオオズハネカクシ		<i>Platydracus brachycerus</i>			●			
364		ヤマトデオキノコムシ		<i>Scaphidium japonum</i>		●		●		
365		Scaphobaeocera 属		<i>Scaphobaeocera</i> sp.		●		●		
366		Stenus 属		<i>Stenus</i> sp.				●		
367		Tachinus 属		<i>Tachinus</i> sp.				●		
368		Thinodromus 属		<i>Thinodromus</i> sp.		●		●		
369		Aleocharinae 亜科		<i>Aleocharinae</i>		●	●	●		
370		アリヅカムシ		アリヅカムシ科	<i>Peslaphidae</i>			●		
371		マルハナノミ	Cyphon 属	<i>Cyphon</i> sp.		●				
372		クワガタムシ	ミヤマクワガタ	<i>Lucanus maculiformator maculiformator</i>			●			
373			ノゴギリクワガタ	<i>Protopocoilus inclinatus inclinatus</i>		●				
374		コガネムシ	コイチャコガネ	<i>Adoretus tenuimaculatus</i>				●		
375	アオドウガネ		<i>Anomala albopilosa albopilosa</i>		●					
376	ヒラタアオコガネ		<i>Anomala octiescostata</i>				●			
377	ヒメコガネ		<i>Anomala rufocuprea</i>		●					
378	セマダラコガネ		<i>Exomala orientalis</i>		●		●			
379	コアオハナムグリ		<i>Gametis jucunda</i>			●	●			
380	クロハナムグリ		<i>Glycyphana fulvitema</i>				●			
381	ナガチャコガネ		<i>Heptophylla picea</i>		●					
382	オオクロコガネ		<i>Holotrichia parallela</i>				●			
383	アシナガコガネ		<i>Hoplia communis</i>				●			
384	クロアシナガコガネ		<i>Hoplia moerens</i>				●			
385	アカピロウドコガネ		<i>Melolera castanea</i>		●	●				
386	ピロウドコガネ		<i>Melolera japonica</i>		●	●				
387	オオピロウドコガネ		<i>Melolera renardi</i>		●					
388	ハラゲピロウドコガネ		<i>Nipponoserica pubiventris</i>				●			
389	ウスチャコガネ		<i>Phyllopertha diversa</i>				●			
390	マメコガネ		<i>Popillia japonica</i>				●			

表 12.7-13(9) 昆虫類の確認種一覧

No.	目名	科名	種名	学名	外来種 <small>注2)</small>	調査時期				
						令和3年		令和4年		令和5年
						夏季	秋季	春季	夏季	冬季
391	コウチュウ	コガネムシ	シラホシハナムグリ	<i>Protaetia brevitarsis brevitarsis</i>		●				
392			シロテンハナムグリ	<i>Protaetia orientalis sulamorea</i>		●				
393			カナブン	<i>Pseudotrynorhina japonica</i>		●				
394			ナエドコチャイロコガネ	<i>Sericania mimica</i>					●	
395			カブトムシ	<i>Trypoxylus dichotomus septentrionalis</i>		●				
396		ヒラタドロムシ	マルヒラタドロムシ	<i>Eubriarax ramicomis</i>					●	
397		ナガハナノミ	エダヒゲナガハナノミ	<i>Epilichas flabellatus flabellatus</i>					●	
398		タマムシ	ウバタマムシ	<i>Chalcophora japonica japonica</i>		●				
399			タマムシ	<i>Chrysochroa fulgidissima fulgidissima</i>		●				
400			シロオビナカボソタマムシ	<i>Coraeus quadriundulatus</i>						●
401			クズノチビタマムシ	<i>Trachys auricollis</i>		●	●			
402			コウゾチビタマムシ	<i>Trachys broussonetiae</i>						●
403			ダングラチビタマムシ	<i>Trachys variolaris</i>						●
404			コメツクムシ	サビキコリ	<i>Aegypnus binodulus binodulus</i>		●	●	●	
405		ヒメサビキコリ		<i>Aegypnus scrofa scrofa</i>		●	●			
406		ケブカクロコメツキ		<i>Anpedus vestitus vestitus</i>		●				
407		ウスカバイロコメツキ		<i>Chatarayus ishiharai ishiharai</i>						●
408		ドウガネヒラタコメツキ		<i>Corymbitodes gratus</i>						●
409		ウバタマコメツキ		<i>Cryptalaus berus</i>		●				
410		ベニコメツキ		<i>Denticollis nipponensis nipponensis</i>						●
411	チャイロコメツキ	<i>Heterumelater bicarinatus bicarinatus</i>			●					
412	クロツヤクシコメツキ	<i>Melanotus amosus</i>							●	
413	クシコメツキ	<i>Melanotus legatus legatus</i>			●				●	
414	オオナガコメツキ	<i>Nipponcelater sieboldi sieboldi</i>			●					
415	クロコハナコメツキ	<i>Paracardiophorus opacus</i>			●	●				
416	ヒゲコメツキ	<i>Pectocera hige hige</i>							●	
417	アカアシオオクシコメツキ	<i>Spheniscosmus cete cete</i>						●		
418	ヒゲフトコメツキ	ナガヒゲフトコメツキ	<i>Aulanthroscus longulus</i>		●					
419	ジョウカイボン	カスガニンフジョウカイ	<i>Asiopodabrus kasugensis kasugensis</i>						●	
—		Asiopodabrus 属	<i>Asiopodabrus</i> sp.						●	
420		クビボソジョウカイ	<i>Hatchiana heydeni</i>						●	
421		ウスチャジョウカイ	<i>Lycocerus insulsus insulsus</i>		●					
422		セスジジョウカイ	<i>Lycocerus magnus</i>						●	
423		ジョウカイボン西日本亜種	<i>Lycocerus suturellus luteipennis</i>						●	
424		セボシジョウカイ	<i>Lycocerus vitellinus</i>						●	
425		キンイロジョウカイ本州・四国亜種	<i>Themus episcopalis purpureoeneus</i>						●	
426	ホタル	オバボタル	<i>Lucidina biplagiata</i>						●	
427		ゲンジボタル	<i>Luciola cruciata</i>						●	
428		ヘイケボタル	<i>Luciola lateralis</i>						●	
429		ヒメボタル	<i>Luciola parvula</i>						●	
430	シバンムシ	セスジタワラシバンムシ	<i>Holcobius japonicus</i>						●	
431		フタイロミゾキノコシバンムシ	<i>Mizodorcatoma pulcherrima</i>						●	
—		シバンムシ科	Anobiidae						●	
432	ジョウカイモドキ	ヒロオビジョウカイモドキ	<i>Intybia historio</i>		●					
433	ムクゲクスイムシ	ハスモンムクゲクスイ	<i>Biphylus rufopictus</i>						●	

表 12. 7-13(10) 昆虫類の確認種一覧

No.	目名	科名	種名	学名	外来種 <small>注2)</small>	調査時期					
						令和3年		令和4年		令和5年	
						夏季	秋季	春季	夏季	冬季	
434	コウチュウ	テントウムシ	ムーアシロホシテントウ	<i>Calvia muiri</i>				●			
435			ヒメアカホシテントウ	<i>Chilocorus kuwanae</i>	●		●				
436			ナナホシテントウ	<i>Coccinella septempunctata</i>			●	●			
437			ナミテントウ	<i>Harmonia axyridis</i>	●	●	●				
438			ニジュウヤホシテントウ	<i>Henosepilachna vigintioctopunctata</i>	●		●				
439			キイロテントウ	<i>Kiirro koebelei koebelei</i>			●	●			
440			ヨツボシテントウ	<i>Phymatosternus lewisii</i>				●			
441			ヒメカメノコテントウ	<i>Propylea japonica</i>				●	●		
442			Pseudoscymnus 属	<i>Pseudoscymnus</i> sp.				●			
443			ベダリアテントウ	<i>Rodolia cardinalis</i>	●						
444			クロヘリヒメテントウ	<i>Scymnus hoffmanni</i>					●		
445			カグヤヒメテントウ	<i>Scymnus kaguyahime</i>					●		
446			コクロヒメテントウ	<i>Scymnus posticalis</i>	●	●	●				
447			キスイムシ	ウスバキスイ	<i>Cryptophagus cellaris</i>				●		
—				Cryptophagus 属	<i>Cryptophagus</i> sp.				●		
—				キスイムシ科	<i>Cryptophagidae</i>	●		●			
448		テントウムシダマシ	ヨツボシテントウダマシ	<i>Ancylopus pictus asiaticus</i>				●	●		
449		オオキノコムシ	カタモンオオキノコムシ	<i>Aulacochilus japonicus</i>	●						
450			ルリオオキノコムシ	<i>Aulacochilus sibiricus</i>			●				
451			ミヤマオビオオキノコムシ	<i>Episcapha gorhami</i>					●		
452	ヤマトケシマキムシ		<i>Melanophthalma japonica</i>				●	●			
453	ケシキスイ	マメヒラタケシキスイ	<i>Eपुरaea paulula</i>				●				
454		コヨツボシケシキスイ	<i>Glischrochilus ipsoides</i>	●							
455		ヨツボシケシキスイ	<i>Glischrochilus japonicus</i>					●			
456		アカマダラケシキスイ	<i>Phenolia picta</i>	●	●						
457		マルキマダラケシキスイ	<i>Stelidota multiguttata</i>	●	●	●					
458		ヒメハナムシ	Stilbus 属	<i>Stilbus</i> sp.	●						
459	ホソカタムシ	ハヤシヒメヒラタホソカタムシ	<i>Synchita hayashii</i>	●							
460	ニセクビボソムシ	クシヒゲニセクビボソムシ	<i>Picemelinus flabellicornis</i>			●					
461		オビモンニセクビボソムシ	<i>Syzeton quadrimaculatus</i>				●				
462	ナガクチキムシ	フタモンヒメナガクチキ	<i>Microtonus dimidiatus</i>					●			
463		オオクロホソナガクチキ	<i>Phloeotrya bellicosa</i>					●			
464		クロホソナガクチキ	<i>Phloeotrya rugicollis</i>	●							
465		Melandryini 族	<i>Melandryini</i>	●							
466		ハナノミ	クリイロヒゲハナノミ	<i>Higehananomia palpalis</i>	●						
467	Mordellistena 属		<i>Mordellistena</i> sp.	●							
468	コキノコムシ	ヒレルコキノコムシ	<i>Mycetophagus hillierianus</i>			●					
469	カミキリモドキ	モモブトカミキリモドキ	<i>Oedemera lucidicollis</i>					●			
470	ハナノミダマシ	コフナガタハナノミ	<i>Anaspis furagata</i>	●							
471	ゴミムシダマシ	アカガネアオハムシダマシ	<i>Arthromacra decora</i>				●				
472		ゴモクムシダマシ	<i>Blindus strigosus</i>				●				
473		コスナゴミムシダマシ	<i>Concepalum coriaceum</i>	●	●						
474		ホソスナゴミムシダマシ	<i>Concepalum sexuale</i>					●			
475		オオメキバネハムシダマシ	<i>Lagria rufipennis</i>	●							
476		ヒゲブトゴミムシダマシ	<i>Luprops orientalis</i>	●	●						
477		ニシツヤヒサゴミムシダマシ	<i>Misolampidius okumurai</i>	●							
478		ニホンキマワリ本土亜種	<i>Plesioptthalmus nigrocyanus nigrocyanus</i>	●							
479		サトユミアシゴミムシダマシ	<i>Promethis valgipes</i>					●			
480		ホソクビキマワリ	<i>Stenophanes mesostena</i>	●							
481		モトヨツコブエグリゴミムシダマシ	<i>Ulama bonzica</i>	●							
482		ナミクチキムシ	<i>Upinella melanaria</i>				●				

表 12. 7-13(11) 昆虫類の確認種一覧

No.	目名	科名	種名	学名	外来種 注2)	調査時期						
						令和3年		令和4年		令和5年		
						夏季	秋季	春季	夏季	冬季		
483	コウチュウ	カミキリムシ	ゴマダラカミキリ	<i>Anoplophora malasiaca</i>		●						
484			クワカミキリ	<i>Apriona japonica</i>		●						
485			ミドリカミキリ	<i>Chloridolum viride</i>					●			
486			ヨツスジトラカミキリ	<i>Chlorophorus quinquefasciatus</i>		●						
487			トゲヒゲトラカミキリ	<i>Demorax transilis</i>					●			
488			ニセノコギリカミキリ	<i>Prius sejunctus</i>		●						
489			トガリシロオビサビカミキリ	<i>Pterolophia caudata caudata</i>		●	●					
490			ナカジロサビカミキリ	<i>Pterolophia jugosa jugosa</i>					●			
491			ハムシ	アカガネサルハムシ	アカガネサルハムシ	<i>Acrothium gaschkevitchii gaschkevitchii</i>				●		
492					ニホンカミナリハムシ	<i>Altica nipponica</i>		●	●			
493	コカミナリハムシ	<i>Altica viridicyanea</i>				●						
494	サメハダツブノミハムシ	<i>Aphthona strigosa</i>				●	●					
495	ヘリグロテントウノミハムシ	<i>Argopistes coccinelliformis</i>				●						
496	クロウリハムシ	<i>Aulacophora nigripennis nigripennis</i>				●	●	●				
497	アオバネサルハムシ	<i>Basilepta fulvipes</i>				●						
498	キバラヒメハムシ	<i>Charaea flaviventre</i>				●						
499	ヨモギハムシ	<i>Chrysolina aurichalcea</i>					●	●				
500	バラルリツツハムシ	<i>Cryptocephalus approximatus</i>						●				
501	チビカサハラハムシ	<i>Demotina decorata</i>						●				
502	マダラカサハラハムシ	<i>Demotina fasciculata</i>						●	●			
503	カサハラハムシ	<i>Demotina modesta</i>				●						
504	クワハムシ	<i>Fleutiauxia amata</i>							●			
505	ヤツボシハムシ	<i>Gonioctena nigroplagiata</i>							●			
506	キバネマルノミハムシ	<i>Hemipyxis flavipennis</i>							●			
507	ケブカクロナガハムシ	<i>Hesperomopha hirsuta</i>							●			
508	ドウガネサルハムシ	<i>Heteraspis lewisii</i>							●			
509	ルリクビソハムシ	<i>Lema cirsicola</i>				●						
510	ヤマイモハムシ	<i>Lema honorata</i>				●	●					
511	アカクビナガハムシ	<i>Lilioceris subpolita</i>				●						
512	ヨモギアシナガトビハムシ	<i>Longitarsus succineus</i>						●				
—		Longitarsus 属			<i>Longitarsus</i> sp.				●			
513	ホタルハムシ	<i>Manolepta dichroa</i>				●						
514	コマルノミハムシ	<i>Nanarthra tibialis</i>				●						
515	ドウガネツヤハムシ	<i>Omorhoides cupreatus</i>							●			
516	アオグロツヤハムシ	<i>Omorhoides nigrocaeruleus</i>							●			
517	ムネアカキバネサルハムシ	<i>Pagria consimile</i>						●	●			
518	クロオビツツハムシ	<i>Physosmaragdina nigrifrons</i>				●						
519	カエデハムシ	<i>Pyrrhalta seminigra</i>							●			
520	イチモンジカメノコハムシ	<i>Thlaspidia biramosa</i>							●			
521	ヒゲナガゾウムシ	アカアシヒゲナガゾウムシ			アカアシヒゲナガゾウムシ	<i>Araceerus tarsalis</i>				●		
522					エグリバネヒゲナガゾウムシ	<i>Autotropis basipennis</i>					●	
523					ヒメコブヒゲナガゾウムシ	<i>Gibber nodulosus</i>					●	
524					ウスモンツツヒゲナガゾウムシ	<i>Ozotomerus japonicus japonicus</i>		●				
525	オトシブミ	ウスモンオトシブミ			ウスモンオトシブミ	<i>Apoderus balteatus</i>			●			
526					コナライクビチョッキリ	<i>Deporaus unicolor</i>					●	
527					カシルリオトシブミ	<i>Euxys splendidus</i>		●				
528			クチナガチョッキリ	<i>Involvulus plumbeus</i>				●				
529			アシナガオトシブミ	<i>Phialodes rufipennis</i>					●			
530	ゾウムシ	シバタカレキゾウムシ	シバタカレキゾウムシ	<i>Acicnemis shibatai</i>		●						
531			トゲアシクチブトゾウムシ	<i>Anosimus decoratus</i>		●						

表 12. 7-13(12) 昆虫類の確認種一覧

No.	目名	科名	種名	学名	外来種 <small>注2)</small>	調査時期				
						令和3年		令和4年		令和5年
						夏季	秋季	春季	夏季	冬季
532	コウチュウ	ゾウムシ	イチゴハナゾウムシ	<i>Anthonomus bisignifer</i>				●		
533			Asphalmus 属	<i>Asphalmus</i> sp.				●		
534			ツツゾウムシ	<i>Carcilia strigicollis</i>	●					
535			クロクチカクシゾウムシ	<i>Catagmatus japonicus</i>	●					
536			マルモンタマゾウムシ	<i>Cionus tanazo</i>					●	
537			ウスモントゲトゲゾウムシ	<i>Colobodes kanoi</i>					●	
538			ツバキシギゾウムシ	<i>Curculio canelliae</i>					●	
539			コナラシギゾウムシ	<i>Curculio dentipes</i>	●					
540			クリシギゾウムシ	<i>Curculio sikkimensis</i>					●	●
541			コフキゾウムシ	<i>Eugrathus distinctus</i>	●				●	
542			コカシワクチプトゾウムシ	<i>Lepidepistomodes griseoides</i>	●					
543			クロコブゾウムシ	<i>Niptades variegatus</i>					●	
544			カシワクチプトゾウムシ	<i>Nothomylloceris griseus</i>					●	
545			ガロアノミゾウムシ	<i>Orchestes galloisi</i>	●					
546			エノキノミゾウムシ	<i>Orchestes hortii</i>					●	
547			オオクチプトゾウムシ	<i>Phyllolytus variabilis</i>	●					
548			クスアアナキゾウムシ	<i>Pimelocerus hyllobioides</i>					●	
549			スグリゾウムシ	<i>Pseudocneorhinus bifasciatus</i>	●					
550			Rhadinomerus 属	<i>Rhadinomerus</i> sp.					●	
551			ハイイロタマゾウムシ	<i>Stereonychus japonicus</i>					●	●
552			ホソゲチビツチゾウムシ	<i>Trachyphloeosoma advena</i>					●	
553			ケシツチゾウムシ	<i>Trachyphloeosoma setosum</i>					●	
554			オサゾウムシ	シバオサゾウムシ	<i>Sphenophorus venatus vestitus</i>		●	●		
555			ナガキクイムシ	Platypus 属	<i>Platypus</i> sp.		●			
556			クイムシ	クリノミクイムシ	<i>Poecilips cardenomi</i>			●		
557	Xyleborus 属	<i>Xyleborus</i> sp.		●	●	●				
558	ハンノキクイムシ	<i>Xylosandrus gemenus</i>				●	●			
559	ハチ	ミフシハバチ	ウンモンチュウレンジ	<i>Arge jonasi</i>				●		
560			チュウレンジハバチ	<i>Arge pagana</i>					●	
561	ハバチ	ハグロハバチ	<i>Allantus luctifer</i>			●	●			
562		セグロカブラハバチ	<i>Athalia infumata</i>					●		
563		カブラハバチ	<i>Athalia rosae ruficornis</i>				●			
564		ツヤクロマルハバチ	<i>Eutamostethus lubricus</i>				●			
565		Macrophya 属	<i>Macrophya</i> sp.					●		
566		ヒゲブトマルハバチ	<i>Megatamostethus crassicornis</i>	●						
567		Pachyprotasis 属	<i>Pachyprotasis</i> sp.					●		
568		ハラナガハバチ	<i>Tenthredo hilaris</i>					●		
569		オオツマグロハバチ	<i>Tenthredo providens</i>					●		
570		コマユバチ	コマユバチ科	<i>Braconidae</i>		●	●	●		
571	ヒメバチ	Coccygomimus 属	<i>Coccygomimus</i> sp.		●		●			
572		ムラサキウスアメバチ	<i>Dictyonotus purpurascens</i>	●						
573		Ichneumon 属	<i>Ichneumon</i> sp.					●		
574		シロフオナガヒメバチ	<i>Rhyssella persuasoria</i>				●			
—			Ophioninae 亜科	<i>Ophioninae</i>				●		
—			ヒメバチ科	<i>Ichneumonidae</i>				●		
575		タマゴクロバチ	タマゴクロバチ科	<i>Scelionidae</i>			●	●		
576	アシプトコバチ	Brachymeria 属	<i>Brachymeria</i> sp.				●			
577	トビコバチ	トビコバチ科	<i>Encyrtidae</i>				●			
578	シリアゲコバチ	シリアゲコバチ	<i>Leucospis japonica</i>	●						
579	コガネコバチ	コガネコバチ科	<i>Pteromalidae</i>				●			
580	アリガタバチ	ムカシアリガタバチ	<i>Pristepyris japonicus</i>	●						

表 12. 7-13(13) 昆虫類の確認種一覧

No.	目名	科名	種名	学名	外来種 注2)	調査時期				
						令和3年		令和4年		令和5年
						夏季	秋季	春季	夏季	冬季
581	ハチ	アリ	アシナガアリ	<i>Aphaenogaster fanelica</i>			●	●		
582			ヤマトアシナガアリ	<i>Aphaenogaster japonica</i>		●	●	●		
583			オオハリアリ	<i>Brachyponera chinensis</i>		●	●	●		
584			クロオオアリ	<i>Camponotus japonicus</i>		●	●	●		
585			ヒラズオオアリ	<i>Camponotus nipponicus</i>				●		
586			ムネアカオオアリ	<i>Camponotus obscuripes</i>		●		●		
587			ウメマツオオアリ	<i>Camponotus vitiosus</i>		●	●	●		
588			キロシリアゲアリ	<i> Crematogaster osakensis</i>		●	●	●		
589			テラニシシリアゲアリ	<i>Crematogaster teranishii</i>		●		●		
590			ハヤシクロヤマアリ	<i>Fornica hayashi</i>				●		
591			クロヤマアリ	<i>Fornica japonica (s.l.)</i>		●	●	●		
592			トビイロケアリ	<i>Lasius japonicus</i>		●	●	●		
593			ヒメアリ	<i>Monomorium intrudens</i>				●		
594			アメイロアリ	<i>Nylanderia flavipes</i>		●	●	●		
595			アズマオオズアリ	<i>Pheidole fervida</i>		●	●	●		
596			ヒメハリアリ	<i>Ponera japonica</i>		●	●			
597			アミメアリ	<i>Pristomyrmex punctatus</i>		●	●	●		
598			ムネボソアリ	<i>Tenothorax congruus</i>			●			
599			トビイロシワアリ	<i>Tetramorium tsushimae</i>		●	●	●		
600			スズメバチ	オオフタオビドロ/寄本土亜種	オオフタオビドロ/寄本土亜種	<i>Anterhynchium flavimarginatum micado</i>		●	●	
601	キボシトックリバチ	<i>Eumenes fraterculus</i>					●	●		
602	ミカドトックリバチ	<i>Eumenes micado</i>					●			
603	スズバチ	<i>Oreumenes decoratus</i>				●	●			
604	セグロアシナガ/寄本土亜種	<i>Polistes jokahamae jokahamae</i>				●	●	●		
605	キボシアシナガバチ	<i>Polistes nipponensis</i>				●				
606	コアシナガバチ	<i>Polistes snelleni</i>				●				
607	コガタスズメバチ	<i>Vespa analis</i>					●			
608	ヒメスズメバチ	<i>Vespa ducalis</i>				●				
609	オオスズメバチ	<i>Vespa mandarinia</i>				●				
610	クモバチ	ヒゲブトクモバチ	<i>Evagetes yezoensis</i>				●			
611	ドロバチモドキ	ヤマトスナキ/寄本土亜種	<i>Bembecinus hungaricus japonicus</i>		●	●				
612	アナバチ	クロアナバチ本土亜種	<i>Spheg argenteatus fumosus</i>		●					
613	ミツバチ	ニホンミツバチ	<i>Apis cerana japonica</i>			●				
614		セイヨウミツバチ	<i>Apis mellifera</i>			●				
—		Apis 属	<i>Apis sp.</i>			●				
615		Nomada 属	<i>Nomada sp.</i>				●			
616		キムネクマバチ	<i>Xylocopa appendiculata circumvolans</i>				●			
617	コハナバチ	アカガネコハナバチ	<i>Halictus aerarius</i>		●					
618		ズマルツヤコハナバチ	<i>Lasioglossum proximum</i>		●					
—		Lasioglossum 属	<i>Lasioglossum sp.</i>					●		
	19 目	191 科	618 種		0 種	303 種	267 種	280 種	3 種	1 種

注 1) 分類・配列・種名については、主に「河川水辺の国勢調査のための生物リスト（令和4年度生物リスト）」（令和4年、河川環境データベース/国土交通省）に準拠した。

注 2) 外来種は表 12. 7-3 の選定基準により選定した。

## キ. 底生動物

事業実施区域及びその周辺において確認された底生動物は、表12.7-14に示すとおりである。21目67科120種の底生動物が確認された。

表 12.7-14(1) 底生動物の確認種一覧

No.	門名	綱名	目名	科名	種名	学名	外来種 注2)	調査時期							
								令和3年	令和4年						
								夏季	早春季	春季 <sup>E3)</sup>					
1	海綿動物	普通海綿	ザラカイメン	タンスイカイメン	タンスイカイメン科	<i>Spongillidae</i>		●							
2	扁形動物	有棒状体	三岐腸	サンカクアタマウズムシ	ナミウズムシ	<i>Dugesia japonica</i>		●							
3	軟体動物	腹足	新生腹足	タニシ	オオタニシ	<i>Heterogen japonica</i>		●							
4				カワニナ	カワニナ	<i>Semisulcospira libertina</i>		●	●						
5			汎有肺	モノアラガイ	ヒメモノアラガイ	ヒメモノアラガイ	<i>Orientogalba ollula</i>		●						
6					ハブタエモノアラガイ	ハブタエモノアラガイ	<i>Pseudosuccinea columella</i>		●	●					
7					サカマキガイ	サカマキガイ	<i>Physella acuta</i>		●	●					
8					ヒラマキガイ	ヒラマキガイ属	<i>Gyraulus</i> sp.			●					
9					カワコザラガイ	カワコザラガイ属	<i>Ferrissia</i> sp.		●	●					
10					二枚貝	マルスダレガイ	シジミ	シジミ属	<i>Carbicula</i> sp.		●	●			
11			環形動物	ミミズ	イトミミズ	ミズミミズ	エラミミズ	<i>Branchiura sowerbyi</i>		●	●				
12							ウチワミミズ属	<i>Dero</i> sp.		●	●				
13	モトムラユリミミズ	<i>Limnodrilus claparedianus</i>							●						
14	ユリミミズ	<i>Limnodrilus hoffmeisteri</i>							●						
—	ミズミミズ科	<i>Naididae</i>						●	●						
15	ツリミミズ	フトミミズ					フトミミズ科	<i>Megascolecidae</i>		●					
—	—	—			ミミズ綱	<i>Oligochaeta</i>		●							
16	ヒル	ヒルミミズ			ヒルミミズ	ヒルミミズ科	<i>Branchiobdellidae</i>		●	●					
17							吻蛭	ヒラタビル	ヌマビル	<i>Helobdella stagnalis</i>		●	●		
18							吻無蛭	イシビル	イシビル科	<i>Eprobdeidae</i>		●	●		
19	節足動物	軟甲	ワラジムシ	ミズムシ(甲)	ミズムシ(甲)	<i>Asellus hilgendorfi</i> <i>hilgendorfi</i>		●	●						
20						エビ	ヌマエビ	カワリヌマエビ属	<i>Neocaridina</i> sp.		●	●	●		
21									テナガエビ	スジエビ	<i>Palaemon paucidens</i>		●	●	
22									アメリカザリガニ	アメリカザリガニ	<i>Procambarus clarkii</i>		●	●	●
23									サワガニ	サワガニ	<i>Geothelphusa dehaani</i>			●	
24									モクズガニ	モクズガニ	<i>Eriocheir japonica</i>		●		
25									昆虫	カゲロウ (蜉蝣)	モンカゲロウ	フタスジモンカゲロウ	<i>Ephemera japonica</i>		
26						モンカゲロウ	<i>Ephemera strigata</i>							●	
27						マダラカゲロウ	シリナガマダラカゲロウ	<i>Ephaceraella longicaudata</i>					●		
28						ヒメフタオカゲロウ	ヒメフタオカゲロウ属	<i>Aneides</i> sp.					●		
29		コカゲロウ	ヨシノコカゲロウ	Alainites yoshinensis			●								
30					フタモンコカゲロウ	<i>Baetis taiwanensis</i>					●				
31					シロハラコカゲロウ	<i>Baetis themicus</i>					●				
32					フタバカゲロウ属	<i>Cloeon</i> sp.		●			●				
33					ウスイロフトヒゲコカゲロウ	<i>Labobaetis atretatinus orientalis</i>		●			●				
34					ヒメウスバコカゲロウ属	<i>Procloeon</i> sp.		●							
35					ウデマガリコカゲロウ	<i>Tenuibaetis flexifemora</i>					●				
36					フタオカゲロウ	フタオカゲロウ属	<i>Siphonurus</i> sp.					●			
37		ヒラタカゲロウ	シロタニガワカゲロウ	<i>Ecdyonurus yoshidae</i>			●								
38		キハダヒラタカゲロウ	<i>Kageronia kihada</i>			●									

表 12. 7-14 (2) 底生動物の確認種一覧

No.	門名	綱名	目名	科名	種名	学名	外来種 <small>注2)</small>	調査時期		
								令和3年	令和4年	
								夏季	早春季	春季 <sup>E3)</sup>
39	節足動物	昆虫	トンボ (蜻蛉)	イトトンボ	アオモンイトトンボ属	<i>Ischnura</i> sp.			●	
40					クロイトトンボ属	<i>Paracercion</i> sp.	●			
41				カワトンボ	ハグロトンボ	<i>Atrocalopteryx atrata</i>	●	●		
42					アサヒナカワトンボ	<i>Mesais pruinosa</i>		●		
43				ヤンマ	クロスジギンヤンマ	<i>Arax nigrofasciatus nigrofasciatus</i>	●			
44					ギンヤンマ	<i>Arax parthenope julius</i>	●	●		
45					コシボソヤンマ	<i>Boyeria maclachlani</i>	●	●		
46				サナエトンボ	ヤマサナエ	<i>Asiagonphus melaenops</i>	●	●		
47					キイロサナエ	<i>Asiagonphus pryeri</i>	●		●	
48					ダビドサナエ	<i>Davidius nanus</i>		●		
—					ダビドサナエ属	<i>Davidius</i> sp.	●			
49					タイワンウチワヤンマ	<i>Ictinogonphus pertinax</i>	●			
50					コオニヤンマ	<i>Sieboldius albarbe</i>	●	●		
51					オジロサナエ	<i>Stylogonphus suzukii</i>	●	●	●	
52					タバサナエ	<i>Trigonphus citinus tabei</i>	●			
53					フタスジサナエ	<i>Trigonphus interruptus</i>	●			
54					オニヤンマ	オニヤンマ	<i>Anotogaster sieboldii</i>	●	●	
55				エゾトンボ	オオヤマトンボ	<i>Epophthalmia elegans</i>	●			
56				トンボ	ハラビロトンボ	<i>Lyrithemis pechygastra</i>	●			
57					シオカラトンボ	<i>Orithetrum albistylum speciosum</i>	●	●		
58					コシアキトンボ	<i>Pseudothemis zonata</i>	●			
59				カワゲラ (セキ翅)	オナシカワゲラ	フサオナシカワゲラ属	<i>Amphinemura</i> sp.		●	
60						オナシカワゲラ属	<i>Nemoura</i> sp.		●	
61					カワゲラ	フタツメカワゲラ属	<i>Neoperla</i> sp.		●	
62				カメムシ (半翅)	アメンボ	オオアメンボ	<i>Aquarius elongatus</i>	●		
63						アメンボ	<i>Aquarius paludum paludum</i>	●		
64						ヒメアメンボ	<i>Gerris latiaabdominis</i>	●		
65						ヤスマツアメンボ	<i>Gerris insularis</i>	●		
66						トガリアメンボ	<i>Rhagadotarsus kraepelini</i>	●	●	
67					カタビロアメンボ	ケンシカタビロアメンボ属	<i>Microvelia</i> sp.	●		
68						ナガレカタビロアメンボ	<i>Pseudovelia tibialis</i>	●		
69					ミズムシ(昆)	オオミズムシ	<i>Hesperocorixa kolthoffi</i>		●	
70						ハイロチビミズムシ	<i>Micronecta sahlbergii</i>	●		
71						エサキコミズムシ	<i>Sigara septemlineata</i>		●	
—						コミズムシ属	<i>Sigara</i> sp.		●	
72					コオイムシ	コオイムシ	<i>Agabus japonicus</i>	●		●
73					タイコウチ	ミズカマキリ	<i>Ranatra chinensis</i>	●		●
74						ヒメミズカマキリ	<i>Ranatra unicolor</i>	●	●	
75					マツモムシ	コマツモムシ	<i>Anisops ogasawarenensis</i>	●		
76						マツモムシ	<i>Notonecta triguttata</i>	●	●	
77						マルミズムシ	マルミズムシ	<i>Paraplea japonica</i>	●	
78				ヘビトンボ	ヘビトンボ	<i>Prothemis grandis</i>		●		
79					センブリ	センブリ属	<i>Sialis</i> sp.	●		
80				トビケラ (毛翅)	シマトビケラ	コガタシマトビケラ属	<i>Cheumatopsyche</i> sp.	●	●	
81						ウルマーシマトビケラ	<i>Hydropsyche orientalis</i>		●	
82					ヒメトビケラ	ヒメトビケラ属	<i>Hydroptila</i> sp.	●		
83					ナガレトビケラ	ヒロアタマナガレトビケラ	<i>Rhyacophila brevicephala</i>		●	
84					コエグリトビケラ	コエグリトビケラ属	<i>Apatania</i> sp.		●	
85					ニンギョウトビケラ	ニンギョウトビケラ	<i>Coera japonica</i>		●	

表 12. 7-14 (3) 底生動物の確認種一覧

No.	門名	綱名	目名	科名	種名	学名	外来種 注2)	調査時期					
								令和3年	令和4年				
								夏季	早春季	春季 <sup>E3)</sup>			
86	節足動物	昆虫	トビケラ (毛翅)	カクツツトビケラ	カクツツトビケラ属	<i>Lepidostoma</i> sp.			●				
87				ヒゲナガトビケラ	アオヒゲナガトビケラ属	<i>Mystacides</i> sp.			●				
88				エグリトビケラ	スジトビケラ属	<i>Nemotaulius</i> sp.				●			
—					エグリトビケラ科	<i>Limnephilidae</i>				●			
89				ケトビケラ	トウヨウグマガトビケラ	<i>Gnaga orientalis</i>					●		
90			ハエ(双翅)	ガガンボ	ガガンボ属	<i>Tipula</i> sp.			●	●			
91				ヌカカ	ヌカカ科	<i>Ceratopogonidae</i>					●		
92				ユスリカ	ユスリカ属	<i>Chironomus</i> sp.			●	●			
93					ホソミユスリカ属	<i>Dicrotendipes</i> sp.			●				
94					セボリユスリカ属	<i>Glyptotendipes</i> sp.			●	●			
95					フユスリカ属	<i>Hydrobaenus</i> sp.						●	
96					ボカシヌマユスリカ属	<i>Macropelopia</i> sp.						●	
97					エリユスリカ属	<i>Orthocladus</i> sp.						●	
98					ハモンユスリカ属	<i>Polypedium</i> sp.				●			
99					サワユスリカ属	<i>Potthastia</i> sp.						●	
100					アカムシユスリカ	<i>Prosilocerus akamusi</i>							●
101					キザキユスリカ属	<i>Sergentia</i> sp.				●			
102					アシマダラユスリカ属	<i>Stictochironomus</i> sp.				●	●		
103					ヒゲユスリカ属	<i>Tanytarsus</i> sp.				●	●		
—						モンユスリカ亜科	<i>Tanypodinae</i>				●	●	
104			カ	ナミカ亜科	<i>Gulicinae</i>				●				
105	ホソカ	ホソカ属	<i>Dixa</i> sp.				●						
106	ブユ	アシマダラブユ属	<i>Simulium</i> sp.						●				
107	ミズアブ	ミズアブ科	<i>Stratiomyidae</i>				●						
108	コウチュウ (鞘翅)	ゲンゴロウ	マメゲンゴロウ	マメゲンゴロウ	<i>Agabus japonicus</i>		●	●					
109			ハイイロゲンゴロウ	<i>Eretes griseus</i>			●						
110			モンキマメゲンゴロウ	<i>Platanus pictipennis</i>			●						
111			ヒメゲンゴロウ	<i>Rhentus suturalis</i>						●			
112		コガシラミズムシ	コガシラミズムシ	<i>Pelodytes intermedius</i>			●						
113		コツブゲンゴロウ	コツブゲンゴロウ	<i>Noterus japonicus</i>			●						
114		ガムシ	セマルガムシ	<i>Coelostoma stultum</i>			●						
115			キイロヒラタガムシ	<i>Erochrus similans</i>			●						
116			マメガムシ	<i>Regimartia attenuata</i>			●						
117			ヒメガムシ	<i>Stemolophus rufipes</i>			●						
118		ヒラタドロムシ	マルヒラタドロムシ属	<i>Eubrianax</i> sp.					●				
119	ホタル	ゲンジボタル	<i>Luciola cruciata</i>					●					
120	苔虫動物	被喉	ハネコケムシ	オオマリコケムシ	オオマリコケムシ	<i>Pectinatella magnifica</i>		●					
	6門	9綱	21目	67科	120種		3種	80種	74種	5種			

注 1) 分類・配列・種名については、主に「河川水辺の国勢調査のための生物リスト（令和4年度生物リスト）」（令和4年、河川環境データベース/国土交通省）に準拠した。

注 2) 外来種は表 12. 7-3 の選定基準により選定した。

注 3) 令和4年春季は魚類調査時に確認された種である。

## ② 重要な動物種の状況

### ア. 哺乳類

選定基準に基づき抽出した重要な哺乳類は、表12.7-15及び図12.7-2に示すとおりである。  
4目6科11種の重要な哺乳類が確認された。

表 12.7-15 重要な哺乳類一覧

番号	目名	科名	種名	選定基準					
				①	②	③	④	⑤	⑥
1	モグラ目 (食虫目)	モグラ科	モグラ科						(B) <sup>注3)</sup>
2	コウモリ目 (翼手目)	キクガシラコウ モリ科	コキクガシラコウモリ					調	調
3			キクガシラコウモリ					調	調
4		ヒナコウモリ科	モモジロコウモリ					調	調
5			ユビナガコウモリ					調	調
6	ネズミ目 (齧歯目)	ネズミ科	アカネズミ						C
7			カヤネズミ						B
8	ネコ目 (食肉目)	イヌ科	キツネ						調
9		イタチ科	テン						調
10			ニホンイタチ						調
-			イタチ属						(調) <sup>注4)</sup>
11			アナグマ						B
合計	4目	6科	11種	0種	0種	0種	0種	4種	11種

注1) 選定基準は、表12.7-2に対応している。

注2) 分類・配列・種名については、主に「河川水辺の国勢調査のための生物リスト（令和4年度生物リスト）」（令和4年、河川環境データベース/国土交通省）に準拠した。

注3) 「モグラ科」は、分布からコウベモグラ（選定基準：B）と推定される。

注4) 「イタチ属」はニホンイタチ（選定基準：調）かシベリアイタチ（外来種）である。

重要種保護の観点から確認位置は非表示とした

図 12.7-2(1) 重要な哺乳類（コウモリ類を除く）の確認位置図

重要種保護の観点から確認位置は非表示とした

図 12.7-2(2) 重要な哺乳類（コウモリ類）の確認位置図

## イ. 鳥類

選定基準に基づき抽出した重要な鳥種は、表12.7-16及び図12.7-3に示すとおりである。  
11目17科26種の重要な鳥種が抽出された。

表 12.7-16 重要な鳥類一覧

番号	目名	科名	種名	渡り区分	選定基準						
					①	②	③	④	⑤	⑥	
1	キジ目	キジ科	ヤマドリ	留鳥					注	繁殖：調	
2	カモ目	カモ科	オシドリ	冬鳥/留鳥				DD	B	越冬：C	
3	ペリカン目	サギ科	ミゾゴイ	夏鳥				VU	A	繁殖：A	
4	カッコウ目	カッコウ科	ホトトギス	夏鳥						繁殖：B	
5			ツツドリ	夏鳥						繁殖：B	
6	チドリ目	チドリ科	イカルチドリ	留鳥					B	繁殖：B, 越冬：B	
7		シギ科	アオシギ	冬鳥					B	越冬：B	
8	タカ目	ミサゴ科	ミサゴ	留鳥				NT	A	繁殖：A, 越冬：C	
9		タカ科	ハチクマ	夏鳥				NT	B	繁殖：B	
10			ハイタカ	冬鳥/留鳥				NT	C	越冬：C	
11			オオタカ	留鳥				NT	B	繁殖：B, 越冬：C	
12			サシバ	夏鳥				VU	B	繁殖：A	
13			ノスリ	冬鳥/留鳥					B	越冬：C	
14	フクロウ目	フクロウ科	フクロウ	留鳥					繁殖：B, 越冬：B		
15	ブッポウソウ目	カワセミ科	カワセミ	留鳥					注		
16	キツツキ目	キツツキ科	アオゲラ	留鳥					C	繁殖：C, 越冬：C	
17	ハヤブサ目	ハヤブサ科	チョウゲンボウ	留鳥/冬鳥						繁殖：A	
18			ハヤブサ	留鳥		国内		VU	B	繁殖：A, 越冬：C	
19	スズメ目	サンショウクイ科	サンショウクイ	夏鳥				VU	C	繁殖：B	
20		カササギヒタキ科	サンコウチョウ	夏鳥						繁殖：C	
21		ムシクイ科	オオムシクイ	旅鳥				DD			
22		ヒタキ科	トラツグミ	冬鳥/留鳥							繁殖：C
23			ルリビタキ	冬鳥					A		
24			キビタキ	夏鳥						注	
25			オオルリ	夏鳥						注	
26		ホオジロ科	アオジ	冬鳥					A		
合計	11 目	17 科	26 種		0 種	1 種	0 種	10 種	19 種	20 種	

注1) 選定基準は、表12.7-2に対応している。

注2) 分類・配列・種名については、主に「河川水辺の国勢調査のための生物リスト（令和4年度生物リスト）」（令和4年、河川環境データベース/国土交通省）に準拠した。

重要種保護の観点から確認位置は非表示とした

図 12.7-3(1) 重要な鳥類（フクロウ、キビタキ、猛禽類を除く）の確認位置図

重要種保護の観点から確認位置は非表示とした

図 12.7-3(2) 重要な鳥類（ミサゴ）の確認位置図

重要種保護の観点から確認位置は非表示とした

図 12.7-3(3) 重要な鳥類（ハチクマ）の確認位置図

重要種保護の観点から確認位置は非表示とした

図 12.7-3(4) 重要な鳥類（ハイタカ）の確認位置図

重要種保護の観点から確認位置は非表示とした

図 12.7-3(5) 重要な鳥類（オオタカ）の確認位置図

重要種保護の観点から確認位置は非表示とした

図 12.7-3(6) 重要な鳥類（サシバ）の確認位置図

重要種保護の観点から確認位置は非表示とした

図 12.7-3(7) 重要な鳥類（ノスリ）の確認位置図

重要種保護の観点から確認位置は非表示とした

図 12.7-3(8) 重要な鳥類（フクロウ、キビタキ）の確認位置図

重要種保護の観点から確認位置は非表示とした

図 12.7-3(9) 重要な鳥類（チョウゲンボウ）の確認位置図

重要種保護の観点から確認位置は非表示とした

図 12.7-3(10) 重要な鳥類（ハヤブサ）の確認位置図

## ウ. 爬虫類

選定基準に基づき抽出した重要な爬虫類は、表12.7-17及び図12.7-4に示すとおりである。  
1目3科6種の重要な爬虫類が抽出された。

表 12.7-17 重要な爬虫類一覧

番号	目名	科名	種名	選定基準						
				①	②	③	④	⑤	⑥	
1	有鱗目	ヤモリ科	ニホンヤモリ					注		
2		タカチホヘビ科	タカチホヘビ					C	A	
3		ナミヘビ科	シマヘビ							調
4			アオダイショウ							調
5			シロマダラ						C	B
6			ヒバカリ						注	C
合計	1目	3科	6種	0種	0種	0種	0種	4種	5種	

注1) 選定基準は、表12.7-2に対応している。

注2) 分類・配列・種名については、主に「河川水辺の国勢調査のための生物リスト（令和4年度生物リスト）」（令和4年、河川環境データベース/国土交通省）に準拠した。

重要種保護の観点から確認位置は非表示とした

図 12.7-4 重要な爬虫類の確認位置図

## エ. 両生類

選定基準に基づき抽出した重要な両生類は、表12.7-18及び図12.7-5に示すとおりである。  
2目4科7種の重要な両生類が抽出された。

表 12.7-18 重要な両生類一覧

番号	目名	科名	種名	選定基準					
				①	②	③	④	⑤	⑥
1	有尾目	サンショウウオ科	セトウチサンショウウオ		第二		VU	B	B
2	無尾目	ヒキガエル科	ニホンヒキガエル					C	C
3		アカガエル科	ニホンアカガエル					C	C
4			アカガエル属 <sup>注3)</sup>					C	C又は調 <sup>注4)</sup>
5			トノサマガエル				NT		
6		アオガエル科	シュレーゲルアオガエル					C	C
7			モリアオガエル					B	B
合計		2目	4科	7種	0種	1種	0種	2種	6種

注1) 選定基準は、表12.7-2に対応している。

注2) 分類・配列・種名については、主に「河川水辺の国勢調査のための生物リスト（令和4年度生物リスト）」（令和4年、河川環境データベース/国土交通省）に準拠した。

注3) 「アカガエル属」はニホンアカガエルかヤマアカガエルと考えられ、ヤマアカガエルの可能性があることから1種として扱った。

注4) ニホンアカガエルの場合はCランク、ヤマアカガエルの場合は要調査である。

重要種保護の観点から確認位置は非表示とした

図 12.7-5 重要な両生類の確認位置図

## オ. 魚類

選定基準に基づき抽出した重要な魚類は、表12.7-19及び図12.7-6に示すとおりである。  
2目3科3種の重要な魚類が抽出された。

表 12.7-19 重要な魚類一覧

番号	目名	科名	種名	選定基準					
				①	②	③	④	⑤	⑥
1	コイ目	コイ科	ギンブナ						C
2		ドジョウ科	ドジョウ				NT	注	C
3	スズキ目	ハゼ科	シマヒレヨシノボリ				NT	調	
合計	2目	3科	3種	0種	0種	0種	2種	2種	2種

注1) 選定基準は、表12.7-2に対応している。

注2) 分類・配列・種名については、主に「河川水辺の国勢調査のための生物リスト（令和4年度生物リスト）」（令和4年、河川環境データベース/国土交通省）に準拠した。

重要種保護の観点から確認位置は非表示とした

図 12.7-6 重要な魚類の確認位置図

## カ. 昆虫類

選定基準に基づき抽出した重要な昆虫類は、表12.7-20及び図12.7-7に示すとおりである。  
 なお、底生動物調査で確認された重要な昆虫類も含めて整理した。  
 4目11科15種の重要な昆虫類が抽出された。

表 12.7-20 重要な昆虫類一覧

番号	目名	科名	種名	選定基準					
				①	②	③	④	⑤	⑥
1	トンボ	サナエトンボ	キイロサナエ				NT	B	C
2			オジロサナエ						C
3			タベサナエ				NT		C
4			フタスジサナエ				NT		
5	トンボ		ヒメアカネ					注	
6	カメムシ	セミ	ハルゼミ					注	
7		ミズムシ	オオミズムシ				NT	C	B
8		コオイムシ	コオイムシ				NT		
9		タイコウチ	ミズカマキリ					注	調
10	コウチュウ	ゲンゴロウ	ヒメゲンゴロウ						C
11		ガムシ	コガムシ				DD		
12		ホタル	ヘイケボタル					注	調
13			ヒメボタル					注	
14		カミキリムシ	クワカミキリ					調	
15	ハチ	ジガバチ	ヤマトスナハキバチ 本土亜種				DD		
合計	4目	11科	15種	0種	0種	0種	7種	8種	7種

注1) 選定基準は、表12.7-2に対応している。

注2) 分類・配列については、主に「河川水辺の国勢調査のための生物リスト（令和4年度生物リスト）」（令和4年、河川環境データベース/国土交通省）に準拠した。

注3) 底生動物調査で確認された重要な昆虫類を含む。

重要種保護の観点から確認位置は非表示とした

図 12.7-7 重要な昆虫類の確認位置図

## キ. 底生動物

選定基準に基づき抽出した重要な底生動物は、表12.7-21及び図12.7-8に示すとおりである。

1目1科1種の重要な底生動物が抽出された。

表 12.7-21 重要な底生動物一覧

番号	門名	綱名	目名	科名	種名	選定基準					
						①	②	③	④	⑤	⑥
1	軟体動物	腹足	新生腹足	タニシ	オオタニシ				NT		
合計	1門	1綱	1目	1科	1種	0種	0種	0種	1種	0種	0種

注1) 選定基準は、表12.7-2に対応している。

注2) 分類・配列・種名については、主に「河川水辺の国勢調査のための生物リスト（令和4年度生物リスト）」（令和4年、河川環境データベース/国土交通省）に準拠した。

重要種保護の観点から確認位置は非表示とした

図 12.7-8 重要な底生動物の確認位置図

## 12.7.2. 予測・環境保全措置及び評価

### (1) 工事及び存在・供用に伴う動物への影響

#### 1) 予測

##### ① 予測項目

予測項目は表12.7-22に示すとおり、工事及び存在・供用に伴う重要な動物種への影響とした。

表 12.7-22 動物の影響要因とその予測項目

行為等の区分	環境影響要因	予測項目
工事	樹木の伐採 造成工事に伴う地形の改変	重要な動物種
存在・供用	施設の存在	

##### ② 予測地域

予測地域は、調査地域のうち、動物の生息の特性を踏まえて、重要な動物種に係る環境影響を受けるおそれがあると認められる地域とし、事業実施区域及びその端部から100m程度の範囲とした。

##### ③ 予測対象時期

予測対象時期は、動物の生息の特性を踏まえて重要な動物種に係る環境影響を的確に把握できる時期とし、影響が最大になる時期とした。

##### ④ 予測の基本的な手法

重要な動物種の確認位置と事業計画との重ね合わせにより、生息環境が消失、縮小する程度を把握し、類似事例や科学的知見等を参考に、重要な動物種の生息環境への影響の程度を定性的に予測した。

## ⑤ 予測結果

重要な動物種の予測結果概要は表12.7-23に、種ごとの予測結果の内容は表12.7-24に示すとおりである。

表 12.7-23(1) 重要な動物種の予測結果概要

分類	番号 <sup>注2)</sup>	種名	影響の程度	保全対象
哺乳類	1	モグラ科	B	●
	2	コキクガシラコウモリ	B	●
	3	キクガシラコウモリ	B	●
	4	モモジロコウモリ	B	●
	5	ユビナガコウモリ	B	●
	6	アカネズミ	B	●
	7	カヤネズミ	C	
	8	キツネ	B	●
	9	テン	B	●
	10	ニホンイタチ	B	●
	11	アナグマ	B	●
鳥類	1	ヤマドリ	B	●
	2	オシドリ	B	●
	3	ミゾゴイ	B	●
	4	ホトトギス	B	●
	5	ツツドリ	B	●
	6	イカルチドリ	B	●
	7	アオシギ	B	●
	8	ミサゴ	C	
	9	ハチクマ	B	●
	10	ハイタカ	B	●
	11	オオタカ	B	●
	12	サシバ	B	●
	13	ノスリ	B	●
	14	フクロウ	B	●
	15	カワセミ	B	●
	16	アオゲラ	B	●
	17	チョウゲンボウ	B	●
	18	ハヤブサ	B	●
	19	サンショウクイ	B	●
	20	サンコウチョウ	B	●
	21	オオムシクイ	B	●
	22	トラツグミ	B	●
	23	ルリビタキ	B	●
	24	キビタキ	B	●
	25	オオルリ	B	●
	26	アオジ	B	●

注1) 影響の程度は、以下に示すとおりである。

A：影響が生じる B：生息環境が一部改変される C：影響は生じない

注2) 番号は、重要な動物種の状況における各分類の一覧（表12.7-15～表12.7-21）に対応している。

表 12. 7-23 (2) 重要な動物種の予測結果概要

分類	番号	種名	影響の程度	保全対象
爬虫類	1	ニホンヤモリ	B	●
	2	タカチホヘビ	B	●
	3	シマヘビ	B	●
	4	アオダイショウ	B	●
	5	シロマダラ	B	●
	6	ヒバカリ	B	●
両生類	1	セトウチサンショウウオ	A	●
	2	ニホンヒキガエル	A	●
	3	ニホンアカガエル	B	●
	4	アカガエル属 <sup>注3)</sup>	A	●
	5	トノサマガエル	B	●
	6	シュレーゲルアオガエル	B	●
	7	モリアオガエル	A	●
魚類	1	ギンブナ	B	●
	2	ドジョウ	C	
	3	シマヒレヨシノボリ	C	
昆虫類	1	キイロサナエ	C	
	2	オジロサナエ	B	●
	3	タバサナエ	B	●
	4	フタスジサナエ	B	●
	5	ヒメアカネ	B	●
	6	ハルゼミ	B	●
	7	オオミズムシ	B	●
	8	コオイムシ	B	●
	9	ミズカマキリ	B	●
	10	ヒメゲンゴロウ	B	●
	11	コガムシ	B	●
	12	ヘイケボタル	B	●
	13	ヒメボタル	B	●
	14	クワカミキリ	B	●
	15	ヤマトスナハキバチ本土亜種	B	●
底生動物	1	オオタニシ	C	

注 1) 影響の程度は、以下に示すとおりである。

A : 影響が生じる B : 生息環境が一部改変される C : 影響は生じない

注 2) 番号は、重要な動物種の状況における各分類の一覧 (表 12. 7-15～表 12. 7-21) に対応している。

注 3) 「アカガエル属」はニホンアカガエルかヤマアカガエルと考えられ、ヤマアカガエルの可能性があることから1種として扱った。

表 12.7-24(1) 重要な種の予測結果（哺乳類 1. モグラ科）

種名	モグラ科			
重要な種の選定基準	①天然記念物	—	④環境省レッドリスト	—
	②種の保存法	—	⑤兵庫県レッドリスト	—
	③神戸市市保全条例	—	⑥神戸市レッドリスト	(B)注2)
生息環境・生態	地下にトンネルを掘り、ミミズ類、昆虫類などを捕食する。			
確認状況	確認時期	令和3年夏季、秋季、令和4年春季		
	確認状況	調査地域における本種の主な生息環境は、樹林地及び草地であると考えられる。 変更区域内の14箇所及び変更区域外の14箇所において、延べ28例の痕跡（塚及び坑道）が確認された。		
工事の実施及び施設 の存在に伴う影響の 予測	本種の生息環境は、事業実施区域及びその周辺に広く分布しており、工事の実施により一部改変される。 以上のことから、本種の生息環境は一部改変されると予測される。			

注1) 選定基準は、表12.7-2に対応している。

注2) 「モグラ科」は、分布からコウベモグラと推定されることから、コウベモグラのランク及び生息環境・生態を記載した。

生息環境・生態の出典) 「2018 山梨県レッドデータブック—山梨県の絶滅のおそれのある野生生物」  
 (平成30年、山梨県)

表 12.7-24(2) 重要な種の予測結果（哺乳類 2. コキクガシラコウモリ）

種名	コキクガシラコウモリ			
重要な種の選定基準	①天然記念物	—	④環境省レッドリスト	—
	②種の保存法	—	⑤兵庫県レッドリスト	調
	③神戸市市保全条例	—	⑥神戸市レッドリスト	調
生息環境・生態	洞穴性で100頭を超える出産哺乳コロニーを形成する。モモジロコウモリと混群を形成することもある。			
確認状況	確認時期	令和3年秋季、令和4年冬季、初夏		
	確認状況	調査地域における本種の主な生息環境は、樹林地、草地、水域及び人工構造物であると考えられる。 事業実施区域内に存在する人工構造物（1箇所、4地点）において、延べ13例の成体が確認された。 繁殖地や繁殖に係る行動は確認されなかった。		
工事の実施及び施設 の存在に伴う影響の 予測	本種が休息場として利用している人工構造物は、工事の実施により改変されない。 また、工事に伴って発生する騒音や振動により、人工構造物内の生息状況が大きく変化することはないと考えられる。 本種の生息環境は、事業実施区域及びその周辺に広く分布しており、工事の実施により一部改変される。 以上のことから、本種の生息環境は一部改変されると予測される。			

注) 選定基準は、表12.7-2に対応している。

生息環境・生態の出典) 「兵庫県版レッドデータブック 2017（哺乳類・爬虫類・両生類・魚類・クモ類）」  
 (平成29年、兵庫県)

表 12.7-24(3) 重要な種の予測結果（哺乳類 3. キクガシラコウモリ）

種名	キクガシラコウモリ			
重要な種の選定基準	①天然記念物	—	④環境省レッドリスト	—
	②種の保存法	—	⑤兵庫県レッドリスト	調
	③神戸市市保全条例	—	⑥神戸市レッドリスト	調
生息環境・生態	主に洞穴性で自然洞窟のほか廃坑や防空壕などをねぐらとするが人家を利用する例も知られている。			
確認状況	確認時期	令和3年夏季、秋季、令和4年春季、初夏		
	確認状況	調査地域における本種の主な生息環境は、樹林地、草地、水域及び人工構造物であると考えられる。 事業実施区域内に存在する人工構造物（3箇所、9地点）及び事業実施区域外の洞窟（1箇所）において、延べ24例の成体が確認された。 繁殖地や繁殖に係る行動は確認されなかった。		
工事の実施及び施設 の存在に伴う影響の 予測	本種が休息場として利用している人工構造物は、工事の実施により一部改変される。 本種の生息環境は、事業実施区域及びその周辺に広く分布しており、工事の実施により一部改変される。 以上のことから、本種の生息環境は一部改変されると予測される。			

注) 選定基準は、表12.7-2に対応している。

生息環境・生態の出典) 「兵庫県版レッドデータブック 2017（哺乳類・爬虫類・両生類・魚類・クモ類）」  
(平成29年、兵庫県)

表 12.7-24(4) 重要な種の予測結果（哺乳類 4. モモジロコウモリ）

種名	モモジロコウモリ			
重要な種の選定基準	①天然記念物	—	④環境省レッドリスト	—
	②種の保存法	—	⑤兵庫県レッドリスト	調
	③神戸市市保全条例	—	⑥神戸市レッドリスト	調
生息環境・生態	洞穴性で廃坑や防空壕を利用する。湖沼や河川の水面で採食したり、飛翔しながら水をすくい上げて飲むことができる。			
確認状況	確認時期	令和3年秋季、令和4年冬季、春季		
	確認状況	調査地域における本種の主な生息環境は、樹林地、水域及び人工構造物であると考えられる。 事業実施区域内に存在する人工構造物（2箇所、5地点）において、延べ14例の成体が確認された。 繁殖地や繁殖に係る行動は確認されなかった。		
工事の実施及び施設 の存在に伴う影響の 予測	本種が休息場として利用している人工構造物は、工事の実施により一部改変される。 本種の生息環境は、事業実施区域及びその周辺に広く分布しており、工事の実施により一部改変される。 以上のことから、本種の生息環境は一部改変されると予測される。			

注) 選定基準は、表12.7-2に対応している。

生息環境・生態の出典) 「兵庫県版レッドデータブック 2017（哺乳類・爬虫類・両生類・魚類・クモ類）」  
(平成29年、兵庫県)

表 12.7-24(5) 重要な種の予測結果（哺乳類 5. ユビナガコウモリ）

種名	ユビナガコウモリ			
重要な種の選定基準	①天然記念物	—	④環境省レッドリスト	—
	②種の保存法	—	⑤兵庫県レッドリスト	調
	③神戸市市保全条例	—	⑥神戸市レッドリスト	調
生息環境・生態	洞穴性で数百の大群を形成する。季節的な移動をすることが知られている。			
確認状況	確認時期	令和3年秋季、令和4年冬季		
	確認状況	調査地域における本種の主な生息環境は、樹林地、草地、水域及び人工構造物であると考えられる。 事業実施区域内に存在する人工構造物（1箇所、3地点）において、延べ140例の成体が確認された。 繁殖地や繁殖に係る行動は確認されなかった。		
工事の実施及び施設 の存在に伴う影響の 予測	本種が休息場として利用している人工構造物は、工事の実施により改変されない。 また、工事に伴って発生する騒音や振動により、人工構造物内の生息状況が大きく変化することはないと考えられる。 本種の生息環境は、事業実施区域及びその周辺に広く分布しており、工事の実施により一部改変される。 以上のことから、本種の生息環境は一部改変されると予測される。			

注) 選定基準は、表12.7-2に対応している。

生息環境・生態の出典) 「兵庫県版レッドデータブック 2017（哺乳類・爬虫類・両生類・魚類・クモ類）」  
(平成29年、兵庫県)

表 12.7-24(6) 重要な種の予測結果（哺乳類 6. アカネズミ）

種名	アカネズミ			
重要な種の選定基準	①天然記念物	—	④環境省レッドリスト	—
	②種の保存法	—	⑤兵庫県レッドリスト	—
	③神戸市市保全条例	—	⑥神戸市レッドリスト	C
生息環境・生態	低山地の樹林から高山まで、最も生息域の広いネズミである。主に植物の種子や根茎などを食べるが、昆虫類を食べることもある。			
確認状況	確認時期	令和3年夏季、秋季、令和4年冬季、春季		
	確認状況	調査地域における本種の主な生息環境は、樹林地及び草地であると考えられる。 変更区域内の2箇所及び変更区域外の3箇所において、延べ8例の成体が確認された。		
工事の実施及び施設 の存在に伴う影響の 予測	本種の生息環境は、事業実施区域及びその周辺に広く分布しており、工事の実施により一部改変される。 以上のことから、本種の生息環境は一部改変されると予測される。			

注) 選定基準は、表12.7-2に対応している。

生息環境・生態の出典) 「東京都の保護上重要な野生生物種（本土部）2020年版」（令和3年、東京都）

表 12. 7-24(7) 重要な種の予測結果（哺乳類 7. カヤネズミ）

種名	カヤネズミ			
重要な種の選定基準	①天然記念物	—	④環境省レッドリスト	—
	②種の保存法	—	⑤兵庫県レッドリスト	—
	③神戸市市保全条例	—	⑥神戸市レッドリスト	B
生息環境・生態	主に平野の河川敷、農耕地に分布する。5～11月頃、オギ、チガヤなどの高茎草本の葉でつくった地上巣中で繁殖し、冬は地下で巣をつくり生活する。子供の巣立ちは早く約2週間。餌は昆虫や草本の種子など。			
確認状況	確認時期	令和4年冬季		
	確認状況	調査地域における本種の主な生息環境は、高茎草地であると考えられる。 変更区域外の1箇所において、延べ2例の痕跡（巣）が確認された。 調査地域において繁殖している。		
工事の実施及び施設 の存在に伴う影響の 予測	本種の生息環境は、工事の実施により改変されない。 以上のことから、本種の生息環境に影響は生じないと予測される。			

注) 選定基準は、表12. 7-2に対応している。

生息環境・生態の出典) 「京都府レッドデータブック2015 第1巻 野生動物編」(平成27年、京都府)

表 12. 7-24(8) 重要な種の予測結果（哺乳類 8. キツネ）

種名	キツネ			
重要な種の選定基準	①天然記念物	—	④環境省レッドリスト	—
	②種の保存法	—	⑤兵庫県レッドリスト	—
	③神戸市市保全条例	—	⑥神戸市レッドリスト	調
生息環境・生態	野ネズミ類、鳥類など小型の動物を食べる。また人家の残飯等も食べる。			
確認状況	確認時期	令和3年夏季、令和4年冬季、春季		
	確認状況	調査地域における本種の主な生息環境は、樹林地及び草地であると考えられる。 変更区域外の9箇所において、延べ17例の成体及び痕跡（糞）が確認された。		
工事の実施及び施設 の存在に伴う影響の 予測	本種の生息環境は、事業実施区域及びその周辺に広く分布しており、工事の実施により一部改変される。 以上のことから、本種の生息環境は一部改変されると予測される。			

注) 選定基準は、表12. 7-2に対応している。

生息環境・生態の出典) 「京都府レッドデータブック2015 第1巻 野生動物編」(平成27年、京都府)

表 12.7-24(9) 重要な種の予測結果（哺乳類 9. テン）

種名	テン			
重要な種の選定基準	①天然記念物	—	④環境省レッドリスト	—
	②種の保存法	—	⑤兵庫県レッドリスト	—
	③神戸市市保全条例	—	⑥神戸市レッドリスト	調
生息環境・生態	木登りが巧みで樹上でムササビやモモンガをはじめとする鳥獣を捕食し、季節によっては植物質もよく食べるので、どのようなタイプの樹林でも生息できるが、森から離れては生息できない。			
確認状況	確認時期	令和3年夏季、秋季、令和4年初夏季、夏季		
	確認状況	調査地域における本種の主な生息環境は、樹林地であると考えられる。 変更区域内の2箇所及び変更区域外の4箇所において、延べ7例の成体及び痕跡（糞）が確認された。		
工事の実施及び施設 の存在に伴う影響の 予測	本種の生息環境は、事業実施区域及びその周辺に広く分布しており、工事の実施により一部改変される。 以上のことから、本種の生息環境は一部改変されると予測される。			

注) 選定基準は、表12.7-2に対応している。

生息環境・生態の出典) 「東京都の保護上重要な野生生物種（本土部）2020年版」（令和3年、東京都）

表 12.7-24(10) 重要な種の予測結果（哺乳類 10. ニホンイタチ）

種名	ニホンイタチ			
重要な種の選定基準	①天然記念物	—	④環境省レッドリスト	—
	②種の保存法	—	⑤兵庫県レッドリスト	—
	③神戸市市保全条例	—	⑥神戸市レッドリスト	調
生息環境・生態	水辺を極めて好むので水から離れた場所には少ない。ネズミ類のほかにかエル類、魚類、ザリガニなども食べる。			
確認状況	確認時期	令和3年夏季、秋季、令和4年冬季、初夏季		
	確認状況	調査地域における本種の主な生息環境は、樹林地、草地及び水辺であると考えられる。 変更区域内の1箇所及び変更区域外の5箇所において、延べ6例の成体及び痕跡（糞）が確認された。 <sup>注2)</sup>		
工事の実施及び施設 の存在に伴う影響の 予測	本種の生息環境は、事業実施区域及びその周辺に広く分布しており、工事の実施により一部改変される。 以上のことから、本種の生息環境は一部改変されると予測される。			

注1) 選定基準は、表12.7-2に対応している。

注2) 確認状況には、ニホンイタチあるいはシベリアイタチを示す「イタチ属」を含む。

生息環境・生態の出典) 「東京都の保護上重要な野生生物種（本土部）2020年版」（令和3年、東京都）

表 12. 7-24(11) 重要な種の予測結果（哺乳類 11. アナグマ）

種名	アナグマ			
重要な種の選定基準	①天然記念物	—	④環境省レッドリスト	—
	②種の保存法	—	⑤兵庫県レッドリスト	—
	③神戸市市保全条例	—	⑥神戸市レッドリスト	B
生息環境・生態	穴掘りに適した丈夫な爪を持つ。ミミズ類や昆虫類、両生類、爬虫類、小型哺乳類など地表の小動物を食べる。土壌の発達した環境ならば山地の樹林や丘陵地の里山でも生息できる。			
確認状況	確認時期	令和 3 年夏季、令和 4 年冬季		
	確認状況	調査地域における本種の主な生息環境は、樹林地であると考えられる。 変更区域内の 1 箇所及び変更区域外の 1 箇所において、延べ 2 例の痕跡（巣及び糞）が確認された。		
工事の実施及び施設 の存在に伴う影響の 予測	本種の生息環境は、事業実施区域及びその周辺に広く分布しており、工事の実施により一部改変される。 以上のことから、本種の生息環境は一部改変されると予測される。			

注) 選定基準は、表12. 7-2に対応している。

生息環境・生態の出典) 「東京都の保護上重要な野生生物種（本土部）2020年版」（令和3年、東京都）

表 12. 7-24(12) 重要な種の予測結果（鳥類 1. ヤマドリ）

種名	ヤマドリ			
重要な種の選定基準	①天然記念物	—	④環境省レッドリスト	—
	②種の保存法	—	⑤兵庫県レッドリスト	注
	③神戸市市保全条例	—	⑥神戸市レッドリスト	繁殖：調
生息環境・生態	草や木の葉、種子、昆虫、クモ類などを採食する。地上にくぼみをつくり、枯れ葉を敷いた巣をつくる。ふ化後は雛を連れて巣を離れる。			
確認状況	確認時期	令和 4 年春季、初夏、夏季		
	確認状況	調査地域における本種の主な生息環境は、樹林地であると考えられる。 変更区域内の 1 箇所及び変更区域外の 2 箇所において、延べ 25 例の成鳥及び幼鳥が確認された。 調査地域において繁殖している。		
工事の実施及び施設 の存在に伴う影響の 予測	本種の生息環境は、事業実施区域及びその周辺に広く分布しており、工事の実施により一部改変される。 以上のことから、本種の生息環境は一部改変されると予測される。			

注) 選定基準は、表12. 7-2に対応している。

生息環境・生態の出典) 「京都府レッドデータブック2015 第1巻 野生動物編」（平成27年、京都府）

表 12. 7-24 (13) 重要な種の予測結果（鳥類 2. オシドリ）

種名	オシドリ			
重要な種の選定基準	①天然記念物	—	④環境省レッドリスト	DD
	②種の保存法	—	⑤兵庫県レッドリスト	B
	③神戸市市保全条例	—	⑥神戸市レッドリスト	越冬：C
生息環境・生態	繁殖期には、山地の溪流で生活し、森林の樹洞で営巣する。冬期は岸を林が覆っている湖や池、河川などに移動し、群れで生活する。ドングリを好んで食べる他、穀類や水生植物、小動物などを採食する。			
確認状況	確認時期	令和 4 年冬季		
	確認状況	調査地域における本種の主な生息環境は、樹林に囲まれたため池であると考えられる。 変更区域内の 5 箇所（8 地点）において、延べ 200 例以上の成鳥が確認された。		
工事の実施及び施設 の存在に伴う影響の 予測	本種の生息環境は、事業実施区域及びその周辺に広く分布しており、工事の実施により一部改変される。 工事に伴って発生する濁水は、仮設沈砂池等を設置し適切に処理した上で排出する。 以上のことから、本種の生息環境は一部改変されると予測される。			

注) 選定基準は、表12. 7-2に対応している。

生息環境・生態の出典) 「兵庫県版レッドデータブック 2013 (鳥類)」 (平成25年、兵庫県)

表 12. 7-24 (14) 重要な種の予測結果（鳥類 3. ミゾゴイ）

種名	ミゾゴイ			
重要な種の選定基準	①天然記念物	—	④環境省レッドリスト	VU
	②種の保存法	—	⑤兵庫県レッドリスト	A
	③神戸市市保全条例	—	⑥神戸市レッドリスト	繁殖：A
生息環境・生態	低山地の、昼でも薄暗い、沢のある自然林に生息し、単独で繁殖する。沢沿いを中心に、サワガニやカエル類、昆虫類、ミミズ類などを捕食する。			
確認状況	確認時期	令和 4 年春季、初夏季		
	確認状況	調査地域における本種の主な生息環境は、薄暗い谷筋の樹林地であると考えられる。 変更区域外の 3 箇所において、延べ 26 例の成鳥が確認された。 夏鳥であり繁殖の可能性がある。		
工事の実施及び施設 の存在に伴う影響の 予測	本種を確認した谷筋は、事前配慮を踏まえた事業計画検討段階において、改変を回避する計画としているが、生息環境は工事の実施により一部改変される。 以上のことから、本種の生息環境は一部改変されると予測される。			

注) 選定基準は、表12. 7-2に対応している。

生息環境・生態の出典) 「兵庫県版レッドデータブック 2013 (鳥類)」 (平成25年、兵庫県)

表 12.7-24(15) 重要な種の予測結果（鳥類 4. ホトトギス）

種名	ホトトギス			
重要な種の選定基準	①天然記念物	—	④環境省レッドリスト	—
	②種の保存法	—	⑤兵庫県レッドリスト	—
	③神戸市市保全条例	—	⑥神戸市レッドリスト	繁殖：B
生息環境・生態	平地から亜高山帯の樹林に生息し、主に昆虫類を食べる。主な宿主はウグイスである。			
確認状況	確認時期	令和3年初夏季、夏季、令和4年春季、初夏		
	確認状況	調査地域における本種の主な生息環境は、樹林地であると考えられる。 変更区域内の6箇所及び変更区域外の13箇所において、延べ19例の鳴き声が確認された。 夏鳥であり繁殖の可能性がある。		
工事の実施及び施設 の存在に伴う影響の 予測	本種の生息環境は、事業実施区域及びその周辺に広く分布しており、工事の実施により一部改変される。 以上のことから、本種の生息環境は一部改変されると予測される。			

注) 選定基準は、表12.7-2に対応している。

生息環境・生態の出典) 「東京都の保護上重要な野生生物種（本土部）2020年版」（令和3年、東京都）

表 12.7-24(16) 重要な種の予測結果（鳥類 5. ツツドリ）

種名	ツツドリ			
重要な種の選定基準	①天然記念物	—	④環境省レッドリスト	—
	②種の保存法	—	⑤兵庫県レッドリスト	—
	③神戸市市保全条例	—	⑥神戸市レッドリスト	繁殖：B
生息環境・生態	4月下旬に渡来し、低山帯の落葉広葉樹林や亜高山帯の針葉樹林に生息する。昆虫を主食とし、鱗翅類の幼虫を好んで採食する。センダイムシクイ、ヤブサメ、キビタキなどに托卵する。			
確認状況	確認時期	令和4年春季		
	確認状況	調査地域における本種の主な生息環境は、樹林地であると考えられる。 変更区域内の1箇所において、延べ1例の成鳥が確認された。 夏鳥であり繁殖の可能性がある。		
工事の実施及び施設 の存在に伴う影響の 予測	本種の生息環境は、事業実施区域及びその周辺に広く分布しており、工事の実施により一部改変される。 以上のことから、本種の生息環境は一部改変されると予測される。			

注) 選定基準は、表12.7-2に対応している。

生息環境・生態の出典) 「京都府レッドデータブック2015 第1巻 野生動物編」（平成27年、京都府）

表 12.7-24(17) 重要な種の予測結果（鳥類 6. イカルチドリ）

種名	イカルチドリ			
重要な種の選定基準	①天然記念物	—	④環境省レッドリスト	—
	②種の保存法	—	⑤兵庫県レッドリスト	B
	③神戸市市保全条例	—	⑥神戸市レッドリスト	繁殖：B, 越冬：B
生息環境・生態	河川の中流域から上流域、湖沼、水田などに生息し、昆虫類やイトミミズ類などを採食する。繁殖は主に河原の砂礫地を利用するが、造成地でも営巣する。			
確認状況	確認時期	令和4年冬季		
	確認状況	調査地域における本種の主な生息環境は、水域であると考えられる。 変更区域外の1箇所において、延べ3例の成鳥が確認された。 繁殖に適した砂礫地等の環境がないことから、繁殖の可能性は小さいと考えられる。		
工事の実施及び施設 の存在に伴う影響の 予測	本種の生息環境は、事業実施区域及びその周辺に広く分布しており、工事の実施により一部改変される。 以上のことから、本種の生息環境は一部改変されると予測される。			

注) 選定基準は、表12.7-2に対応している。

生息環境・生態の出典) 「兵庫県版レッドデータブック 2013(鳥類)」(平成25年、兵庫県)

表 12.7-24(18) 重要な種の予測結果（鳥類 7. アオシギ）

種名	アオシギ			
重要な種の選定基準	①天然記念物	—	④環境省レッドリスト	—
	②種の保存法	—	⑤兵庫県レッドリスト	B
	③神戸市市保全条例	—	⑥神戸市レッドリスト	越冬：B
生息環境・生態	山地の溪流沿いや水田、山間部の湿地などに単独で生息する。昆虫類やミミズ類、陸生貝類などを採食する。			
確認状況	確認時期	令和4年冬季		
	確認状況	調査地域における本種の主な生息環境は、樹林地内の水域であると考えられる。 変更区域外の1箇所において、延べ1例の成鳥が確認された。 冬鳥であり繁殖の可能性は小さい。		
工事の実施及び施設 の存在に伴う影響の 予測	本種の生息環境は、事業実施区域及びその周辺に広く分布しており、工事の実施により一部改変される。 工事に伴って発生する濁水は、仮設沈砂池等を設置し適切に処理した上で排出する。 以上のことから、本種の生息環境は一部改変されると予測される。			

注) 選定基準は、表12.7-2に対応している。

生息環境・生態の出典) 「兵庫県版レッドデータブック 2013(鳥類)」(平成25年、兵庫県)

表 12. 7-24 (19) 重要な種の予測結果 (鳥類 8. ミサゴ)

種名	ミサゴ			
重要な種の選定基準	①天然記念物	—	④環境省レッドリスト	NT
	②種の保存法	—	⑤兵庫県レッドリスト	A
	③神戸市市保全条例	—	⑥神戸市レッドリスト	繁殖：A, 越冬：C
生息環境・生態	海岸、大河川、湖沼などに生息し、断崖のある海岸や森林の大木などで局所的に繁殖する。主に魚類を、水面に急降下して捕食する。			
確認状況	確認時期	令和3年初夏季、夏季、令和4年冬季、春季、初夏、夏季		
	確認状況	調査地域における本種の主な生息環境は、樹林地及び水域であると考えられる。 変更区域内で延べ8例及び変更区域外で延べ48例の飛翔、とまり、餌運び及び抱卵等が確認された。 変更区域から1km以上離れた地域において複数ペア及び巣が確認され、2箇所繁殖に係る行動が確認された。		
工事の実施及び施設 の存在に伴う影響の 予測	変更区域及びその周辺においては、確認例数が少ないことから、繁殖の可能性は小さく、広い行動範囲の一部として利用していると考えられる。 繁殖に係る行動が確認された2ペアは、巣が変更区域から1km以上離れており、繁殖への影響はないと考えられる。 本種の採餌環境は、工事の実施により改変されない。 工事に伴って発生する濁水は、仮設沈砂池等を設置し適切に処理した上で排出する。 以上のことから、本種の生息環境に影響は生じないと予測される。			

注) 選定基準は、表12. 7-2に対応している。

生息環境・生態の出典) 「兵庫県版レッドデータブック 2013 (鳥類)」 (平成25年、兵庫県)

表 12. 7-24 (20) 重要な種の予測結果 (鳥類 9. ハチクマ)

種名	ハチクマ			
重要な種の選定基準	①天然記念物	—	④環境省レッドリスト	NT
	②種の保存法	—	⑤兵庫県レッドリスト	B
	③神戸市市保全条例	—	⑥神戸市レッドリスト	繁殖：B
生息環境・生態	丘陵から低山の森林に生息し、落葉広葉樹やアカマツなどに営巣する。好物は地中のクロスズメバチだが、その他の昆虫類やカエル類、ネズミ類なども捕食する。			
確認状況	確認時期	令和3年初夏季、夏季、秋季、令和4年春季、初夏、夏季		
	確認状況	調査地域における本種の主な生息環境は、樹林地であると考えられる。 変更区域内で延べ9例及び変更区域外で延べ60例の飛翔、とまり、餌運び及び幼鳥等が確認された。 変更区域上空や近傍において1ペアが確認された。また、変更区域から1km以上離れた地域において3ペアの繁殖が示唆された。		
工事の実施及び施設 の存在に伴う影響の 予測	変更区域の上空や周辺において1ペアが確認されたが、確認例数が少ないことから、変更区域及びその周辺における繁殖の可能性は小さく、広い行動範囲の一部として利用していると考えられる。 繁殖が示唆された3ペアは、営巣地が変更区域から1km以上離れており、繁殖への影響はないと考えられる。 本種の採餌環境は、事業実施区域及びその周辺に広く分布しており、工事の実施により一部改変される。 以上のことから、本種の生息環境は一部改変されると予測される。			

注) 選定基準は、表12. 7-2に対応している。

生息環境・生態の出典) 「兵庫県版レッドデータブック 2013 (鳥類)」 (平成25年、兵庫県)

表 12.7-24(21) 重要な種の予測結果（鳥類 10. ハイタカ）

種名	ハイタカ			
重要な種の選定基準	①天然記念物	—	④環境省レッドリスト	NT
	②種の保存法	—	⑤兵庫県レッドリスト	C
	③神戸市市保全条例	—	⑥神戸市レッドリスト	越冬：C
生息環境・生態	山地の森林に生息し繁殖する。冬期は平地から山地の林や農耕地、時には市街地にも飛来する。主に小型の鳥類を捕食する。			
確認状況	確認時期	令和4年冬季、春季		
	確認状況	調査地域における本種の主な生息環境は、樹林地及び草地であると考えられる。 変更区域内で延べ3例及び変更区域外で延べ12例の飛翔が確認された。 繁殖に係る行動は確認されず、冬鳥であり繁殖の可能性は小さい。		
工事の実施及び施設の存在に伴う影響の予測	変更区域及びその周辺においては、確認例数が少ないことから、繁殖の可能性は小さく、広い行動範囲の一部として利用していると考えられる。 本種の採餌環境は、事業実施区域及びその周辺に広く分布しており、工事の実施により一部変更される。 以上のことから、本種の生息環境は一部変更されると予測される。			

注) 選定基準は、表12.7-2に対応している。

生息環境・生態の出典) 「兵庫県版レッドデータブック 2013(鳥類)」(平成25年、兵庫県)

表 12.7-24(22) 重要な種の予測結果（鳥類 11. オオタカ）

種名	オオタカ			
重要な種の選定基準	①天然記念物	—	④環境省レッドリスト	NT
	②種の保存法	—	⑤兵庫県レッドリスト	B
	③神戸市市保全条例	—	⑥神戸市レッドリスト	繁殖 B、 越冬 C
生息環境・生態	平地から山地の林に生息する。丘陵から山地の、主にマツ林で繁殖し、秋から冬には平地の農耕地や河畔林、都市林にも飛来する。林縁部や水際で小型～中型の鳥類を捕食する。			
確認状況	確認時期	令和3年初夏季、夏季、令和4年冬季、春季、初夏季、夏季、令和5年冬季		
	確認状況	調査地域における本種の主な生息環境は、樹林地及び草地であると考えられる。 変更区域内で延べ2例及び変更区域外で延べ57例の飛翔、とまり、鳴き声及び幼鳥等が確認された。 変更区域の周辺において幼鳥及び古巣が確認されたが、古巣の利用は確認されなかった。		
工事の実施及び施設の存在に伴う影響の予測	変更区域の周辺において幼鳥及び古巣が確認されたが、古巣の利用が確認されなかったことから、変更区域及びその周辺における繁殖の可能性は小さく、広い行動範囲の一部として利用していると考えられる。 本種の採餌環境は、事業実施区域及びその周辺に広く分布しており、工事の実施により一部変更される。 以上のことから、本種の生息環境は一部変更されると予測される。			

注) 選定基準は、表12.7-2に対応している。

生息環境・生態の出典) 「兵庫県版レッドデータブック 2013(鳥類)」(平成25年、兵庫県)

表 12.7-24(23) 重要な種の予測結果（鳥類 12. サシバ）

種名	サシバ			
重要な種の選定基準	①天然記念物	—	④環境省レッドリスト	VU
	②種の保存法	—	⑤兵庫県レッドリスト	B
	③神戸市市保全条例	—	⑥神戸市レッドリスト	繁殖：A
生息環境・生態	丘陵から山間の森や水田近くの雑木林に生息する。林の樹梢に営巣し、水田などでヘビ類やカエル類などを捕食する。			
確認状況	確認時期	令和3年初夏季、夏季、令和4年春季、初夏季、夏季		
	確認状況	調査地域における本種の主な生息環境は、樹林地、草地及び水田であると考えられる。 変更区域内で延べ4例及び変更区域外で延べ9例の飛翔が確認された。 古巣が確認されたが、繁殖に係る行動は確認されなかった。		
工事の実施及び施設 の存在に伴う影響の 予測	変更区域の周辺において本種の古巣が確認されたが、調査地域における確認例数が少なく、古巣周辺における飛翔や繁殖に係る行動も確認されなかったことから、繁殖の可能性は小さく、広い行動範囲の一部として利用していると考えられる。 本種の採餌環境は、事業実施区域及びその周辺に広く分布しており、工事の実施により一部改変される。 以上のことから、本種の生息環境は一部改変されると予測される。			

注) 選定基準は、表12.7-2に対応している。

生息環境・生態の出典) 「兵庫県版レッドデータブック 2013(鳥類)」(平成25年、兵庫県)

表 12.7-24(24) 重要な種の予測結果（鳥類 13. ノスリ）

種名	ノスリ			
重要な種の選定基準	①天然記念物	—	④環境省レッドリスト	—
	②種の保存法	—	⑤兵庫県レッドリスト	B
	③神戸市市保全条例	—	⑥神戸市レッドリスト	越冬：C
生息環境・生態	平地、丘陵地から山地の林に生息する。山間から平地の農耕地や牧場、池沼、河原などの草原でネズミ類、ヘビ類、小型鳥類、昆虫類などを捕食する。			
確認状況	確認時期	令和4年冬季、春季、夏季		
	確認状況	調査地域における本種の主な生息環境は、樹林地、草地及び水田であると考えられる。 変更区域内で1例及び変更区域外で延べ16例の飛翔やとまり等が確認された。 繁殖に係る行動は確認されず、冬鳥であり繁殖の可能性は小さい。		
工事の実施及び施設 の存在に伴う影響の 予測	変更区域及びその周辺においては、確認例数が少ないことから、繁殖の可能性は小さく、広い行動範囲の一部として利用していると考えられる。 本種の採餌環境は、事業実施区域及びその周辺に広く分布しており、工事の実施により一部改変される。 以上のことから、本種の生息環境は一部改変されると予測される。			

注) 選定基準は、表12.7-2に対応している。

生息環境・生態の出典) 「兵庫県版レッドデータブック 2013(鳥類)」(平成25年、兵庫県)

表 12.7-24(25) 重要な種の予測結果（鳥類 14. フクロウ）

種名	フクロウ			
重要な種の選定基準	①天然記念物	—	④環境省レッドリスト	—
	②種の保存法	—	⑤兵庫県レッドリスト	—
	③神戸市市保全条例	—	⑥神戸市レッドリスト	繁殖：B, 越冬：B
生息環境・生態	夜間、ネズミを採食する。樹洞で営巣する。			
確認状況	確認時期	令和4年春季、初夏、令和5年冬季		
	確認状況	調査地域における本種の主な生息環境は、樹林地であると考えられる。 変更区域外の6箇所において、延べ6例の鳴き声及び成鳥が確認された。 留鳥であり繁殖の可能性がある。		
工事の実施及び施設 の存在に伴う影響の 予測	本種の生息環境は、事業実施区域及びその周辺に広く分布しており、工事の実施により一部改変される。 以上のことから、本種の生息環境は一部改変されると予測される。			

注) 選定基準は、表12.7-2に対応している。

生息環境・生態の出典) 「京都府レッドデータブック2015 第1巻 野生動物編」(平成27年、京都府)

表 12.7-24(26) 重要な種の予測結果（鳥類 15. カワセミ）

種名	カワセミ			
重要な種の選定基準	①天然記念物	—	④環境省レッドリスト	—
	②種の保存法	—	⑤兵庫県レッドリスト	注
	③神戸市市保全条例	—	⑥神戸市レッドリスト	—
生息環境・生態	清流を代表する鳥で、平地から山地の湖沼、河川、水路などに生息し、土手や崖などに穴を掘って営巣する。主に小魚類や水生昆虫類、カエル類、エビ類などを捕食する。			
確認状況	確認時期	令和4年春季		
	確認状況	調査地域における本種の主な生息環境は、水域であると考えられる。 変更区域外の2箇所において、延べ2例の鳴き声が確認された。 留鳥であり繁殖の可能性がある。		
工事の実施及び施設 の存在に伴う影響の 予測	本種の生息環境は、事業実施区域及びその周辺に広く分布しており、工事の実施により一部改変される。 工事に伴って発生する濁水は、仮設沈砂池等を設置し適切に処理した上で排出する。 以上のことから、本種の生息環境は一部改変されると予測される。			

注) 選定基準は、表12.7-2に対応している。

生息環境・生態の出典) 「兵庫県版レッドデータブック 2013(鳥類)」(平成25年、兵庫県)

表 12.7-24(27) 重要な種の予測結果（鳥類 16. アオゲラ）

種名	アオゲラ			
重要な種の選定基準	①天然記念物	—	④環境省レッドリスト	—
	②種の保存法	—	⑤兵庫県レッドリスト	C
	③神戸市市保全条例	—	⑥神戸市レッドリスト	繁殖：C, 越冬：C
生息環境・生態	平地から山地のよく茂った広葉樹林に生息し、太い木の幹に穴を掘って営巣する。昆虫類やクモ類などを捕食する。特に朽木内の幼虫を好み、特有の舌で木の中から引っ張り出して食べる。			
確認状況	確認時期	令和3年初夏季、秋季、令和4年冬季、春季、初夏		
	確認状況	調査地域における本種の主な生息環境は、樹林地であると考えられる。 変更区域内の5箇所及び変更区域外の8箇所において、延べ15例の鳴き声が確認された。 留鳥であり繁殖の可能性がある。		
工事の実施及び施設 の存在に伴う影響の 予測	本種の生息環境は、事業実施区域及びその周辺に広く分布しており、工事の実施により一部改変される。 以上のことから、本種の生息環境は一部改変されると予測される。			

注) 選定基準は、表12.7-2に対応している。

生息環境・生態の出典) 「兵庫県版レッドデータブック 2013(鳥類)」(平成25年、兵庫県)

表 12.7-24(28) 重要な種の予測結果（鳥類 17. チョウゲンボウ）

種名	チョウゲンボウ			
重要な種の選定基準	①天然記念物	—	④環境省レッドリスト	—
	②種の保存法	—	⑤兵庫県レッドリスト	—
	③神戸市市保全条例	—	⑥神戸市レッドリスト	繁殖：A
生息環境・生態	広い農耕地、河川敷、山林に出現する。餌はネズミ等の小型哺乳類や小鳥、昆虫など。崖で集団営巣するほか、近年、人工物を利用しての営巣例が増加している。			
確認状況	確認時期	令和3年初夏季、令和4年冬季、春季、夏季		
	確認状況	調査地域における本種の主な生息環境は、樹林地、草地及び市街地であると考えられる。 変更区域外で延べ5例の飛翔やとまりが確認された。 変更区域の周辺において他種への攻撃行動が確認されたが、確認例数が少なくその他の繁殖に係る行動や巣は確認されなかった。		
工事の実施及び施設 の存在に伴う影響の 予測	変更区域の周辺において他種への攻撃行動が確認されたが、確認例数が少なくその他の繁殖に係る行動や巣は確認されなかったことから、変更区域及びその周辺における繁殖の可能性は小さい。 本種の採餌環境は、事業実施区域及びその周辺に広く分布しており、工事の実施により一部改変される。 以上のことから、本種の生息環境は一部改変されると予測される。			

注) 選定基準は、表12.7-2に対応している。

生息環境・生態の出典) 「京都府レッドデータブック2015 第1巻 野生動物編」(平成27年、京都府)

表 12.7-24(29) 重要な種の予測結果（鳥類 18. ハヤブサ）

種名	ハヤブサ			
重要な種の選定基準	①天然記念物	—	④環境省レッドリスト	VU
	②種の保存法	国内	⑤兵庫県レッドリスト	B
	③神戸市市保全条例	—	⑥神戸市レッドリスト	繁殖：A, 越冬：C
生息環境・生態	海岸、河口、湖沼、原野や農耕地などに生息し、海岸の断崖で営巣する。飛行は速く直線的で、小型から中型の鳥類を急襲して捕食する。			
確認状況	確認時期	令和3年初夏、夏季、令和4年冬季、春季、夏季		
	確認状況	調査地域における本種の主な生息環境は、草地であると考えられる。 変更区域内で延べ2例及び変更区域外で延べ17例の飛翔、とまり及び幼鳥等が確認された。 変更区域から1km以内の地域において幼鳥が確認されたが、繁殖に係る行動や巣は確認されなかった。		
工事の実施及び施設 の存在に伴う影響の 予測	変更区域の周辺において幼鳥が確認されたが、繁殖に係る行動や巣が確認されなかったことから、変更区域及びその周辺における繁殖の可能性は小さい。 本種の採餌環境は、事業実施区域及びその周辺に広く分布しており、工事の実施により一部改変される。 以上のことから、本種の生息環境は一部改変されると予測される。			

注) 選定基準は、表12.7-2に対応している。

生息環境・生態の出典) 「兵庫県版レッドデータブック 2013(鳥類)」(平成25年、兵庫県)

表 12.7-24(30) 重要な種の予測結果（鳥類 19. サンショウクイ）

種名	サンショウクイ			
重要な種の選定基準	①天然記念物	—	④環境省レッドリスト	VU
	②種の保存法	—	⑤兵庫県レッドリスト	C
	③神戸市市保全条例	—	⑥神戸市レッドリスト	繁殖：B
生息環境・生態	平地から丘陵、低山の落葉広葉樹林など、比較的明るい林に生息し、高木の横枝に営巣する。樹上で昆虫類やクモ類を捕食する。			
確認状況	確認時期	令和3年夏季、令和4年春季、初夏		
	確認状況	調査地域における本種の主な生息環境は、樹林地であると考えられる。 変更区域内の3箇所及び変更区域外の1箇所において、延べ5例の成鳥や鳴き声が確認された。 夏鳥であり繁殖の可能性はある。		
工事の実施及び施設 の存在に伴う影響の 予測	本種の生息環境は、事業実施区域及びその周辺に広く分布しており、工事の実施により一部改変される。 以上のことから、本種の生息環境は一部改変されると予測される。			

注) 選定基準は、表12.7-2に対応している。

生息環境・生態の出典) 「兵庫県版レッドデータブック 2013(鳥類)」(平成25年、兵庫県)

表 12. 7-24 (31) 重要な種の予測結果（鳥類 20. サンコウチョウ）

種名	サンコウチョウ			
重要な種の選定基準	①天然記念物	—	④環境省レッドリスト	—
	②種の保存法	—	⑤兵庫県レッドリスト	—
	③神戸市市保全条例	—	⑥神戸市レッドリスト	繁殖：C
生息環境・生態	薄暗く林床の開けた広葉樹林やスギ・ヒノキの植林地を好み、昆虫を空中で捕食する。樹木の枝の分岐部に巣をつくる。			
確認状況	確認時期	令和4年春季、初夏、夏季		
	確認状況	調査地域における本種の主な生息環境は、樹林地であると考えられる。 変更区域内の1箇所及び変更区域外の6箇所において、延べ8例の成鳥や鳴き声が確認された。 夏鳥であり繁殖の可能性がある。		
工事の実施及び施設 の存在に伴う影響の 予測	本種の生息環境は、事業実施区域及びその周辺に広く分布しており、工事の実施により一部改変される。 以上のことから、本種の生息環境は一部改変されると予測される。			

注) 選定基準は、表12. 7-2に対応している。

生息環境・生態の出典) 「京都府レッドデータブック2015 第1巻 野生動物編」(平成27年、京都府)

表 12. 7-24 (32) 重要な種の予測結果（鳥類 21. オオムシクイ）

種名	オオムシクイ			
重要な種の選定基準	①天然記念物	—	④環境省レッドリスト	DD
	②種の保存法	—	⑤兵庫県レッドリスト	—
	③神戸市市保全条例	—	⑥神戸市レッドリスト	—
生息環境・生態	渡りの時期春と秋に通過する個体を見ることが出来る。通過する場所は山地の林であったり河川のヨシ原であったり、特定な場所ではない。			
確認状況	確認時期	令和3年秋季		
	確認状況	調査地域における本種の主な生息環境は、樹林地及び草地であると考えられる。 変更区域内の1箇所及び変更区域外の1箇所において、延べ2例の成鳥や鳴き声が確認された。 旅鳥であり繁殖の可能性は小さいと考えられる。		
工事の実施及び施設 の存在に伴う影響の 予測	本種の生息環境は、事業実施区域及びその周辺に広く分布しており、工事の実施により一部改変される。 以上のことから、本種の生息環境は一部改変されると予測される。			

注) 選定基準は、表12. 7-2に対応している。

生息環境・生態の出典) 「岡山県版レッドデータブック2020(動物編)」(令和2年、岡山県)

表 12.7-24(33) 重要な種の予測結果（鳥類 22. トラツグミ）

種名	トラツグミ			
重要な種の選定基準	①天然記念物	—	④環境省レッドリスト	—
	②種の保存法	—	⑤兵庫県レッドリスト	—
	③神戸市市保全条例	—	⑥神戸市レッドリスト	繁殖：C
生息環境・生態	低山から深い山地で繁殖し、冬期は平地の公園などでも観察されることがある。昆虫、ミミズのほか、果実も食べる。樹上に営巣する。			
確認状況	確認時期	令和3年秋季、令和4年冬季		
	確認状況	調査地域における本種の主な生息環境は、樹林地であると考えられる。 変更区域外の2箇所において、延べ2例の成鳥や死骸が確認された。 冬鳥であり繁殖の可能性は小さい。		
工事の実施及び施設 の存在に伴う影響の 予測	本種の生息環境は、事業実施区域及びその周辺に広く分布しており、工事の実施により一部改変される。 以上のことから、本種の生息環境は一部改変されると予測される。			

注) 選定基準は、表12.7-2に対応している。

生息環境・生態の出典) 「京都府レッドデータブック2015 第1巻 野生動物編」(平成27年、京都府)

表 12.7-24(34) 重要な種の予測結果（鳥類 23. ルリビタキ）

種名	ルリビタキ			
重要な種の選定基準	①天然記念物	—	④環境省レッドリスト	—
	②種の保存法	—	⑤兵庫県レッドリスト	A
	③神戸市市保全条例	—	⑥神戸市レッドリスト	—
生息環境・生態	夏は高山の針葉樹林や針広混交林に生息し林床や倒木の窪みなどで繁殖する。冬は低山から平地に移動し、山麓の暗い斜面や溪流沿いに生息する。主に昆虫類、クモ類、ミミズ類などの小動物の他、秋から冬には草木の実なども採食する。			
確認状況	確認時期	令和4年冬季		
	確認状況	調査地域における本種の主な生息環境は、樹林地であると考えられる。変更区域内の2箇所及び変更区域外の7箇所において、延べ10例の成鳥が確認された。 冬鳥であり繁殖の可能性は小さい。		
工事の実施及び施設 の存在に伴う影響の 予測	本種の生息環境は、事業実施区域及びその周辺に広く分布しており、工事の実施により一部改変される。 以上のことから、本種の生息環境は一部改変されると予測される。			

注) 選定基準は、表12.7-2に対応している。

生息環境・生態の出典) 「兵庫県版レッドデータブック 2013(鳥類)」(平成25年、兵庫県)

表 12.7-24(35) 重要な種の予測結果（鳥類 24. キビタキ）

種名	キビタキ			
重要な種の選定基準	①天然記念物	—	④環境省レッドリスト	—
	②種の保存法	—	⑤兵庫県レッドリスト	注
	③神戸市市保全条例	—	⑥神戸市レッドリスト	—
生息環境・生態	低山から山地の落葉広葉樹林から針広混交林に生息し、樹洞やキツツキの古巣などに営巣する。ブナなどの大木が繁る比較的明るい林で飛んでいる昆虫類をフライングキャッチして食べる。秋には木の実も食べる。渡りの途中では山麓の社寺林や平地の都市緑地にも飛来する。			
確認状況	確認時期	令和4年春季、初夏		
	確認状況	調査地域における本種の主な生息環境は、樹林地であると考えられる。 変更区域内の16箇所及び変更区域外の32箇所において、延べ約70例の成鳥や鳴き声が確認された。 夏鳥であり繁殖の可能性がある。		
工事の実施及び施設 の存在に伴う影響の 予測	本種の生息環境は、事業実施区域及びその周辺に広く分布しており、工事の実施により一部改変される。 以上のことから、本種の生息環境は一部改変されると予測される。			

注) 選定基準は、表12.7-2に対応している。

生息環境・生態の出典) 「兵庫県版レッドデータブック 2013(鳥類)」(平成25年、兵庫県)

表 12.7-24(36) 重要な種の予測結果（鳥類 25. オオルリ）

種名	オオルリ			
重要な種の選定基準	①天然記念物	—	④環境省レッドリスト	—
	②種の保存法	—	⑤兵庫県レッドリスト	注
	③神戸市市保全条例	—	⑥神戸市レッドリスト	—
生息環境・生態	丘陵地から山地の沢沿いの広葉樹林や針広混交林に生息し、崖の窪みや樹洞などに椀型の巣を造り営巣する。時に建物の軒に造ることもある。飛んでいる昆虫類をフライングキャッチして食べる。春秋の渡りの時期は、低山の林を通過するが、平地の都市緑地で見られることも少なくない。			
確認状況	確認時期	令和4年春季、初夏		
	確認状況	調査地域における本種の主な生息環境は、樹林地であると考えられる。 変更区域外の2箇所において、延べ2例の成鳥や鳴き声が確認された。 夏鳥であり繁殖の可能性がある。		
工事の実施及び施設 の存在に伴う影響の 予測	本種の生息環境は、事業実施区域及びその周辺に広く分布しており、工事の実施により一部改変される。 以上のことから、本種の生息環境は一部改変されると予測される。			

注) 選定基準は、表12.7-2に対応している。

生息環境・生態の出典) 「兵庫県版レッドデータブック 2013(鳥類)」(平成25年、兵庫県)

表 12.7-24(37) 重要な種の予測結果（鳥類 26. アオジ）

種名	アオジ			
重要な種の選定基準	①天然記念物	—	④環境省レッドリスト	—
	②種の保存法	—	⑤兵庫県レッドリスト	A
	③神戸市市保全条例	—	⑥神戸市レッドリスト	—
生息環境・生態	夏は明るい落葉広葉樹林や林縁部に生息し、林縁の地上や灌木の繁みに営巣する。冬は山麓から平地に移動し、河川敷の藪や下草のある林に生息する。昆虫類、クモ類や草の実を採食する。			
確認状況	確認時期	令和4年冬季		
	確認状況	調査地域における本種の主な生息環境は、樹林地及び草地であると考えられる。 変更区域内の2箇所及び変更区域外の13箇所において、延べ約30例の成鳥や鳴き声が確認された。 冬鳥であり繁殖の可能性は小さい。		
工事の実施及び施設 の存在に伴う影響の 予測	本種の生息環境は、事業実施区域及びその周辺に広く分布しており、工事の実施により一部改変される。 以上のことから、本種の生息環境は一部改変されると予測される。			

注) 選定基準は、表12.7-2に対応している。

生息環境・生態の出典) 「兵庫県版レッドデータブック 2013(鳥類)」(平成25年、兵庫県)

表 12.7-24(38) 重要な種の予測結果（爬虫類 1. ニホンヤモリ）

種名	ニホンヤモリ			
重要な種の選定基準	①天然記念物	—	④環境省レッドリスト	—
	②種の保存法	—	⑤兵庫県レッドリスト	注
	③神戸市市保全条例	—	⑥神戸市レッドリスト	—
生息環境・生態	民家周辺に多く、しばしば物資に付くなどして人為的に運ばれるため、県内を含む国内の集団のほとんどすべてが、人為的な移入に由来する可能性も指摘されている。			
確認状況	確認時期	令和3年夏季、秋季、令和4年冬季		
	確認状況	調査地域における本種の主な生息環境は、市街地であると考えられる。 変更区域内の8箇所及び変更区域外の5箇所において、延べ18例の成体、卵及び痕跡(糞)が確認された。		
工事の実施及び施設 の存在に伴う影響の 予測	本種の生息環境は、事業実施区域及びその周辺に広く分布しており、工事の実施により一部改変される。 以上のことから、本種の生息環境は一部改変されると予測される。			

注) 選定基準は、表12.7-2に対応している。

生息環境・生態の出典) 「兵庫県版レッドデータブック 2017(哺乳類・爬虫類・両生類・魚類・クモ類)」(平成29年、兵庫県)

表 12.7-24(39) 重要な種の予測結果（爬虫類 2. タカチホヘビ）

種名	タカチホヘビ			
重要な種の選定基準	①天然記念物	—	④環境省レッドリスト	—
	②種の保存法	—	⑤兵庫県レッドリスト	C
	③神戸市市保全条例	—	⑥神戸市レッドリスト	A
生息環境・生態	半地中性でミミズが主食。夜行性。乾燥した環境ではあまり見られない。			
確認状況	確認時期	令和3年秋季		
	確認状況	調査地域における本種の主な生息環境は、樹林地であると考えられる。 変更区域外の1箇所において、1例の死骸が確認された。		
工事の実施及び施設 の存在に伴う影響の 予測	本種の生息環境は、事業実施区域及びその周辺に広く分布しており、工事の実施により一部改変される。 以上のことから、本種の生息環境は一部改変されると予測される。			

注) 選定基準は、表12.7-2に対応している。

生息環境・生態の出典) 「京都府レッドデータブック2015 第1巻 野生動物編」(平成27年、京都府)

表 12.7-24(40) 重要な種の予測結果（爬虫類 3. シマヘビ）

種名	シマヘビ			
重要な種の選定基準	①天然記念物	—	④環境省レッドリスト	—
	②種の保存法	—	⑤兵庫県レッドリスト	—
	③神戸市市保全条例	—	⑥神戸市レッドリスト	調
生息環境・生態	基本的に地上性だが木に登ることもある。幅広い食性を持つがカエル類を最も好み、トカゲ類や小型のヘビ類も好食する。他に小型哺乳類、鳥類、魚類などを食べる。昼行性で日当たりのよい水辺周辺を好む。			
確認状況	確認時期	令和3年夏季、令和4年春季		
	確認状況	調査地域における本種の主な生息環境は、樹林地、草地及び水田であると考えられる。 変更区域内の3箇所及び変更区域外の2箇所において、延べ5例の成体、死骸及び痕跡(脱皮殻)が確認された。		
工事の実施及び施設 の存在に伴う影響の 予測	本種の生息環境は、事業実施区域及びその周辺に広く分布しており、工事の実施により一部改変される。 以上のことから、本種の生息環境は一部改変されると予測される。			

注) 選定基準は、表12.7-2に対応している。

生息環境・生態の出典) 「東京都の保護上重要な野生生物種(本土部)2020年版」(令和3年、東京都)

表 12.7-24(41) 重要な種の予測結果（爬虫類 4. アオダイショウ）

種名	アオダイショウ			
重要な種の選定基準	①天然記念物	—	④環境省レッドリスト	—
	②種の保存法	—	⑤兵庫県レッドリスト	—
	③神戸市市保全条例	—	⑥神戸市レッドリスト	調
生息環境・生態	小型哺乳類と鳥類を主食とする。樹上性の傾向が強い。人家周辺にも現れる。			
確認状況	確認時期	令和4年春季		
	確認状況	調査地域における本種の主な生息環境は、樹林地、草地及び水田であると考えられる。 変更区域内の1箇所において、1例の成体が確認された。		
工事の実施及び施設 の存在に伴う影響の 予測	本種の生息環境は、事業実施区域及びその周辺に広く分布しており、工事の実施により一部改変される。 以上のことから、本種の生息環境は一部改変されると予測される。			

注) 選定基準は、表12.7-2に対応している。

生息環境・生態の出典) 「京都府レッドデータブック2015 第1巻 野生動物編」(平成27年、京都府)

表 12.7-24(42) 重要な種の予測結果（爬虫類 5. シロマダラ）

種名	シロマダラ			
重要な種の選定基準	①天然記念物	—	④環境省レッドリスト	—
	②種の保存法	—	⑤兵庫県レッドリスト	C
	③神戸市市保全条例	—	⑥神戸市レッドリスト	B
生息環境・生態	山地から平地の田畑周辺まで生息し、夜行性でトカゲやヘビなどを食べる。			
確認状況	確認時期	令和3年秋季		
	確認状況	調査地域における本種の主な生息環境は、樹林地、草地及び水田であると考えられる。 変更区域内の1箇所及び変更区域外の1箇所において、延べ2例の成体が確認された。		
工事の実施及び施設 の存在に伴う影響の 予測	本種の生息環境は、事業実施区域及びその周辺に広く分布しており、工事の実施により一部改変される。 以上のことから、本種の生息環境は一部改変されると予測される。			

注) 選定基準は、表12.7-2に対応している。

生息環境・生態の出典) 「京都府レッドデータブック2015 第1巻 野生動物編」(平成27年、京都府)

表 12. 7-24 (43) 重要な種の予測結果（爬虫類 6. ヒバカリ）

種名	ヒバカリ			
重要な種の選定基準	①天然記念物	—	④環境省レッドリスト	—
	②種の保存法	—	⑤兵庫県レッドリスト	注
	③神戸市市保全条例	—	⑥神戸市レッドリスト	C
生息環境・生態	薄明薄暮に活動し、水辺を好み、ミミズ、小魚、オタマジャクシ、カエルなどを食べる。			
確認状況	確認時期	令和3年秋季、令和4年春季		
	確認状況	調査地域における本種の主な生息環境は、樹林地、水辺及び水田であると考えられる。 変更区域内の1箇所及び変更区域外の4箇所において、延べ5例の成体が確認された。		
工事の実施及び施設 の存在に伴う影響の 予測	本種の生息環境は、事業実施区域及びその周辺に広く分布しており、工事の実施により一部改変される。 以上のことから、本種の生息環境は一部改変されると予測される。			

注) 選定基準は、表12. 7-2に対応している。

生息環境・生態の出典) 「京都府レッドデータブック2015 第1巻 野生動物編」(平成27年、京都府)

表 12. 7-24 (44) 重要な種の予測結果（両生類 1. セトウチサンショウウオ）

種名	セトウチサンショウウオ			
重要な種の選定基準	①天然記念物	—	④環境省レッドリスト	VU
	②種の保存法	第二	⑤兵庫県レッドリスト	B
	③神戸市市保全条例	—	⑥神戸市レッドリスト	B
生息環境・生態	平地から低山地（府内では標高約200m以下）の林床や草地に生息する。ふだんは浅い土壌中や落葉、倒木、石などの下に潜っており、節足、環形、軟体動物などを捕食する。移動は夜間に行われることが多い。繁殖は2月から5月に、林縁の湿地や池沼、水田の溝、用水路などで行われる。産卵場所には湧水のある場合が多く、卵嚢は水中の落葉や落枝、水草などに1対ずつ産みつけられる。幼生は水中で生活し、水生の節足、環形動物などを捕食する。幼生の多くは初夏に変態、上陸する。			
確認状況	確認時期	令和4年春季		
	確認状況	調査地域における本種の主な生息環境は、樹林地及びため池であると考えられる。 変更区域内の1箇所及び変更区域外の4箇所において、延べ100例以上の幼生が確認された。 調査地域において繁殖している。		
工事の実施及び施設 の存在に伴う影響の 予測	本種の生息環境は、事業実施区域及びその周辺に広く分布しており、工事の実施により一部改変される。 また、確認された繁殖地が、工事の実施により改変される。 以上のことから、本種の生息環境に変化が生じると予測される。			

注) 選定基準は、表12. 7-2に対応している。

生息環境・生態の出典) 「京都府レッドデータブック2015 第1巻 野生動物編」(平成27年、京都府)

表 12.7-24(45) 重要な種の予測結果（両生類 2. ニホンヒキガエル）

種名	ニホンヒキガエル			
重要な種の選定基準	①天然記念物	—	④環境省レッドリスト	—
	②種の保存法	—	⑤兵庫県レッドリスト	C
	③神戸市市保全条例	—	⑥神戸市レッドリスト	C
生息環境・生態	低山から亜高山帯に生息し、早春に止水域にひも状の卵塊を産卵する。一腹卵数は6,000個以上。幼生は黒くて小さい。様々な小動物を捕食する。			
確認状況	確認時期	令和3年夏季、令和4年早春季、春季		
	確認状況	調査地域における本種の主な生息環境は、樹林地及びため池であると考えられる。 変更区域内の4箇所及び変更区域外の1箇所において、延べ200例以上の幼体、幼生及び卵塊が確認された。 調査地域において繁殖している。		
工事の実施及び施設 の存在に伴う影響の 予測	本種の生息環境は、事業実施区域及びその周辺に広く分布しており、工事の実施により一部改変される。 また、確認された繁殖地が、工事の実施により改変される。 以上のことから、本種の生息環境に変化が生じると予測される。			

注) 選定基準は、表12.7-2に対応している。

生息環境・生態の出典) 「愛媛県レッドデータブック2014」(平成26年、愛媛県)

表 12.7-24(46) 重要な種の予測結果（両生類 3. ニホンアカガエル）

種名	ニホンアカガエル			
重要な種の選定基準	①天然記念物	—	④環境省レッドリスト	—
	②種の保存法	—	⑤兵庫県レッドリスト	C
	③神戸市市保全条例	—	⑥神戸市レッドリスト	C
生息環境・生態	平地から丘陵地の林床や草地に生息し、2～4月に水田や湿地で繁殖する。こぶし大の卵塊を産む。			
確認状況	確認時期	令和4年春季		
	確認状況	調査地域における本種の主な生息環境は、樹林地及びため池であると考えられる。 変更区域外の3箇所において、延べ約20例の幼生が確認された。 調査地域において繁殖している。		
工事の実施及び施設 の存在に伴う影響の 予測	本種の生息環境は、事業実施区域及びその周辺に広く分布しており、工事の実施により一部改変される。 工事に伴って発生する濁水は、仮設沈砂池等を設置し適切に処理した上で排出する。 以上のことから、本種の生息環境は一部改変されると予測される。			

注) 選定基準は、表12.7-2に対応している。

生息環境・生態の出典) 「京都府レッドデータブック2015 第1巻 野生動物編」(平成27年、京都府)

表 12.7-24(47) 重要な種の予測結果（両生類 4. アカガエル属）

種名	アカガエル属			
重要な種の選定基準	①天然記念物	—	④環境省レッドリスト	—
	②種の保存法	—	⑤兵庫県レッドリスト	C
	③神戸市市保全条例	—	⑥神戸市レッドリスト	C 又は調 <sup>注2)</sup>
生息環境・生態	<p>(ニホンアカガエル) 平地から丘陵地の林床や草地に生息し、2～4月に水田や湿地で繁殖する。こぶし大の卵塊を産む。</p> <p>(ヤマアカガエル) 丘陵地ないし山地に生息し、3～4月に水田、湿地などで繁殖する。</p>			
確認状況	確認時期	令和4年早春季		
	確認状況	<p>調査地域における本種の主な生息環境は、樹林地及びため池であると考えられる。</p> <p>変更区域内の2箇所及び変更区域外の1箇所において、延べ約10例の卵塊が確認された。</p> <p>調査地域において繁殖している。</p>		
工事の実施及び施設 の存在に伴う影響の 予測	<p>本種の生息環境は、事業実施区域及びその周辺に広く分布しており、工事の実施により一部改変される。</p> <p>また、確認された繁殖地が、工事の実施により改変される。</p> <p>以上のことから、本種の生息環境に変化が生じると予測される。</p>			

注1) 選定基準は、表12.7-2に対応している。

注2) ニホンアカガエルの場合はCランク、ヤマアカガエルの場合は要調査である。

生息環境・生態の出典) 「京都府レッドデータブック2015 第1巻 野生動物編」(平成27年、京都府)

表 12.7-24(48) 重要な種の予測結果（両生類 5. トノサマガエル）

種名	トノサマガエル			
重要な種の選定基準	①天然記念物	—	④環境省レッドリスト	NT
	②種の保存法	—	⑤兵庫県レッドリスト	—
	③神戸市市保全条例	—	⑥神戸市レッドリスト	—
生息環境・生態	平地、丘陵地に生息し、4～6月に水田、浅い池などで繁殖する。			
確認状況	確認時期	令和3年夏季、令和4年春季、夏季		
	確認状況	<p>調査地域における本種の主な生息環境は、ため池であると考えられる。</p> <p>変更区域内の1箇所及び変更区域外の2箇所において、延べ4例の成体が確認された。</p>		
工事の実施及び施設 の存在に伴う影響の 予測	<p>本種の生息環境は、事業実施区域及びその周辺に広く分布しており、工事の実施により一部改変される。</p> <p>工事に伴って発生する濁水は、仮設沈砂池等を設置し適切に処理した上で排出する。</p> <p>以上のことから、本種の生息環境は一部改変されると予測される。</p>			

注) 選定基準は、表12.7-2に対応している。

生息環境・生態の出典) 「京都府レッドデータブック2015 第1巻 野生動物編」(平成27年、京都府)

表 12. 7-24 (49) 重要な種の予測結果（両生類 6. シュレーゲルアオガエル）

種名	シュレーゲルアオガエル			
重要な種の選定基準	①天然記念物	—	④環境省レッドリスト	—
	②種の保存法	—	⑤兵庫県レッドリスト	C
	③神戸市市保全条例	—	⑥神戸市レッドリスト	C
生息環境・生態	3～5月に水田の畦や湿地の地面にクリーム色の泡状卵塊を産む。非繁殖期には水辺周辺の草地や森林で生活する。			
確認状況	確認時期	令和3年秋季、令和4年春季		
	確認状況	調査地域における本種の主な生息環境は、ため池であると考えられる。 変更区域内の1箇所及び変更区域外の10箇所において、延べ17例の成体及び鳴き声が確認された。		
工事の実施及び施設 の存在に伴う影響の 予測	本種の生息環境は、事業実施区域及びその周辺に広く分布しており、工事の実施により一部改変される。 工事に伴って発生する濁水は、仮設沈砂池等を設置し適切に処理した上で排出する。 以上のことから、本種の生息環境は一部改変されると予測される。			

注) 選定基準は、表12. 7-2に対応している。

生息環境・生態の出典) 「京都府レッドデータブック2015 第1巻 野生動物編」(平成27年、京都府)

表 12. 7-24 (50) 重要な種の予測結果（両生類 7. モリアオガエル）

種名	モリアオガエル			
重要な種の選定基準	①天然記念物	—	④環境省レッドリスト	—
	②種の保存法	—	⑤兵庫県レッドリスト	B
	③神戸市市保全条例	—	⑥神戸市レッドリスト	B
生息環境・生態	成体は昆虫類やクモ類などを食べる。山間地や丘陵地などの樹林に生息し、繁殖期には沼や池などの岸際の樹上に泡巣を産む。			
確認状況	確認時期	令和4年春季		
	確認状況	調査地域における本種の主な生息環境は、樹林地及びため池であると考えられる。 変更区域内の2箇所及び変更区域外の3箇所において、延べ15例の卵塊及び鳴き声が確認された。 調査地域において繁殖している。		
工事の実施及び施設 の存在に伴う影響の 予測	本種の生息環境は、事業実施区域及びその周辺に広く分布しており、工事の実施により一部改変される。 また、確認された繁殖地が、工事の実施により改変される。 以上のことから、本種の生息環境に変化が生じると予測される。			

注) 選定基準は、表12. 7-2に対応している。

生息環境・生態の出典) 「東京都の保護上重要な野生生物種(本土部)2020年版」(令和3年、東京都)

表 12.7-24 (51) 重要な種の予測結果（魚類 1. ギンブナ）

種名	ギンブナ			
重要な種の選定基準	①天然記念物	—	④環境省レッドリスト	—
	②種の保存法	—	⑤兵庫県レッドリスト	—
	③神戸市市保全条例	—	⑥神戸市レッドリスト	C
生息環境・生態	河川の中・下流の緩流域、それに続く用水路、浅い池沼などに生息する。			
確認状況	確認時期	令和3年秋季、令和4年春季		
	確認状況	調査地域における本種の主な生息環境は、ため池であると考えられる。 変更区域内の4箇所（7地点）及び変更区域外の2箇所において、延べ100例以上の成魚及び稚魚が確認された。		
工事の実施及び施設 の存在に伴う影響の 予測	本種が確認された生息地は、工事の実施により一部変更される。 工事に伴って発生する濁水は、仮設沈砂池等を設置し適切に処理した上で排出する。 以上のことから、本種の生息環境は一部変更されると予測される。			

注) 選定基準は、表12.7-2に対応している。

生息環境・生態の出典) 「東京都の保護上重要な野生生物種（本土部）2020年版」（令和3年、東京都）

表 12.7-24 (52) 重要な種の予測結果（魚類 2. ドジョウ）

種名	ドジョウ			
重要な種の選定基準	①天然記念物	—	④環境省レッドリスト	NT
	②種の保存法	—	⑤兵庫県レッドリスト	注
	③神戸市市保全条例	—	⑥神戸市レッドリスト	C
生息環境・生態	水田や農業水路、ため池、湿地など流れのない泥底に生息する。ユスリカの幼虫などを主に摂食する雑食性。			
確認状況	確認時期	令和4年春季、夏季		
	確認状況	調査地域における本種の主な生息環境は、水域であると考えられる。 変更区域外の3箇所において、環境DNA分析により確認された。		
工事の実施及び施設 の存在に伴う影響の 予測	本種が確認された生息地は、工事の実施により変更されない。 工事に伴って発生する濁水は、仮設沈砂池等を設置し適切に処理した上で排出する。 以上のことから、本種の生息環境に影響は生じないと予測される。			

注) 選定基準は、表12.7-2に対応している。

生息環境・生態の出典) 「兵庫県版レッドデータブック 2017（哺乳類・爬虫類・両生類・魚類・クモ類）」（平成29年、兵庫県）

表 12.7-24(53) 重要な種の予測結果（魚類 3. シマヒレヨシノボリ）

種名	シマヒレヨシノボリ			
重要な種の選定基準	①天然記念物	—	④環境省レッドリスト	NT
	②種の保存法	—	⑤兵庫県レッドリスト	調
	③神戸市市保全条例	—	⑥神戸市レッドリスト	—
生息環境・生態	池や沼、それにつながる水路、河川中・下流域のワンド、河川敷の池など流れの緩やかな場所に生息する。陸封型のヨシノボリで、淡水域で一生活を過ごす。			
確認状況	確認時期	令和3年秋季、令和4年春季		
	確認状況	調査地域における本種の主な生息環境は、水域であると考えられる。 変更区域外の3箇所において、延べ15例の成魚が確認された。		
工事の実施及び施設 の存在に伴う影響の 予測	本種が確認された生息地は、工事の実施により変更されない。 工事に伴って発生する濁水は、仮設沈砂池等を設置し適切に処理した上で排出する。 以上のことから、本種の生息環境に影響は生じないと予測される。			

注) 選定基準は、表12.7-2に対応している。

生息環境・生態の出典) 「兵庫県版レッドデータブック 2017 (哺乳類・爬虫類・両生類・魚類・クモ類)」  
 (平成29年、兵庫県)

表 12.7-24(54) 重要な種の予測結果（昆虫類 1. キイロサナエ）

種名	キイロサナエ			
重要な種の選定基準	①天然記念物	—	④環境省レッドリスト	NT
	②種の保存法	—	⑤兵庫県レッドリスト	B
	③神戸市市保全条例	—	⑥神戸市レッドリスト	C
生息環境・生態	平地から丘陵地の砂泥底の河川中流域に生息する。成虫は5月～8月に見られる。			
確認状況	確認時期	令和3年夏季、令和4年春季		
	確認状況	調査地域における本種の主な生息環境は、河川であると考えられる。 変更区域外の3箇所(4地点)において、延べ18例の幼虫が確認された。		
工事の実施及び施設 の存在に伴う影響の 予測	本種の生息環境は、工事の実施により変更されない。 工事に伴って発生する濁水は、仮設沈砂池等を設置し適切に処理した上で排出する。 以上のことから、本種の生息環境に影響は生じないと予測される。			

注) 選定基準は、表12.7-2に対応している。

生息環境・生態の出典) 「兵庫県版レッドデータブック 2012 (昆虫類)」 (平成24年、兵庫県)

表 12.7-24(55) 重要な種の予測結果（昆虫類 2. オジロサナエ）

種名	オジロサナエ			
重要な種の選定基準	①天然記念物	—	④環境省レッドリスト	—
	②種の保存法	—	⑤兵庫県レッドリスト	—
	③神戸市市保全条例	—	⑥神戸市レッドリスト	C
生息環境・生態	低山地の溪流に見られ、湖にも産する。			
確認状況	確認時期	令和3年夏季、令和4年早春季、春季		
	確認状況	調査地域における本種の主な生息環境は、水域であると考えられる。 変更区域外の6箇所（8地点）において、延べ17例の幼虫が確認された。		
工事の実施及び施設 の存在に伴う影響の 予測	本種の生息環境は、事業実施区域及びその周辺に広く分布しており、工事の実施により一部改変される。 工事に伴って発生する濁水は、仮設沈砂池等を設置し適切に処理した上で排出する。 以上のことから、本種の生息環境は一部改変されると予測される。			

注) 選定基準は、表12.7-2に対応している。

生息環境・生態の出典) 「2018 山梨県レッドデータブックー山梨県の絶滅のおそれのある野生生物」  
(平成30年、山梨県)

表 12.7-24(56) 重要な種の予測結果（昆虫類 3. タベサナエ）

種名	タベサナエ			
重要な種の選定基準	①天然記念物	—	④環境省レッドリスト	NT
	②種の保存法	—	⑤兵庫県レッドリスト	—
	③神戸市市保全条例	—	⑥神戸市レッドリスト	C
生息環境・生態	平地～丘陵地の、雑木林に隣接する開放的な水質の良い池沼、湿地や緩流に生息。成虫は4月中旬～6月上旬に見られる。未熟期は発生地近くの草地や林縁で過ごし、成熟すると水辺に戻り、水深の浅いところで生殖活動を行う。			
確認状況	確認時期	令和3年夏季、令和4年春季		
	確認状況	調査地域における本種の主な生息環境は、水域であると考えられる。 変更区域外の3箇所において、延べ3例の成虫及び幼虫が確認された。		
工事の実施及び施設 の存在に伴う影響の 予測	本種の生息環境は、事業実施区域及びその周辺に広く分布しており、工事の実施により一部改変される。 工事に伴って発生する濁水は、仮設沈砂池等を設置し適切に処理した上で排出する。 以上のことから、本種の生息環境は一部改変されると予測される。			

注) 選定基準は、表12.7-2に対応している。

生息環境・生態の出典) 「京都府レッドデータブック2015 第1巻 野生動物編」 (平成27年、京都府)

表 12. 7-24 (57) 重要な種の予測結果（昆虫類 4. フタスジサナエ）

種名	フタスジサナエ			
重要な種の選定基準	①天然記念物	—	④環境省レッドリスト	NT
	②種の保存法	—	⑤兵庫県レッドリスト	—
	③神戸市市保全条例	—	⑥神戸市レッドリスト	—
生息環境・生態	平地～丘陵地の、雑木林に隣接する開放的な池沼に生息。成虫は4月下旬～6月中旬に見られる。未熟期は発生地近くの草地や林縁で過ごし、成熟すると水辺に戻り、岸辺で生殖活動を行う。			
確認状況	確認時期	令和3年夏季、令和4年春季		
	確認状況	調査地域における本種の主な生息環境は、ため池であると考えられる。 変更区域内の2箇所及び変更区域外の3箇所において、延べ10例の成虫及び幼虫が確認された。		
工事の実施及び施設 の存在に伴う影響の 予測	本種の生息環境は、事業実施区域及びその周辺に広く分布しており、工事の実施により一部改変される。 工事に伴って発生する濁水は、仮設沈砂池等を設置し適切に処理した上で排出する。 以上のことから、本種の生息環境は一部改変されると予測される。			

注) 選定基準は、表12. 7-2に対応している。

生息環境・生態の出典) 「京都府レッドデータブック2015 第1巻 野生動物編」(平成27年、京都府)

表 12. 7-24 (58) 重要な種の予測結果（昆虫類 5. ヒメアカネ）

種名	ヒメアカネ			
重要な種の選定基準	①天然記念物	—	④環境省レッドリスト	—
	②種の保存法	—	⑤兵庫県レッドリスト	注
	③神戸市市保全条例	—	⑥神戸市レッドリスト	—
生息環境・生態	平地から山地の樹林に囲まれた、浸出水のあるような湿地や休耕田に生息し、幼虫は水生植物の根際や泥底にうずくまっている。成虫は6月～12月に見られる。			
確認状況	確認時期	令和3年夏季、秋季		
	確認状況	調査地域における本種の主な生息環境は、水域であると考えられる。 変更区域外の2箇所において、延べ2例の成虫が確認された。		
工事の実施及び施設 の存在に伴う影響の 予測	本種の生息環境は、事業実施区域及びその周辺に広く分布しており、工事の実施により一部改変される。 工事に伴って発生する濁水は、仮設沈砂池等を設置し適切に処理した上で排出する。 以上のことから、本種の生息環境は一部改変されると予測される。			

注) 選定基準は、表12. 7-2に対応している。

生息環境・生態の出典) 「兵庫県版レッドデータブック 2012(昆虫類)」(平成24年、兵庫県)

表 12. 7-24 (59) 重要な種の予測結果（昆虫類 6. ハルゼミ）

種名	ハルゼミ			
重要な種の選定基準	①天然記念物	—	④環境省レッドリスト	—
	②種の保存法	—	⑤兵庫県レッドリスト	注
	③神戸市市保全条例	—	⑥神戸市レッドリスト	—
生息環境・生態	平地から低山地のマツ林などに生息し、ムゼームゼーと鳴く。晴天時に合唱する。成虫は4月～6月に見られる。			
確認状況	確認時期	令和4年春季		
	確認状況	調査地域における本種の主な生息環境は、樹林地（マツ林）であると考えられる。 変更区域内の1箇所及び変更区域外の2箇所において、延べ3例の成体が確認された。		
工事の実施及び施設 の存在に伴う影響の 予測	本種の生息環境は、事業実施区域及びその周辺に広く分布しており、工事の実施により一部改変される。 以上のことから、本種の生息環境は一部改変されると予測される。			

注) 選定基準は、表12. 7-2に対応している。

生息環境・生態の出典) 「兵庫県版レッドデータブック 2012 (昆虫類)」 (平成24年、兵庫県)

表 12. 7-24 (60) 重要な種の予測結果（昆虫類 7. オオミズムシ）

種名	オオミズムシ			
重要な種の選定基準	①天然記念物	—	④環境省レッドリスト	NT
	②種の保存法	—	⑤兵庫県レッドリスト	C
	③神戸市市保全条例	—	⑥神戸市レッドリスト	B
生息環境・生態	水生植物の多い池沼に生息するが、使用されていない期間のプール等で見つかることもある。3月頃、特定の溜池に集合して繁殖し、水底の落ち葉や小枝に産卵する。新成虫は6月頃に現れて、繁殖水域に留まるほか、一部は分散する。			
確認状況	確認時期	令和4年早春季		
	確認状況	調査地域における本種の主な生息環境は、ため池であると考えられる。 変更区域内の5箇所（7地点）において、延べ14例の成虫が確認された。		
工事の実施及び施設 の存在に伴う影響の 予測	本種の生息環境は、事業実施区域及びその周辺に広く分布しており、工事の実施により一部改変される。 工事に伴って発生する濁水は、仮設沈砂池等を設置し適切に処理した上で排出する。 以上のことから、本種の生息環境は一部改変されると予測される。			

注) 選定基準は、表12. 7-2に対応している。

生息環境・生態の出典) 「岡山県版レッドデータブック2020 (動物編)」 (令和2年、岡山県)

表 12.7-24(61) 重要な種の予測結果（昆虫類 8. コオイムシ）

種名	コオイムシ			
重要な種の選定基準	①天然記念物	—	④環境省レッドリスト	NT
	②種の保存法	—	⑤兵庫県レッドリスト	—
	③神戸市市保全条例	—	⑥神戸市レッドリスト	—
生息環境・生態	水深の浅い開放的な止水域に生息し、オタマジャクシ、小魚、ヤゴ、巻貝などを捕食する。			
確認状況	確認時期	令和3年夏季、令和4年春季		
	確認状況	調査地域における本種の主な生息環境は、ため池であると考えられる。 変更区域内の3箇所（6地点）及び変更区域外の2箇所（6地点）において、延べ16例の成虫及び幼虫が確認された。		
工事の実施及び施設 の存在に伴う影響の 予測	本種の生息環境は、事業実施区域及びその周辺に広く分布しており、工事の実施により一部改変される。 工事に伴って発生する濁水は、仮設沈砂池等を設置し適切に処理した上で排出する。 以上のことから、本種の生息環境は一部改変されると予測される。			

注) 選定基準は、表12.7-2に対応している。

生息環境・生態の出典) 「京都府レッドデータブック2015 第1巻 野生動物編」(平成27年、京都府)

表 12.7-24(62) 重要な種の予測結果（昆虫類 9. ミズカマキリ）

種名	ミズカマキリ			
重要な種の選定基準	①天然記念物	—	④環境省レッドリスト	—
	②種の保存法	—	⑤兵庫県レッドリスト	注
	③神戸市市保全条例	—	⑥神戸市レッドリスト	調
生息環境・生態	池沼などの水生植物帯などに生息し、小動物を捕食する。			
確認状況	確認時期	令和3年夏季、令和4年春季		
	確認状況	調査地域における本種の主な生息環境は、ため池であると考えられる。 変更区域内の2箇所において、延べ4例の成虫が確認された。		
工事の実施及び施設 の存在に伴う影響の 予測	本種の生息環境は、事業実施区域及びその周辺に広く分布しており、工事の実施により一部改変される。 工事に伴って発生する濁水は、仮設沈砂池等を設置し適切に処理した上で排出する。 以上のことから、本種の生息環境は一部改変されると予測される。			

注) 選定基準は、表12.7-2に対応している。

生息環境・生態の出典) 「兵庫県版レッドデータブック 2012(昆虫類)」(平成24年、兵庫県)

表 12.7-24 (63) 重要な種の予測結果（昆虫類 10. ヒメゲンゴロウ）

種名	ヒメゲンゴロウ			
重要な種の選定基準	①天然記念物	—	④環境省レッドリスト	—
	②種の保存法	—	⑤兵庫県レッドリスト	—
	③神戸市市保全条例	—	⑥神戸市レッドリスト	C
生息環境・生態	主に止水域に生息し分布は広い。水田、湿地に生息する。			
確認状況	確認時期	令和4年春季		
	確認状況	調査地域における本種の主な生息環境は、ため池であると考えられる。 変更区域外の1箇所において、延べ1例の成虫が確認された。		
工事の実施及び施設 の存在に伴う影響の 予測	本種の生息環境は、事業実施区域及びその周辺に広く分布しており、工事の実施により一部改変される。 工事に伴って発生する濁水は、仮設沈砂池等を設置し適切に処理した上で排出する。 以上のことから、本種の生息環境は一部改変されると予測される。			

注) 選定基準は、表12.7-2に対応している。

生息環境・生態の出典) 「東京都の保護上重要な野生生物種（本土部）2020年版」（令和3年、東京都）

表 12.7-24 (64) 重要な種の予測結果（昆虫類 11. コガムシ）

種名	コガムシ			
重要な種の選定基準	①天然記念物	—	④環境省レッドリスト	DD
	②種の保存法	—	⑤兵庫県レッドリスト	—
	③神戸市市保全条例	—	⑥神戸市レッドリスト	—
生息環境・生態	全身ほぼ黒色で、主に平野部の水田や湿地等に生息する。幼虫は捕食性、成虫は植食性である。			
確認状況	確認時期	令和3年夏季		
	確認状況	調査地域における本種の主な生息環境は、ため池であると考えられる。 変更区域外の1箇所において、延べ1例の成虫が確認された。		
工事の実施及び施設 の存在に伴う影響の 予測	本種の生息環境は、事業実施区域及びその周辺に広く分布しており、工事の実施により一部改変される。 工事に伴って発生する濁水は、仮設沈砂池等を設置し適切に処理した上で排出する。 以上のことから、本種の生息環境は一部改変されると予測される。			

注) 選定基準は、表12.7-2に対応している。

生息環境・生態の出典) 「福井県の絶滅のおそれのある野生動植物2016」（平成28年、福井県）

表 12. 7-24 (65) 重要な種の予測結果（昆虫類 12. ヘイケボタル）

種名	ヘイケボタル			
重要な種の選定基準	①天然記念物	—	④環境省レッドリスト	—
	②種の保存法	—	⑤兵庫県レッドリスト	注
	③神戸市市保全条例	—	⑥神戸市レッドリスト	調
生息環境・生態	成虫は梅雨どきから夏に出現し、ときに灯火にも飛来する。平地から山地の湿地や水田、谷戸に生息する。			
確認状況	確認時期	令和4年夏季		
	確認状況	調査地域における本種の主な生息環境は、ため池であると考えられる。 変更区域内の1箇所及び変更区域外の1箇所において、延べ12例の成虫が確認された。		
工事の実施及び施設 の存在に伴う影響の 予測	本種の生息環境は、事業実施区域及びその周辺に広く分布しており、工事の実施により一部改変される。 工事に伴って発生する濁水は、仮設沈砂池等を設置し適切に処理した上で排出する。 以上のことから、本種の生息環境は一部改変されると予測される。			

注) 選定基準は、表12. 7-2に対応している。

生息環境・生態の出典) 「東京都の保護上重要な野生生物種（本土部）2020年版」（令和3年、東京都）

表 12. 7-24 (66) 重要な種の予測結果（昆虫類 13. ヒメボタル）

種名	ヒメボタル			
重要な種の選定基準	①天然記念物	—	④環境省レッドリスト	—
	②種の保存法	—	⑤兵庫県レッドリスト	注
	③神戸市市保全条例	—	⑥神戸市レッドリスト	—
生息環境・生態	ゲンジボタル、ヘイケボタルとは異なり、陸生である。幼虫も発光する。			
確認状況	確認時期	令和4年夏季		
	確認状況	調査地域における本種の主な生息環境は、樹林地であると考えられる。 変更区域外の1箇所において、延べ10例の成虫が確認された。		
工事の実施及び施設 の存在に伴う影響の 予測	本種の生息環境は、事業実施区域及びその周辺に広く分布しており、工事の実施により一部改変される。 以上のことから、本種の生息環境は一部改変されると予測される。			

注) 選定基準は、表12. 7-2に対応している。

生息環境・生態の出典) 「京都府レッドデータブック2015 第1巻 野生動物編」（平成27年、京都府）

表 12. 7-24 (67) 重要な種の予測結果（昆虫類 14. クワカミキリ）

種名	クワカミキリ			
重要な種の選定基準	①天然記念物	—	④環境省レッドリスト	—
	②種の保存法	—	⑤兵庫県レッドリスト	調
	③神戸市市保全条例	—	⑥神戸市レッドリスト	—
生息環境・生態	平地から低山地の落葉広葉樹林や河川敷などに生息し、幼虫はクワ、イチジクなどの生木を食べる。成虫は6月～8月に見られる。			
確認状況	確認時期	令和3年夏季		
	確認状況	調査地域における本種の主な生息環境は、樹林地及び草地であると考えられる。 変更区域内の1箇所及び変更区域外の1箇所において、延べ2例の成虫が確認された。		
工事の実施及び施設 の存在に伴う影響の 予測	本種の生息環境は、事業実施区域及びその周辺に広く分布しており、工事の実施により一部改変される。 以上のことから、本種の生息環境は一部改変されると予測される。			

注) 選定基準は、表12. 7-2に対応している。

生息環境・生態の出典) 「兵庫県版レッドデータブック 2012 (昆虫類)」 (平成24年、兵庫県)

表 12. 7-24 (68) 重要な種の予測結果（昆虫類 15. ヤマトスナハキバチ本土亜種）

種名	ヤマトスナハキバチ本土亜種			
重要な種の選定基準	①天然記念物	—	④環境省レッドリスト	DD
	②種の保存法	—	⑤兵庫県レッドリスト	—
	③神戸市市保全条例	—	⑥神戸市レッドリスト	—
生息環境・生態	夏に、砂地に営巣し、ヨコバイやキジラミ類などを狩る。洪水の影響を受けるかなり不安定な環境でも営巣する。繭は浮遊性で、様々な場所に漂着しても、餌条件などがよければ一時的に定着、繁殖するものと思われる。			
確認状況	確認時期	令和3年夏季、秋季		
	確認状況	調査地域における本種の主な生息環境は、ゴルフ場及び市街地の砂地であると考えられる。 変更区域内の2箇所において、延べ2例の成虫が確認された。		
工事の実施及び施設 の存在に伴う影響の 予測	本種の生息環境は、事業実施区域及びその周辺に広く分布しており、工事の実施により一部改変される。 以上のことから、本種の生息環境は一部改変されると予測される。			

注) 選定基準は、表12. 7-2に対応している。

生息環境・生態の出典) 「京都府レッドデータブック2015 第1巻 野生動物編」 (平成27年、京都府)

表 12. 7-24 (69) 重要な種の予測結果 (底生動物. 1 オオタニシ)

種名	オオタニシ			
重要な種の選定基準	①天然記念物	—	④環境省レッドリスト	NT
	②種の保存法	—	⑤兵庫県レッドリスト	—
	③神戸市市保全条例	—	⑥神戸市レッドリスト	—
生息環境・生態	山間のため池や水路に多く生息する。雌雄異体で、卵胎生。6～8月にかけて幼貝を産み、冬期は少し深いところの泥底に移動して越冬する。			
確認状況	確認時期	令和3年夏季		
	確認状況	調査地域における本種の主な生息環境は、水域であると考えられる。 変更区域外の2箇所の水域において、延べ7例の成体が確認された。		
工事の実施及び施設 の存在に伴う影響の 予測	本種が確認された生息地は、工事の実施により変更されない。 工事に伴って発生する濁水は、仮設沈砂池等を設置し適切に処理した上で排出する。 以上のことから、本種の生息環境に影響は生じないと予測される。			

注) 選定基準は、表12. 7-2に対応している。

生息環境・生態の出典) 「京都府レッドデータブック2015 第1巻 野生動物編」 (平成27年、京都府)

## 2) 環境保全措置の内容

工事及び存在・供用に伴う動物への影響を回避・低減するために環境保全措置の検討を行った。

環境保全措置の検討結果は、表12.7-25に示すとおりである。

表 12.7-25 環境保全措置の検討結果

保全対象	措置の種類	措置の区分	実施主体	保全措置の内容及び効果	効果の不確実性	新たに生じる影響
ミゾゴイ	生息地の改変の回避	回避	事業者	事前配慮を踏まえた事業計画検討段階において、本種を確認した谷筋の改変を回避する計画とすることにより、生息地が保全される。	なし	なし
動物相全般	施工時の配慮	低減	事業者	施工時に以下の配慮を行うことにより、生息環境の変化が低減される。 ・工事関係者に対し、工事区域外への不要な立ち入りや動物の捕獲等を禁止する。 ・低公害型の建設機械を採用するよう努める。 ・工事関係者に対し、建設機械のアイドリングストップの徹底や空ぶかしの禁止等の教育・指導を行う。	なし	なし
動物相全般	緑化	低減	事業者	土地の造成に伴って出現する切土・盛土法面等は、可能な限り当該地域の植生を考慮した植物種による緑化を行うとともに、「神戸の希少な野生動植物－神戸版ブラックリスト 2020－」の選定種を避けることにより、生息環境の変化が低減される。	なし	なし
鳥類 両生類 魚類 水生昆虫類 底生動物	濁水の流出防止	低減	事業者	「12.4.水質」に示す以下の環境保全措置を実施することにより、生息環境の変化が低減される。 ・仮設沈砂池及び洪水調整池を設置することにより、工事に伴って発生する濁水の濃度が低減される。 ・造成箇所は速やかに転圧することにより、降雨時の土砂流出を防止する。	なし	なし
両生類（セトウチサンショウウオ、ニホンヒキガエル、アカガエル属、モリアオガエル）	生息・繁殖環境の整備及び移設	代償	事業者	事業実施区域内に湿地を整備することにより、生息及び繁殖環境を創出するとともに、繁殖地が改変される種は整備箇所に移設し保全を図る。	あり	なし

### 3) 評価

#### ① 評価の手法

工事及び存在・供用に伴う動物への影響の評価は、調査及び予測結果を踏まえ、対象事業の実施に伴う動物への影響が、事業者により実行可能な範囲内でできる限り回避又は低減され、また必要に応じて環境の保全についての配慮が適正になされているかについて、評価する方法により行った。

#### ② 評価の結果

##### ア. 環境影響の回避・低減に係る評価

調査及び予測の結果、並びに前項に示す環境保全措置の検討結果を踏まえると、工事及び存在・供用に伴う動物への影響は、回避又は低減ができるものと考えられる。

以上のことから、工事及び存在・供用に伴う動物への影響については、事業者の実行可能な範囲内で回避又は低減が図られているものと評価した。

## 12.8. 生態系

## 12.8. 生態系

### 12.8.1. 現況調査

#### (1) 調査項目

生態系を代表する生物種として、上位性、典型性及び特殊性の視点から注目される種・群集（以下、「注目種」という）の状況、種の多様性について調査を実施した。

#### (2) 調査方法

調査は、現地調査により行った。

生態系の調査方法は、表12.8-1に示すとおりである。

表 12.8-1 現地調査の方法

調査項目	調査地域	調査時期等	調査方法
生態系の上位性・典型性・特殊性の注目種、種多様性	植物及び動物と同様	植物及び動物と同様	植物・動物の調査結果をもとに、地域の生態系を特徴づける上位性・典型性・特殊性の注目種を抽出し、これらの種の生態特性や生育・生息環境等について整理した。

#### (3) 調査地域及び調査地点

調査地域及び調査地点は、植物及び動物と同様とした。

#### (4) 調査時期

調査時期は、植物及び動物と同様とした。

(5) 調査結果

1) 現地調査

① 植生の状況

現地調査で確認した植物群落別の面積は、表12.8-2に示すとおりである。

表 12.8-2 植物群落別の面積

凡例番号	分類	植生群落	面積 (ha)	構成比
1	ヤブツバキクラス域代償植生	アラカシ群落	0.09	0.05%
2		コナラーアベマキ群集	68.62	41.45%
3		アカメガンソーカラスザンショウ群落	7.92	4.78%
4		アカマツーモチツツジ群集	0.35	0.21%
5		メダケ群落	0.16	0.10%
6		ネザサ・ケネザサ群落	0.95	0.57%
			小計	78.09
7	河辺・湿原・沼沢地・砂丘植生	ヨシクラス	0.05	0.03%
8		ツルヨシ群集	0.09	0.05%
9		ヒシ群落	0.06	0.04%
			小計	0.20
10	植林地・耕作地植生	スギ・ヒノキ植林	0.29	0.18%
11		リギダマツ植林	1.73	1.05%
12		ハリエンジュ植林	0.16	0.10%
13		竹林	10.91	6.59%
c		水田雑草群落	0.26	0.16%
d		放棄水田雑草群落	0.65	0.39%
f		路傍・空地雑草群落	5.63	3.40%
h		ゴルフ場	39.60	23.92%
		小計	59.23	35.78%
k	市街地等	市街地	18.79	11.35%
s		植栽樹群	6.61	3.99%
w		開放水域	2.62	1.58%
			小計	28.02
合計			165.54	100.00%

## ② 生態系の概況

### ア. 生態系の類型区分

地域を特徴づける生態系について、基盤環境をもとに類型区分を行った。

調査地域では、「森林」、「草地」、「水域」及び「市街地」の4つの生態系区分が成立すると考えられる。各生態系区分の概要は、表12.8-3及び図12.8-1に示すとおりである。

表 12.8-3 調査地域の生態系区分の概要

類型区分	凡例番号	植生群落	面積 (ha)	構成比
森林生態系	1	アラカシ群落	0.09	0.05%
	2	コナラーアベマキ群集	68.62	41.45%
	3	アカメガシワ-カラスザンショウ群落	7.92	4.78%
	4	アカマツ-モチツツジ群集	0.35	0.21%
	10	スギ・ヒノキ植林	0.29	0.18%
	11	リギダマツ植林	1.73	1.05%
	12	ハリエンジュ植林	0.16	0.10%
	13	竹林	10.91	6.59%
小計			90.07	54.41%
草地生態系	5	メダケ群落	0.16	0.10%
	6	ネザサ・ケネザサ群落	0.95	0.57%
	c	水田雑草群落	0.26	0.16%
	d	放棄水田雑草群落	0.65	0.39%
	f	路傍・空地雑草群落	5.63	3.40%
	h	ゴルフ場	39.60	23.92%
小計			47.25	28.54%
水域生態系	7	ヨシクラス	0.05	0.03%
	8	ツルヨシ群集	0.09	0.05%
	9	ヒシ群落	0.06	0.04%
	w	開放水域	2.62	1.58%
小計			2.82	1.70%
市街地生態系	k	市街地	18.79	11.35%
	s	植栽樹群	6.61	3.99%
小計			25.40	15.34%
合計			165.54	100.00%

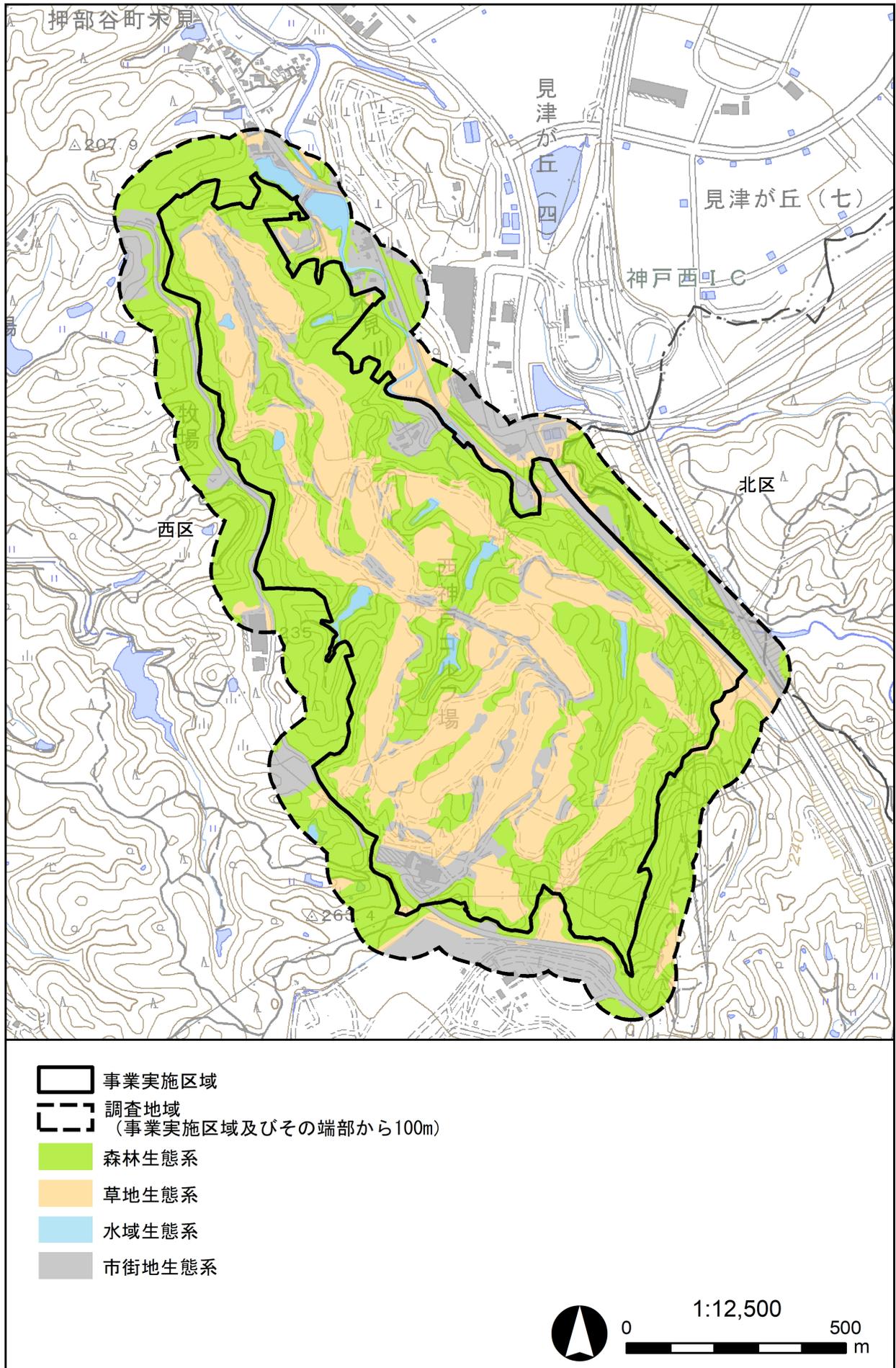


図 12.8-1 生態系区分図

## イ. 生態系の構造及び機能

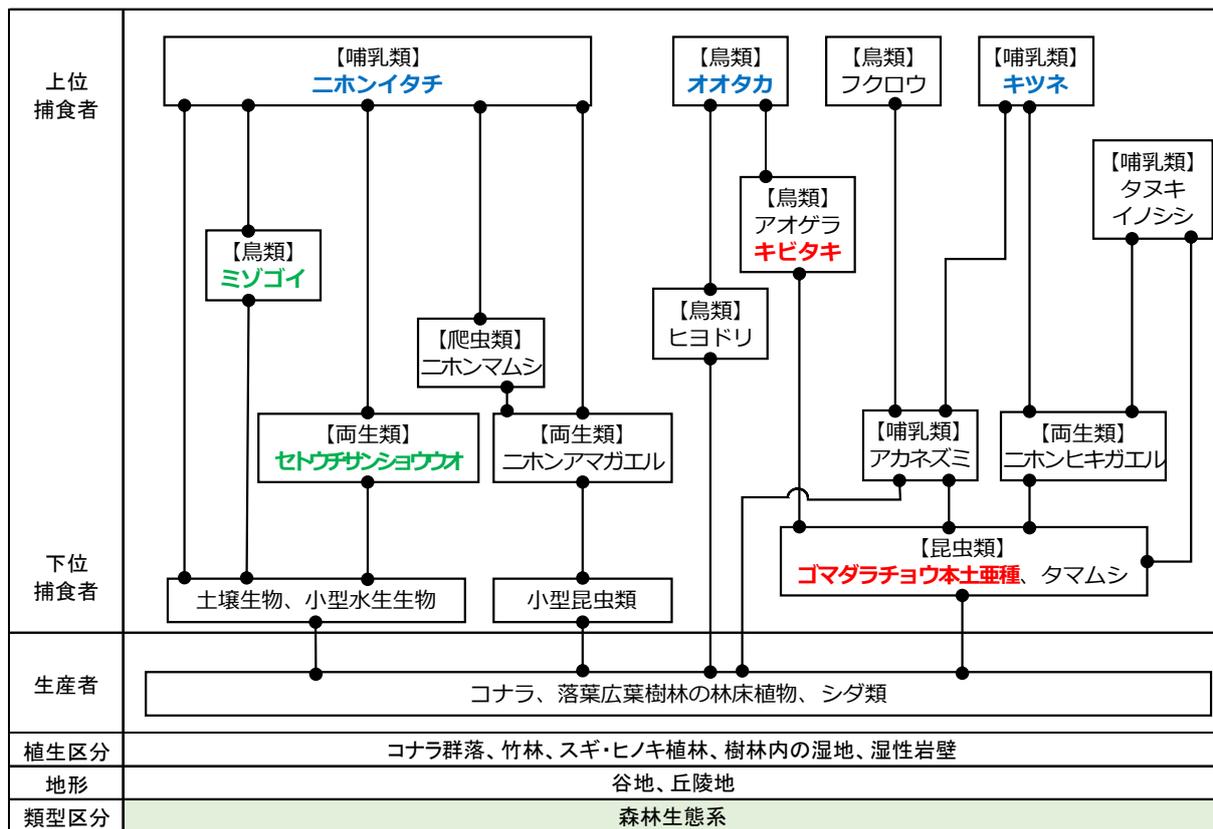
各生態系区分を構成する主な動植物種は表12.8-4に、食物連鎖の模式図は図12.8-2に示すとおりである。

表 12.8-4 各生態系区分を構成する主な動植物種

区分	分類	森林生態系	草地生態系	市街地生態系	水域生態系		
上位性	哺乳類	キツネ			—	—	
	鳥類	—	オオタカ、フクロウ	ノスリ	—	ニホンイタチ	
典型性	哺乳類	—	タヌキ、イノシシ	ノウサギ	—	アオサギ	
	鳥類	—	アカネズミ	—	—	—	
			アオゲラ、キビタキ	キジバト、スズメ	—	オシドリ	—
			ヒヨドリ	—	ツバメ	—	—
	爬虫類	ニホンマムシ	—	ニホンカナヘビ、シマヘビ	ニホンヤモリ	—	—
	両生類	ニホンアマガエル	ニホンヒキガエル	シュレーゲルアオガエル	—	ニホンヒキガエル、ウシガエル	—
	魚類	—	—	—	—	ギンブナ	カワムツ
	昆虫類	—	ゴマダラチョウ 本土亜種、 タマムシ	シオカラトンボ、 オンブバッタ、 ヤマトジジミ、 セマダラコガネ	—	シオカラトンボ、 コオイムシ	ハグロトンボ、 ゲンジボタル
	植物	ハコネシダ	エビネ	ノニガナ	—	—	—
	特殊性	哺乳類	—	—	—	キクガシラコウモリ	
鳥類		ミゾゴイ	—	—	—	—	
両生類		セトウチサンショウウオ	—	—	—	—	
植物		コハイホラゴケ、 クルマシダ、 イワタバコ	—	—	—	—	
生息基盤	植生	コナラ群落、竹林、 スギ・ヒノキ植林	水田及び放棄 水田雑草群落、 路傍・空地雑草 群落、ゴルフ場	市街地、 植栽樹群	ヒシ群落、 開放水域	ヨシクラス、 ツルヨシ群集、 開放水域	
		湿地、 湿性岩壁	コナラ林	—	—	—	—
地形など	谷地	丘陵地	休耕地、水田、 ゴルフコース	ゴルフ場施設、 街路樹	ため池	木見川	

注) 黒色以外の種は、注目種として選定した種である。

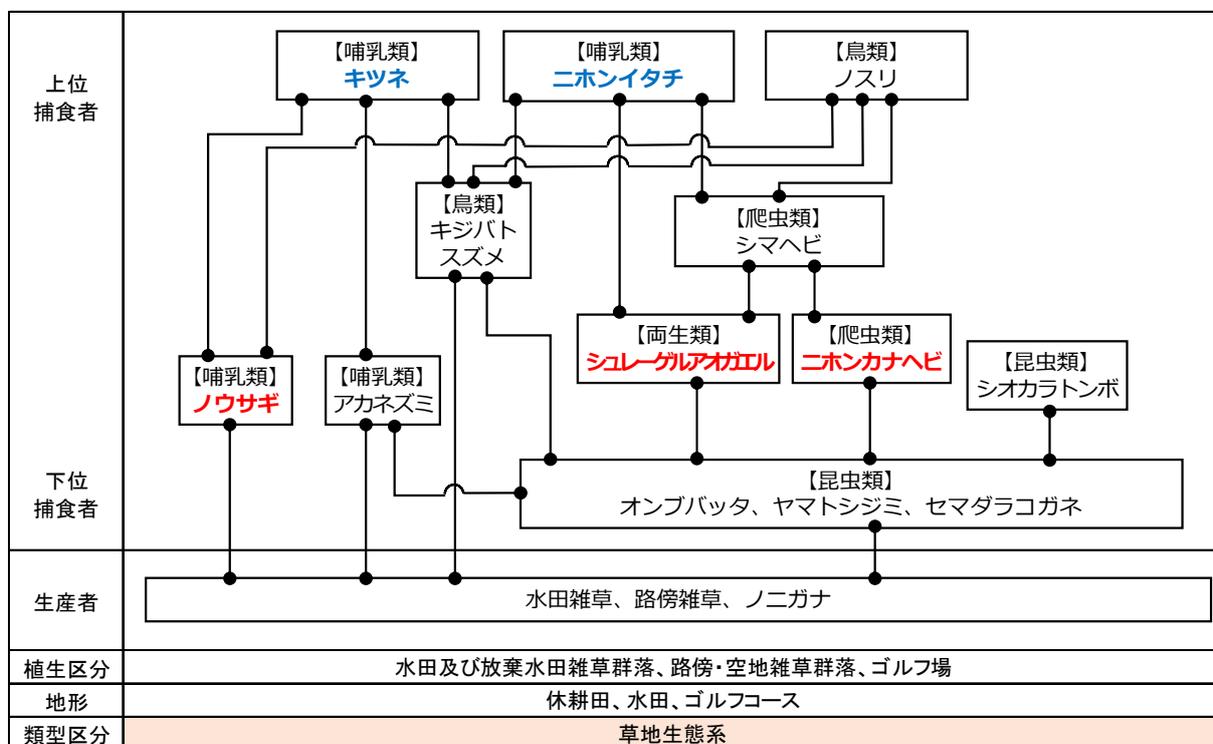
青字：上位性、赤字：典型性、緑字：特殊性



注) 黒色以外の種は、注目種として選定した種である。

青字：上位性、赤字：典型性、緑字：特殊性

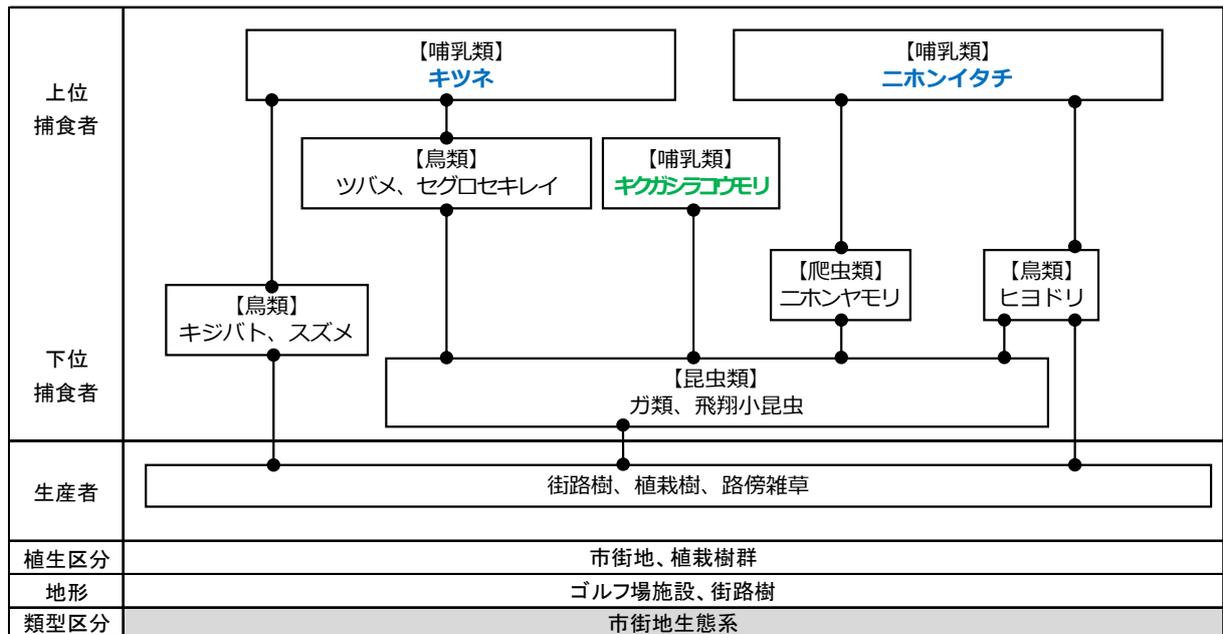
図 12.8-2(1) 食物連鎖の模式図 (森林生態系)



注) 黒色以外の種は、注目種として選定した種である。

青字：上位性、赤字：典型性、緑字：特殊性

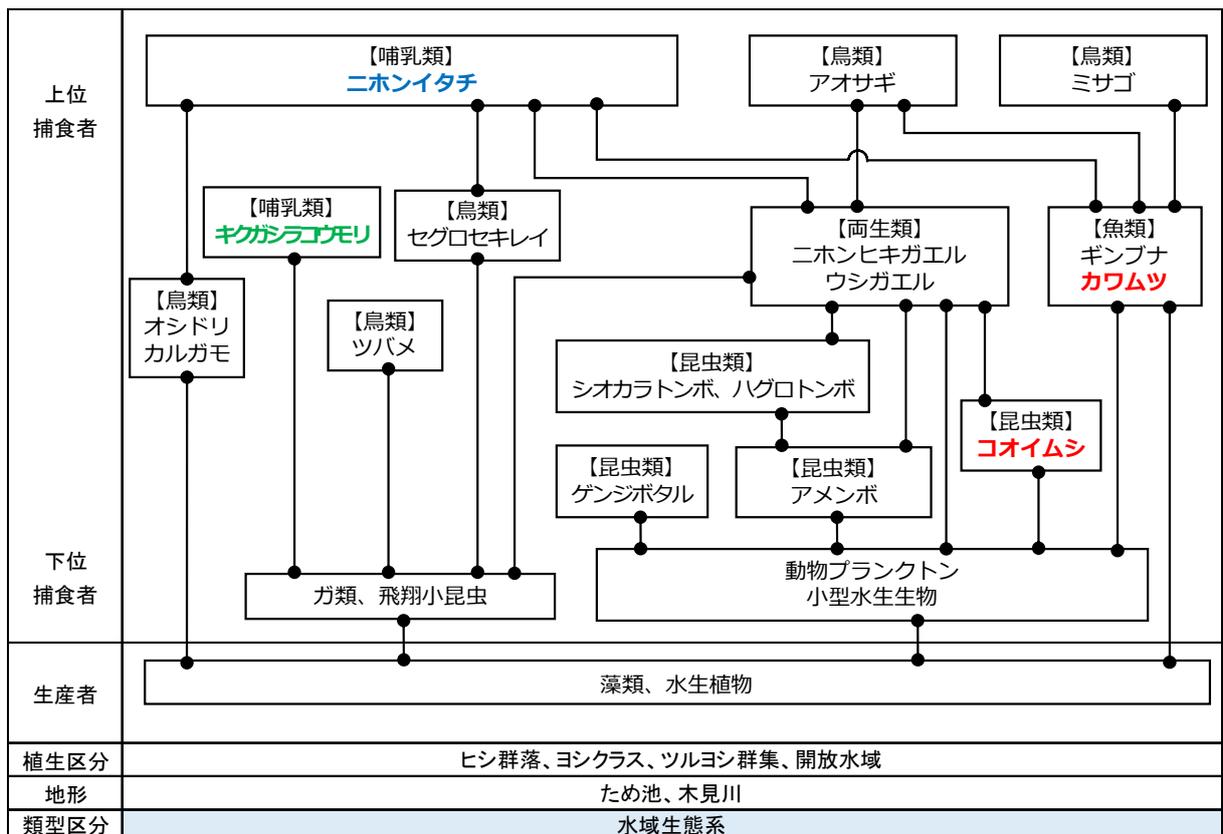
図 12.8-2(2) 食物連鎖の模式図 (草地生態系)



注) 黒色以外の種は、注目種として選定した種である。

青字：上位性、赤字：典型性、緑字：特殊性

図 12.8-2(3) 食物連鎖の模式図（市街地生態系）



注) 黒色以外の種は、注目種として選定した種である。

青字：上位性、赤字：典型性、緑字：特殊性

図 12.8-2(4) 食物連鎖の模式図（水域生態系）

### ウ. 生態系を代表する生物種の状況

生息・生育環境の状況及び食物連鎖の状況を踏まえ、当該地域の生態系を代表し、その機能を特徴付ける生物種を表12.8-5に示す上位性、典型性、特殊性の3つの観点から選定した。選定した注目種の生態及び選定理由は、表12.8-6に示すとおりである。

表 12.8-5 注目種の選定基準

区分	選定基準
上位性	生態系の上位に位置する種を対象とする。 例えば、ワシ・タカなどの猛禽類や中・大型哺乳類などがあげられる。
典型性	生態系の特徴を典型的に表す種を対象とする。 調査地域に優占する植物種や植物群落、それらを捕食する動物、個体数が多い動物などがあげられる。
特殊性	生態系において特殊な環境であることを示す指標となる種を対象とする。 相対的に分布範囲が狭い環境又は質的に特殊な環境に生息・生育する動植物種などがあげられる。

表 12.8-6 選定した注目種の生態及び選定理由

区分	分類	注目種等	選定理由
上位性	哺乳類	キツネ	山地や丘陵などに広く生息する中型の哺乳類で、ネズミ類や鳥類など小型の動物を捕食する。現地調査では、主に林縁の道路沿いや樹林内で確認されている。 以上のことから、森林生態系、草地生態系及び市街地生態系の上位性種として位置づけられる。
	哺乳類	ニホンイタチ	水辺を好む中型の哺乳類で、ネズミ類、カエル類、魚類などを捕食する。現地調査では、主に河川沿いや樹林内の湿地で確認されている。 以上のことから、森林生態系、草地生態系、市街地生態系及び水域生態系の上位性種として位置づけられる。
	鳥類	オオタカ	平地から山地の林に生息する大型の猛禽類で、林縁部や水際で小型～中型の鳥類を捕食する。現地調査では、主に樹林内や鉄塔にとまり探餌する個体が確認されている。 以上のことから、森林生態系の上位性種として位置づけられる。
典型性	哺乳類	ノウサギ	農耕地や林野などに生息する中型の哺乳類で、植物を採食する。現地調査では、林縁等で多数確認されている。 以上のことから、草地生態系の典型性種として位置づけられる。
	鳥類	キビタキ	低山から山地の落葉広葉樹林などに生息する小型の鳥類で、飛翔する昆虫類を捕食する。現地調査では、樹林内で多数の鳴き声が確認されている。 以上のことから、森林生態系の典型性種として位置づけられる。
	爬虫類	ニホンカナヘビ	平地から低山地の藪や草地などに生息する小型の爬虫類で、主に昆虫類やクモ類を捕食する。現地調査では、林縁等で確認されている。 以上のことから、草地生態系の典型性種として位置づけられる。
	両生類	シュレーゲルアオガエル	水田の畦や湿地に卵塊を産み、水辺周辺の草地や森林に生息する小型の両生類で、昆虫類やクモ類などを捕食する。現地調査では、ため池や湿地等で多数の鳴き声が確認されている。 以上のことから、草地生態系の典型性種として位置づけられる。
	魚類	カワムツ	河川の上流から中流にかけての淵や淀みに生息する小型の魚類で、底生動物や落下昆虫、付着藻類を捕食する。現地調査では、河川で多数確認されている。 以上のことから、水域生態系の典型性種として位置づけられる。
	昆虫類	コオイムシ	水深の浅い開放的な止水域に生息する昆虫類で、オタマジャクシ、小魚、ヤゴ、巻貝などを捕食する。現地調査では、ため池で確認されている。 以上のことから、水域生態系の典型性種として位置づけられる。
	昆虫類	ゴマダラチョウ本土亜種	雑木林や人家周辺に生息する昆虫類で、樹液や獣糞などに飛来する。現地調査では、主に林内で確認されている。 以上のことから、森林生態系の典型性種として位置づけられる。
特殊性	哺乳類	キクガシラコウモリ	主に洞穴性で自然洞窟のほか廃坑や防空壕などをねぐらとする小型の哺乳類で、ガ類、甲虫類及び水生昆虫類などを捕食する。現地調査では、樹林地周辺の人工構造物内等で確認されている。 本種のねぐらとする環境は調査地域では限られていることから、市街地生態系及び水域生態系の特殊性種として位置づけられる。
	鳥類	ミゾゴイ	低山地の沢のある樹林に生息する中型の鳥類で、カエル類、昆虫類、サワガニ、ミミズ類などを捕食する。現地調査では、樹林内の谷部の湿地で確認されている。 本種の生息環境は調査地域では限られていることから、森林生態系の特殊性種として位置づけられる。
	両生類	セトウチサンショウウオ	平地から低山地の林床や草地に生息する小型の両生類で、節足動物や軟体動物などを捕食する。現地調査では、ため池で幼生が確認されている。 本種の繁殖環境は調査地域では限られていることから、森林生態系の特殊性種として位置づけられる。

## 12.8.2. 予測・環境保全措置及び評価

### (1) 工事及び存在・供用に伴う生態系への影響

#### 1) 予測

##### ① 予測項目

予測項目は表12.8-7に示すとおり、工事及び存在・供用に伴う生態系への影響とした。

表 12.8-7 生態系の予測項目

環境影響要因		予測項目	内容
工事及び 存在・供用	樹木の伐採	地域を特徴づ ける生態系	・生態系の生息基盤の改変状況 ・生態系の注目種 (上位性、典型性、特殊性)
	土工事・建設工事等		
	施設の存在		

##### ② 予測地域

予測地域及び予測地点は、調査地域のうち、動植物その他の自然環境の特性及び注目種等の特性を踏まえて注目種等に係る環境影響を受けるおそれがあると認められる地域として、「植物」及び「動物」と同様とした。

##### ③ 予測対象時期

予測対象時期は、動植物その他の自然環境の特性及び注目種等の特性を踏まえて予測地域における注目種等に係る環境影響を的確に把握できる時期とし、影響が最大になる時期とした。

##### ④ 予測の基本的な手法

###### ア. 生態系の生息基盤の状況

生態系区分ごとの改変状況についての予測方法は、分布、生息環境又は生育環境の改変の程度を踏まえた事例の引用又は解析による方法とした。

土地の改変による生態系の生息基盤である植生の改変状況について、生態系区分ごとにその面積と改変率を求めるとともに、生息基盤の改変による生態系への影響について定性的に予測した。

###### イ. 生態系の注目種（上位性、典型性、特殊性）

生態系の注目種の確認位置と事業計画との重ね合わせにより、生息環境が消失、縮小する程度を把握し、類似事例や科学的知見等を参考に、生態系の注目種の生息環境への影響の程度を定性的に予測した。

## ⑤ 予測結果

### ア. 生態系の改変状況

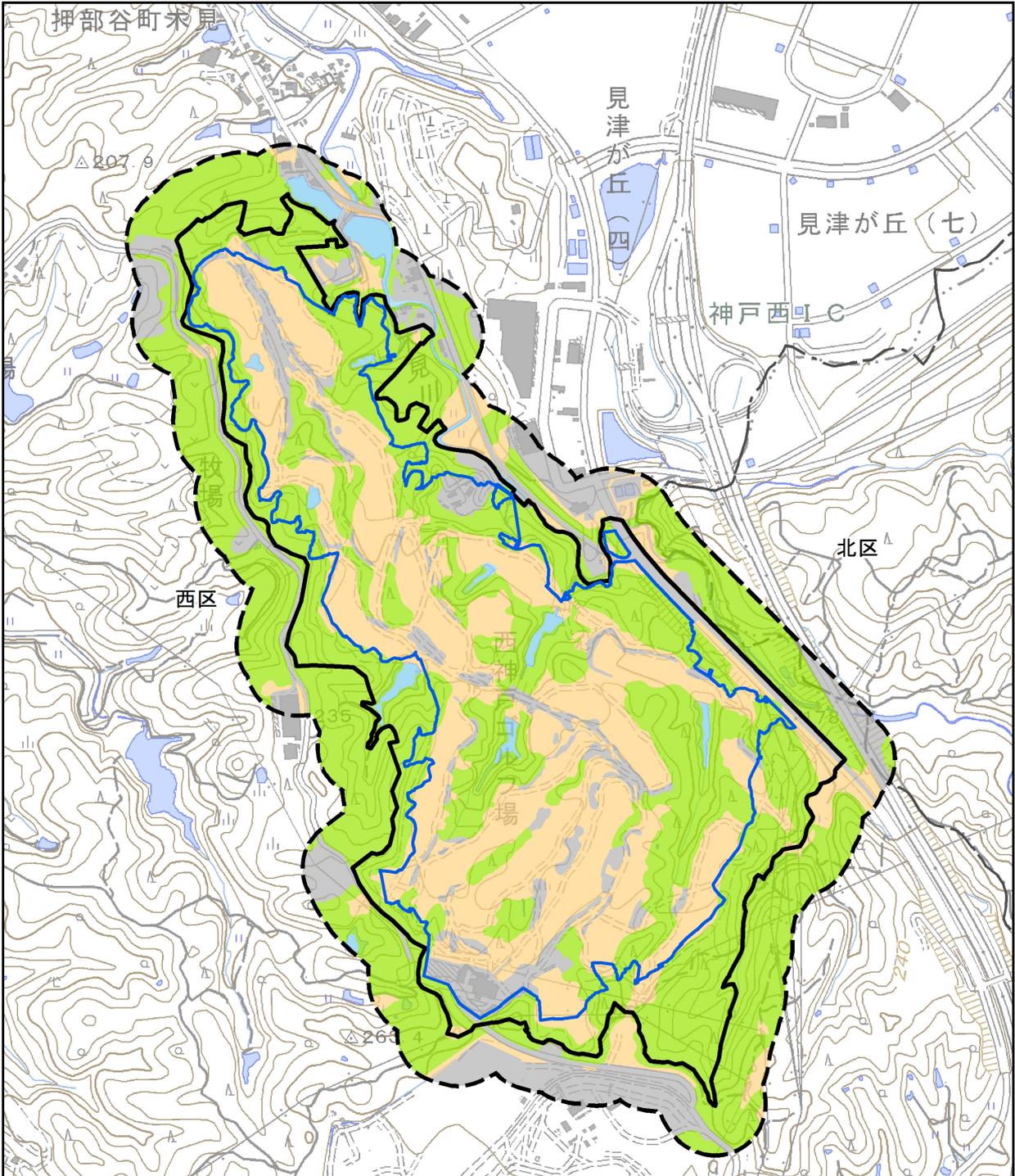
工事の実施に伴う各生態系区分の改変の状況は、表12.8-8及び図12.8-3に示すとおりである。

森林生態系、水域生態系及び市街地生態系の改変割合は、それぞれ約30%と予測されるが、同様の環境は事業実施区域の周辺に分布している。

草地生態系は改変割合が最も大きい（約80%）が、大部分はゴルフコースであり、動植物の生息・生育環境への影響の程度は小さいと予測される。

表 12.8-8 生態系区分ごとの改変状況

区分	面積 (ha)	構成比	改変面積 (ha)	改変割合
森林生態系	90.07	54%	27.79	31%
草地生態系	47.25	29%	38.16	81%
水域生態系	2.82	2%	0.88	31%
市街地生態系	25.40	15%	8.12	32%
合計	165.54	100%	74.95	45%



- 事業実施区域
- 調査地域  
(事業実施区域及びその端部から100m)
- 変更区域
- 森林生態系
- 草地生態系
- 水域生態系
- 市街地生態系



図 12.8-3 環境類型区分とその変更範囲

## イ. 生態系の注目種（上位性、典型性、特殊性）への影響の程度

生態系の注目種に対する工事及び存在・供用の影響予測結果は、表12.8-9に示すとおりである。

表 12.8-9(1) 注目種ごとの予測結果

区分	分類	注目種等	予測結果
上位性	哺乳類	キツネ	本種の生息環境は、事業実施区域及びその周辺に広く分布しており、工事の実施により一部改変される。 以上のことから、本種の生息環境は一部改変されると予測される。
		ニホンイタチ	本種の生息環境は、事業実施区域及びその周辺に広く分布しており、工事の実施により一部改変される。 以上のことから、本種の生息環境は一部改変されると予測される。
	鳥類	オオタカ	改変区域の周辺において幼鳥及び古巣が確認されたが、古巣の利用が確認されなかったことから、改変区域及びその周辺における繁殖の可能性は小さく、広い行動範囲の一部として利用していると考えられる。 本種の採餌環境は、事業実施区域及びその周辺に広く分布しており、工事の実施により一部改変される。 以上のことから、本種の生息環境は一部改変されると予測される。
典型性	哺乳類	ノウサギ	本種の生息環境は、事業実施区域及びその周辺に広く分布しており、工事の実施により一部改変される。 以上のことから、本種の生息環境は一部改変されると予測される。
	鳥類	キビタキ	本種の生息環境は、事業実施区域及びその周辺に広く分布しており、工事の実施により一部改変される。 以上のことから、本種の生息環境は一部改変されると予測される。
	爬虫類	ニホンカナヘビ	本種の生息環境は、事業実施区域及びその周辺に広く分布しており、工事の実施により一部改変される。 以上のことから、本種の生息環境は一部改変されると予測される。
	両生類	シュレーゲルアオガエル	本種の生息環境は、事業実施区域及びその周辺に広く分布しており、工事の実施により一部改変される。 工事に伴って発生する濁水は、仮設沈砂池等を設置し適切に処理した上で排出する。 以上のことから、本種の生息環境は一部改変されると予測される。
	魚類	カワムツ	本種の生息環境は、工事の実施により改変されない。 工事に伴って発生する濁水は、仮設沈砂池等を設置し適切に処理した上で排出する。 以上のことから、本種の生息環境に影響は生じないと予測される。
	昆虫類	コオイムシ	本種の生息環境は、事業実施区域及びその周辺に広く分布しており、工事の実施により一部改変される。 工事に伴って発生する濁水は、仮設沈砂池等を設置し適切に処理した上で排出する。 以上のことから、本種の生息環境は一部改変されると予測される。
		ゴマダラチョウ本土亜種	本種の生息環境は、事業実施区域及びその周辺に広く分布しており、工事の実施により一部改変される。 以上のことから、本種の生息環境は一部改変されると予測される。

表 12.8-9(2) 注目種ごとの予測結果

区分	分類	注目種等	予測結果
特殊性	哺乳類	キクガシラコウモリ	<p>本種が休息場として利用している人工構造物は、工事の実施により一部改変される。</p> <p>本種の生息環境は、事業実施区域及びその周辺に広く分布しており、工事の実施により一部改変される。</p> <p>以上のことから、本種の生息環境は一部改変されると予測される。</p>
	鳥類	ミゾゴイ	<p>本種を確認した谷筋は、事前配慮を踏まえた事業計画検討段階において、改変を回避する計画としているが、生息環境は工事の実施により一部改変される。</p> <p>以上のことから、本種の生息環境は一部改変されると予測される。</p>
	両生類	セトウチサンショウウオ	<p>本種の生息環境は、事業実施区域及びその周辺に広く分布しており、工事の実施により一部改変される。</p> <p>また、確認された繁殖地が、工事の実施により改変される。</p> <p>以上のことから、本種の生息環境に変化が生じると予測される。</p>

## 2) 環境保全措置の内容

工事及び存在・供用に伴う生態系への影響を回避・低減するために、環境保全措置の検討を行った。

環境保全措置の検討結果は、表12.8-10に示すとおりである。

表 12.8-10 環境保全措置の検討結果

保全対象	措置の種類	措置の区分	実施主体	保全措置の内容及び効果	効果の不確実性	新たに生じる影響
ミゾゴイ	生息地の改変の回避	回避	事業者	事前配慮を踏まえた事業計画検討段階において、本種を確認した谷筋の改変を回避する計画とすることにより、生息地が保全される。	なし	なし
植物相全般 動物相全般	施工時の配慮	低減	事業者	施工時に以下の配慮を行うことにより、生育・生息環境の変化が低減される。 ・工事関係者に対し、工事区域外への不要な立ち入りや植物の採取等を禁止する。 ・低公害型の建設機械を採用するよう努める。 ・工事関係者に対し、建設機械のアイドリングストップの徹底や空ぶかしの禁止等の教育・指導を行う。	なし	なし
植物相全般 動物相全般	緑化	低減	事業者	土地の造成に伴って出現する切土・盛土法面等は、可能な限り当該地域の植生を考慮した植物種による緑化を行うとともに、「神戸の希少な野生動植物－神戸版ブラックリスト 2020－」の選定種を避けることにより、生育・生息環境の変化が低減される。	なし	なし
植物相全般 動物相全般	改変面積の縮小	低減	事業者	ため池周辺の樹林地の改変面積を縮小することにより、生育・生息環境の変化が低減される。	なし	なし
鳥類 両生類 魚類 水生昆虫類 底生動物	濁水の流出防止	低減	事業者	「12.4.水質」に示す以下の環境保全措置を実施することにより、生息環境の変化が低減される。 ・仮設沈砂池及び洪水調整池を設置することにより、工事に伴って発生する濁水の濃度が低減される。 ・造成箇所は速やかに転圧することにより、降雨時の土砂流出を防止する。	なし	なし
両生類（セトウチサンショウウオ）	生息・繁殖環境の整備及び移設	代償	事業者	事業実施区域内に湿地を整備することにより、生息及び繁殖環境を創出するとともに、繁殖地が改変される種は整備箇所に移設し保全を図る。	あり	なし

### 3) 評価

#### ① 評価の手法

工事及び存在・供用に伴う生態系への影響の評価は、調査及び予測結果を踏まえ、対象事業の実施に伴う生態系への影響が、事業者により実行可能な範囲内でできる限り回避又は低減され、また必要に応じて環境の保全についての配慮が適正になされているかについて、評価する方法により行った。

#### ② 評価結果

##### ア. 環境影響の回避・低減に係る評価

調査及び予測の結果、並びに前項に示す環境保全措置の検討結果を踏まえると、工事及び存在・供用に伴う生態系への影響は、回避又は低減ができるものと考えられる。

以上のことから、工事及び存在・供用に伴う生態系への影響については、事業者の実行可能な範囲内で回避又は低減が図られているものと評価した。